

507
142



始



507

142



507-142



下田歌子女史序
成田及び著

新編物集

東京丸善株式會社

大正
12. 8. 28
内交

序

白妙の雪の袂、鏡なす氷の床に、冬の幾月を籠り暮さねばならぬ北海の天には、防寒の具こそ唯一の重品要でありませう。そして其が最も経済的に得られて、且殊に此の淋しき冬籠りのつれづれを慰めかたづ、暖かき母の手に造り出だすものが、いとほしき子の體をつゝみ得ると云ふのは洵にうるはしい事ではありませぬか。然るに成田深雪子刀自が、彼の雪深き土地に移り住みてより、ふと思ひ立つよしありて、學び舎にて習ひ覺えた毛絲編を猶さまづに工夫し、先づ防寒用の子ども服より編み始めて、吾が愛兒に試みつゝ五十餘種のもものを造り出で、去年私が渡札のをりに示されたるが、洵に有益のわざと存じましたから大に賛成の意を表して置きました。

所が幾程も無くして、毛絲編の衣服が非常の勢ひを以て社會一班の流行となりましたのは、ゆくりなく刀自が先見の明ありしが如くおぼゆるもまことに悦ばしい事でございます。刀自は吾が學び舎より出でられたるゆかりも淺からずおぼえますから、此度これが講習を依頼されて、傳へ參らせたる人達などより、強ひて上梓をと勧めらるゝ儘に、世に公にして初學びの助けの一端ともしようとして、わたくしにそれに一言そへよと望まるゝを辭みかねて、其の概略をこゝに記す事と致しました。

大正十一年十二月末日

下 田 歌 子

自 序

今度書肆の援助を得て、此書を上梓する事になりました。近頃編物が本邦上下の社會を通じて流行し出してから、邦語で書いてある編物の本は雨後の筍の様に店頭に出ました。苟しくも編物に興味を有せらるゝ方々に取つては、斯ういふ本の續々出版される事は大變悦ぶべき現象と存じます。併し私の知つてゐる範囲内で申しますと、是迄出版された此種の本は大抵米國あたりの雑誌の翻譯である様に存じます。もともと編物は外國が本場でせうから、翻譯決して悪いとは申しませんが、私の經驗から申しますと、外國の雑誌に書いてある通りでは、私達日本人には或は肩幅が廣過ぎたり、或は腕が長過ぎたりして、形がうまく採れません。是れは邦人と外人との

體格の差異から、當然さうあるべき筈で御座います。且つまた外國のは上に着るものが多く書いてある割合に、下着類のものは存外少い様に思ひますが、私共日本人の日常生活からは下着類のものに工夫を凝らす必要があると存じます。要するに日本人の着るものは日本人の體格、生活状態を考へてしつくりとそれに合ふ様に編み上げねばならないと思ひます。

私は九年前から外國の書をも参照して、實際に着る人々の身體の恰好から割り出し、その人々に合ふ様なものを編み出す工夫をいたしまして、只今ではどうやら自分の思ふ様なものを編み得る様になりました。それで此の私の經驗を一とまじめに、廣く編物をなさる方々の御参考に供し度いと存じます。此の書に挿入してある編物の寫眞は、皆な私の研究の一部で御座いまして、外國雜誌の翻譯物は一つも御座いませ

ん。

因みに此の書を編みますに就いて、私と一緒に研究をされてをらるゝ方々は、態々そのお兒さん達を煩はして、色々便宜を計つて下さつた事は私の大變嬉しく思ふ所で御座います。それと共に挿入の見本編みの寫眞は、農學士岡田正夫氏、挿圖は北海中學校生徒高久彌太郎氏の多大の御援助を頂いた事を、衷心から感謝いたします。

大正十二年二月中旬

北都にて 著 者

新しい編物集目次

第一編

一、はしがき	一頁
二、糸針、目数について	五
1、糸に就いて	五
2、針に就いて	六
3、目数に就いて	七
三、四本針の目の作り方	八
四、四本針の基本編み方	一一
1、表編	一一
2、裏編	一二
五、編み初める時の注意	一三
1、平らなものを編む場合	一三

2、輪のものを編む場合……………一三

六、基本編の目の詰め方……………一四

1、表編の一束詰め……………一四

2、裏編の一束詰め……………一四

3、表編のかぶせ詰め……………一五

4、裏編のかぶせ詰め……………一六

七、目の詰め方について……………一七

1、表編の詰め方と裏編の詰め方とを用ふる場合……………一七

2、一束詰めとかぶせ詰めとを用ふる場合……………一七

3、ゴム編の詰め方……………一八

八、詰め方の角度……………一九

1、二段に三つの詰め方……………二〇

2、一段に一つの詰め方……………二〇

3、一段おきに一つの詰め方……………二〇

九、基本編の目の殖やし方……………二一

- 1、表編の編み途中で目の殖やし方……………二一
- 2、表編の編み始め及編み終りて目の殖やし方……………二二
- 3、裏編の編み途中で目の殖やし方……………二二
- 4、裏編の編み始め及編み終りて目の殖やし方……………二三

十、目の拾ひ方……………二三

- 1、横の目の拾ひ方……………二三
- 2、編み止めの目の拾ひ方……………二四
- 3、編んだ物の裏からの目の拾ひ方……………二四

十一、目の止め方……………二四

- 1、かぶせ止め……………二五
- 2、一束止め……………二五

十二、縫ひ合せ方……………二六

- 1、左右の縫ひ合せ方……………二六

2、	上下の縫合はせ方	二七
3、	うすものの縫ひ合はせ方	二八
十三、	ポケットの付け方三種	二九
十四、	毛絲の繋ぎ方	三二
十五、	色絲の替へ方	三四
1、	横の色糸の替へ方	三四
2、	縦の色糸の替へ方	三五
十六、	ボタン穴の開け方	三五
1、	小さいボタン穴の開け方	三五
2、	大きいボタン穴の開け方	三六
3、	ボタン穴を開ける場所について	三七
十七、	ボタンの付け方	三八
十八、	本書に用ひた編見本の説明	三九

第二編

一、	帽子の型の取り方及目數の割出し方	五三
1、	赤ん坊帽子	五四
2、	房下り帽子(男兒用)	五六
3、	巾着帽子(男兒用)	五七
4、	片折帽子(男兒用)	五八
5、	大黒帽子(女兒用)	五九
6、	片折帽子(女兒用)	五九
7、	兩折帽子(男女兒用)	六〇
8、	目出し帽子(防寒用)	六一
二、	片掛及首卷	六二
1、	普通片掛	六二
2、	ポケット付き片掛	六二
3、	首卷(男子用)	六四

4、子供片掛

.....六四

三、下ばき

.....六五

1、目数の割出し方

.....六五

2、女兒下ばき(六、七歳)

.....六六

3、男兒下ばき(十一、二歳)

.....六七

4、赤ん坊下ばき

.....六八

5、婦人下ばき(大人用)

.....六九

四、大人ズボン下

.....七〇

1、長ズボン下

.....七〇

2、半ズボン下

.....七二

五、手袋

.....七二

1、子供指なし手袋

.....七二

2、防寒スキー手袋

.....七五

3、指付手袋

.....七七

六、靴下

.....八〇

1、赤ん坊靴下

.....八〇

2、子供長靴下(七、八歳)

.....八一

3、大人靴下

.....八四

4、スポーツ靴下

.....八六

5、實用靴下

.....八六

七、チヨツキの型の取り方及目の割出し方

.....八八

1、赤ん坊チヨツキ

.....九一

2、防寒チヨツキ

.....九三

3、別襟チヨツキ

.....九五

4、共襟チヨツキ

.....九七

5、劔型チヨツキ

.....九八

6、婦人チヨツキ

.....一〇一

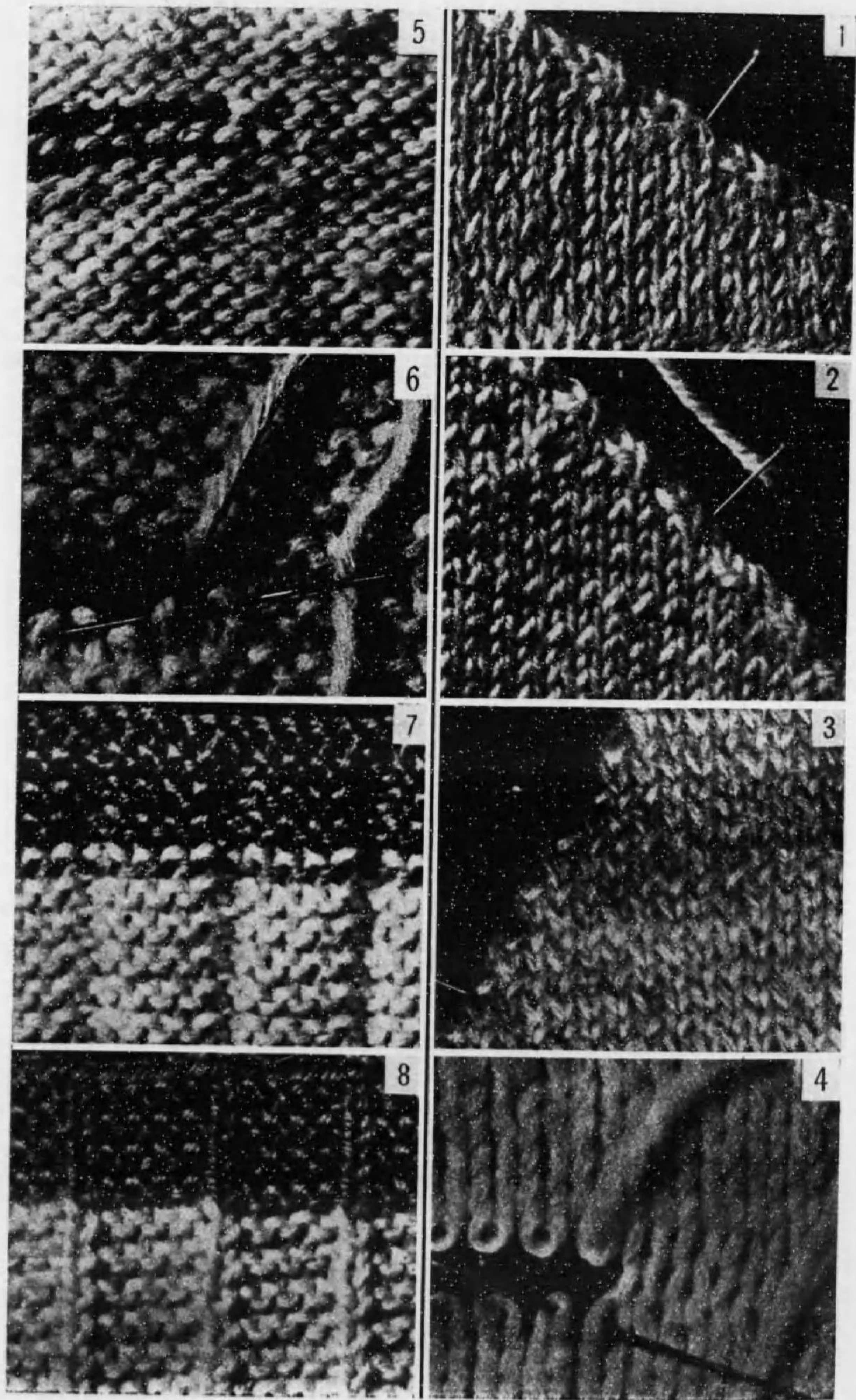
八、シヤツ

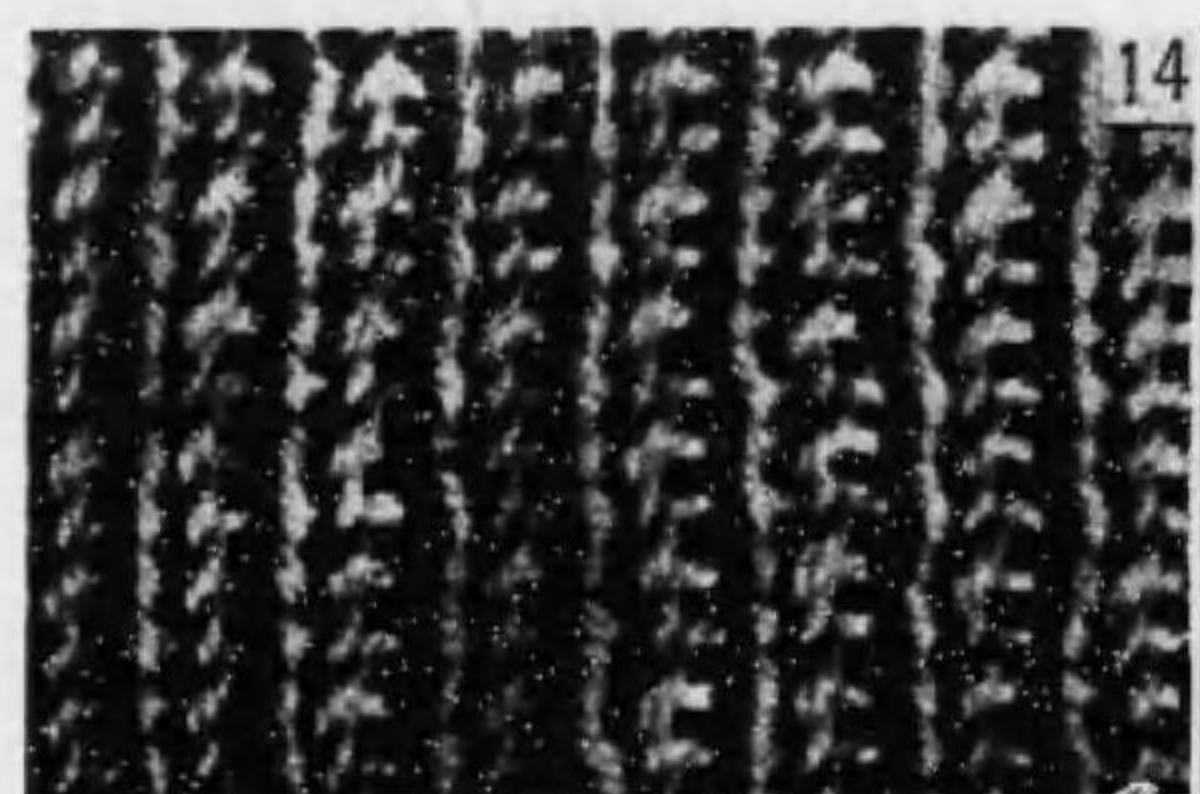
.....一〇一

1、	普通シャツ	一〇一
2、	子供シャツ	一〇三
3、	ワイシャツ	一〇四
九、 スエーター及上着類の型の取り方と		
目の割出し方		
1、	袖なし上着	一〇六
2、	赤ん坊スエーター	一一一
3、	子供上着	一一二
4、	角衿上着	一一四
5、	水兵型上着(男女児用) (一)	一一六
6、	水兵型上着(男女児用) (二)	一一八
7、	水兵型上着(男女児用) (三)	一二〇
8、	水兵型上着(男女児用) (四)	一二二
9、	丸衿上着(男女児用) (一)	一二四
10、	丸衿上着(男女児用) (二)	一二七
		一二九

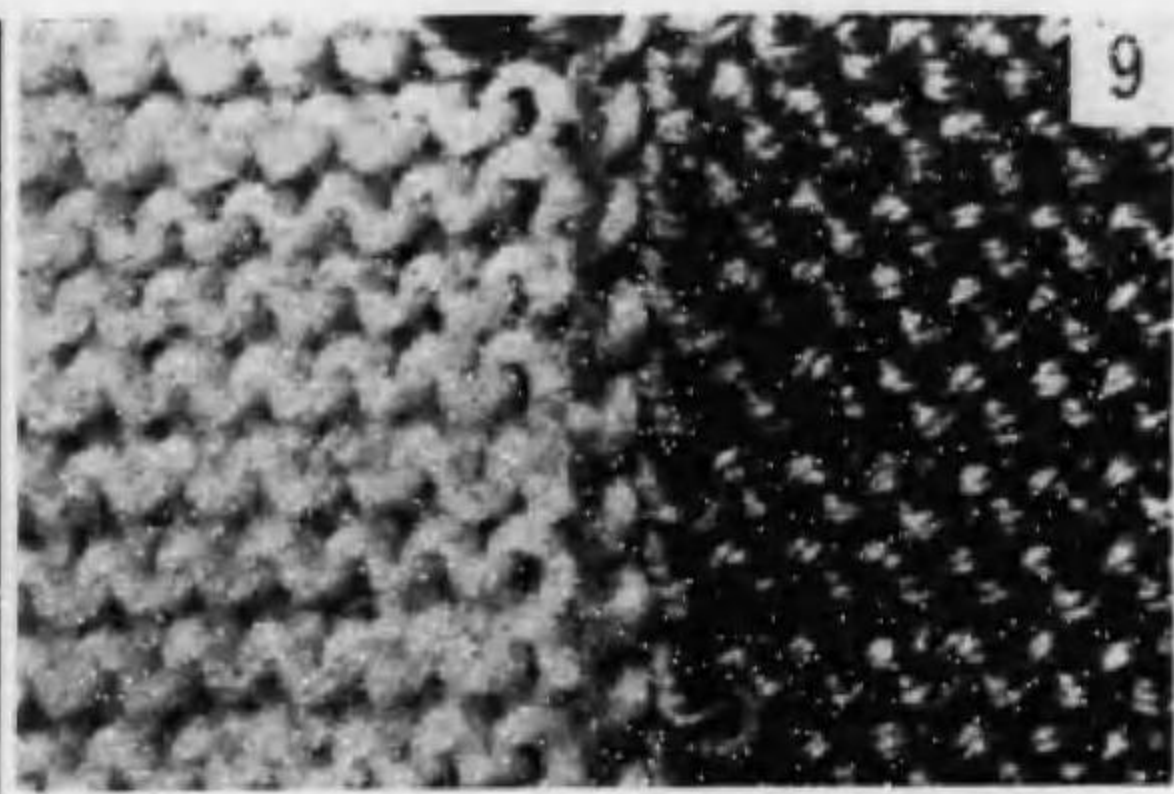
11、	女子上着(一)	一三〇
12、	女子上着(二)	一三二
13、	女兒上着	一三四
14、	女子上着(三)	一三六
15、	男子上着	一三七
16、	男子上着	一三九
十、	子供マント	一四一
十一、	洗濯法	一四二
十二、	修繕法	一四四

新しい編物集目次終

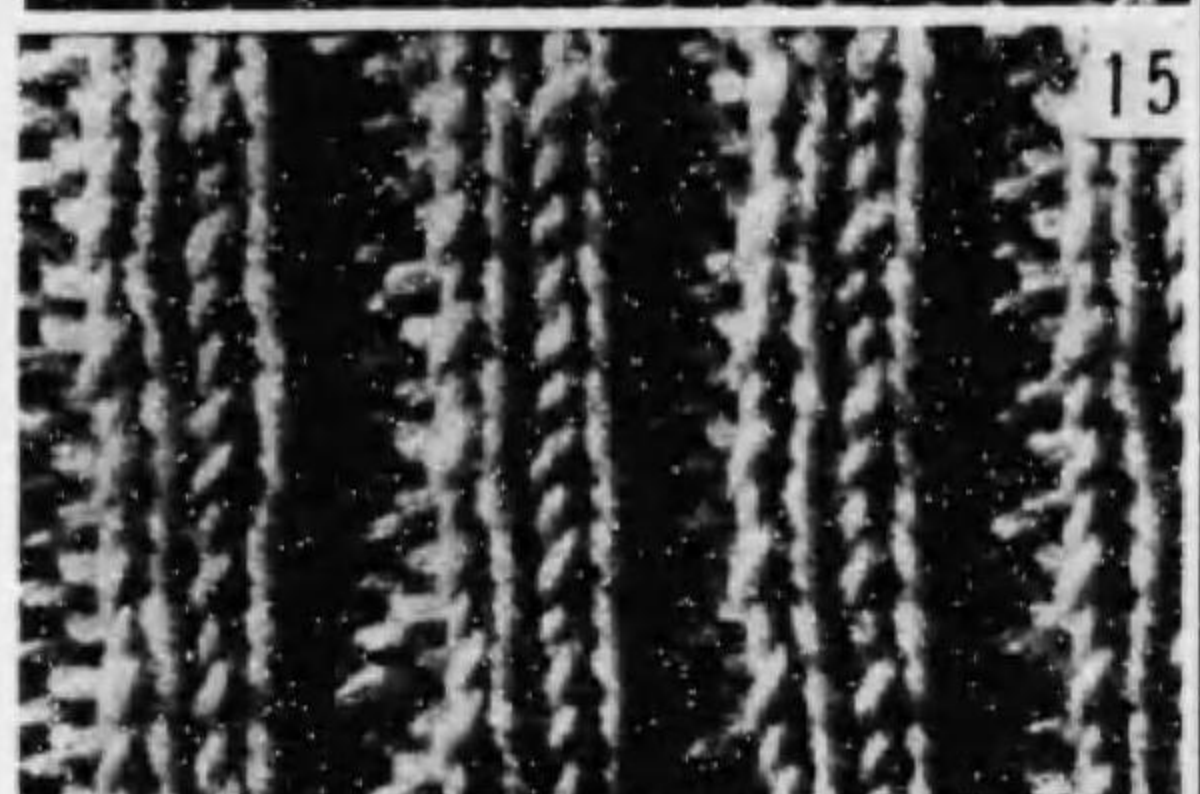




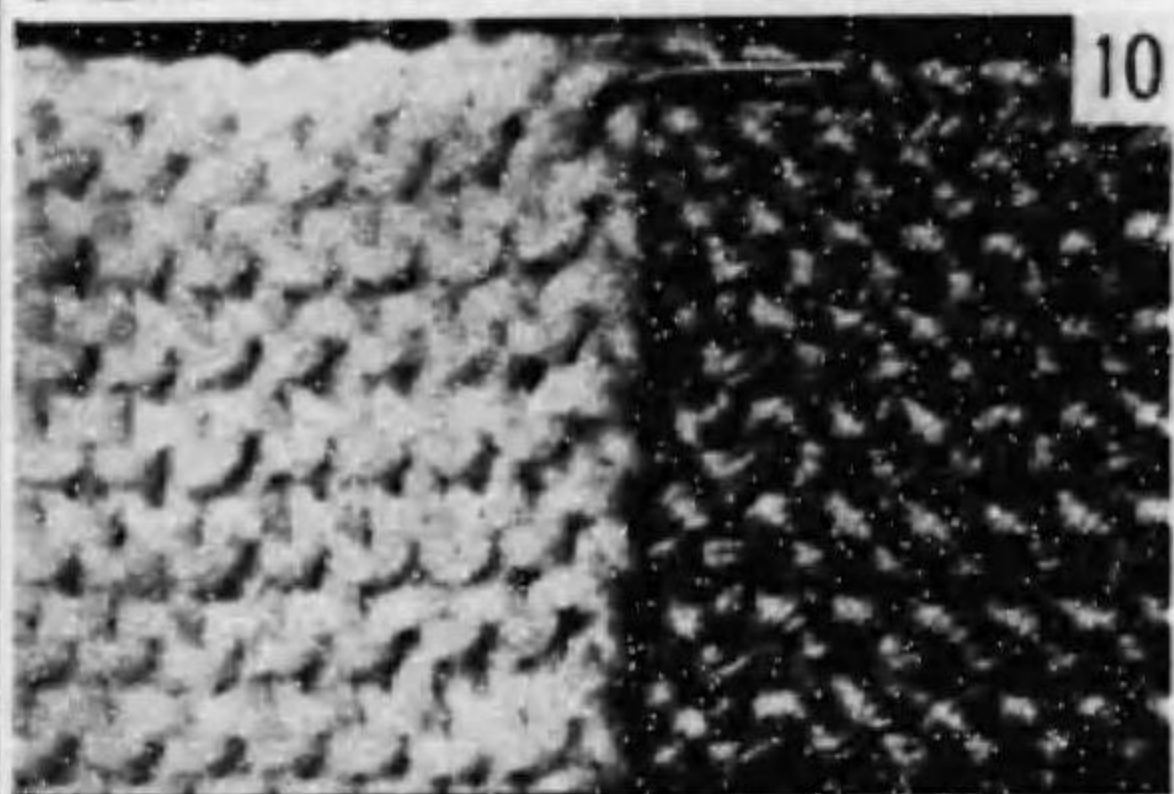
14



9



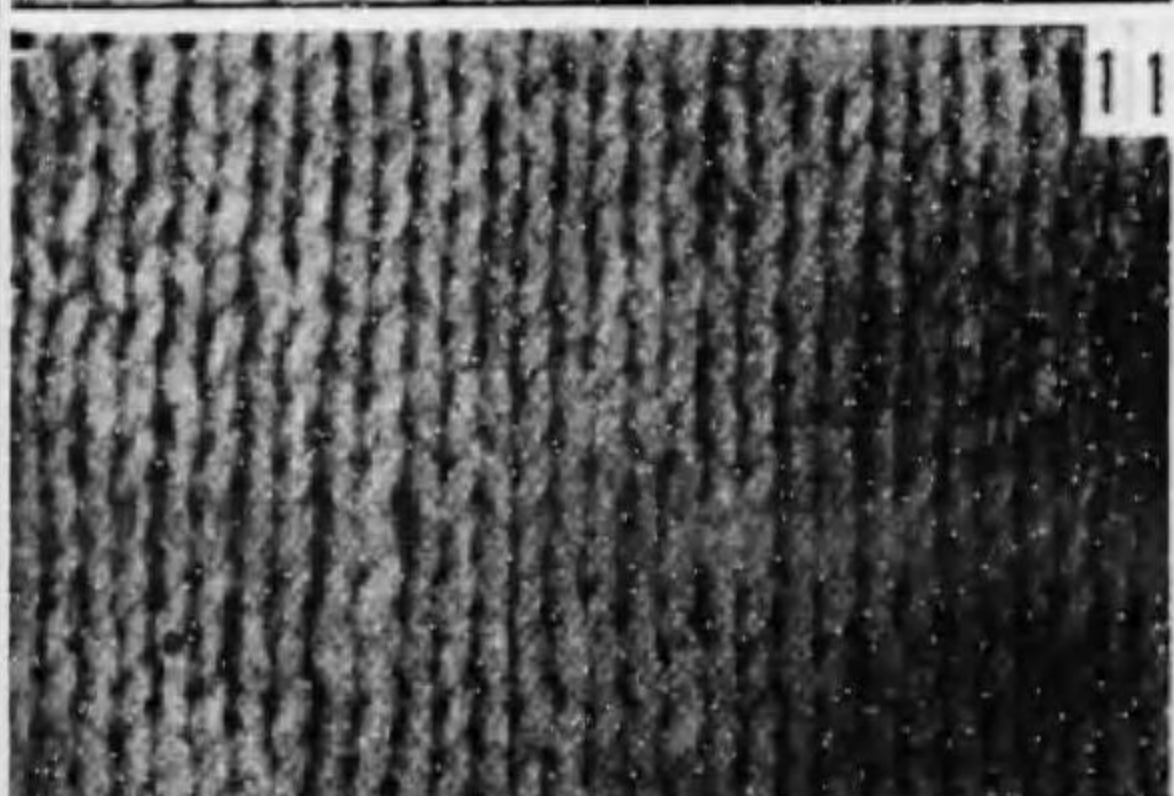
15



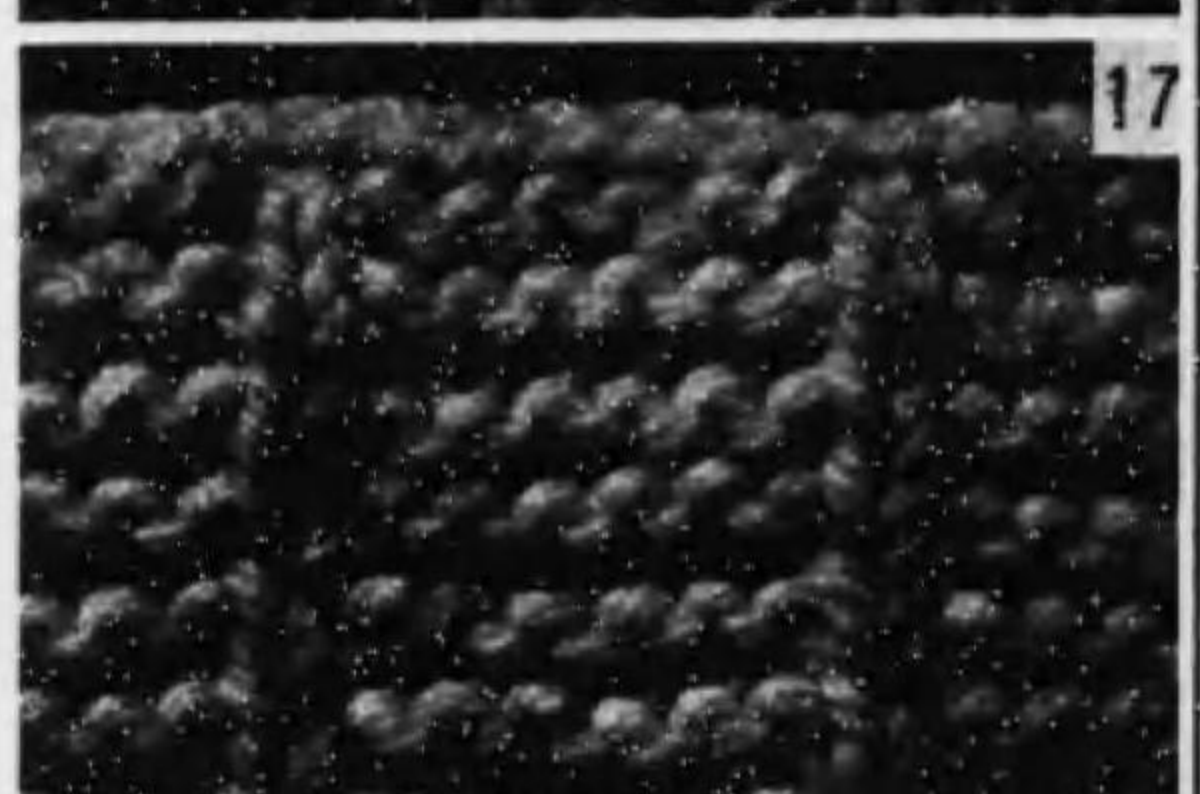
10



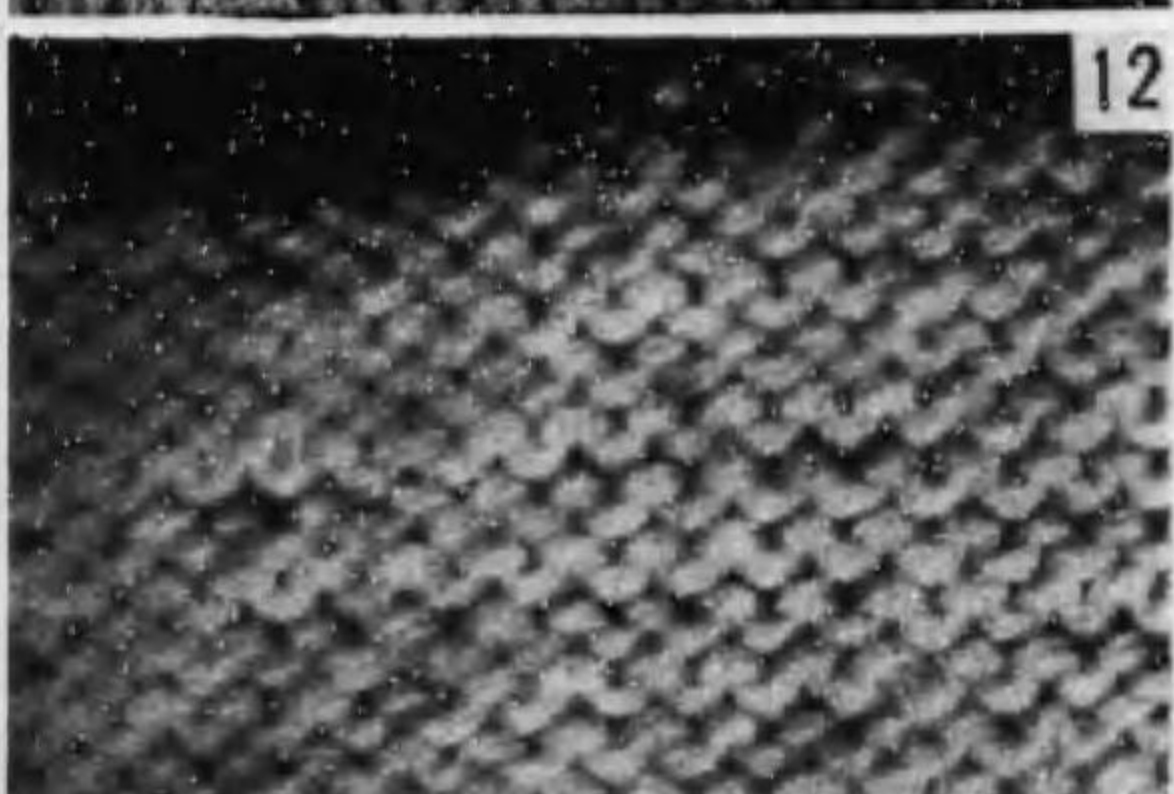
16



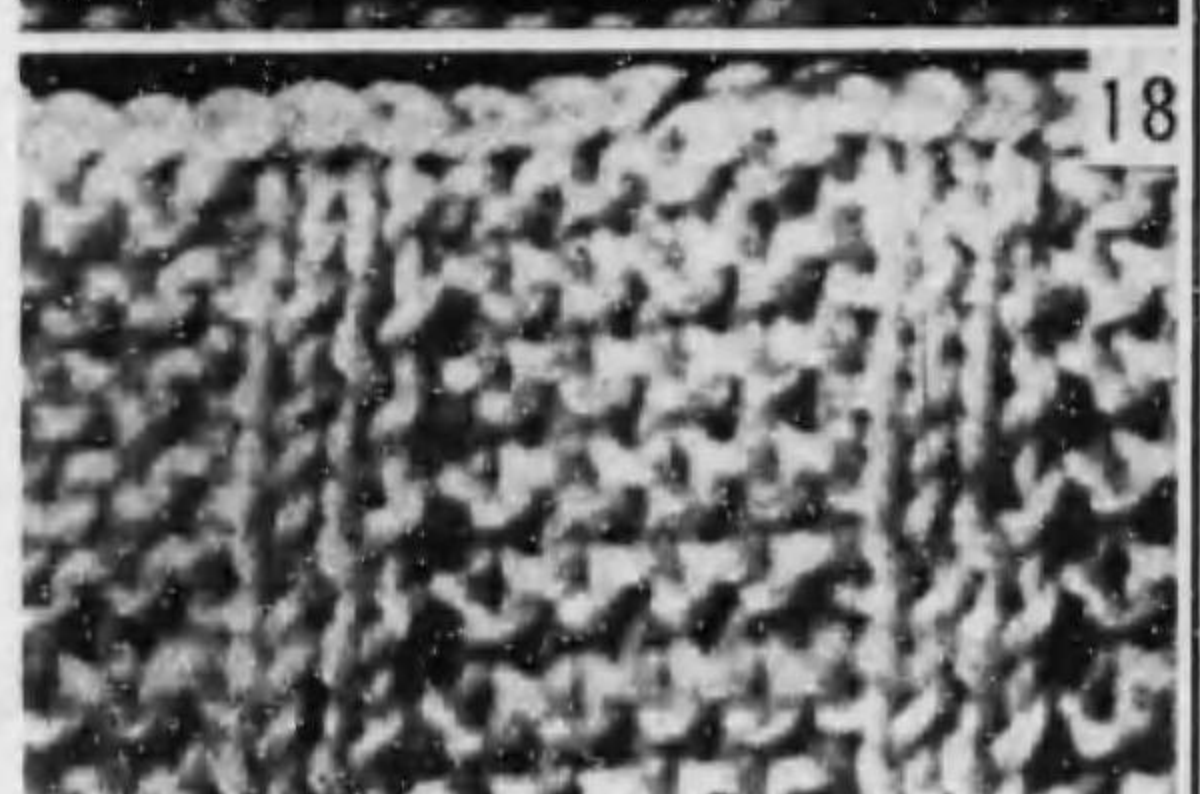
11



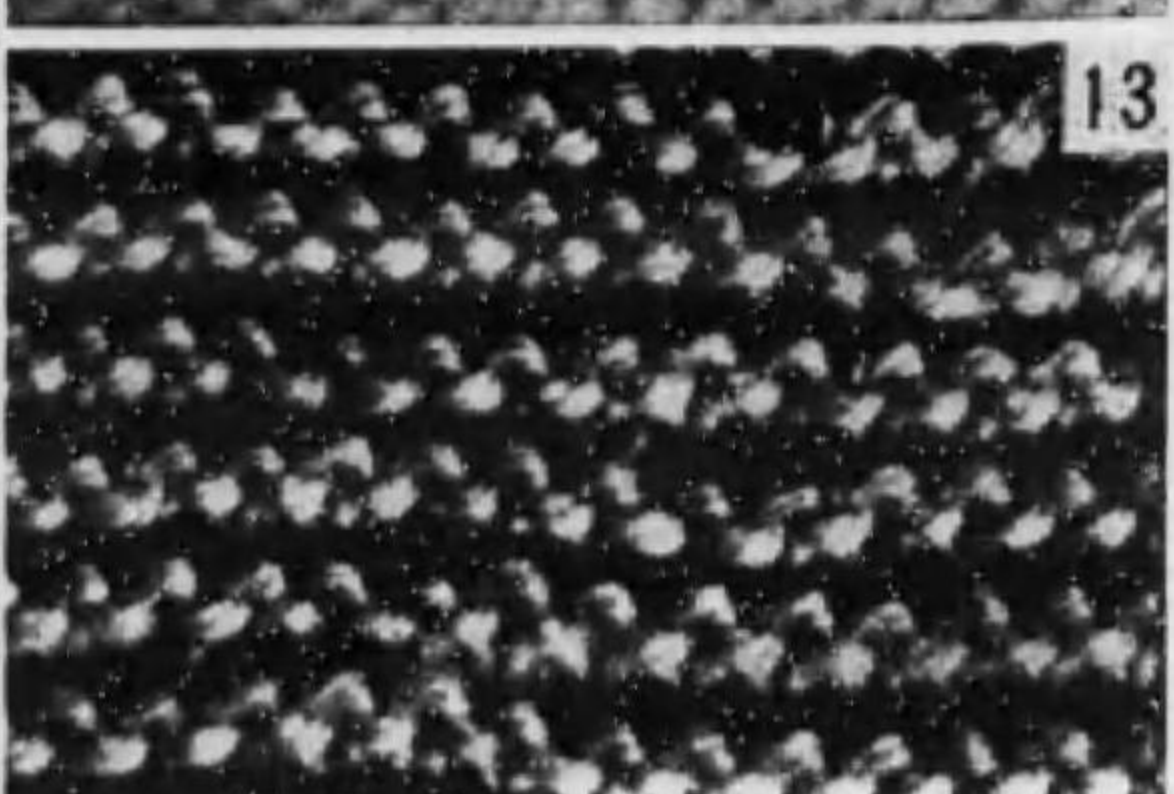
17



12



18



13



24



19



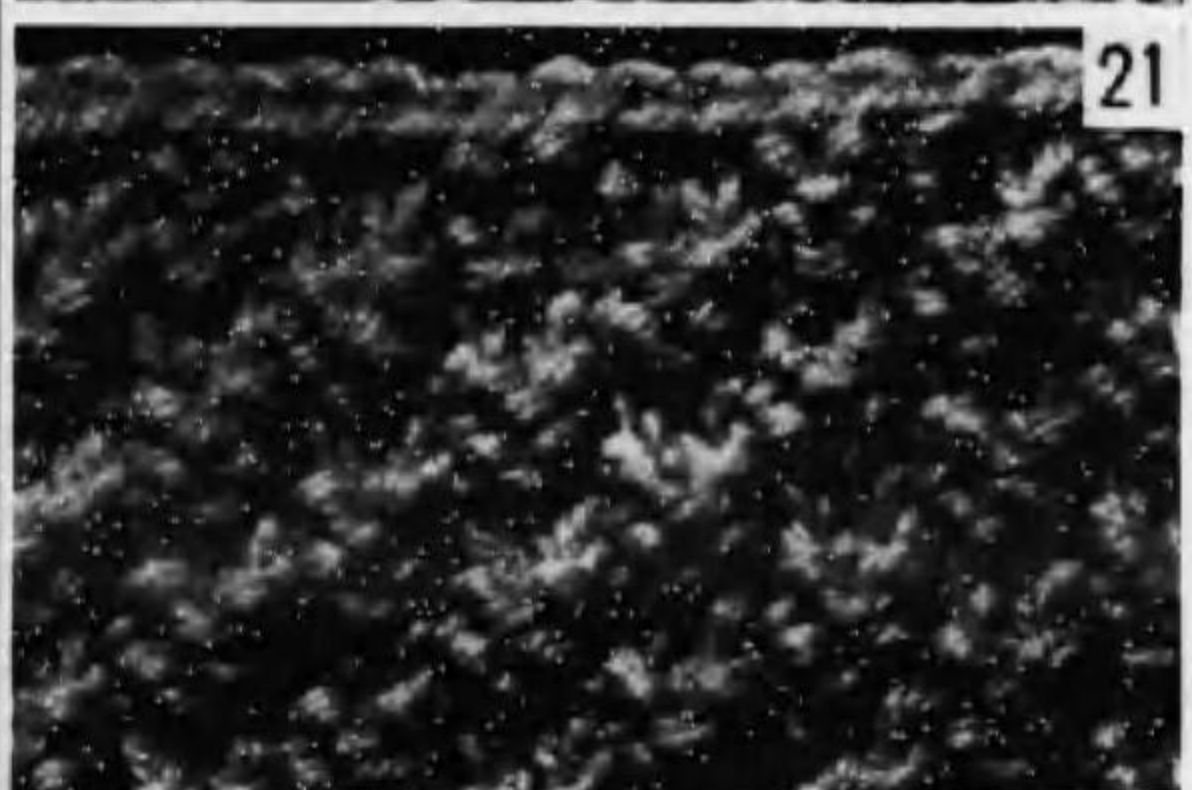
25



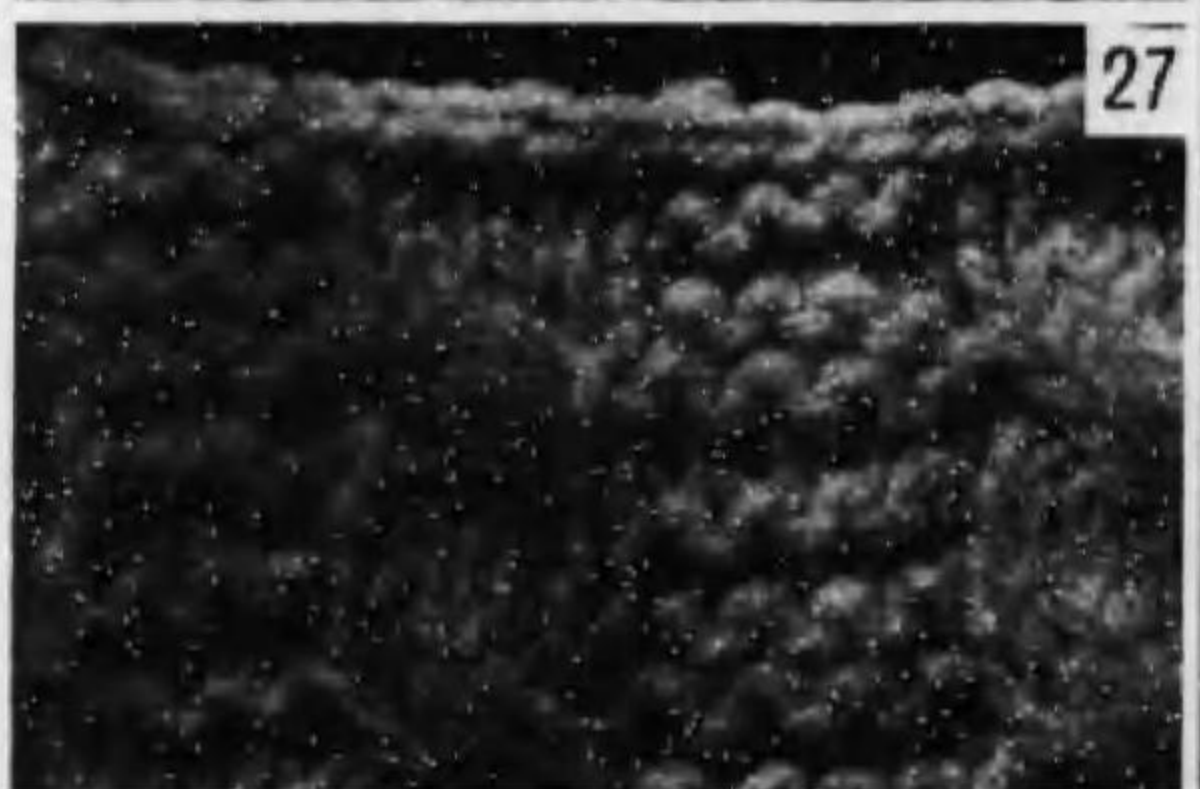
20



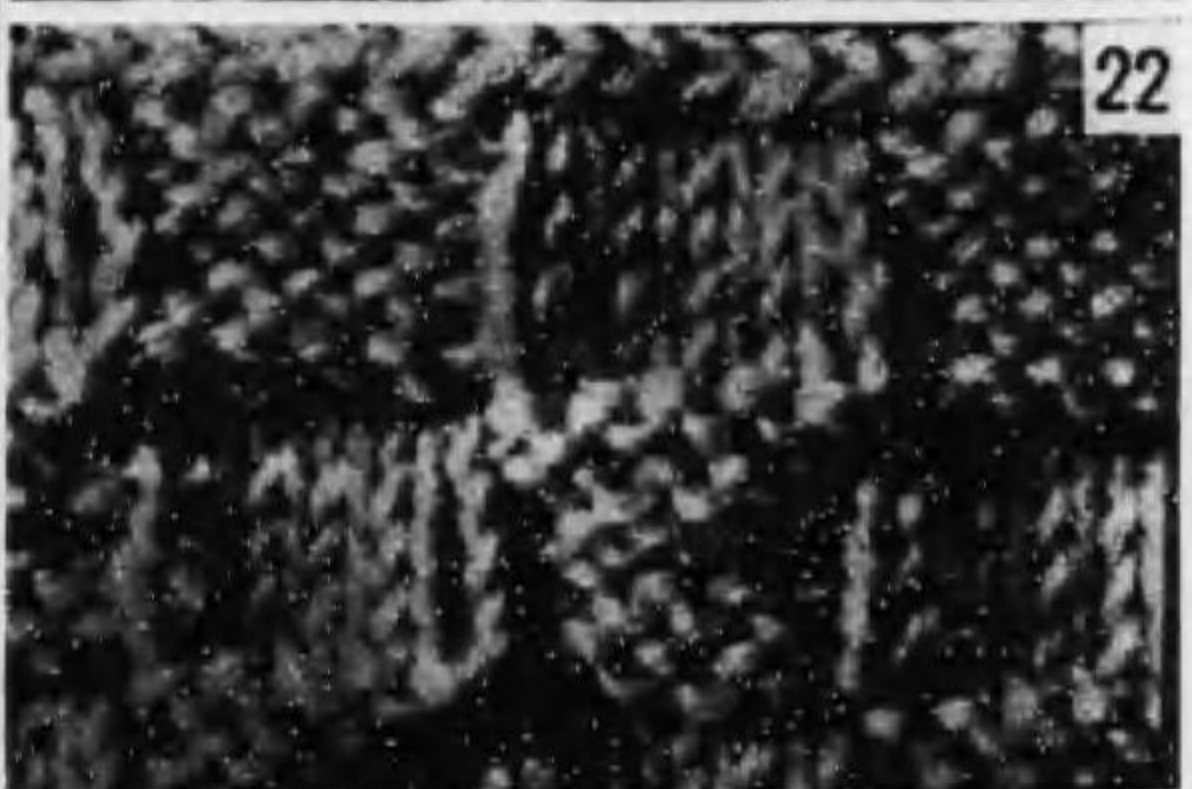
26



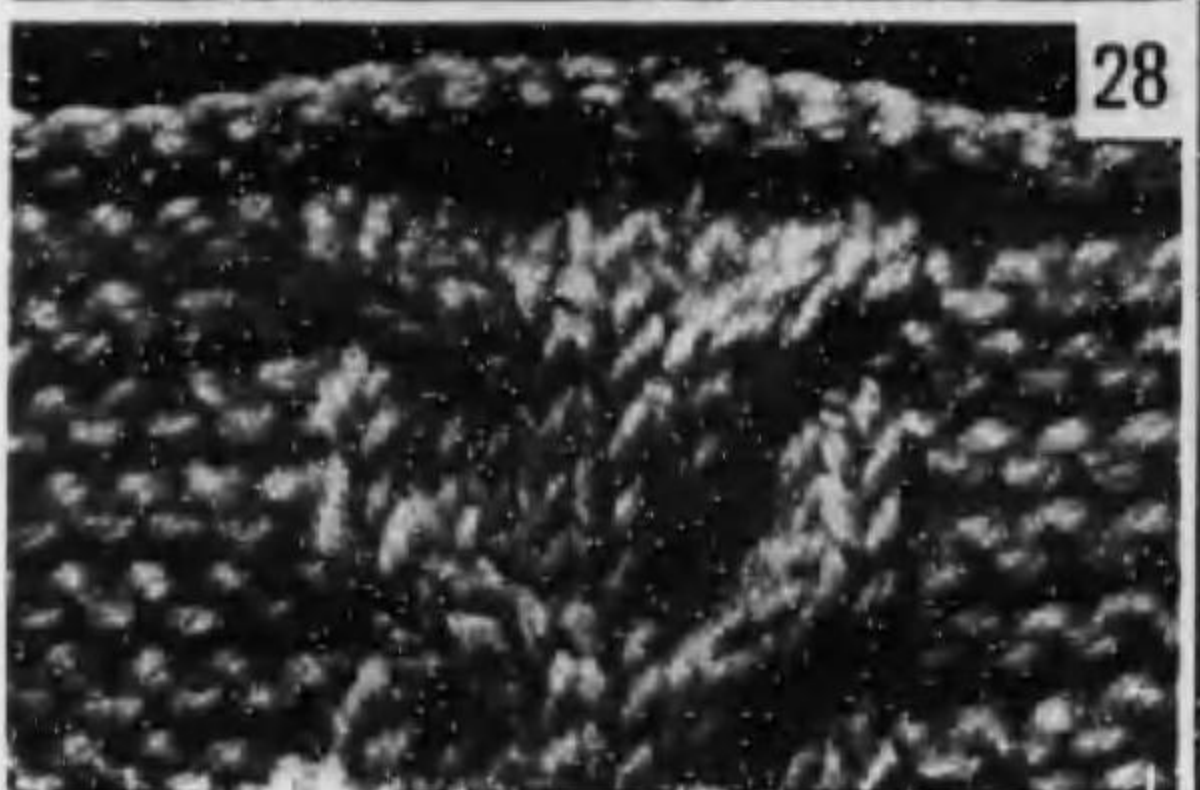
21



27



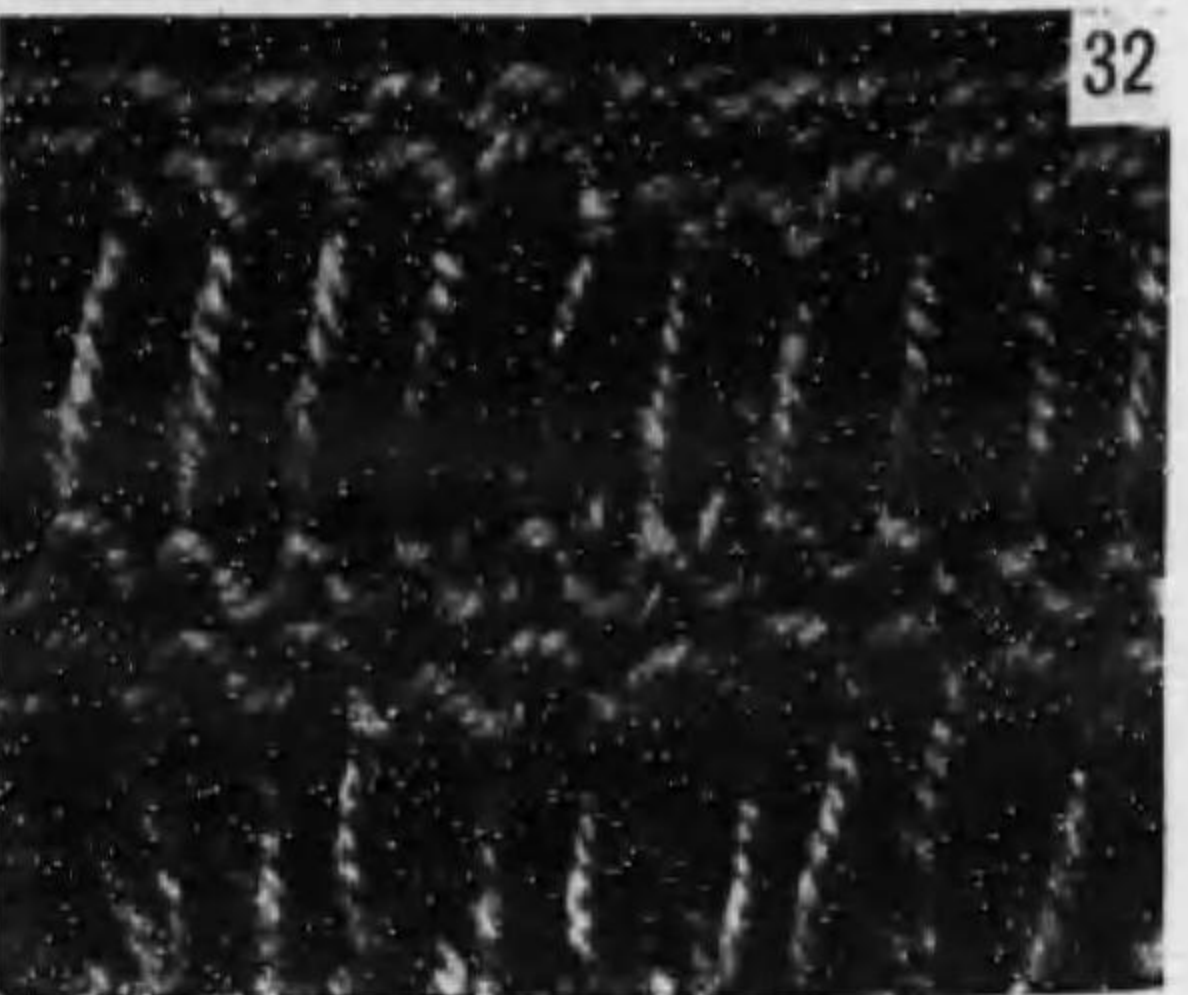
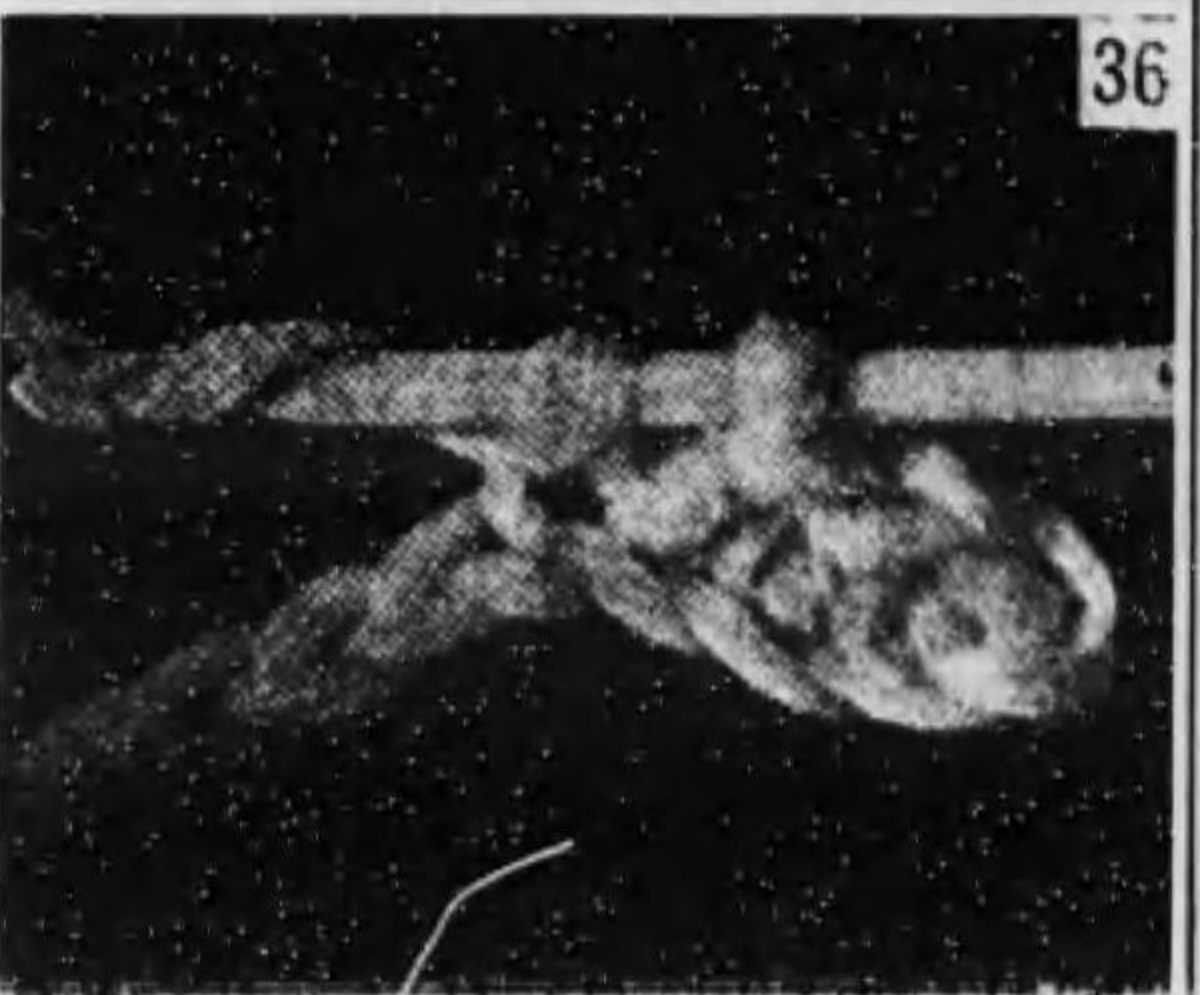
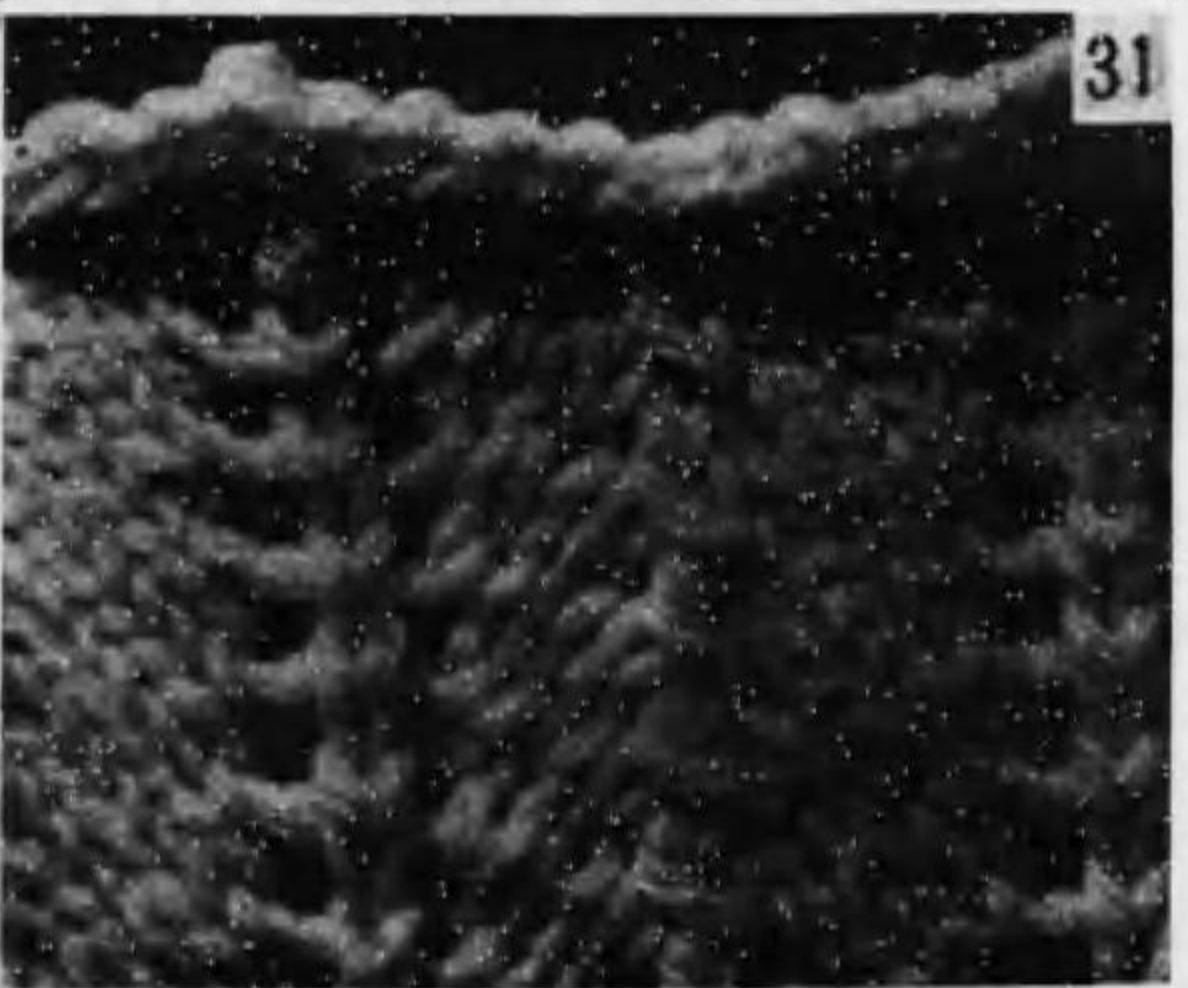
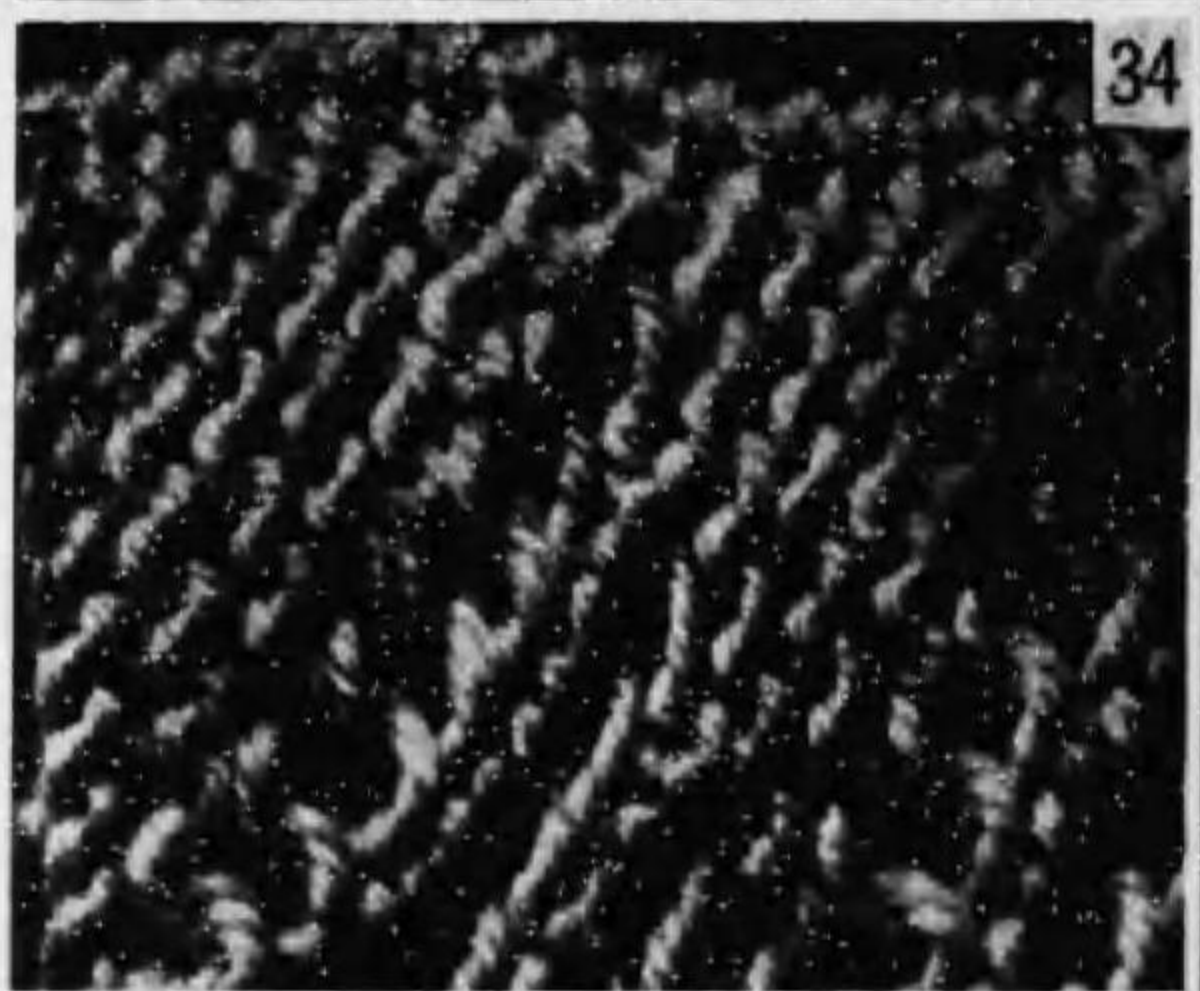
22



28



23









52



51



54



53









新しい編物集

成田みゆき 著

第一編

はしがき

近頃歐米各國は勿論、我が日本におきましても、毛絲製品が大變流行いたして参りました。尤も今から二十餘年前にも随分流行いたしました様で御座います。當時は製品の種類は幾分限られてをりまして、巾着、手袋、肩掛位のものから、實用向きといたしましてはシャツ、ズボンなどが精々のところだつた様に記憶いたしてをります。所が此頃はどうで御座いませう。前申した實用品は申すまでもなく、スエーターやオパークコートや小供服などまで普通用ひられる様になりました。これと申しますのも、毛絲製品は防寒上からも、又衛生上からも至極よろしいから

で御座います。特に小供の被服といたしましては、毛絲製品は最も適當な品と私は確く信じてをります。毛絲製品は温く、軽く、伸縮自在ですから身體にびつたり合つて、其上運動が自由にできます。それに發育の旺んな小供の服装としては三四年間は着用いたされすし、外氣が通りにく、少々位雨に當つても直ぐ雨水が肌に滲み込む様な事も少なう御座います。そして洗濯が自由にできますから、いつも清潔にしておく事ができます。小供が着物を汚したとて氣苦勞するには當りません。是等の點から考へましても毛絲製品が是非一般家庭に用ひられます様希望いたします。

私の乏しい經驗をお話しいたしますれば、日本服特に綿入重ねの手入れなどは大變面倒で御座いますから、自然思はず知らず無精に流れ易う御座います。それかといつて、一生懸命精を出して、此等の衣類を處置し、家族の身のまわりをこざつぱりとしておかうといたしますと、年百年中衣類の手入れに忙殺され通してあくせくと暮して行かなければなりません。こんな風では一家の主婦として、新時代にふさはしい生活も自己の修養もいたすだけの餘裕が御座いませんで、私は自分の行末を考へて、本當に心細くてたまらなくなるのでした。特に私の

小供共は運動が不十分な爲めか兎角に胃腸が弱く醫藥に親しみ勝ちでした。何とかして運動のできる様にしてやり度い。さうしたら小供共の身體も丈夫になり、従つて自分達もどれ程氣も休まり、手數もはぶける事でせう、と其事がいつも念頭を離れませんでした。所が知人の西洋人の宅へ参ります度毎に、その小供さん達が毛絲製のものをきて、冬の寒い日でも身輕さうにして活潑に遊んでをりますのが、本當に羨しくてなりません。自分の小供共もあゝして育てなければならぬ、と私は痛切に思ひまして、早速宅の小供に毛絲製品を實行する事にしました。それからといふもの、今迄愚圖／＼して不元氣だつた小供共は段々元氣能く身輕る相に駆けずり廻つて遊ぶ様になり、數年間病氣勝ちだつた小供共は全く別人の様に丈夫になりました。私は其れ以來九年間専心毛絲製品の編み方を研究いたしました結果、只今では一通り思ふものを思ひ通りの型に編む事が出来る様になりました。考へて見ますと、これは單に小供共の爲めのみではありません。私の爲めに、また家庭の爲めにも有利な時間を餘分に見出す事が出来る様になりました。私には衷心幸福に存じてをります。

現今の様な所謂過渡時代には改良を加ふべき事が多々御座います。第一私共

の思想生活其ものからして根本的に改造してかゝらなければなりません。併しさういふ大きな問題は別に先輩の方々が着々おやりになつていらつしやる様に伺ひます。且つ又此方面の改造は銘々の環境との複雑な交渉が御座いますから、其實を擧げるのには一朝一夕では御座いけません。そこで私は比較的手つ取り早く實行のできます被服から改良し、出来るだけ有意義な生活をして行きたいと年來考へてをりました。それには外形の美といふ事も大切で御座いますが、それよりも先づ第一に洗濯が簡單で、修繕が容易で、春夏秋冬を通じて役に立ちまする編物を公表いたしましたして、被服改良の一端として、私の年來の主張を宣傳いたし度いと存じます。で御座いますが、勿論此一冊に纏めてある所だけでは完全なものでは御座いけませんので、まだ改良すべきところは多う御座いますから、其邊は大方の皆様方と御一緒に研究を進めて行き度いと存じます。

最後に一言申しておき度いのは、編物は一枚仕上げますのに、随分時間がかかります。けれども裁縫物と違つて寸暇を利用して何所でも編む事が出来ます。例へば小供の守りをしながらでも、懇意な方ならお話しをしながらでも、乗物に乗りながらでも編めます。ですから知らず知らずの内に思ふものが出来上ります。修繕も亦同様で御座います。敢へて皆様方の御熟考をお願ひして筆を擱く事にいたします。

二 糸、針、目數に就いて

1、糸に就いて

普通編物用の糸として用ひられますのはレース糸、絹レース糸、アイスール糸、極細毛糸、中細毛糸、太毛糸、スコッチ糸等ですが、近頃編物が流行いたしましたからいろいろの糸が出来ました。特別に太いのか或は絹糸をまじへましたもの等の舶來品も種々參つて居ります。それ／＼用ひます方や用ひます場所も違ひますが、大體に薄いものや、ずかして編みますものには細い糸を用ひ、オバー、スエータの様な防寒用の物には太いものを用ひます方が適當と思ひます。又下へ着るシャツ、ズボン下等は毛糸の方が着心地がよう御座います。上へ着ます上着や外套等はスコッチの方が丈夫で編みました形がくづれません。毛糸を防寒用の上着に用ひますならば、二本で編みますと暖かでもあり、形もくづれないでよいかと

思ひます。

2. 針に就いて

針にも亦随分いろ／＼の種類がありますが、大別してかぎ針、かぎなし針と兩かぎ針等が御座います。かぎ針にもレース用の金屬製のもの、毛糸用の角製のものと竹製のもの等があります。かぎなし針にも二本一組の長いものと、四本一組の短いもの、金屬製、角製、竹製、セルロイド製があります。其太さは各々大小いろ／＼あります。そして其用ひ方の大體を申しますと、太い糸には太い針を用ひ、細い糸には細い針を用ひます。またゆるく編み度い時には、毛糸の割合よりも少し太目の針を用ひます。其外手慣れない方で、どうしても目が堅くてふつくりと編まれない方は糸との割合より太目の針をお用ひになり、程よくなると思ひます。又編む方によりましてはゆるくて／＼いつも網の目の様になる方もあります。さう云ふ方は糸の割合より細いのをお用ひになつた方がよろしいと思ひます。要するに其編む方の手によりまして、又編む品や又編む糸によりまして、針の太さを加減しなくてはなりません。

3. 目數に就いて

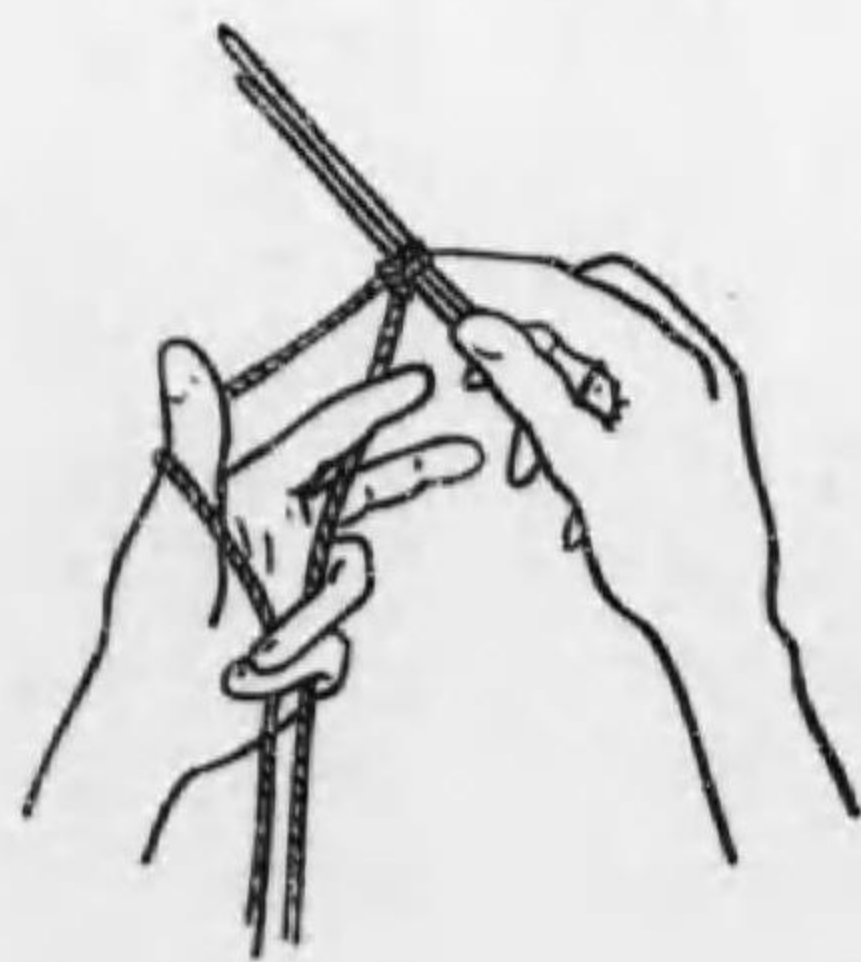
目數も又針の時に申しましたと同じに、針の太さや、其編む方々や、編む糸によりまして、一樣には申されません。甲の人が百の目數で編みますと、巾が一尺になりまして、乙の人が同じ百の目にして、一尺一寸になつたと云ふ様な事があります。それですから、實物につきまして、何歳の方には幾つの目でよいと申しまして、甲の方には思ひ通りのものが出来まして、乙の方には大きかつたり小さかつたりする事があります。これは全く編む方の手加減にある事ですから、私から何歳の方には幾つの目になさいました、しつかりした事は申上げかねます。それ故各自が自分の手では此糸を使つて此の針を使ひますと、一尺の巾のものを作るのに幾つの目にしたらよいといふ事を考へてから、目數を作りますと、自分の思ふ通りの大きになります。それですから、常に御自分の手加減と、糸の太さと、針の太さとを參酌して、其着る當人の身體に合ふ様に作らなくてはなりません。この本では私の手加減によつて書きますから、この本と御自分の手加減とを參酌して、お編みになります事を希望いたします。

三 四本針の目の作り方

一、左の手に糸を持ち、右の手に針二本を持ち、第一圖の様にエウの輪を作る。
 二、このエウの輪の内に、右の手に持った針を通して、アイの糸を引張る。さうすると、第二圖の様に針に二つの目が出る。



第一圖

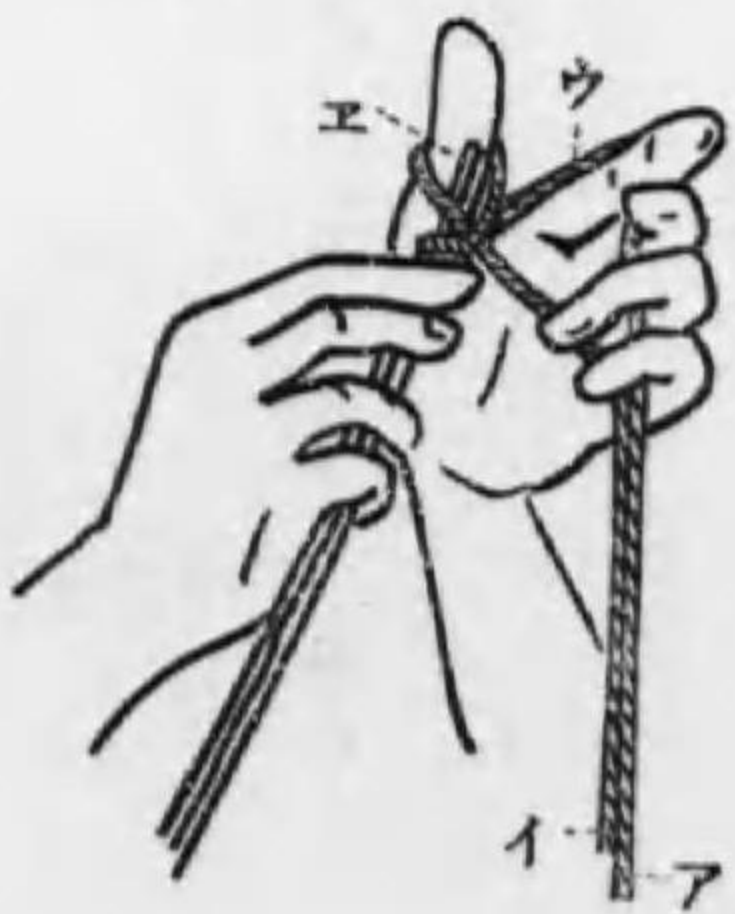


第二圖

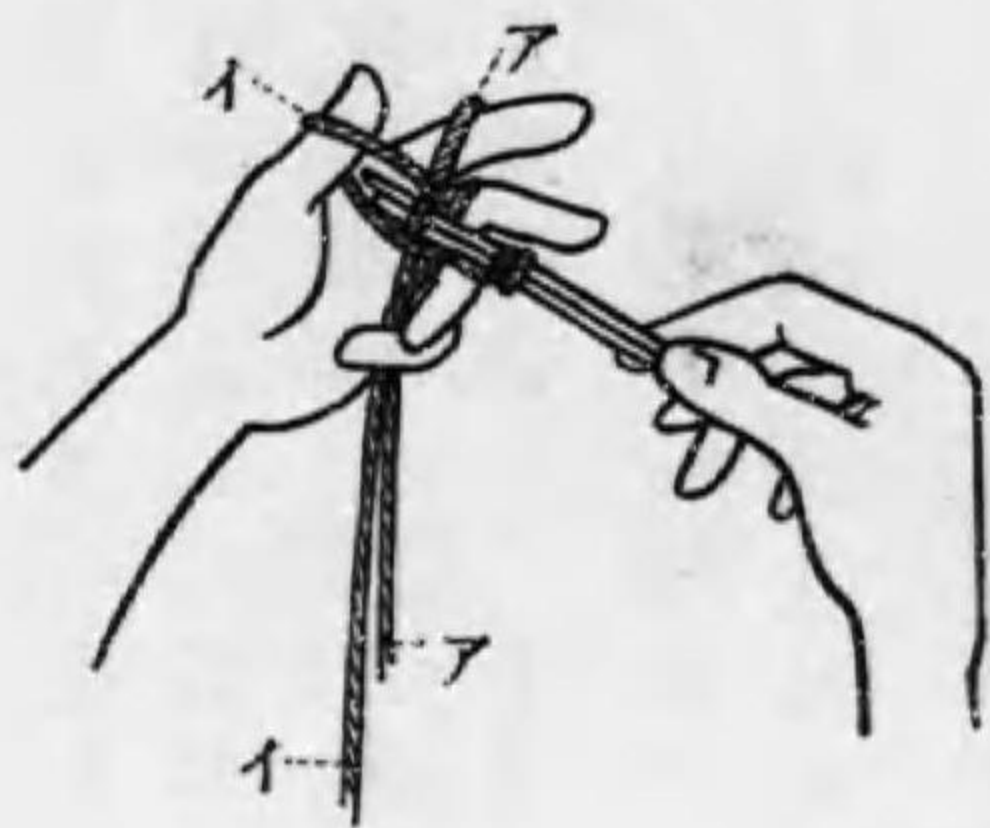
第三圖



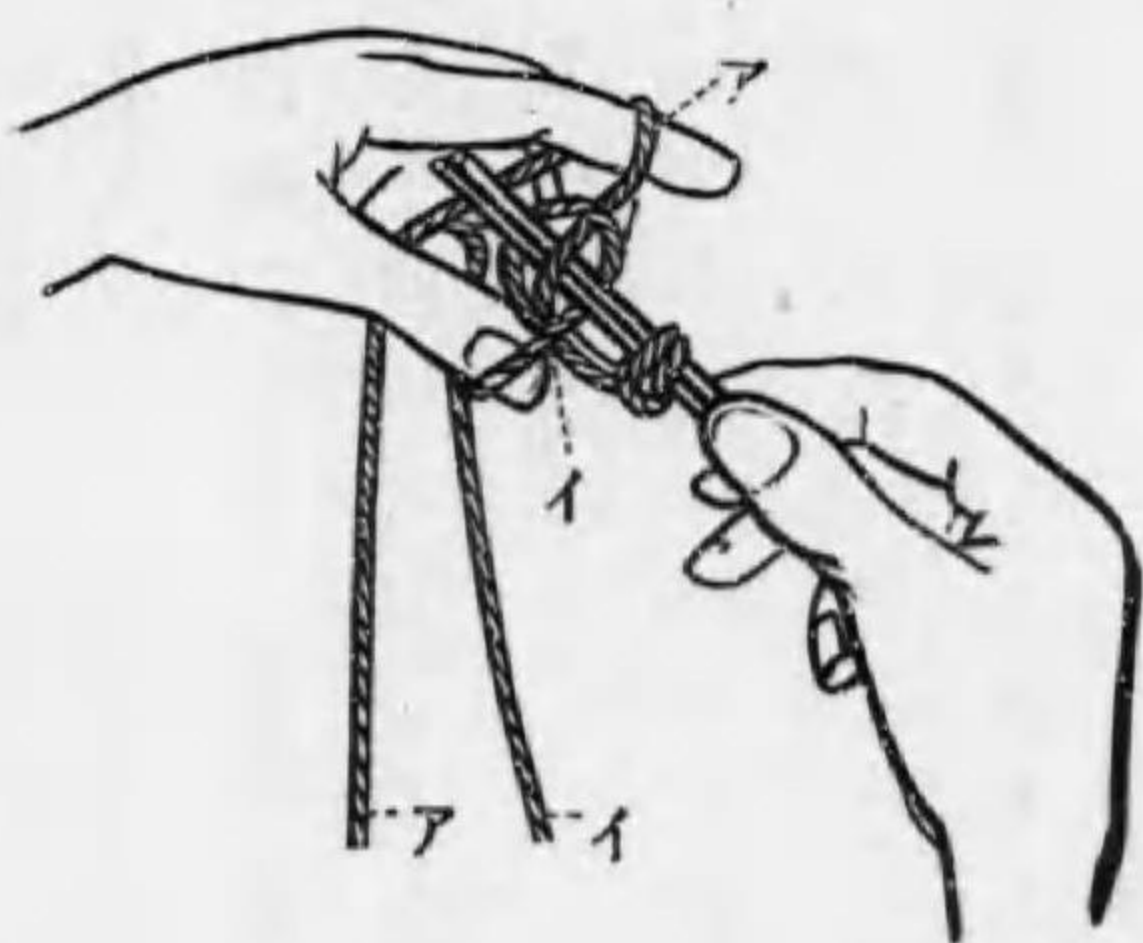
第四圖



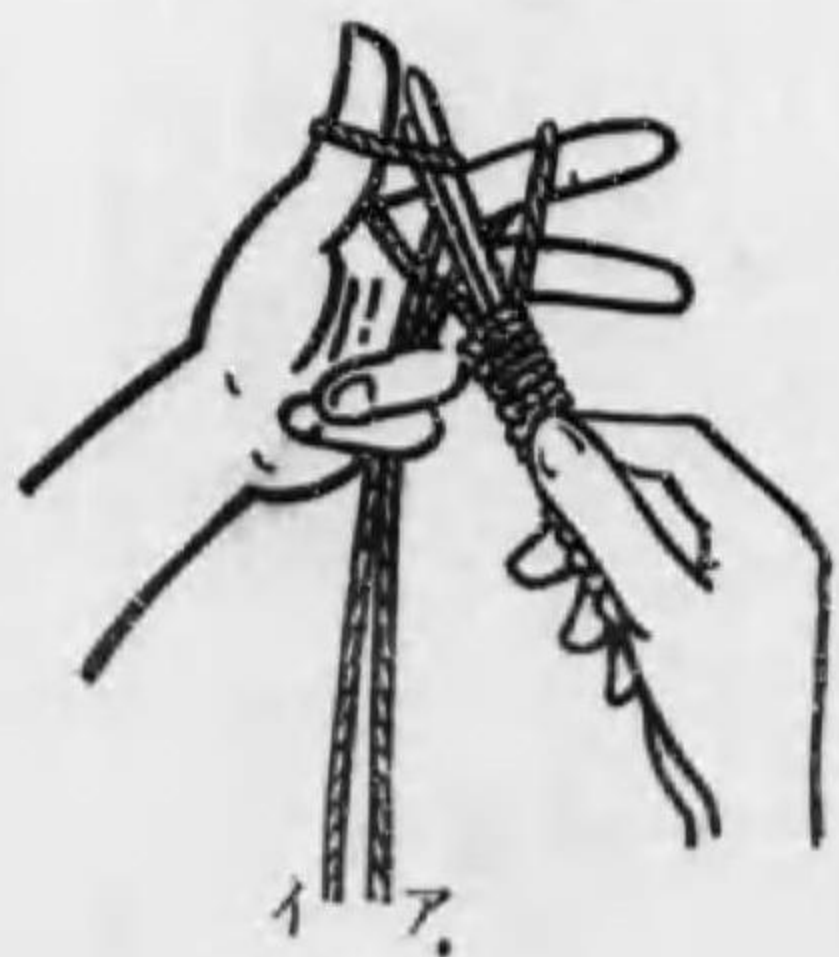
第五圖



第六圖



第七圖



第一編 三、四本針の目の作り方

又第三圖の様に糸を結び、アの輪に針を通うし、イの糸を引張る。さうすると一つの目が出来ゑる。それでもよろしい。これが基本の目になる。

三、右の様にして基本の目が出来たら、第二圖の様な手付に糸を持ち、そして第四圖の様に母指と人差指の間から手前に針を引き、エの輪に通うし、ウの糸を引かけて第五圖の様にし、糸を引かけて引出す。

四、さうしたら、母指に引つかゝつてゐる糸から指をはづし、其母指でイの糸を第六圖の様にして引張る。これで目が出来ゑる。

五、この第二圖から第四、第五、第六圖とくりかへして自分の欲しいだけの目數を作る。丁度第七圖の様になる。

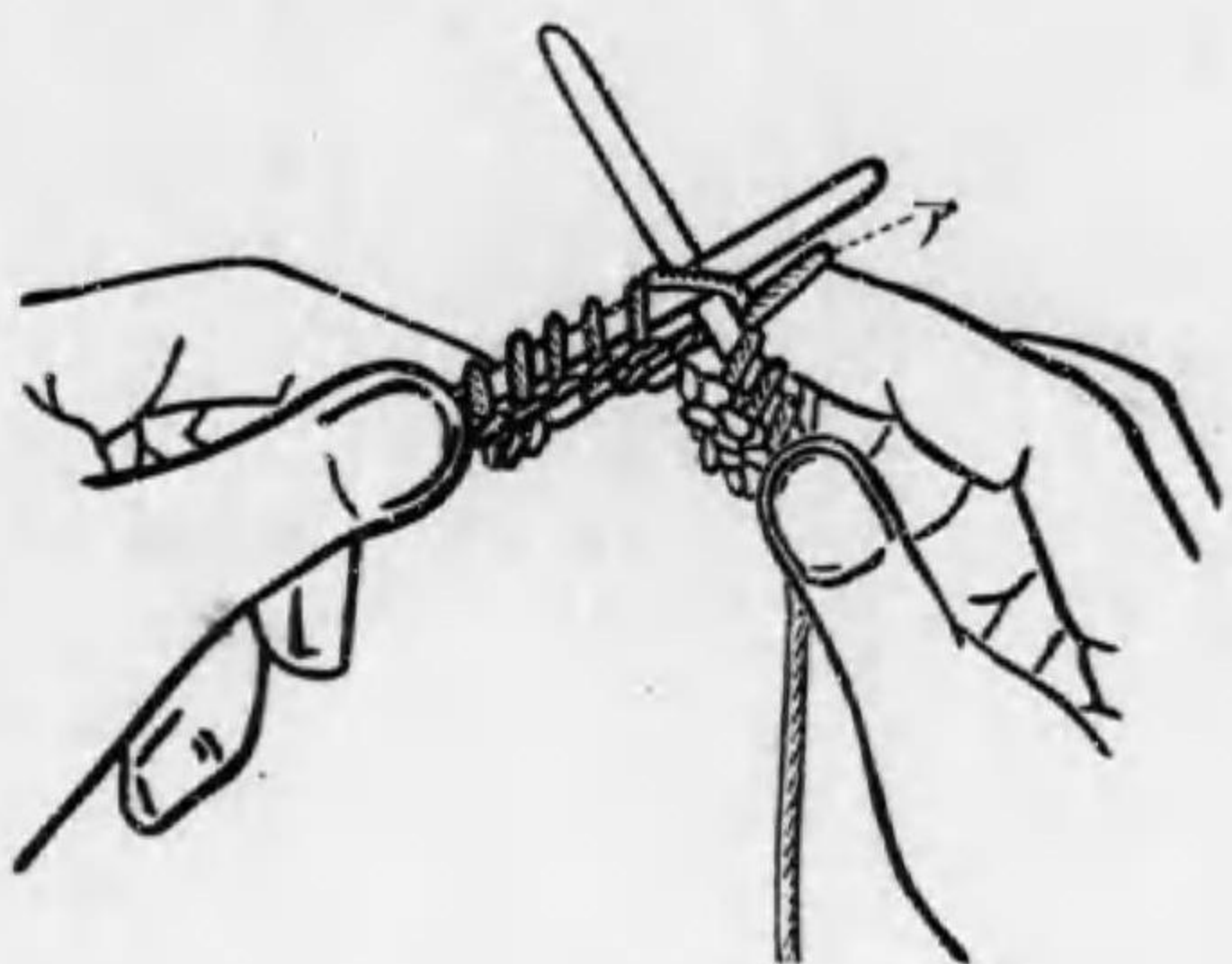
四 四本針の基本編方

かぎなしの針で編物を致しますのには、表編と裏編との二通りあります。この二通りの編方を應用していろ／＼の形や模様を編むのです。この基本となる二通を私は基本編方と云つてゐます。

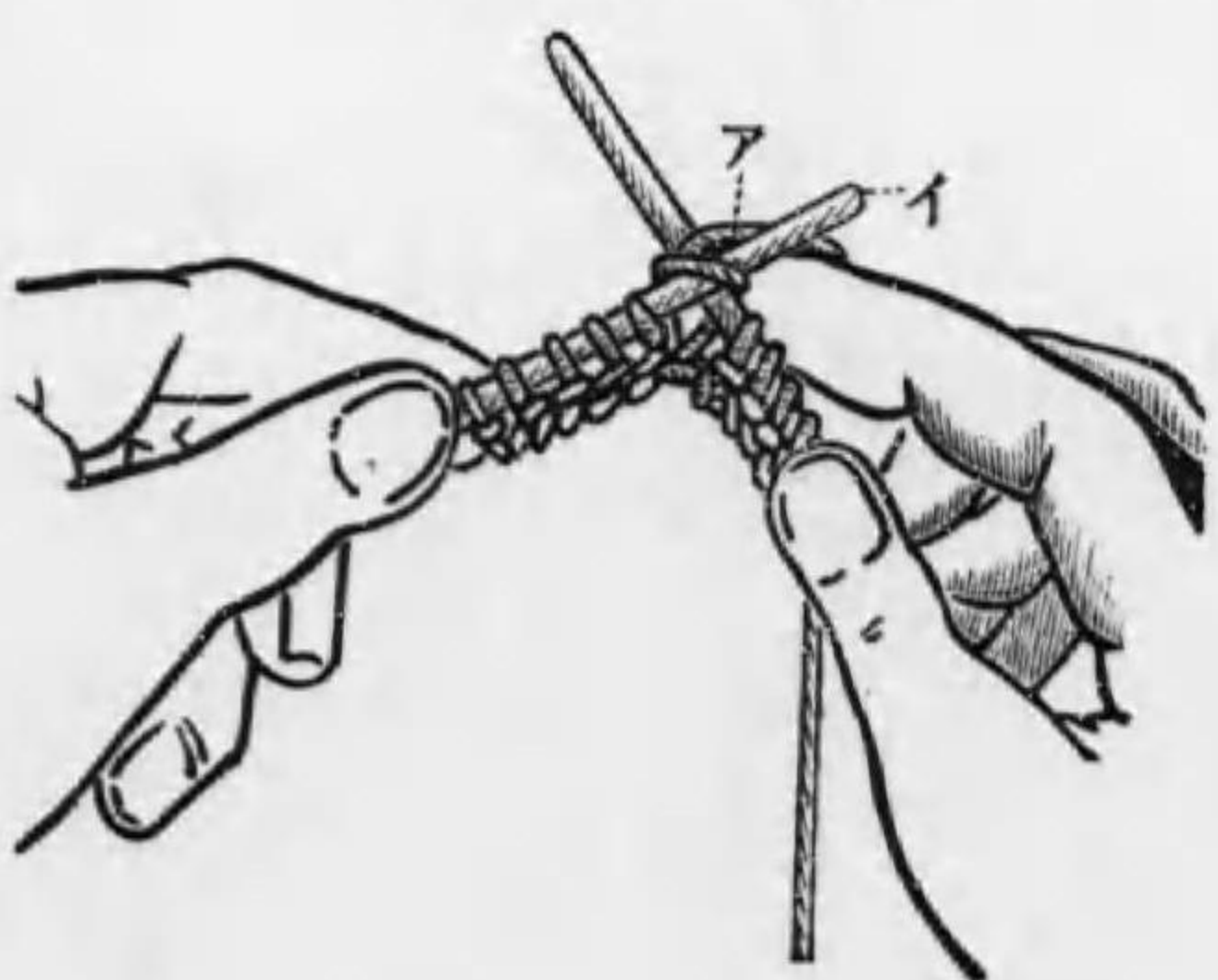
1. 表編

一、目の作り方で話した様にして、針に目をかける。そして第八圖の様に、一番初

第 八 圖



第 九 圖

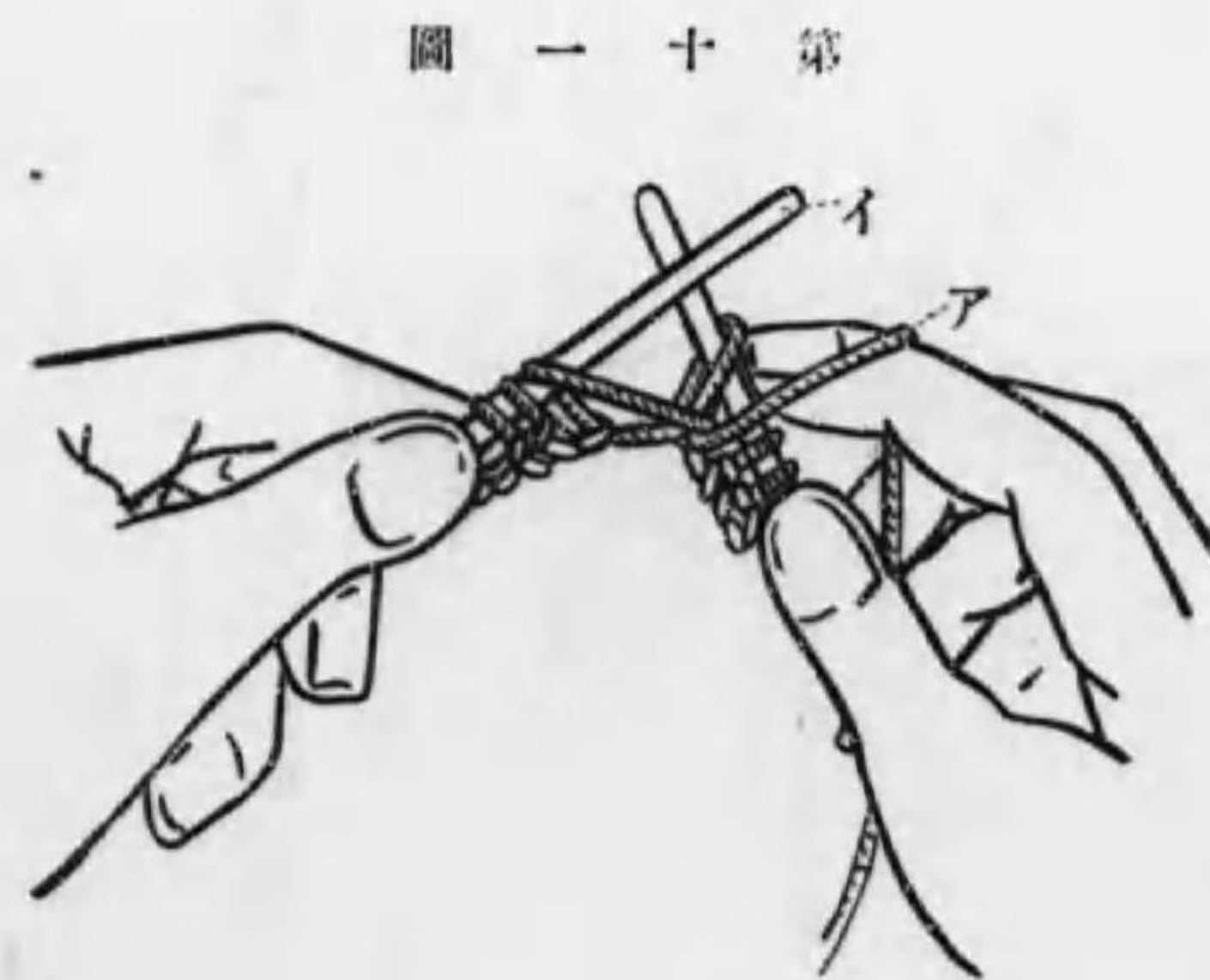
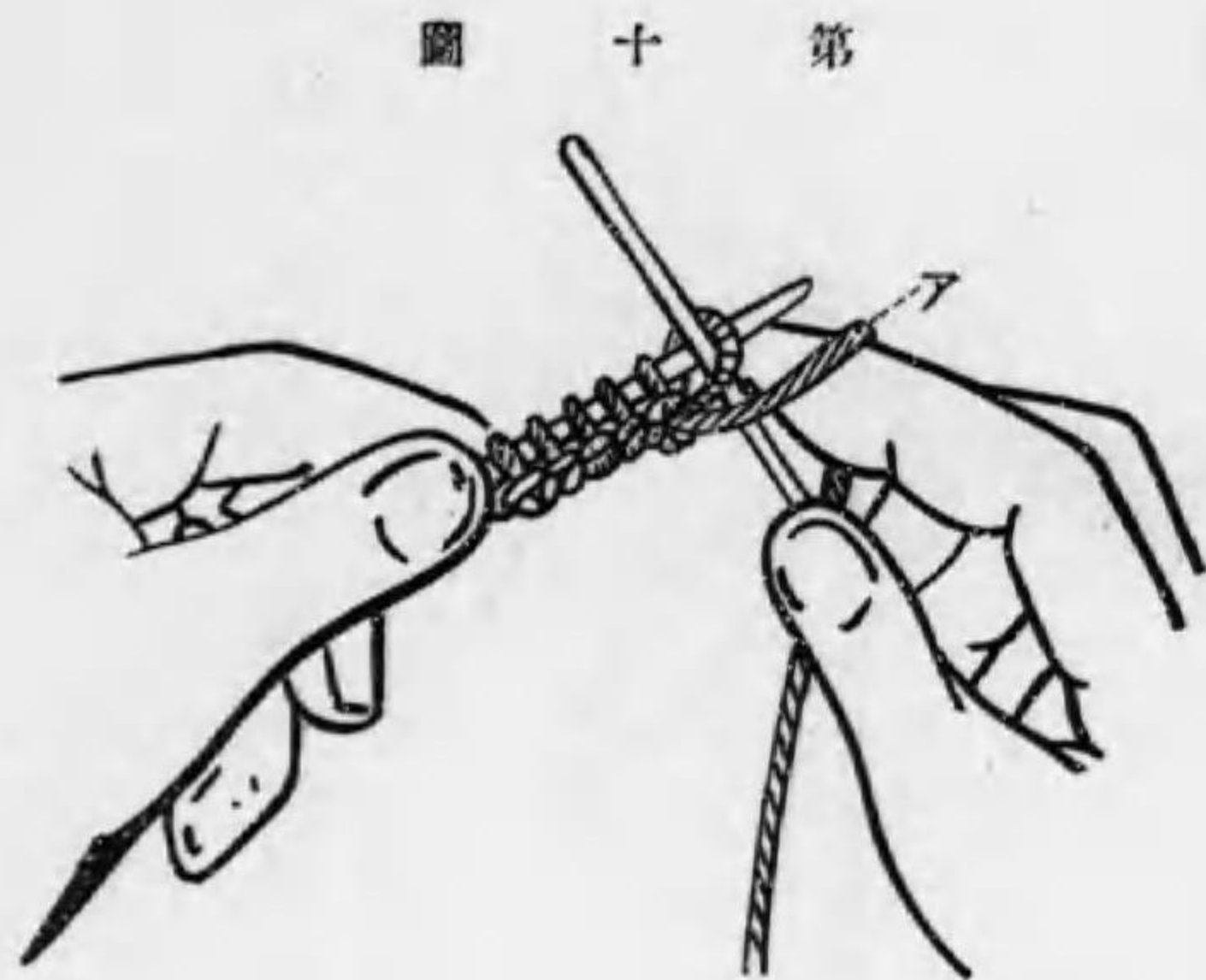


めの目に針を手前から入れ、第九圖の様にアの糸を引かけて引出す。さうしてから一番初めの目をイの針からはづす。これが表編です。これを繰り返せばよ

ろしいのです。

2、裏編

一、目の作り方で話した通りにして、針に目をかける。それから第十圖の様に、一番初めの目に針を後から手前に向けて通うし、アの糸を引かけて、第十一圖の様に



引出す。さうして一番目の目をイの針からはづす。これが裏編です。これを繰り返すのです。

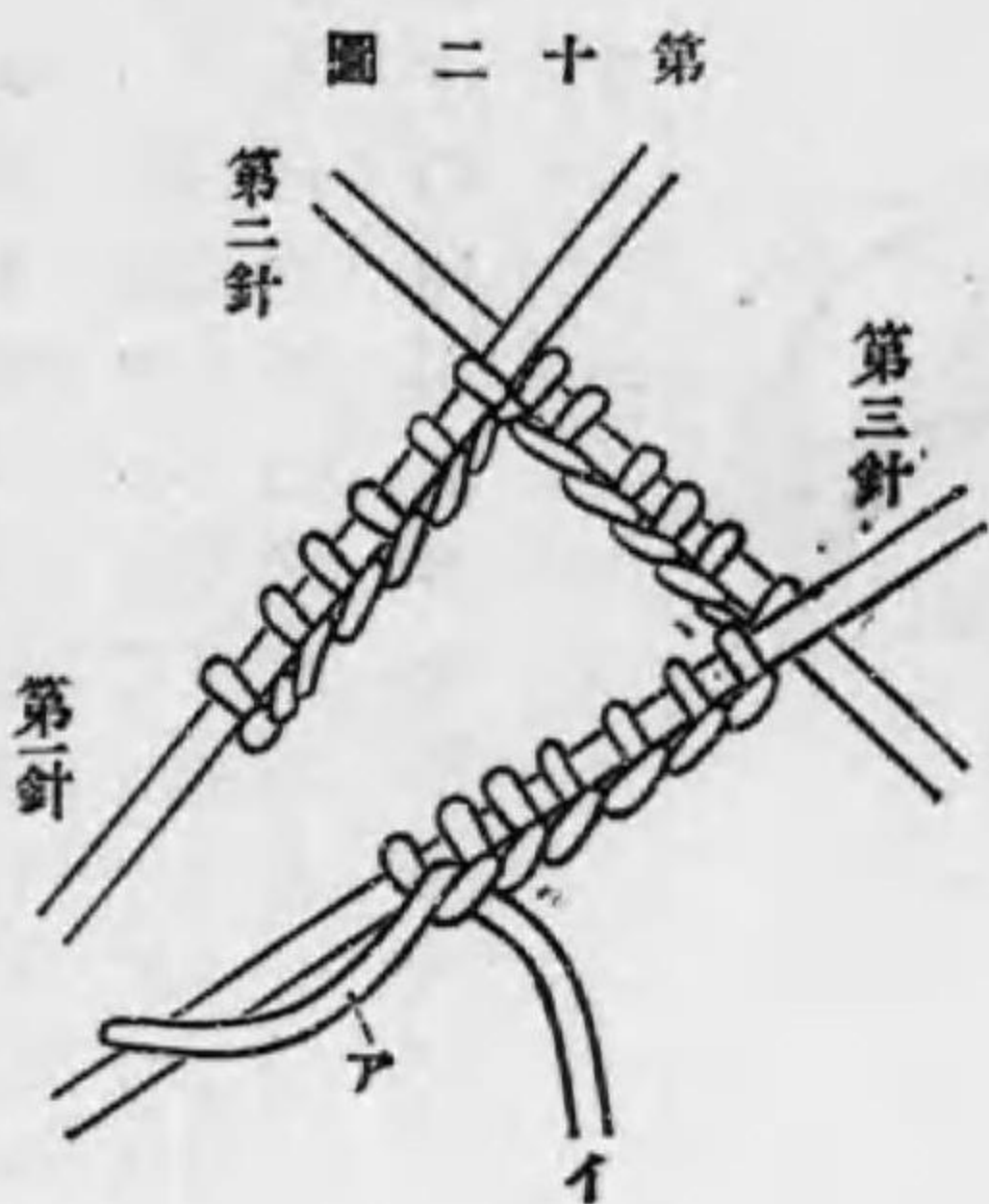
五 編み初める時の注意

1、平らなものを編む場合

輪にしませんで平のものを編みます時には、特別の場合の外はいつも段毎に編み、初めの目一つだけは編まずに取り、次の目から編みます。これは縁の方がどうしでもだれて来る氣味があるからです。

2、輪のものを編む場合

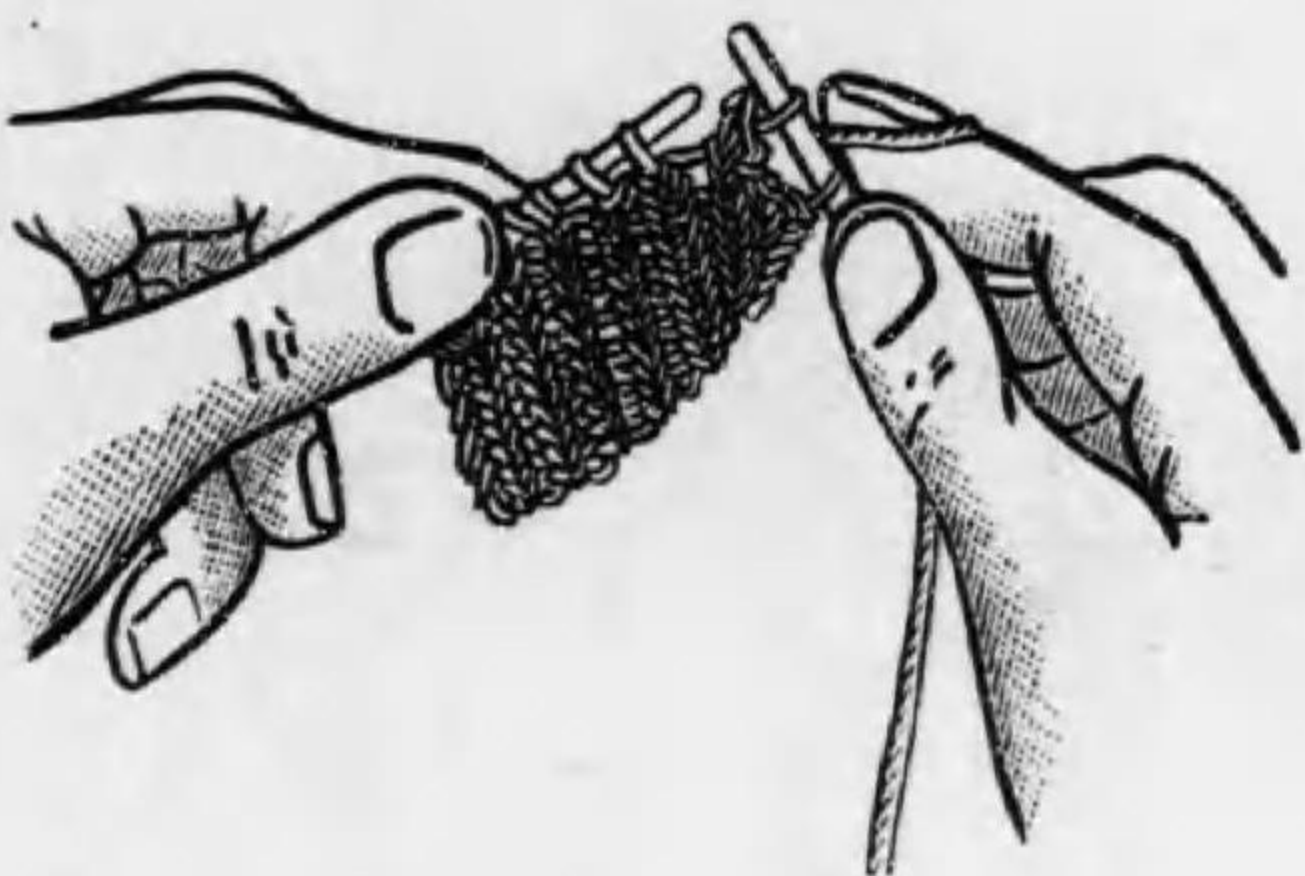
針に目をかけてそれを第一針第二針第三針と三本の針に分けます。そして第十二圖の様に、第三針から第一針に移ります



第一編 五、編み初める時の注意

時、アの糸を第一針の初めの目へ編まずにたゞ通うして引きぬき、巻いてあるイの糸と一度結びつけてから、イの糸で第一針の初めの目から普通に編み、アの糸はあとから目立たぬ様に編んだ物の内に縫ひ込みます。かうしませんと第一針と第三針との間が開きます。

第三十圖



六 基本編の目のつめ方

1、表編の一束詰め

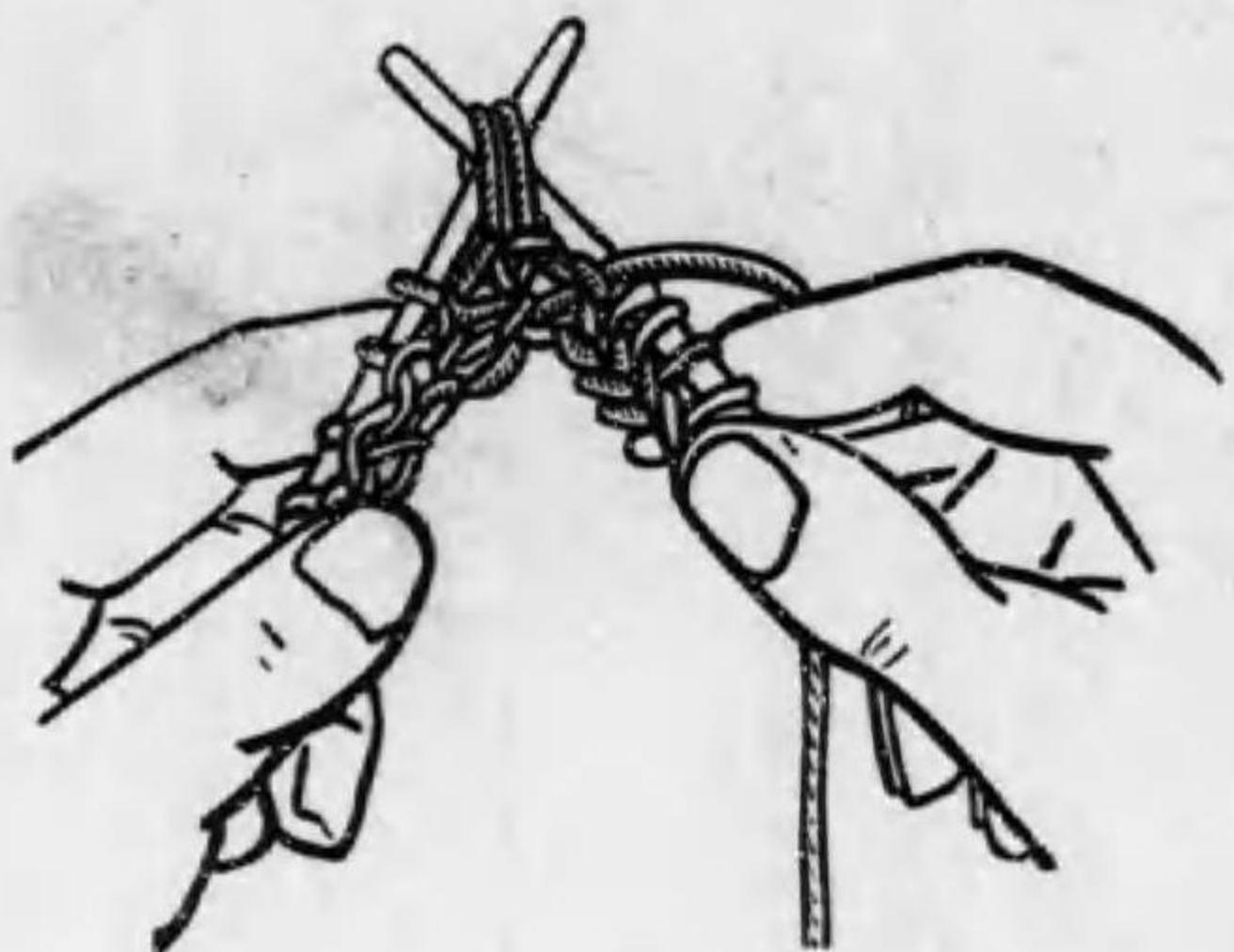
表編の處で話した様にして表編をつゞけ、へらし度いと思ふ處で第十三圖の様に、二つの目を一緒にして表編をする。これが表編の一束づめです。これで目が一つへります。

2、裏編の一束詰め

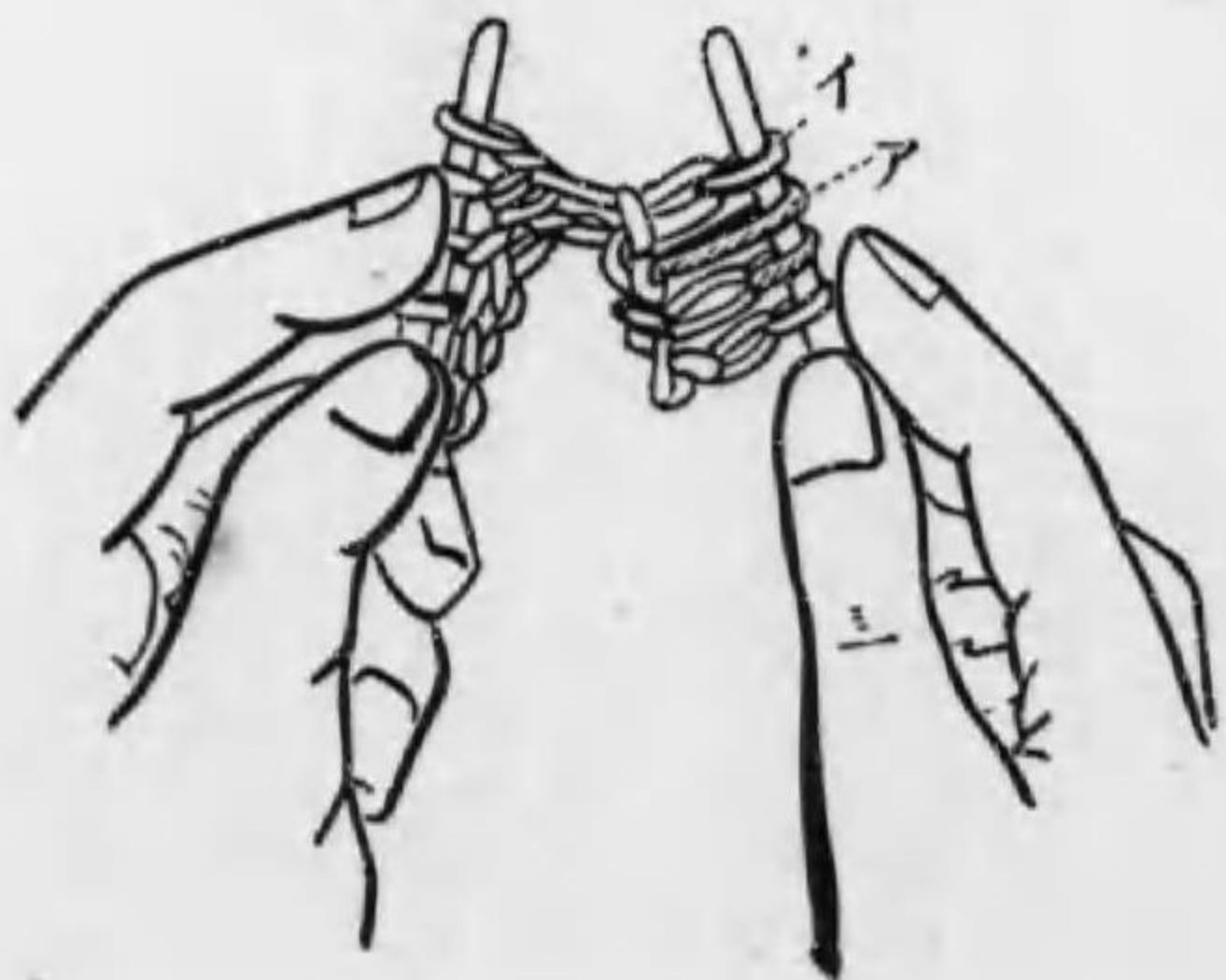
裏編の處で話した通りにして裏編をつゞけ、へら

し度い處まで來たら第十四圖の様に二つの目を一緒に裏編をします。これで目数が一つへります。これが裏編の一束詰めです。

第四十圖



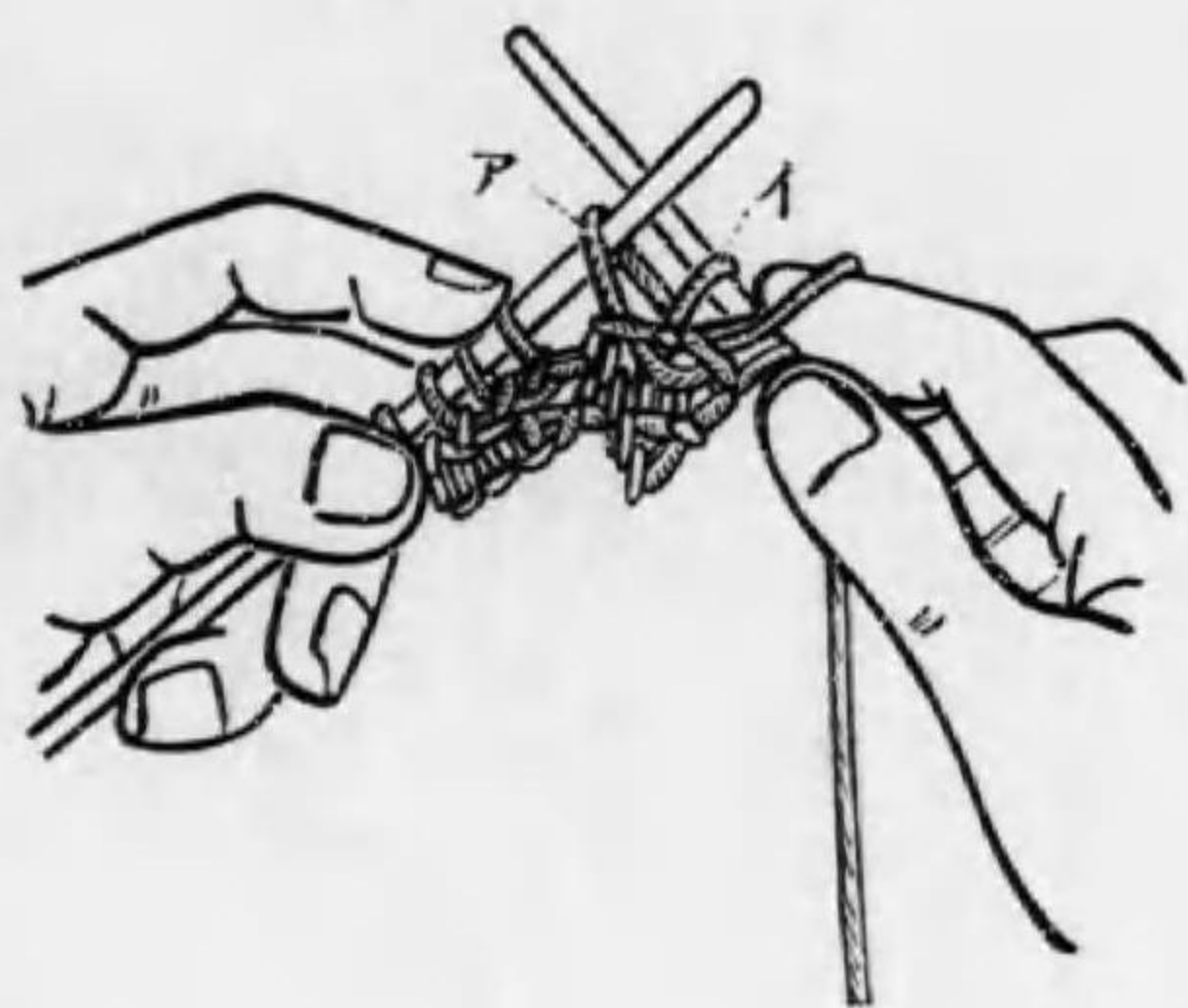
第五十圖



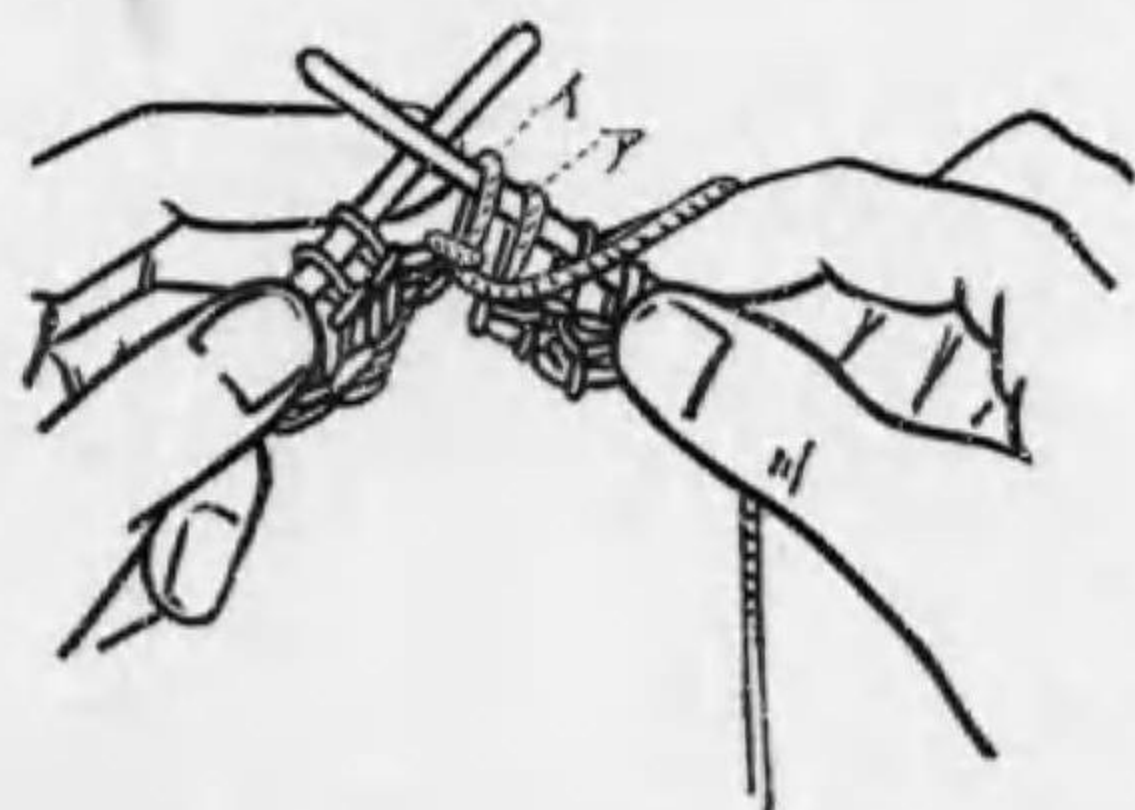
3、表編のかぶせ詰め

表編を續けて來て減らし度い處へ來たら、第十五圖のアの様に、編まずに目を一つ取る。それから次の目を表編にする。そして前に編まずに取つたアの目を第

第六十圖



第七十圖



十六圖の様に、左の針で引
かけ、表編にしたイの目に
かぶせて、左の針を目から
抜く。これで目が一つ減
ります。これがかぶせ詰
めです。

4、裏編のか
ぶせ詰め

裏編のかぶせ詰めも、表編と同じく目をへらし度い處へ來たら、第十七圖の様に
アの目を編まずに取り、次の目を裏編する。そして前に編まずに取つたアの目を
左の針で後から引かけ、イの目にかぶせ、針をアの目からはづす。これが裏編のか
ぶせ詰めです。大體編むものゝ編み初め編み終り、又は途中の時も前述のへらし
方で差支ありません。猶ほ特別の場合の時の事は後章で申しませう。

七 目の詰め方について

前の目のへらし方の處で話した様に、目の詰め方には(一)表編一束詰め(二)裏編一
束詰め(三)表編かぶせ詰め(四)裏編かぶせ詰め(五)四通りあります。この四つの方法
の何れを用ひましても、一つ減るものですけれど、どう云ふ場合にかぶせ詰をし、
どういふ時に一束詰めをするかといふ事について、注意して置き度いと思ひます。

1、表編の詰め方と裏編の詰め方とを用ふる場合

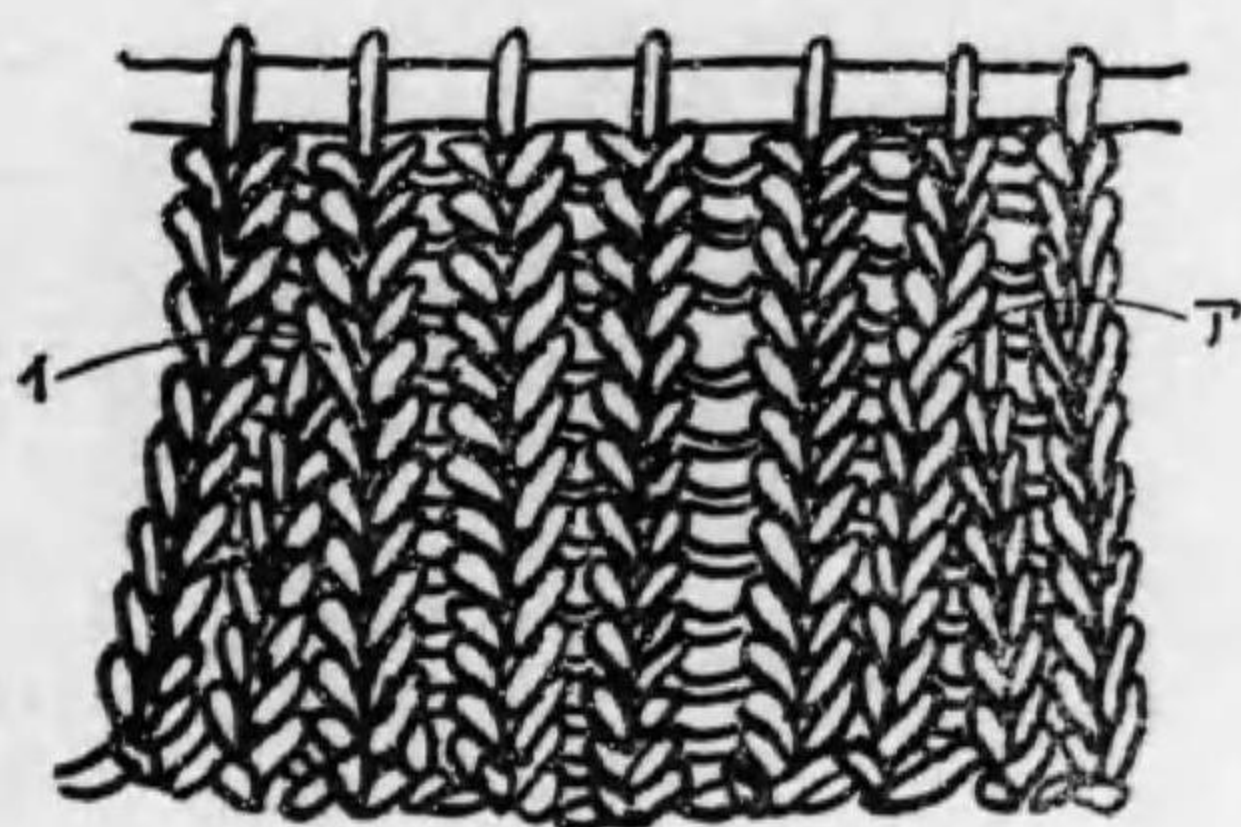
表編で編み續けて來た時には必ず表編でへらし、裏編で編み續けて來ました場
合は必ず裏編でへらす。

2、一束詰めとかぶせ詰めとを用ふる場合

表編の一束詰めてつめますと、第十八圖のAの様に目が少し右の方に向きます。

又かぶせ詰めにするると、一束詰めと反対に、第十八圖のイの目のやうに、少し左に向

第 十 八 圖



きます。この兩方の向きを考へないと花形に編むとか、又は五分おきとか、七分おきとかにへらす場合に、目と目との間隔は同じ様に揃つて綺麗に出来ても、目の向がまぢくはは大變見苦しいものです。ですから二つ以上ならべてへらす様な時には、體裁上目の向に注意した方がよいと思ひます。猶目をへらすのに注意しておきますのは、編み終りの時には必ず一束詰めにしなければならぬことです。

3. ゴム編のつめ方

輪にして編む時のゴム編をつめますのは、表編ばかりの時の様なつめ方を致しますと、同じ編み方の目が二つ列びます。それがために、つめた處が目立つて汚くなりますから、きれいにへらさなくははいけません。それで第十九圖の様に致し

ます。

先づつめ様と思ふ處で、中心の表編を定め、そして其表編と兩側の裏編とは増減なしに真直に編み、其前後でつめます。

第 十 九 圖



一段目には第十九圖の中心の表編の四つ手前の表編イを編み、次の裏編ウと表編エとを一緒に表編の一束詰めをする。オの裏編、アの表編、カの裏編を編んで、キの表編を編まずに取り、次のクを表編で編んで、前に取つたキの目をかぶせ

工とを一束詰めして次の方オ、ア、カを其のまゝ編み、キとクとをかぶせ詰めをする。平らのもを編む時一段目には、裏の方からつめ初め、表を見た時輪の時と同じ様に一束詰めとかぶせ詰めをする。

八 つめ方の角度

1、二段に三つの詰め方（写真1）

一段目。一束詰めをして次の目を編み、前のつめた目をかぶせます。
二段目。一束詰めだけします。つまり二段で三つ減りますと、写真1位のまがり方になります。これは重に肩を止める時に用ひます。

2、一段に一つの詰め方（写真2）

一段目。一束詰めをします。二段目も一束詰めをします。つまり段毎に一つづゝへらしみますと、写真2位のまがり方になります。

3、一段おきに一つの詰め方（写真3）

一段目。一束づめをします。二段目はへらしませて三段目にへらしみます。つ

まり一段おきに一つづゝへらしみます、写真3位のまがり方になります。

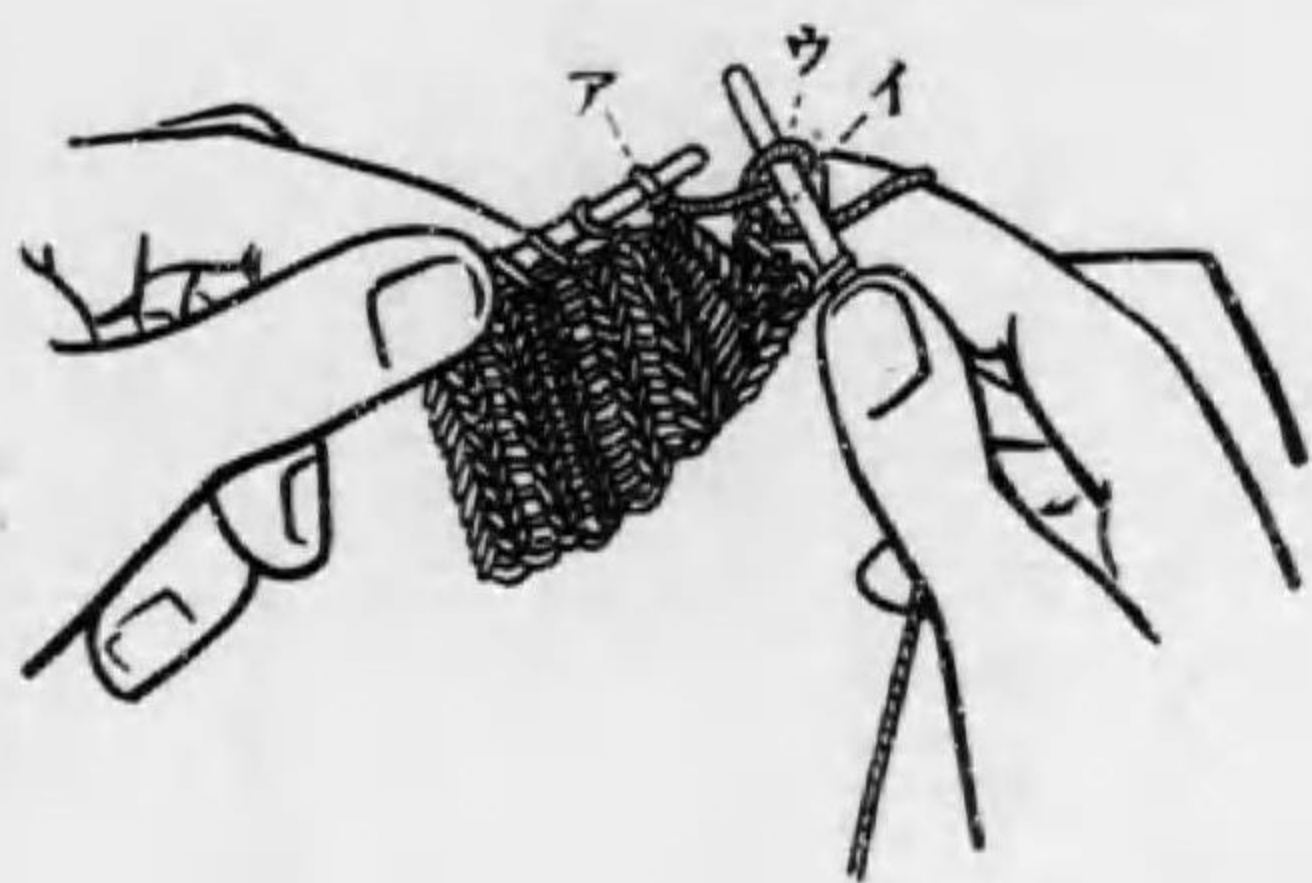
この三つのへらし方の角度を標準にして、衿付の開け方、袖付のくり方を出すのです。この三つの角度の利用によりまして、いろ／＼の型の物が作り出されるのです。又着る人の體に合せるのも、皆このへらし方の利用です。

九 基本編の目のふやし方

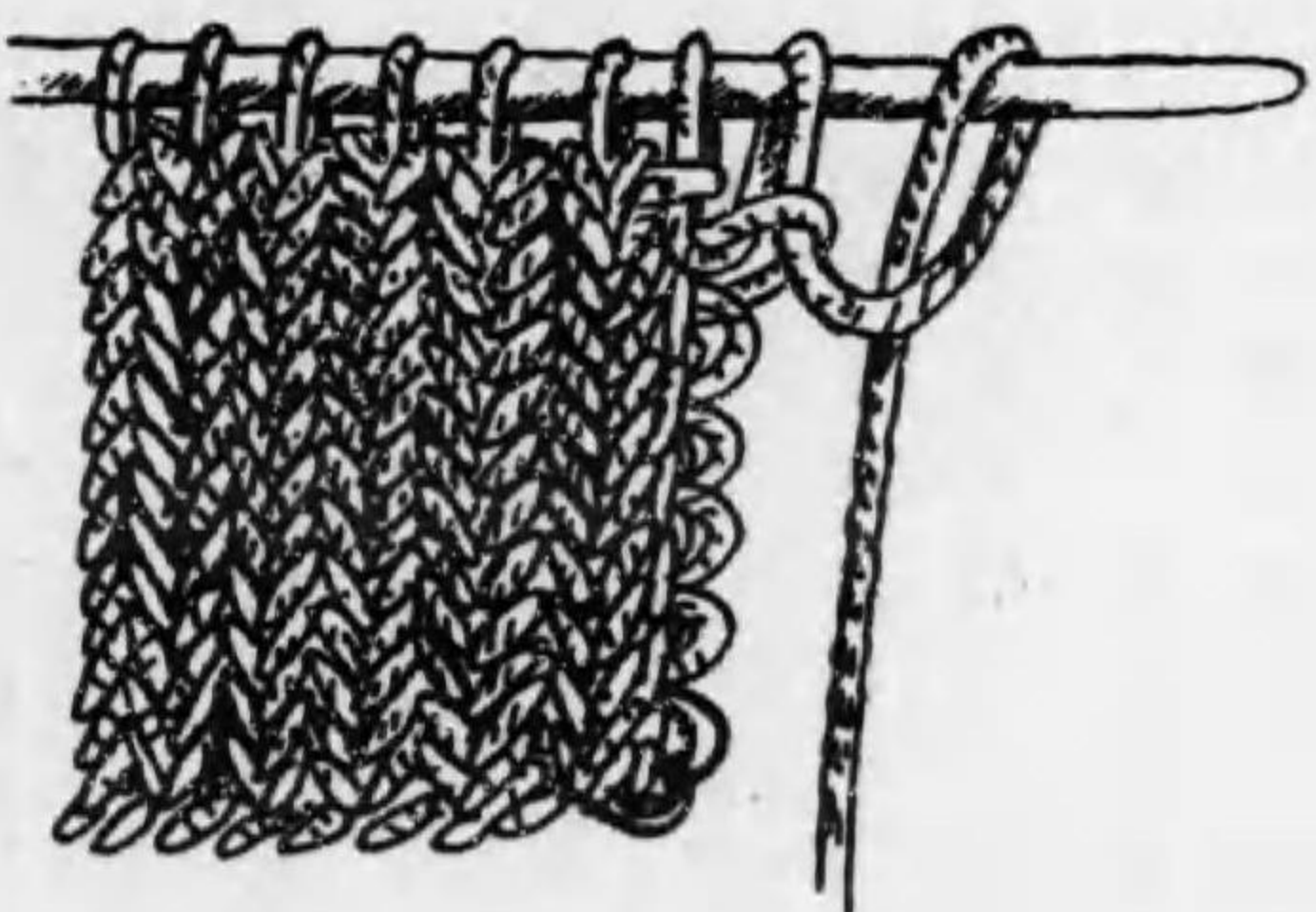
1、表編の編み途中で目のふやし方

表編の所で話した様にして表編をし、此所でふやし度いと思ふ所へ來たら、第二十圖の様に、今編んだイの目と、次のアの目との間のウの糸を少し引張り、圖の様に一つねじつて、これを普通の一つの目と同じ様に表編をする。これで目が一つ殖えました。これは編んでゐる物の途中で殖やす方法です。そしてこれは一ヶ所で幾つも一度に殖やす事はできません。澤山に増し度い時には殖す間をあけるか、又は段を重ねてから殖やすより外致し方ありません。もし糸をねじりません

第十二圖



第十二圖



と穴が開きます。

二二

2、表編の編み始め及び編み終りて目の殖やし方

編み始めや編み終りて目を殖やすのは第二十一圖の様に糸を輪にして針にかけ

て、針にかければよいのです。幾つでも殖やし度い時は殖やし度いだけ糸を輪にし

3、裏編の編み途中で目の殖やし方

裏編の目の殖やし方も、表編と同じ様に第二十圖のAとイとの間のウの糸を少し引張り、一つ換つて、これを普通の一つの目と同じ様に裏編をします。

4、裏編の編み始め編み終りて目のふやし方

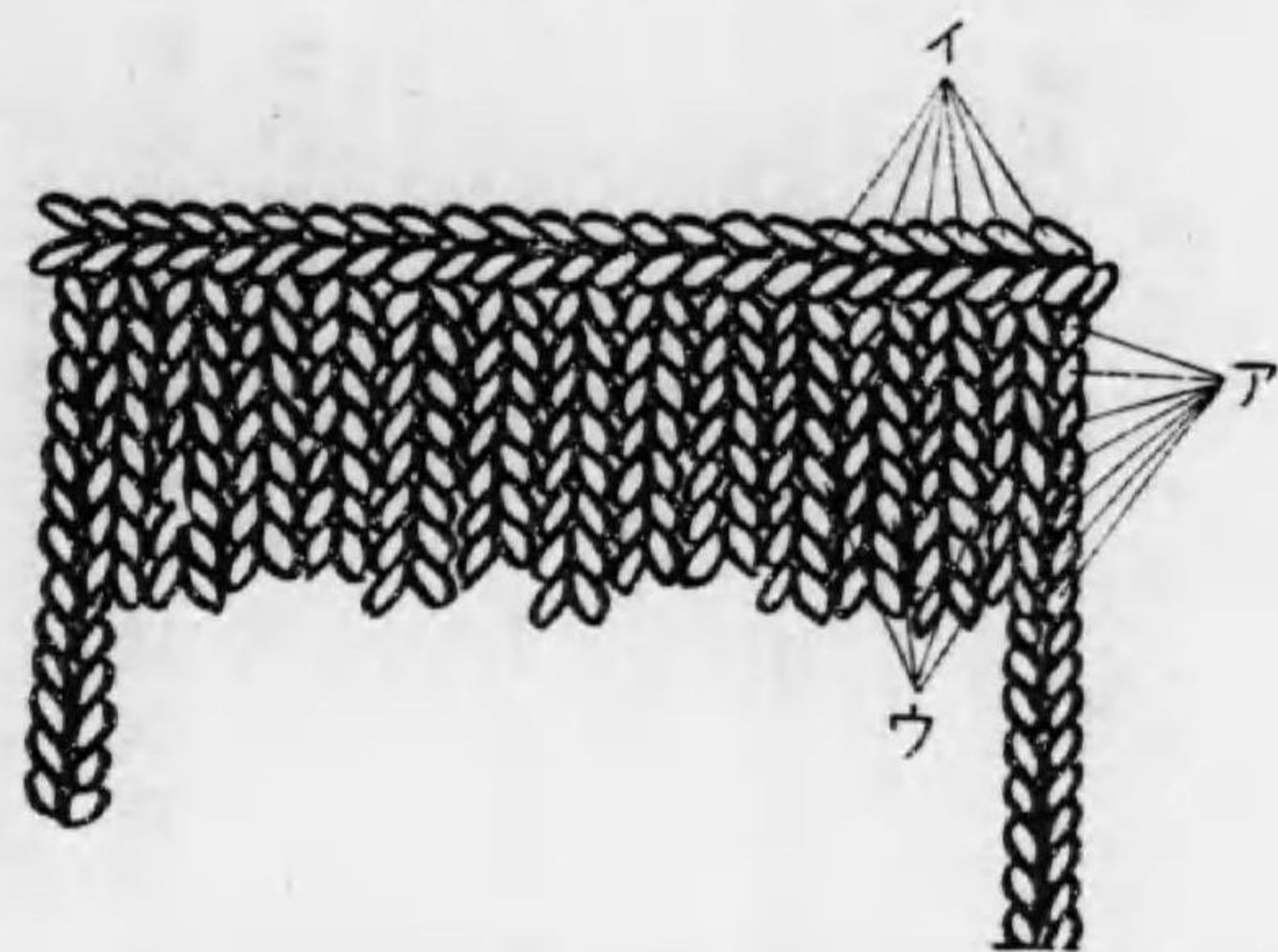
裏編の編み始めや編み終りて目をふやすのも、表編の場合と同じ様に糸を輪にしてかけ裏編をする。

十 目の拾ひ方

1、横の目の拾ひ方

編んだ物の横から目を拾ひ度いと思ひましたら、其編んだ物の横の目を第二十圖のAの目を一つ一つに針を通うして普通の目と同じにして編みます。

圖 二 十 二 第



かぶせ止めをしてある物から、目を拾つて編み
続け度いと思ふ時には、第二十二圖のイの目の一
つ一つに針を通うし、普通の目と同じにして編み
ます。

2、編み止めの目の拾ひ方

3、編んだ物の裏からの目の拾ひ方

へばみかへし持出の様に重ね合せにする時には、第二十二圖のウの様に編んだ物
の裏の目一つ一つに針を通うして、普通の目と同じにして編みます。

十一 目の止め方

1、かぶせ止め

編み終りを真直に止めるのには、初め一つを編んで、次の目
を又編み、そして前の目をかぶせる。次の目を又編んで、前
の目をかぶせ、又次の目を編んではかぶせると云ふ風にして、
終りまでかぶせ詰めをします。最後は糸を引出します。第
二十三圖の様になります。

2、一束止め

手袋の指先きや、帽子の終り等に用ひられる止め方で、
十なり十五なりの目を一度にくゝつて止めてしまひま
す。編んだ物の終りにいくつかの目が針にあります。
止め針になるべく同じ色の木綿糸を二三本にして通う

圖 三 十 二 第

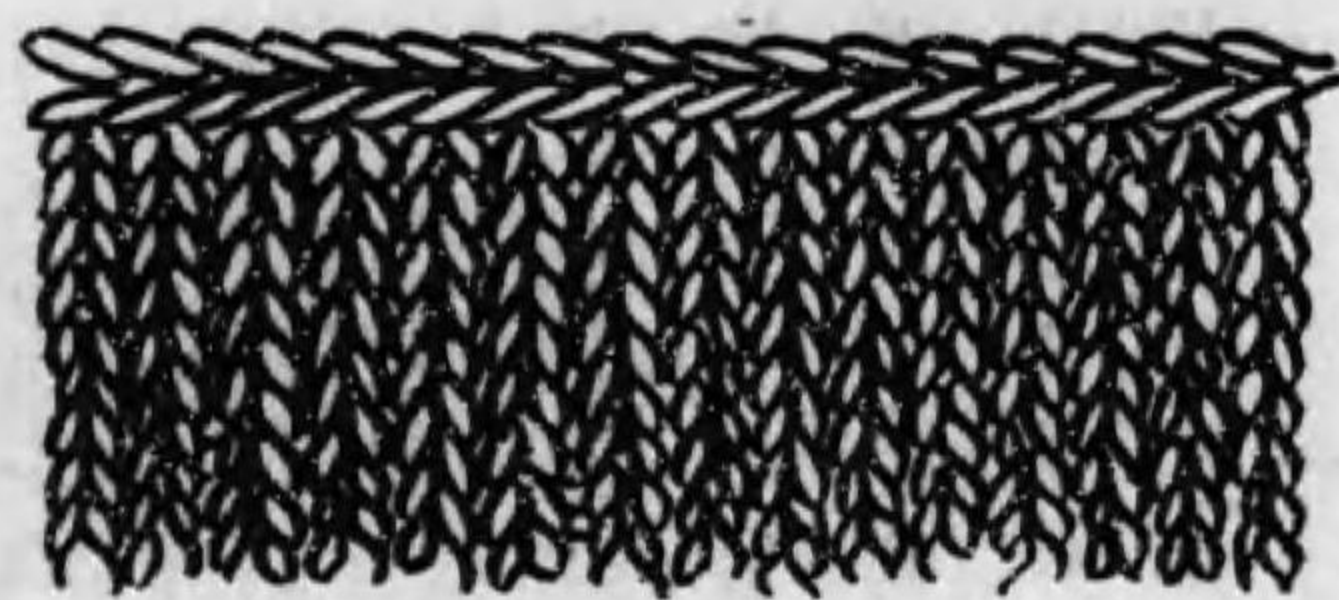


圖 四 十 二 第



第一編 十一、目の止め方

し、針編にある目に通うし裏へかへし、固くしばる。そして木綿糸は結目のところで切り、毛糸を一寸ほど残して切り、其切り端を編んだ物の内に縫込んでしまひます。木綿糸でないとならず、の間にゆるんでとける事があります。仕上りは第二十四圖の通りです。

十二 縫ひ合せ方

1、左右の縫合せ方

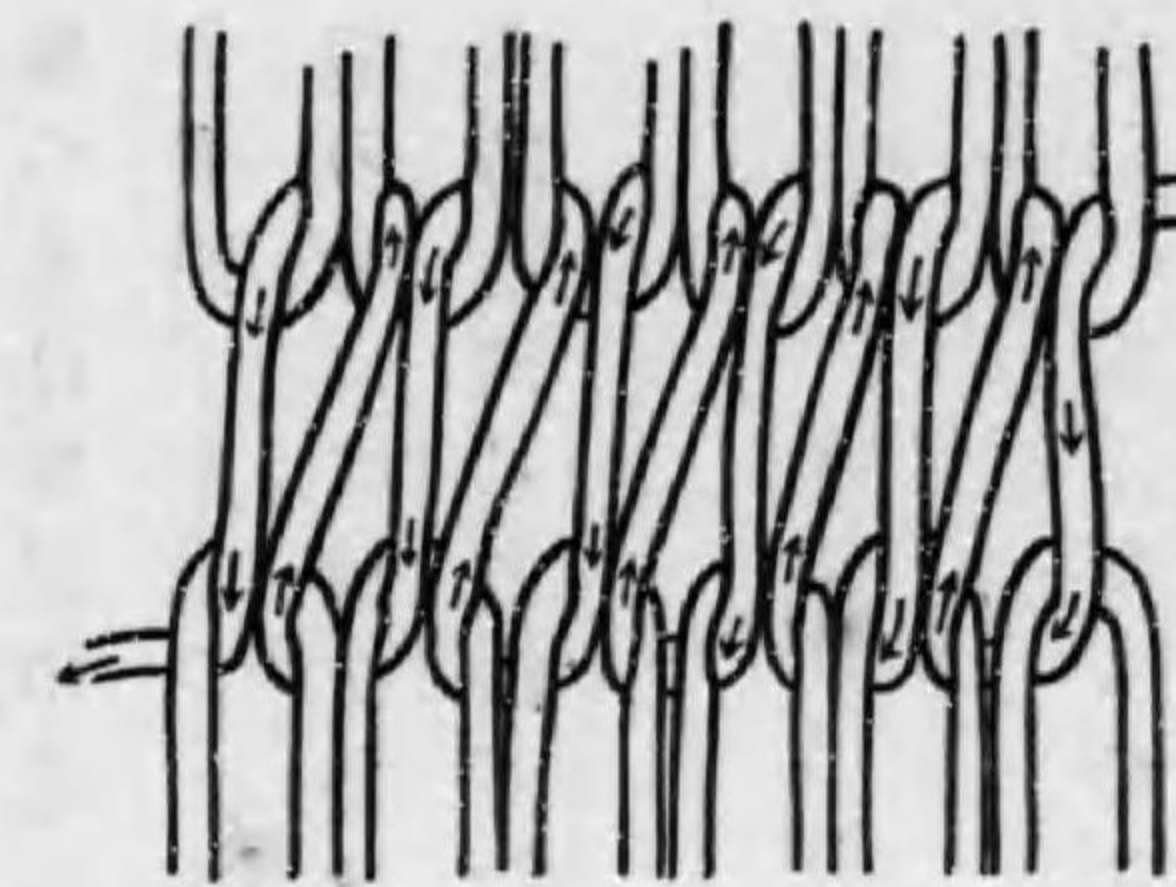
脇や袖付などを縫合せの場合、二つの編物の縫合せ目が釣つたり、たるんだりしない様に、二つの編物をよく合せてまち針を打ち、一分五厘ほどの針目にして糸をまつりつける。其時糸をゆるくしすぎると、合せ目に穴が開きますし、固すぎるとゴロ／＼します。糸の加減は縫合せた編物の縫目を割つて穴も開かずゴロ／＼もせず、平になる位がよいのです。平になりますと、縫合目がはつきり目立ちません。

2、上下の縫合せ方

左右の縫合せ方と同じにしてもよいのですが、見えやす所へは次の方法を用ひた方が綺麗に出来上ります。

表編の場合は、縫合せ糸を止針に通うし、第二十五圖の様に、糸の一端を縫ひ初めの所てほつれぬ様にしつかり止め、縫ひ合せ様とする二つの編物のどちらかの

此一端を固く止める



第二十五圖

第一の目に裏から表へ糸を通して引ぬき、も一つの編物の第一の目の表から裏へ糸を通して、その隣の目の裏から表へ糸を引き出す、それから一番初めに糸を出した目に又糸を表から裏に通うして、隣の目の裏から表へ抜きます。これを次ぎ次ぎと繰り返せばよろしいので、詰り同一な目に二度糸が通る事になります。出来上りは寫真4の様、縫合せ目が全くわかりませんが此方法の特長です。寫真の黒い糸は縫合せた糸です。

裏編の時は、表編の時の様に縫合せてそれを裏返しにすればよろしいのです。
写真5参照。

平編の時には、縫ひ合わせるものを二枚とも編み終りを裏編にしてやめて置き、表編みの時と同じ方法で縫ひ合せます。写真6参照

3. うすものの縫合せ方

すかしに編んだものを縫合せる場合。二つの編んだものを縫合はせませすのには、止針に糸を通うし、第二十六圖の様に、すいておかないアとアとの所に針を通して引き抜いて止め、又アとアを同じ様にして縫ひ合はす。詰り同じ目を二度縫ひます。それからイとイとも同じ様にして二度縫ひ合せてから、すいてをります所を飛ばして、ウとウ、エとエ、オとオとをア及びイの場合と同じ様にして二度縫ひ縫ひ合はせませす。そしてすいてをります所は、縫はずに糸をゆるくしてお

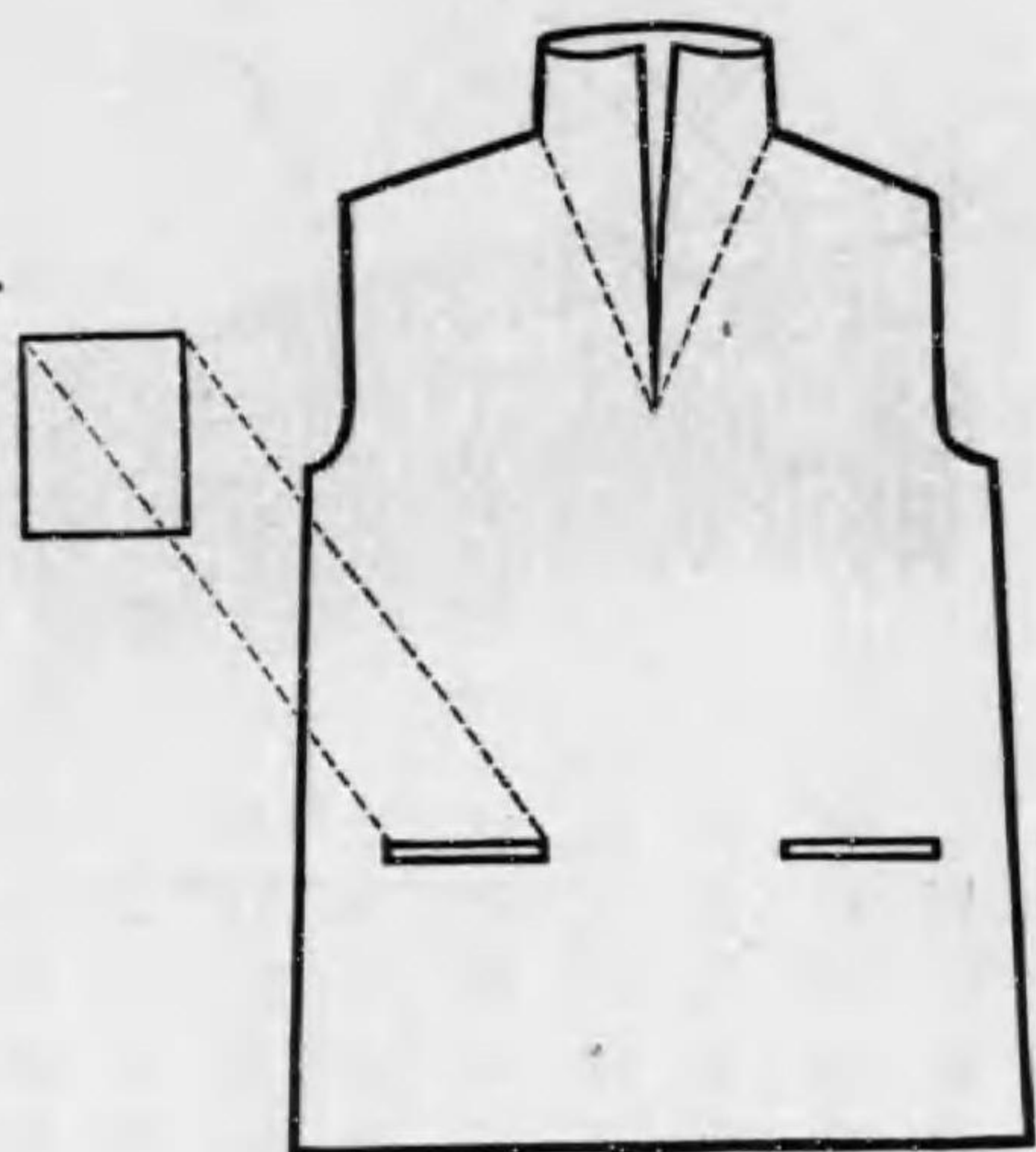
圖六十二第



くのです。

十三 ポケットの付方三種

圖七十二第

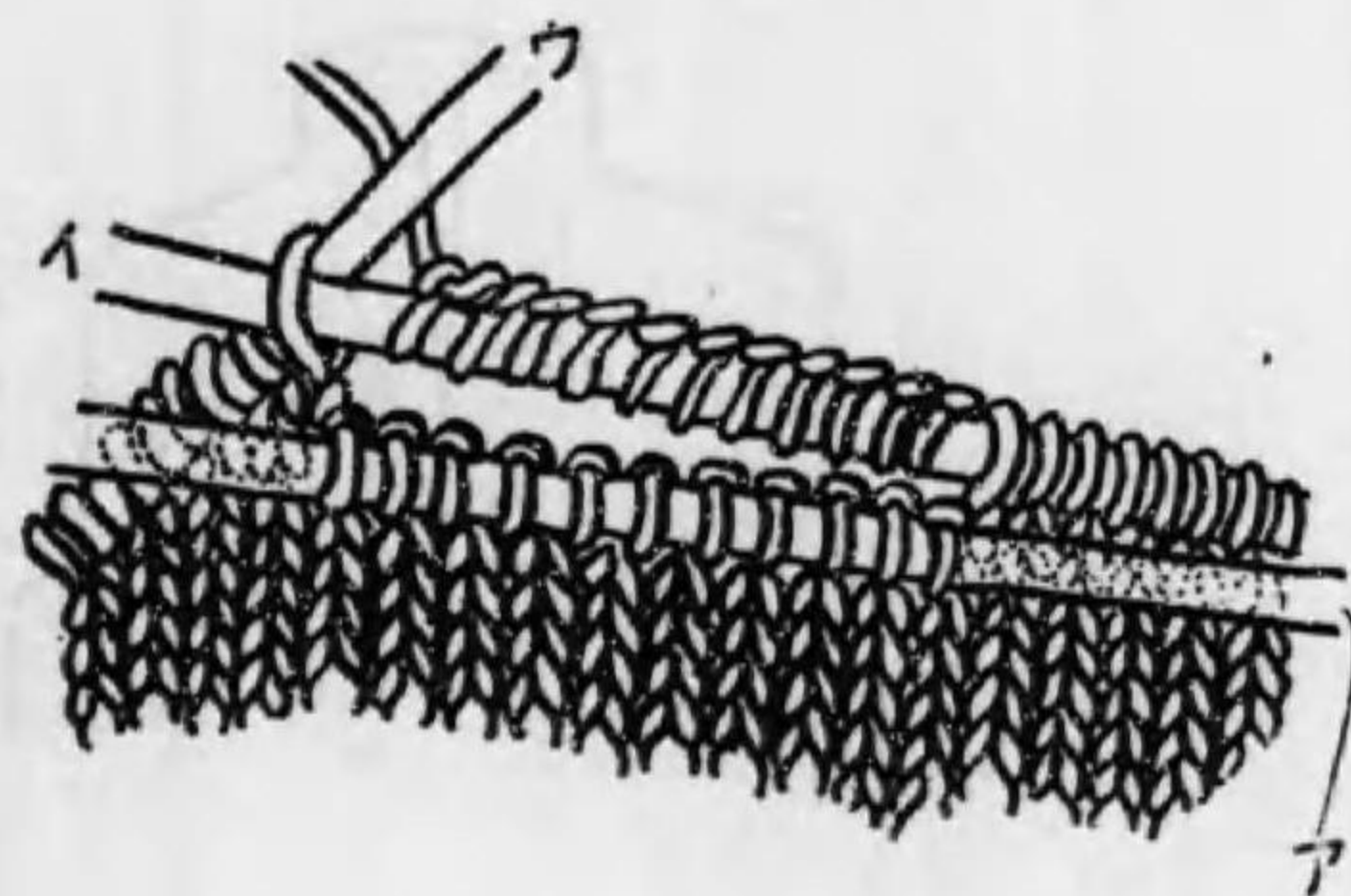


(一)ポケットを付け度いと思ふ個所の縞或は模様に合わせて、望みの大きさのものを編みます。そしてこれを止針に糸を通うしたもので、縞或は模様には合せ、まつりつけます。付けます時なるべく付け目が目立たない様にしなくてはなりません。第二十七圖の通りです。猶ほ付け加へておきますが、これは全部出来上つた着物の上にあとからつけるのです。

(二)これは編みながら付けるのです。ポケットの口にし度いと思ふ處まで編ん

第一編 十三、ポケットの付方三種

圖八十二第



て来たたら、ポケットの大きさの目だけ二十でも二十五でも別の針(第二十八圖ア)か又は糸に通して残します。そして今迄編んで来た針(第二十八圖イ)にはポケットの分に残しただけの目を作ります。そして次の針(第二十八圖ウ)の方に編みづづけて行き、出来上つてから前に残しておいた目を八分か一寸ほど平編して止めて、上にむけ、第二十九圖の様にアとイの両側だけ止針に糸を通うした針で縫ひつけます。これで表の方だけ出来ました。

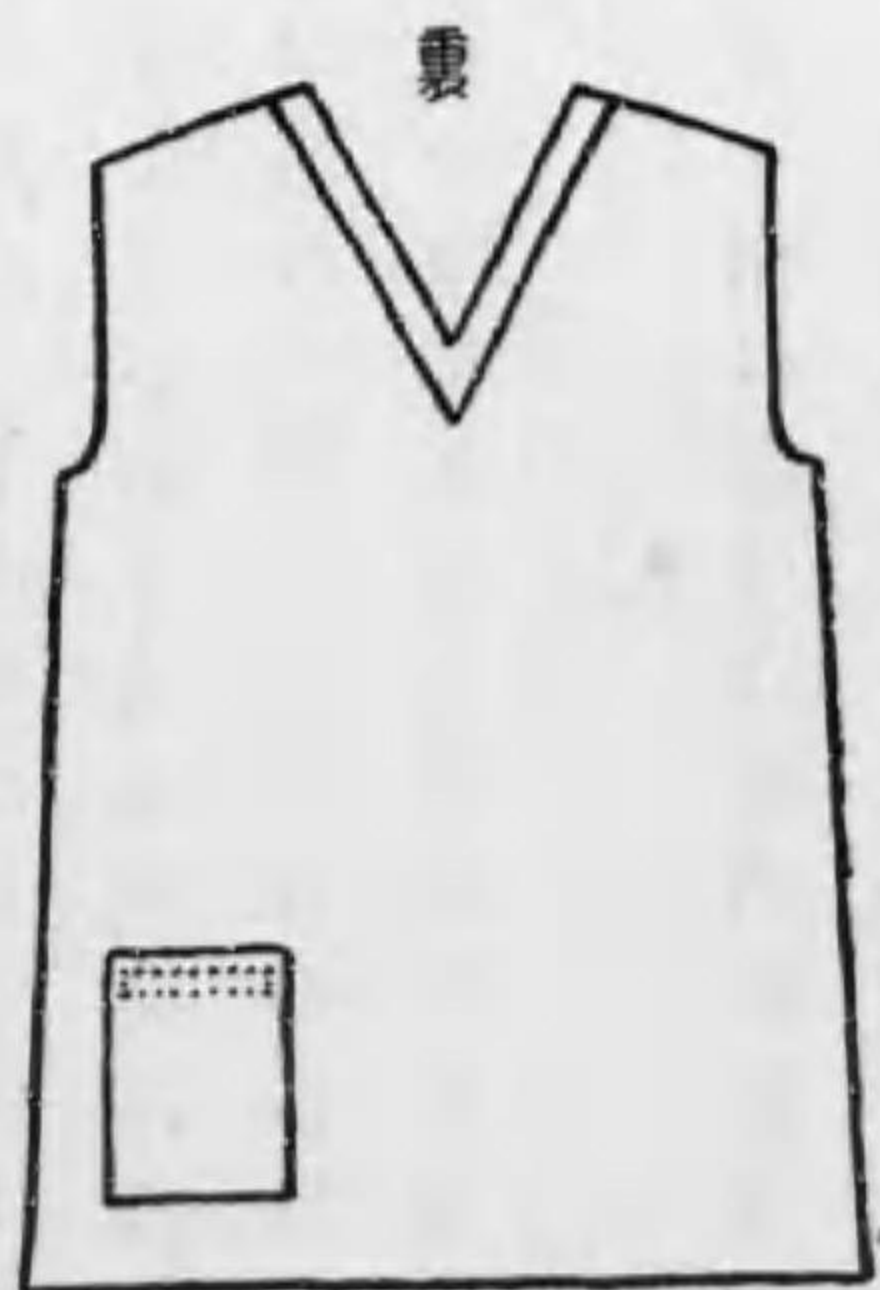
別に裏の方は針にポケットの口よりも五つ位多いだけの目をかけ、表編にして四角より一寸位長いものを編みます。それを第三十圖の様に裏から口の所にあて四方をつりつけます。此時は内側が表編になる様にします。

(三)かぶせを付けるポケットです。これも編みながら付けます。ポケットの口にしたいと思ふ處まで編んで来たたら、ポケットの大きさの目だけ二十でも二十五

圖九十二第



圖十三第



圖一十三第



でもかぶせ止めにして止めます。そして次の段では前の段で止めた處まで来たら、止めただけ目数を作つて、其まゝあとは編みつけます。出来上つてから、ポケットに開けた穴の二分程上を、穴の大きさよりも両側で三つづゝ位多く目を、拾い平編にして一寸五分でも二寸でも編んで止めます。これがかぶせて、表はこれでよいのです。

裏は針にポケットの口よりも五つ位多いだけの目をかけ、表編にして、四角より一寸程長く編んで止めます。それを第三十一圖の様に裏にまつり付けます。表編を内側にします。第三十一圖参照。

かぶせはいろくくの形に編んで飾りにもします。或はボタン穴を開け、内の方にボタンを付けて止める様にもします。これは各自の考案にまかせませう。

十四 毛糸の繋ぎ方

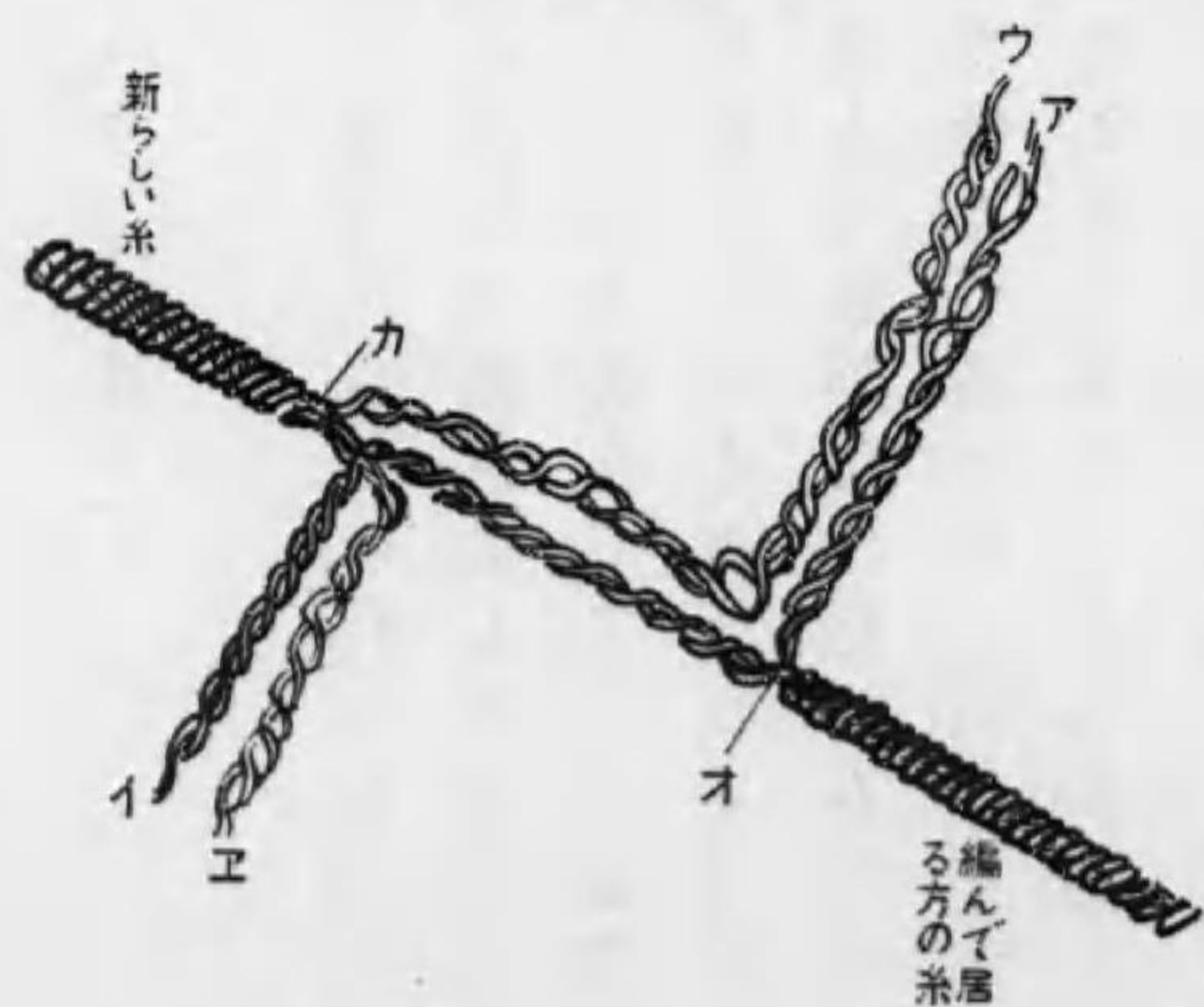
毛糸は普通の木綿糸の様に結んでつなぎますと、だんくゆるんでいつの間にか結び目がとけ、知らないうちに編んだものに大きな穴があきまして、まだどこも損じて居りませんのに、たゞ糸のつなぎ目がとけた爲めに、新らしいものにつぎをあてなければならぬ事になります。ですから糸のつなぎにも餘程注意を要します。一番よいと思ふ方法を申しませう。

今編みつけて来た物の中、糸が途中でなくなり相になつた時、糸の終りから五寸位前で針をとめ、第三十二圖の様に糸を二つに割ります。それから新らしい、

第三十二圖



第三十三圖



これからのつながうと思ふ糸も同じ様に二つに割ります。そして編かけにした糸と新らしい方の糸とを、第三十三圖の様に組み合わせ、オとカとの間をかるく縫りませう。そして編みます。

かけた糸が、第三十三圖のオの處まで来たしたら、ア、ウの糸を残してオカの間を編み、カの處まで編んで来たしたら、イ、エの糸をのこして、新らしい糸の方を編みます。最後に出来上つてからア、ウの糸も、イ、エの糸も止針で編んだ物の中へ、編み目通りに縫ひ込んでしまひます。かうしますと結び目のほどける心配もなく、結びこぶ

のゴロくする氣づかひもなく、又糸の太い所や細い處も出來なくてよいと思ひます。

十五 色糸の替へ方

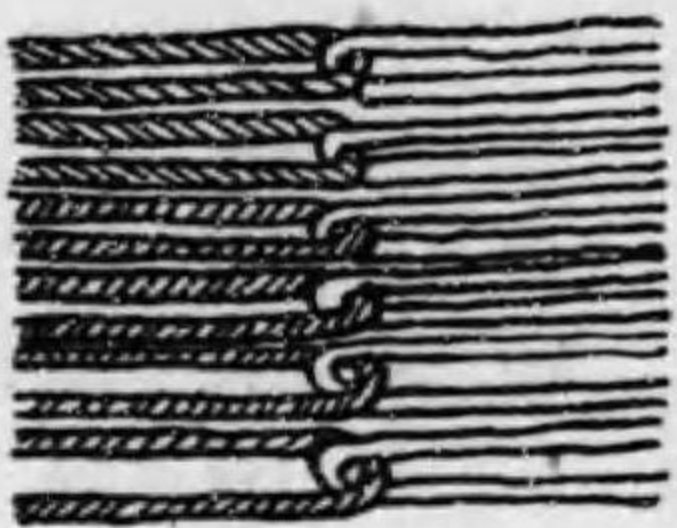
- 1、横の色糸の替へ方（寫真7、8）

初めに何色かて編みましたものを途中から糸の色を取りかへ度いと思ふ事があります。例へば縁を黒にして身の方を薔薇色にします時に、黒を一寸か又は二寸編んで、そこから薔薇色に取り替へる様な場合です。こんな場合に、編み方は表編でも裏編でも又花形に編んで居ります時でも、表から見ても糸を取替へます。そして第一段目にはどんな編方でも必ず表編だけを編み、それから二段目から思ひくゝの編み方にします。さうしませんで、糸を取りかへながらすぐ思つた縞なり模様なりに編みますと、寫真7の様に、裏が雑巾の針目の様に出て見悪いと思ひますが、一段だけ表編にしますと寫真8の様に綺麗になります。

- 2、縦の色糸の替へ方（寫真9、10）

スエーターやチョッキの衿に、身頃の糸と違つた色糸を用ひ度いと思ひます時に、編みながらつける方法です。身頃の方を編み續け、衿の處迄來ましたら、衿の色糸に取り替へます。其時たゞ衿の糸で編みますと、衿の方と身頃の方とが別れ別れになります。それで第三十四圖の様に、衿の糸と身頃の糸とを裏で組み違へてから衿の方を編みます。衿を編んで身頃に移ります時、この通りにします。寫真の表10裏9の様になります。

圖四十三第



十六 ボタン穴のあけ方

- 1、小さいボタン穴のあけ方

思ふものを編んで來まして穴を開け度い處へ來ましたら、糸を針の下から手前によこし、次の目を二つ一緒に表編致します。そして先は普通に編みます。それ

から返へりには、糸を手前にして二つ一緒に編んだ時に、針にかゝつた糸をも一つの目として普通に編みます。これで小さい穴が出来ました。これはシャツボタン位の大きさの穴です。

2、大きいボタン穴のあけ方

思ふものを編んで来て、穴を開け度いと思ふ處へ来ましたら、次の目を一つ編ま
ずに取り、其次の目を編んで前に取つた目をかぶせます。又次の目を編んで前の
目をかぶせ、又次の目を編んで前の目をかぶせます。これで目が三つへりまして
五分程の穴が開きました。さうして、先きを編み續けます。これが一段目です。
二段目には前に目をへらした處へ来たなら、編み終りのふやし方の様にして、糸をね
ぢつてかけ目を三つこしらへます。三つへらししました時には三つかけてふやし、
二つへらした時には二つかけて殖やします。つまりへらししました数だけふやす
のです。そして其先きは又編み續けます。三段目には二段目でかけた目を普通
の目と同じに編みます。これでボタン穴が出来ました。この三つへらした穴に

は大抵六七分のボタンを通すのです。それですからボタンの大きさによつて穴
の大きさをきめなくてはなりません。

3、ボタン穴をあける場所に付いて

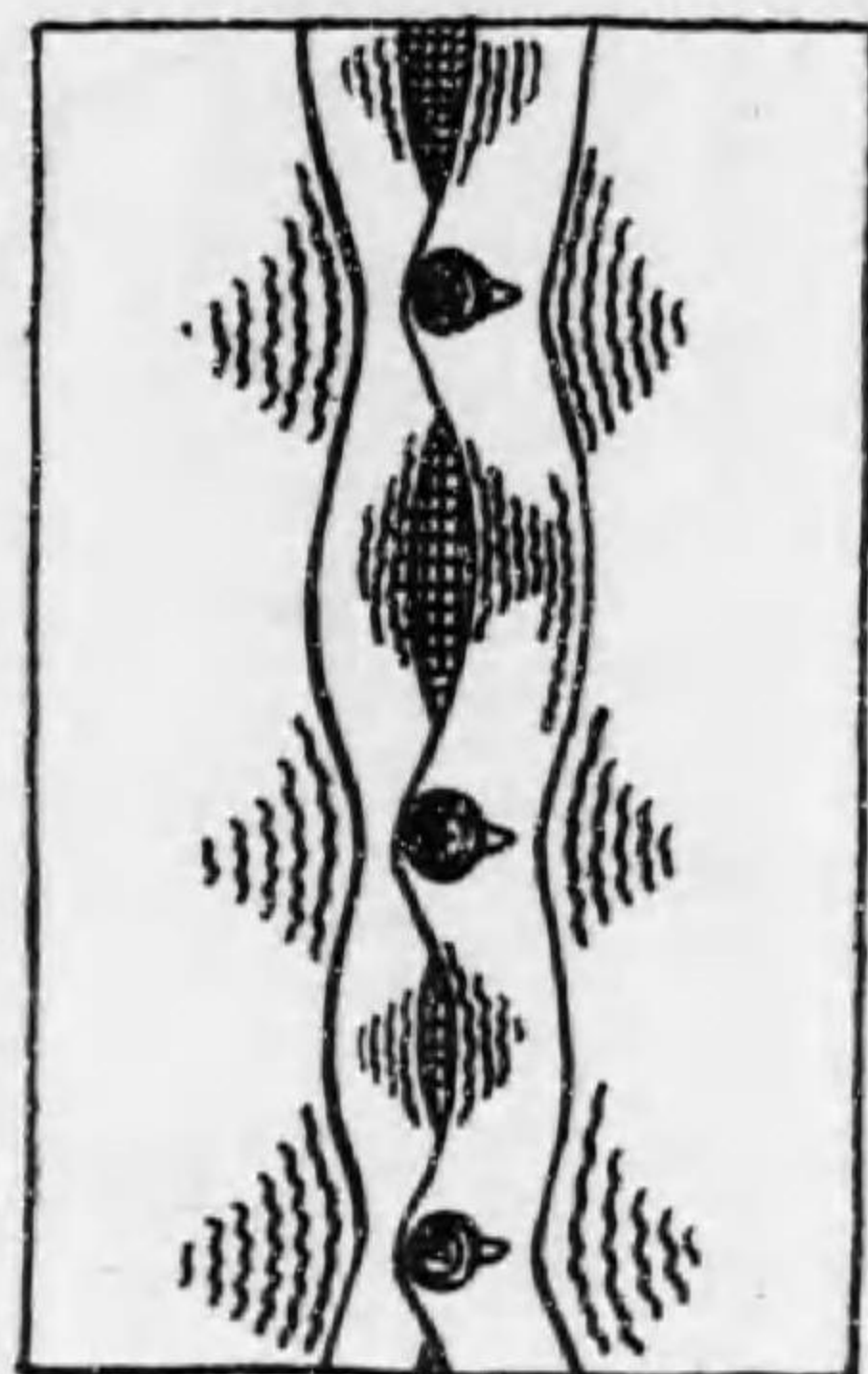
前に申しました通りで穴の開け方は、おわかりになりました。それで今
度は其位置に就いて御注意して、おき度いと思ひます。例へば第三十五圖の様な



開け方にします時、下から編んで第一のイのボ
タンの處で、前申しました通りにして穴を開け
ます。それから第四のアのボタンと第一のイ
のボタンとの間を考へて、其間を等分に分け、分
けられた寸法だけ編みましたら、第二、第三のボ

タンと順次に開けて行きます。ボタンとボタンとの間は二寸乃至二寸五分位が
よいと思ひます。餘り間が離れすぎますと、第三十六圖の様にボタンとボタンと
の間は目が五つ位離れました方

第三十六圖



がよいと思ひます。餘りはじへ開けるとふちが弱くて損じ安う御座います。

注意、ボタン穴は後で同じ色の木綿糸で緩く穴かゞりをしておく方が丈夫です。

十七 ボタンの付け方

編みましたものに普通洋服の様にボタンを付けますと、編んだ物の糸が段々弱りまして、糸が切れて穴があきます。かうなつて糸が切れますと、まだ外が損じないのに穴の所を修繕してつぎを當てなければなりません。それ故ボタンをつけます時に、裏の方へも、うすいボタンなり、又は布を三分角位に切りましたものを二三枚重ねてなりしてつけます。さうしますと、ボタンが引張られまして、裏ボタンのために毛糸は少しも引張られませんか、毛糸が切れる様な心配は決してありません。

十八 本書に用ひた編見本の説明

1、表編 (寫真11)

一段目 全部表編。

二段目 全部裏編にて戻る。以上をくりかへす。

2、裏編 (寫真12)

一段目 全部裏編。

二段目 全部表編にて戻る。以上をくりかへす。

3、平編 (寫真13)

一段目 全部表編。

第一編 十八、本書に用ひた編見本の説明

二段目 全部表編にて戻る。以上をくりかへす。

4、ゴム編

(イ) 一つ違ひのゴム編 (寫真14)

表編一つと裏編一つとを互違ひに繰り返へす(二で割り切れる数にする)。

(ロ) 二つ違ひのゴム編 (寫真15)

表編二つと裏編二つとを互違ひに繰り返へす(四で割り切れる数にする)。

(ハ) 三つ違ひのゴム編 (寫真16)

表編三つと裏編三つとを互違ひに繰り返へす(六で割り切れる数にする)。

5、一本縞編 (寫真17)(六で割り切れる数)

一段目 表編五つ、裏編一つを繰り返へす。

二段目 全部表編にて戻る。以後は此二段を繰り返へす。

6、二本縞編 (寫真18)(七で割り切れる数)

一段目 表編五つ、裏編二つを繰り返へす。

二段目 全部表編にて戻る。以後は此二段を繰り返へす。

7、變り縞編 (寫真19)(九で割り切れる数)

一段目 表編三つ、裏編六つを繰り返へす。

二段目 全部表編にて戻る。以後は此二段を繰り返へす。

8、變り縞編 (寫真20)(十四で割り切れる数)

一段目 表編九つ、裏編一つ、表編一つ、裏編一つ、表編一つ、裏編一つこれを繰り返へす。

二段目 全部表編にて戻る。以後は此二段を繰り返へす。

9、小市松（寫眞21×4で割り切れる數）

一段目 表編二つ、裏編二つを繰り返す。
 二段目 表編二つ、裏編二つを繰り返す。
 三段目 裏編二つ、表編二つを繰り返す。
 四段目 裏編二つ、表編二つを繰り返す。
 以後は此四段を繰り返す。

10、市松（寫眞22×5で割り切れる數）

一段目 表編五つ、裏編五つを繰り返す。
 二段目 一段目の時表編の處は裏編に、裏編の處は表編にして戻る。
 一段目と二段目とをくりかへして六段編む。
 七段目 裏編五つ、表編五つを繰り返す。

八段目 七段目の時表編の處を裏編に、裏編の處を表編にして戻る。

七段目と八段目とを繰り返して六段編む。初から數へて十二段になる。

以後は一段目より十二段目までを繰り返す。

11、鎧編（寫眞23×2で割り切れる數）

一段目 全部表編。
 二段目 全部表編。
 三段目 表編一つ、裏編一つを繰り返す。
 四段目 表編一つ、裏編一つを繰り返す。
 以後は一段目から四段目までを繰り返す。

12、格子編（寫眞34×10で割り切れる數）

一段目 表編二つ、裏編八つを繰り返す。

二段目 全部表編にて戻る。
一段目、二段目をくりかへして八段編む。

九段目 全部表編。

十段目 全部表編。

十一段目 全部表編。

十二段目 全部表編。

以後は一段目より十二段目までをくりかへす。

13、かすり編 (写真25) 十二にて割り切れる数

一段目 表編三つ、裏編九つを繰り返す。

二段目 全部表編にて戻る。

一段目と二段目とを繰り返して八段編む。

九段目 裏編六つ。(表編三つ、裏編九つ)の内だけを繰り返す。

十段目 全部表編にて戻る。九段目と十段目をくりかへして八段編む。初から

数へて十八段になる。

以後は一段目より十八段目までを繰り返す。

14、シャツ編 (写真26) 三にて割り切れる数

糸を手前にして編まずに一つ取り、次を二つ一緒に表編する。以後は毎段これをくりかへす。

15、縄編 (写真27) 九にて割り切れる数

一段目 表編五つ、裏編四つをくりかへす。

二段目 全部表編にて戻る。一段目と二段目とを繰り返して六段編む。

七段目 表編五つ、次の目二つを別の針に取りおき、其次の目を表編二つ編み、前に別の針に取つておいた二つの目を一つづつ表編する。以上をくりか

へす。

以後は一段目より七段目までをくりかへす。

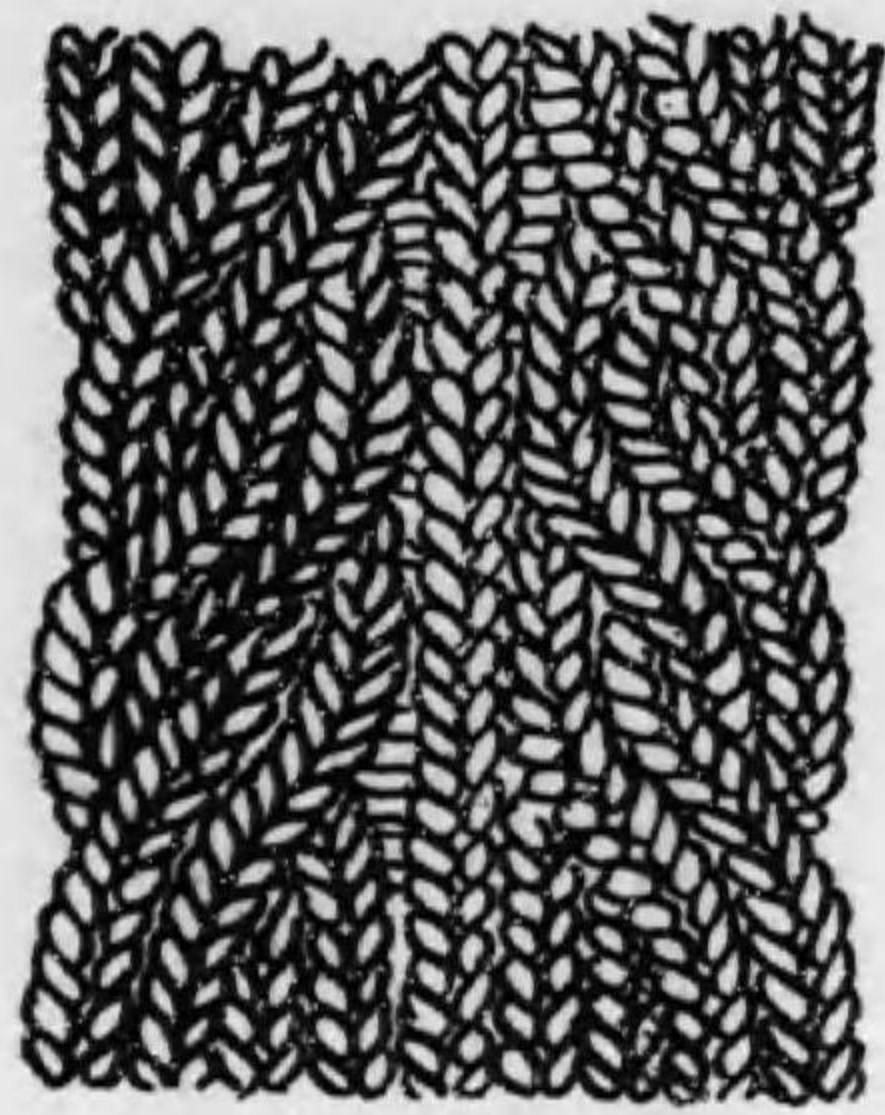
16、二重縄編 (寫真28×十八で割り切れる數)

一段目 表編九つ、裏編九つをくりかへす。

二段目 全部表編にて戻る。一段目と二段目とをくりかへして六段編む。

七段目 表編九つ、次の目二つを別の針に取り置き、其次の目を表編二つ編み、別の針に取つておいた目を一つづゝ表編する。次に表編一つ編み、其次の目を又二つ別の針に取り、其次の目を表編二つ編み、前に別の針に取つておいた二つの目を一つづゝ表編する。以後は一段目より七段目までを繰り返へす。

第三十七圖



17、縞編 (寫真29×十六で割り切れる數)

一段目 表編十一、裏編五つをくりかへす。

二段目 表編にて戻る。

三段目 表編五つ。裏編五つ、表編十一(裏編五つ表編十一をくりかへす)

四段目 表編にて戻る。

一段目より四段目までを繰り返へす。

18、縞市松 (寫真30×十で割り切れる數)

第一編 十八、本書に用ひた編見本の説明

注意 目を二つ互ひ違ひにねぢります時、真中表編の右と左とのねぢり方が同じ方向に向かぬ様にしなければなりません。右の方のねぢり方は右から左へ、左のねぢり方は左から右へねじれるのです。第三十七圖の通りです。

一段目 裏編十、表編二つ、裏編二つ、表編二つ、裏編二つ、表編二つをくりかへす。

二段目 一段目の時、裏編の處を表編に、表編の處を裏編にして戻る。

三段目 表編十二、裏編二つ、表編二つ、裏編二つを繰り返す。

四段目 三段目の時、表編の處は裏編に、裏編の處は表編にして戻る。

一段目より四段目までをくりかへして十段編む。

十一段目 表編二つ、裏編二つ、表編二つ、裏編二つ、表編二つ、裏編十を繰り返す。

十二段目 十一段目の時、表編の處を裏編に、裏編の處は表編にして戻る。

十三段目 表編二つ。(裏編二つ、表編二つ、裏編二つ、表編十二)内を繰り返す。

十四段目 十三段目の時、表編を裏編に、裏編の處を表編にして戻る。

十一段目から十四段目までを繰り返して十段編む。初から数へて十二段になる。

以後は一段目から二十段目まで繰り返す。

19、矢羽根編 (寫真31)十一で割り切れる數に全體の上で二つ加へる)

體の上で二つ加へる)

一段目 (一)一つ編まずに取る。(二)表編一つ編んで、前の取つたのをかぶせる。(三)

表編四つ。(四)糸を手前にして表編一つ、又糸を手前にして表編一つ。表

編四つ。以上をくりかへす。

二段目 全部裏編にて戻る。

三段目 (一)一つ編まずに取る。(二)表編一つ編んで前に取つたのをかぶせる。(三)

表編四つ。(四)糸を手前にして表編一つ、又糸を手前にして表編四つ。(五)

一つ取る。(六)二つ一緒に表編に編んで前の取つた目をかぶせる。以後

は(三)より(六)までをくりかへし、終りだけは一つ取つて表編一つ編んで前

のをかぶせる。

四段目 全部裏編にて戻る。以後は三段目と四段目だけを繰り返す。

20、長平編 (寫真32)

一段目 表編を一つ編み、針に二度糸を巻き、次の目を表編する。これを繰り返す。

二段目 一段目の時表編をした目だけを表編する。巻いた糸は針からはづす。以上の二段を繰り返す。

21、略ナノン (写真33(二)で割り切れる数)

糸を手前にして二つ一緒に表編する。毎段これを繰り返す。

22、レース編 (写真34(目)は九つ)

- 一段目 表編三つ。糸を手前にして二つ一緒に表編、又糸を手前にして二つ一緒に表編、又糸を手前にして二つ一緒に表編。
- 二段目 初めに目を一つ殖やして全部表編で戻る。
- 三段目 表編四つ。糸を手前にして二つ一緒に表編、又糸を手前にして二つ一緒に表編、又糸を手前にして二つ一緒に表編。
- 四段目 初めに目を一つ殖やして全部表編で戻る。

- 五段目 表編五つ。糸を手前にして二つ一緒に表編、又糸を手前にして二つ一緒に表編、又糸を手前にして二つ一緒に表編。
- 六段目 初めに目を一つ殖やして全部表編で戻る。
- 七段目 表編六つ。糸を手前にして二つ一緒に表編、又糸を手前にして二つ一緒に表編、又糸を手前にして二つ一緒に表編。
- 八段目 初めに目を一つ殖やして全部表編で戻る。
- 九段目 表編七つ。糸を手前にして二つ一緒に表編、又糸を手前にして二つ一緒に表編、又糸を手前にして二つ一緒に表編。
- 十段目 初めに目を一つ殖やして全部表編で戻る。
- 十一段目 表編八つ。糸を手前にして二つ一緒に表編、又糸を手前にして二つ一緒に表編、又糸を手前にして二つ一緒に表編。
- 十二段目 初めに目を一つ殖やして全部表編で戻る。
- 十三段目 表編九つ。糸を手前にして二つ一緒に表編、又糸を手前にして二つ一緒に表編、又糸を手前にして二つ一緒に表編。
- 十四段目 目数六つをかぶせ止めをして残り九つを表編す。以上十四段を繰り返す。

23、鎖編 (寫真35)

圖八十三第



します。これをくりかへします。

第三十八圖の様に絲を結び、アの輪の内にかぎ針を通しイの絲を引きます。それからもう片方の絲を針で引かけて引ぬきます。又同じ絲を引かけて引出

24、帽子編 (寫真36)

鎖編を編んで寫真36の様に、鎖の一つの目の中にかぎ針を入れ、巻いてある糸を引かけて引出します。さうしますと、針に目が二つになります。又針で巻いてある糸を引かけ、針にある二つの目から引出します。これを次へ次へとくりかへします。

第二編

一 帽子の型の取方及目數の割出し方

帽子の型を取るのには、第一に頭の周圍の寸法を計り、それから目數を割り出します。例へば頭の周圍が假りに一尺三寸あるとします。その一尺三寸は幾つの

圖九十三第



目にしたらよいかを考へて、一尺三寸になるだけの目を作ります。編む人々の手によりまして、又絲や針の太細によりまして、目數は一定しませんから、常に自分の手加減を知つておく必要があります。普通の人が普通の毛絲を用ひますと、一尺三寸なら大抵百二十か百三十の目數になります。それだけの目を針にかけます。次に頭の高さを

計ります。例へば其の高さが四寸とします。それから針にかけた目を輪にして、三寸まで真直に編んでから、次第々に目を減らして、四寸五分で止めます。若し

第二編 一、帽子の型の取方及目數の割出し方

折り返へしのある時は其の折り返へしの寸法だけ長く編みます。是れは大體の見當をお話したので、實際は其形と好みにより割合はこれとは多少の違はあります。第三十九圖参照。

1、赤ん坊帽子(一二三歳用)(寫真37)

針に五十の目をかけ平編四段して絲を手前にして二つ一緒に編む。これをくりかへして終りまで編み、表編で戻る。平編四段編み、次の段は端から三つ編み、糸を手前にして一詰めして、あとは平編をつゞけ、五段目毎に同じ處で穴を開ける。初めの穴から七段目の處に、第四十圖の様に、黒の處だけ色絲に替へ、表編ばかりであひるを編み、更に平編六寸編みつゞける。今度はあひるを頭の方から表編で編み出し、あひるの下へ七段目の處に穴を開け、更に四段編んでかぶせ止めをする。今までの裏を表にし、穴の開いてゐない方の端から目を拾ひ、輪にして平編四段編む間て五で割り切れる數にする。之を五分し、分けた初めの目一つづゝは裏編にし、残りは表編にして一段編む。二段目は分けた初めの裏編を表編にし、次の目を

圖 十 四 第

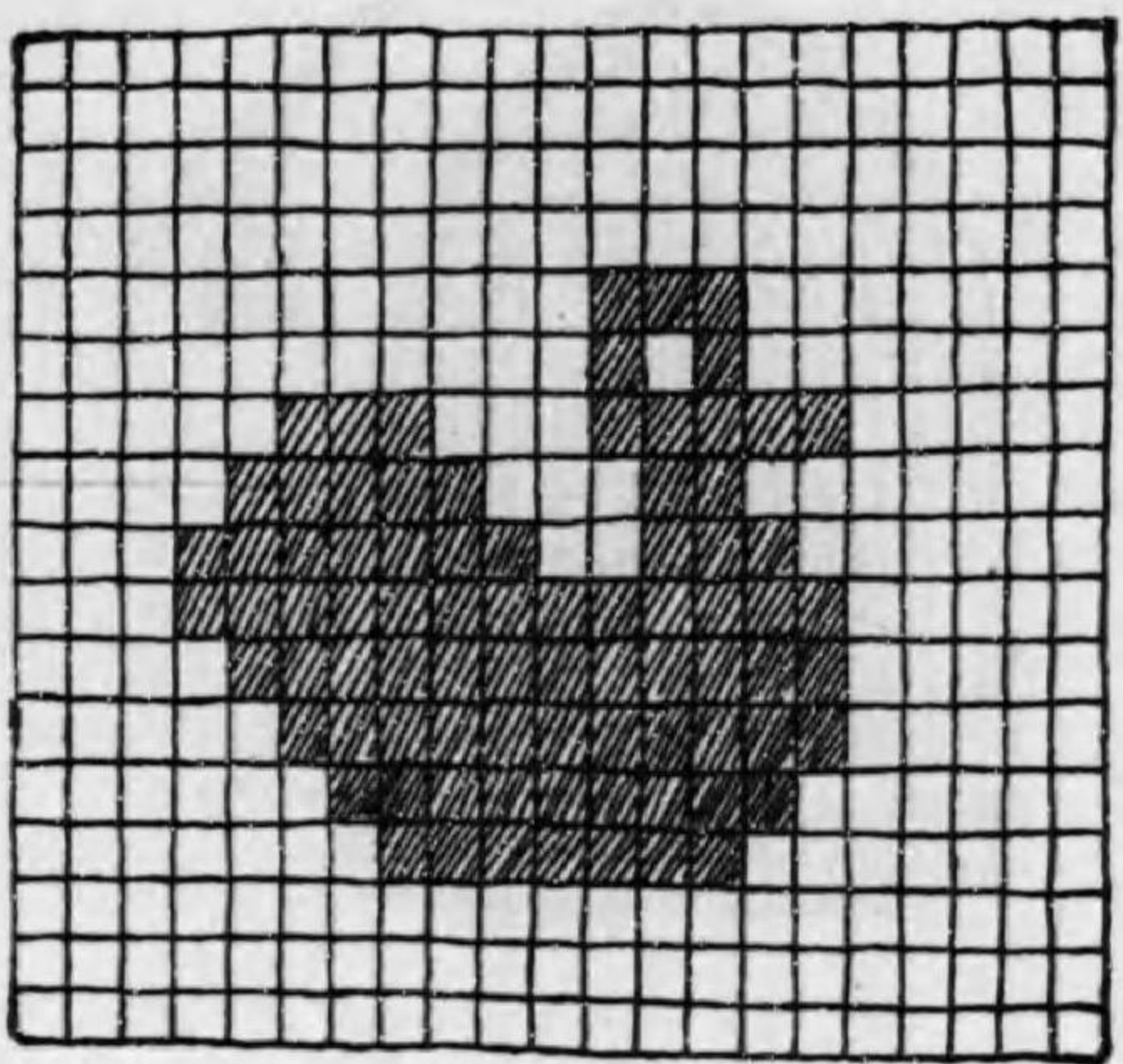
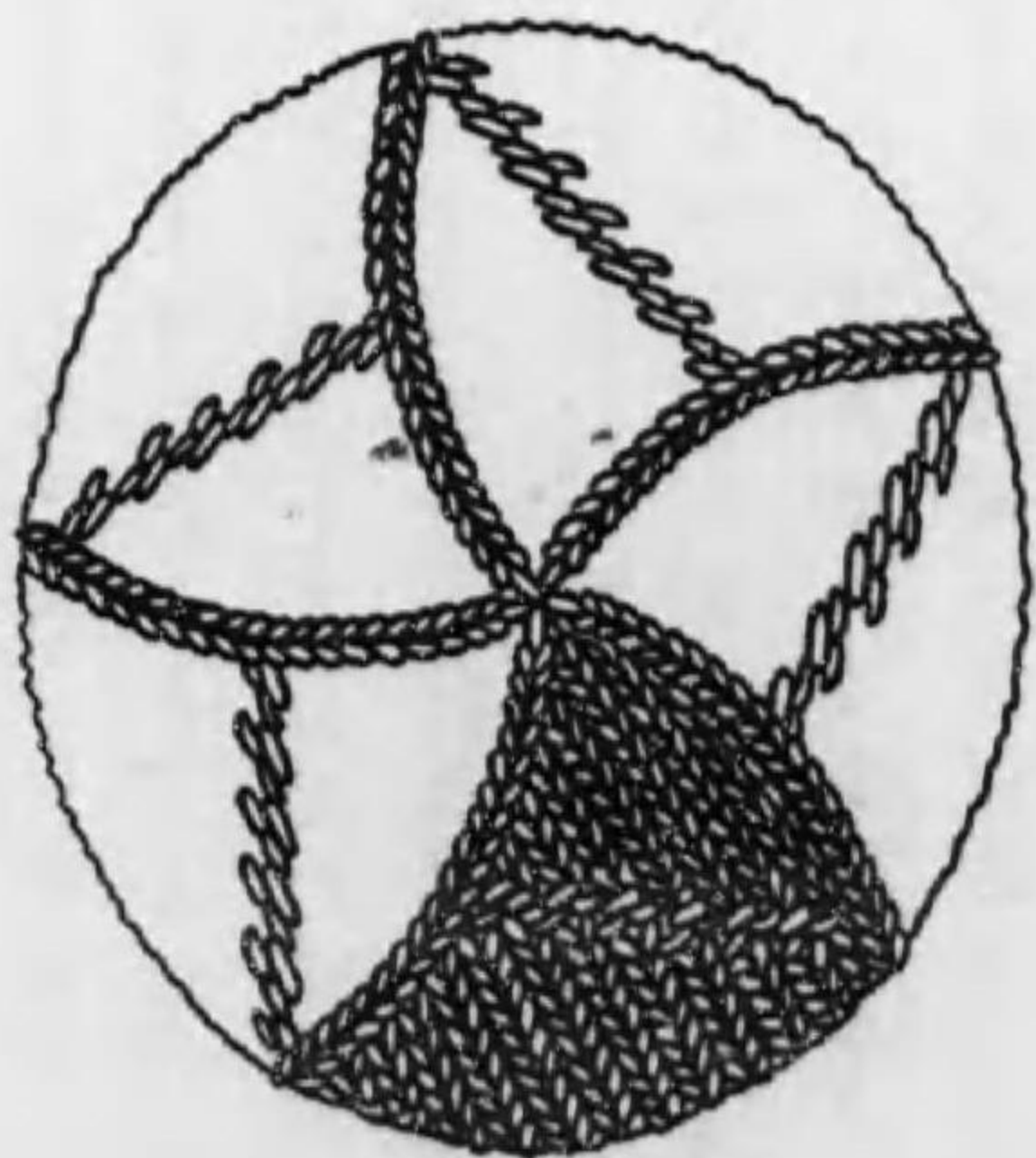


圖 一 十 四 第



裏編にし、残りは表編をして分け終りは一束づめをする。三段目は初め二つを表編にして、三つ目だけ一つを裏編にして、残りは表編をして分け終りは一束づめをする。と云ふ様にして分け、初めの表編を一つづゝふやし、其表編の次を裏編にして終りはいつも一束づめをする。裏編の處と一束づめの處と一緒になつたら、裏編はやめ、一束づめだけを續ける。目數十になつたら目に木綿絲を通し、裏へかへし

第二編 一、帽子の型の取方及目數の割出し方

一束止をする。第四十一圖の様に風車形になる。あひるの處を表に折かへし、穴にリボンを通し、あひるの横下で飾りに結ぶ。下の方の穴へもリボンを通しかぶつた時前で結ぶ。これは糸毛一本で編みました。

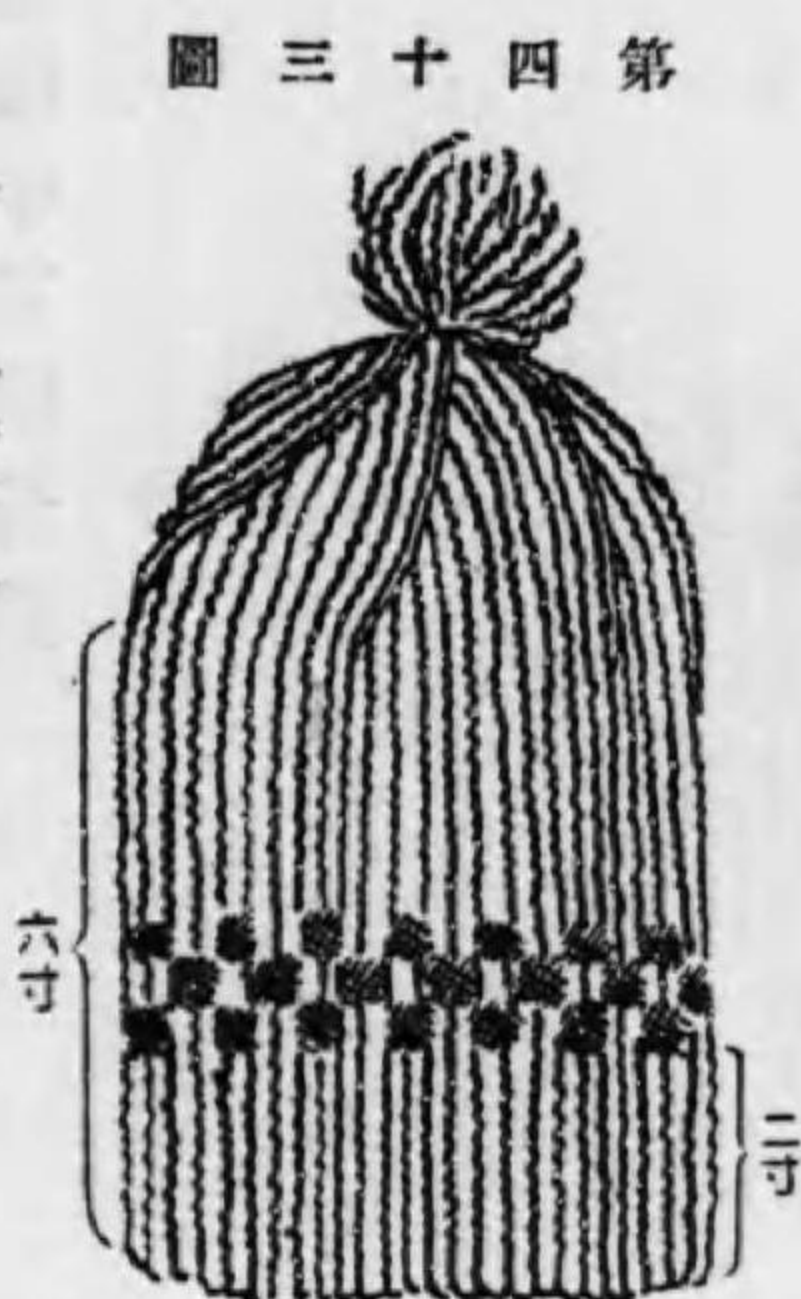
2、房下り帽子(男女兒用) (寫真38)



これは中細の絲を用ひました。針に百二十の目をかけ輪にする。表編一つ、裏編一つ、互ひ違ひのゴム編みを八分編む。絲の色を替へて三段編む。元の地色の絲に替へ五段編む。絲の色を替へ三段編む。元の地色絲に替へ、初から計つて四寸五分になるまで編む。全體の目数を六等分して(終りは表編になる様に分ける)一段目には分けた終りて表編一束づめする(つまり六ヶ所ずつめる)。二段目には前につめた處に

表編二つ列んで居るのをまた表編で一束づめをする。これをくりかへし一段に六つづつ一束づめして終りに十二になるまでつめる。目に木綿絲を通し一束止めをする。止めた毛絲で鎖編を三寸編み、其の先きに房をつける。第四十二圖參照。

3、巾着帽子(男兒用) (寫真38)



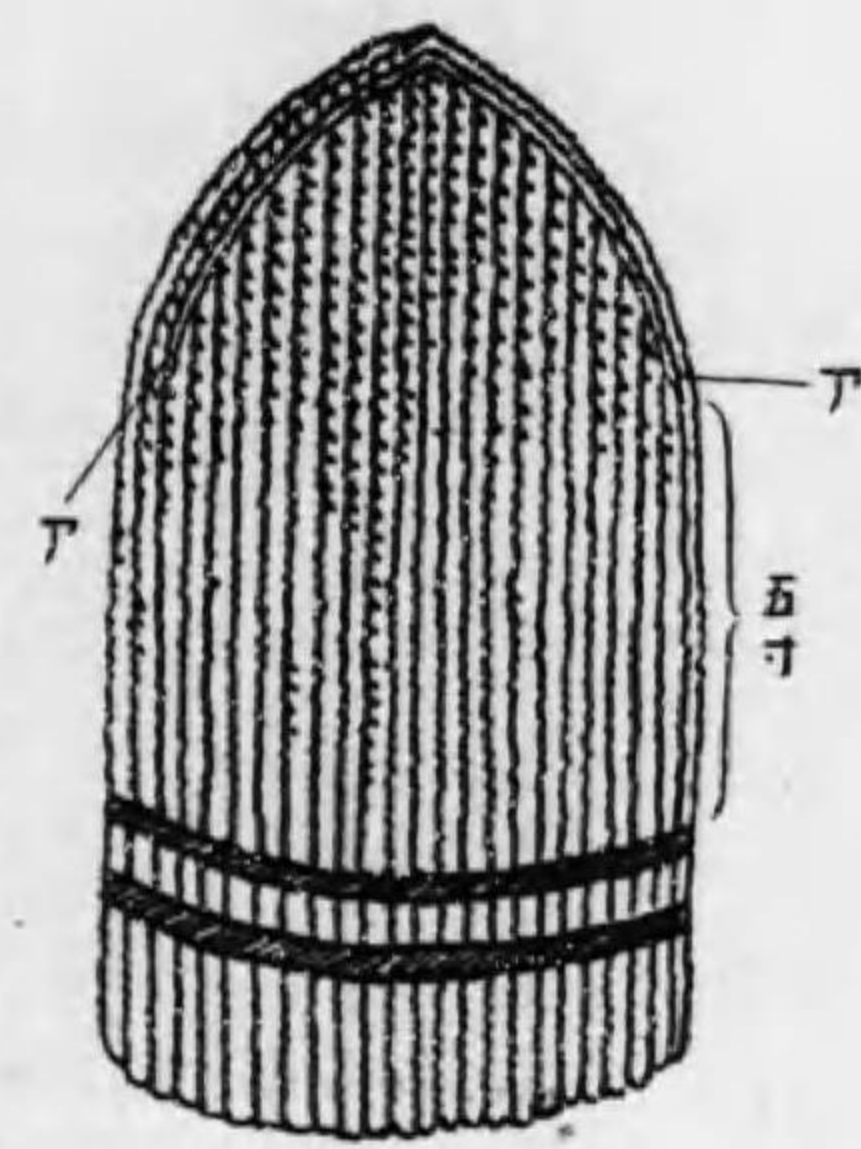
針に百二十の目をかけ輪にする。表編一つ、裏編一つ、互ひ違ひのゴム編を二寸編み、色絲を交ぜて、目數二つづゝの市松を三段作る。地色絲に替へ、ゴム編を初から計つて六寸の處まで編む。全體を五つに分け(終りは表編になる様に分ける)一段目には分けた終りて一束づめをする(五箇所一つづゝつまる)。二段目には一段目にへらした處が表編二つ列んで居るのを一束づめする。これをくりかへし一

第二編 一、帽子の型の取方及目數の割出し方

段に五つづゝ減らし、終りが十になるまでへらす。目に木綿糸を通し一束止する。上に玉又はつゝみボタンをつける。市松が真中になる様に、下を三つ折にする。第四十三圖参照。

4、片折帽子(男兒用) (寫真39)

スコッチ一本で編みました。



第四十四圖

針に九十の目をかけ輪にする。表編一つ、裏編一つ、互ひ違ひのゴム編を一寸五分編み、五分づゝの二本の縞を入れ更に五寸編む。全體を半分に分ける。分けた山より兩内側六つの處、即ち第十四圖アの處で一段おきに一束づめをして内側の目がなくなるまで編む。目に木綿糸を通うし一束止をする。下から二寸の處から上に折り上げ、アの處から下に折り下げて止める。こゝに房又は飾りボタンをつける。第四十四圖参照。

5、大黒帽子(女兒用) (寫真39)

二本の毛糸で編みました。

針に六十の目をかけ輪にする。表編一つ、裏編一つ、互ひ違ひのゴム編を三寸編む。裏編を一段編む。全體を五つに分ける。二段目は表編にして五つに分けた終りて一つづゝふやす(一段に五つふえる)。これをくりかへし、一段に一つづゝ五ヶ所てふやしなから二寸平編を編む。其のまゝ三分編み、前にふやした處で一段おきに一つづゝへらす。目數十五になつたら、目に木綿糸を通うし一束止をする。上に玉か房をつける。

6、片折帽子(女兒用) (寫真40)

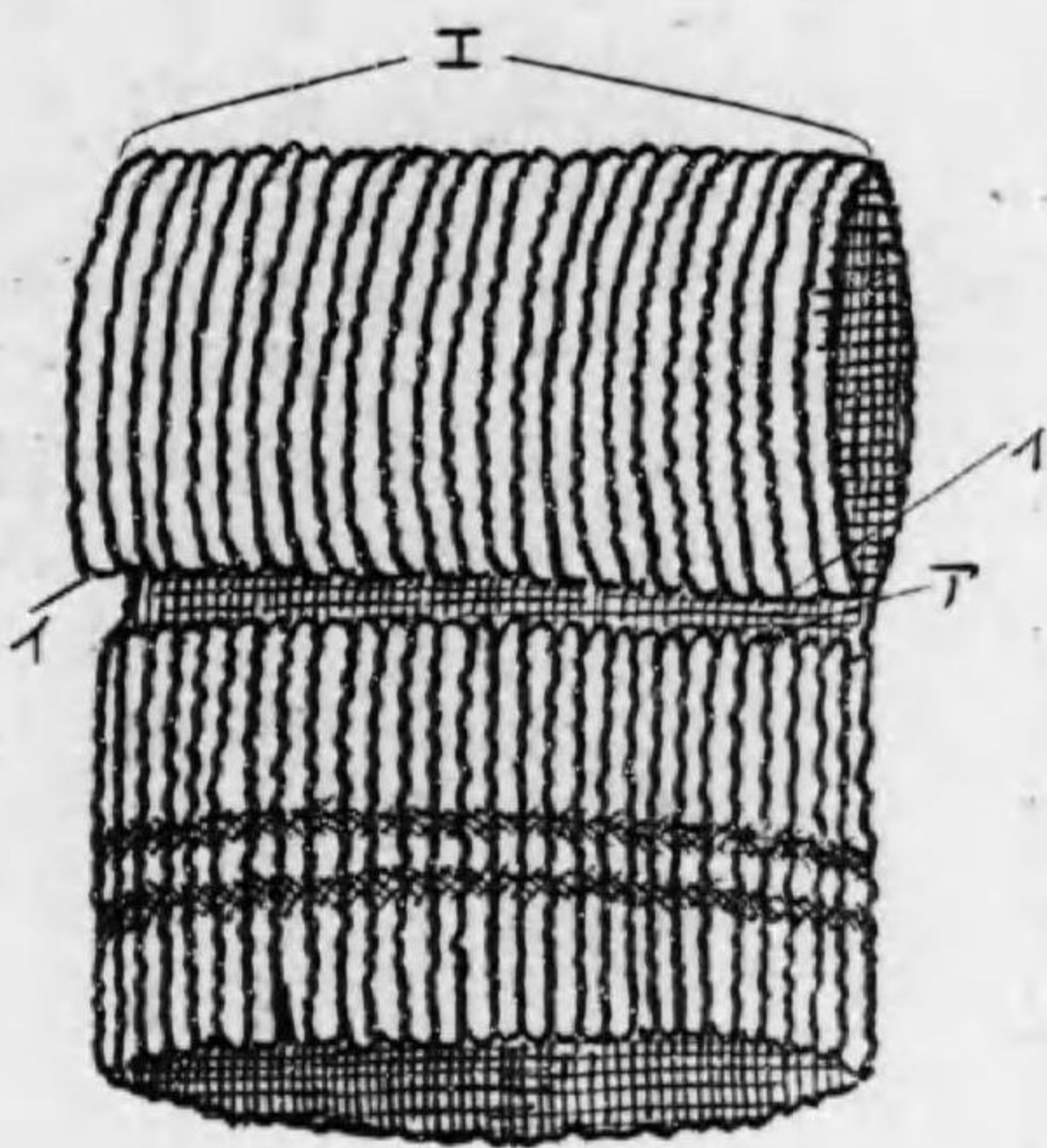
一本の毛糸で編みました。

針に百二十の目をかけ輪にする。表編一つ、裏編一つ、互ひ違ひのゴム編を一寸編む、色糸を交ぜ目數三つづゝ互ひ違ひの市松を二列編む。地色糸に替へ、ゴム編七寸五分編み、裏編と表編とを一束づめ、次に二つを其まゝ編む。これをくりか

第二編 一、帽子の型の取方及目數の割出し方

へし二段目には二つ列んだ表編を一束づめをして、三段目には目に木綿糸を通うし裏で一束止をして、表にかへし房をつける。

7、兩折帽子(男女兒用) (寫真40)



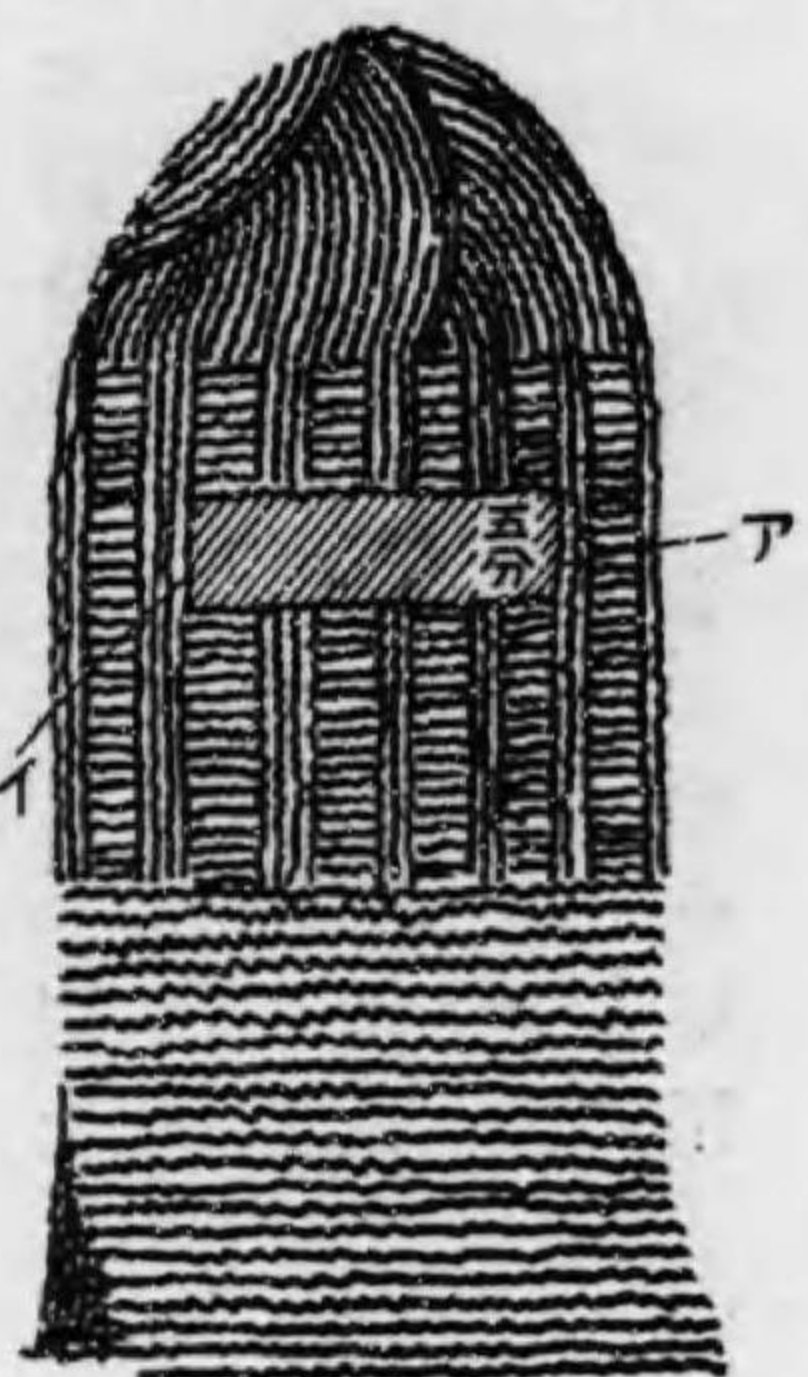
毛絲二本で編みました。針に六十の目をかけ輪にする。表編一つ、裏編一つ、互ひ違ひのゴム編を二寸編む。色糸に替へ七分編む。地色系に替へて七分編み、色糸に替へて七分編み、地色糸に替へて下から計つて五寸の處までゴム編にする。真二つに分け、半分はかぶせ止にして、他の半分に更に一尺ゴム編をしてかぶせ止をする。前にかぶせ止をして置いた第四十五圖のあと今止めたイとを裏から縫合はせる。又兩横の開いて居るウの後と前も縫合は

圖五十四第

せる。編が真中に出る様に下を三つ折にし、その上部へエを折り下げて止める。止めた處に房又は飾りボタンをつける。

8、目出帽子(防寒用) (寫真41)

これは冬山に行く時等に用ひられます。かぶりますと、後と前とに下つた處がありますから、後の方は衿に入れ前は胸當になります。



圖六十四第

針に六十六の目をかけ、平編を四寸編みそのまゝにしておく。別の針に又六十六の目をかけ平編を三寸編む。四寸の方と三寸の方とを合はせて輪にし、表編二つ裏編二つ互ひ違ひのゴム編を三寸編む。(長い方が前です。) 前の中央の目數四十だけかぶせ止めます。前の中央の目數四十だけかぶせ止めます。其まゝゴム編後側イよりアまでを五分編む。四十の目を減らした處へ四十目を作り輪にする。こゝから上二寸ゴム編をする。表編を三段編み、五つに分け

第二編 一、帽子の型の取方及目數の割出し方

る。五つに分けた終りて、一束づめをする。一段に五つづゝへらし其次の段は其まゝ編む。これをくりかへして、一段おきに五つづゝへらし目數五つになつたら、目に木綿糸を通うして一束止をする。第四十六圖参照。

二 片掛及首卷

1、普通肩掛 (寫真42)

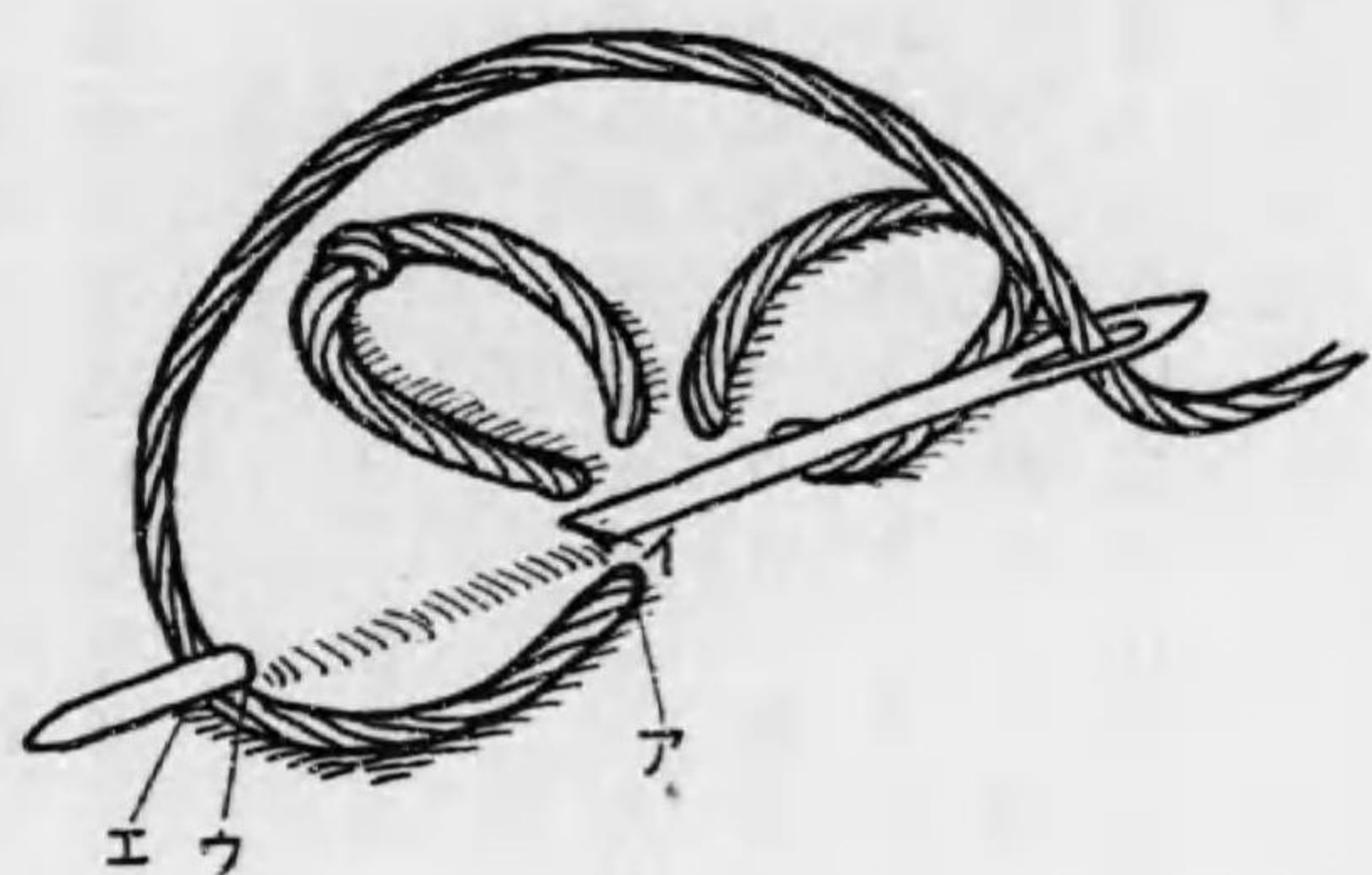
針に七十の目をかけ、略ナノン編を三寸、平編を一寸、長平編を一寸、長平編を一寸、平編を一寸、略ナノン編を三尺、平編を一寸、長平編を一寸、平編を一寸、長平編を一寸、略ナノン編を三寸編み、かぶせ止めをする。

兩方へ五分おきに房をつけ、長平編の所にリボンを通うし、兩端に結んで飾りにする。

2、ポケット付肩掛 (寫真43)

餘り厚くてぼて付かない様に中細毛糸を用ひました。針に百八十の目をかけ、シャツ編を五尺編んで止める。長さ三寸位の房を五分おきに付ける。

圖七十四第



圖八十四第



ポケットは針に四十五の目をかけ、シャツ編を四寸編んで止める。これに三つの花を刺繡し、鎖編で上前と下前とに編みつける。兩前の下から三寸の處に七つづゝ刺繡する。下から四寸と二寸との處に鎖編の線の飾をつける。

刺繡は刺繡しやうと思ふ糸を止針に通し、刺繡しやうと思ふ處の裏で固く止め、第四十七圖の様にアの處へ下から引き

出す。隣のイへ針を入れ花辨の先のウから引出す。エより針を通うし、第四十八圖の様にオに出して引出す。これをくりかへす。

3、首巻(男子用)

男子の首巻は女子のところがひ、餘り飾を用ひません。大きさも女子のものほど大きくはありません。編方も餘り變つたものを用ひますと野卑に見えます。

それで首巻はシャツ編か平編に致しまして、幅八寸位(目數八十前後)長さ四尺位の真直のものを編み、二寸位の長さの房を飾りにつけばそれによいと思ひます。是非飾りをつけ度いのでしたら、兩端に餘り派手でない毛絲で横縞を入れる位でよろしいでせう。

4、子供用肩掛

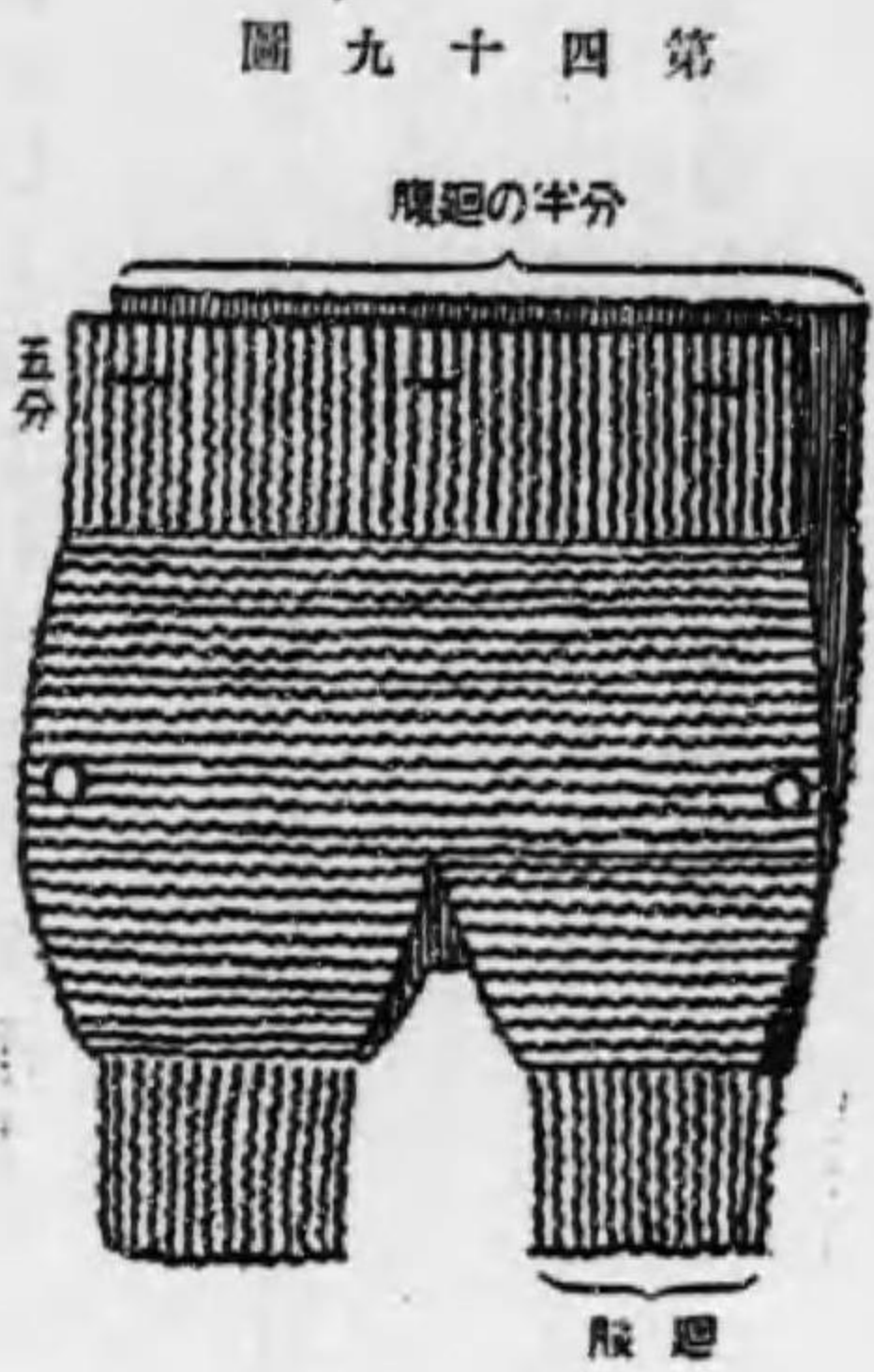
子供用の肩掛も、大人用のと編み方や飾りには變りはありません。たゞ適宜の

大きさにすればよいのです。それと色の配合を派手にします。刺繡で飾りをつけます時には、子供の喜びさうな模様を考へて縫つたらよいのです。

三 下ばき

1、目數の割出し方

着る人の大きさによつて目數は大變違ひます。それで先づ着る人の腹廻りの寸法を計ります。其腹廻りの半分の寸法に足りませすだけの目數を針にかけます。前も後も同じ目數でよろしい。そして腹廻りの所はよく體に合ふ様に真直ぐゴム編にします。腰廻りはゆつたりして、立ち居に樂な様に平編を用ひ、股廻りは腰廻りの半分ですとゆるいし、又風の入らない様にする爲め、ゴム



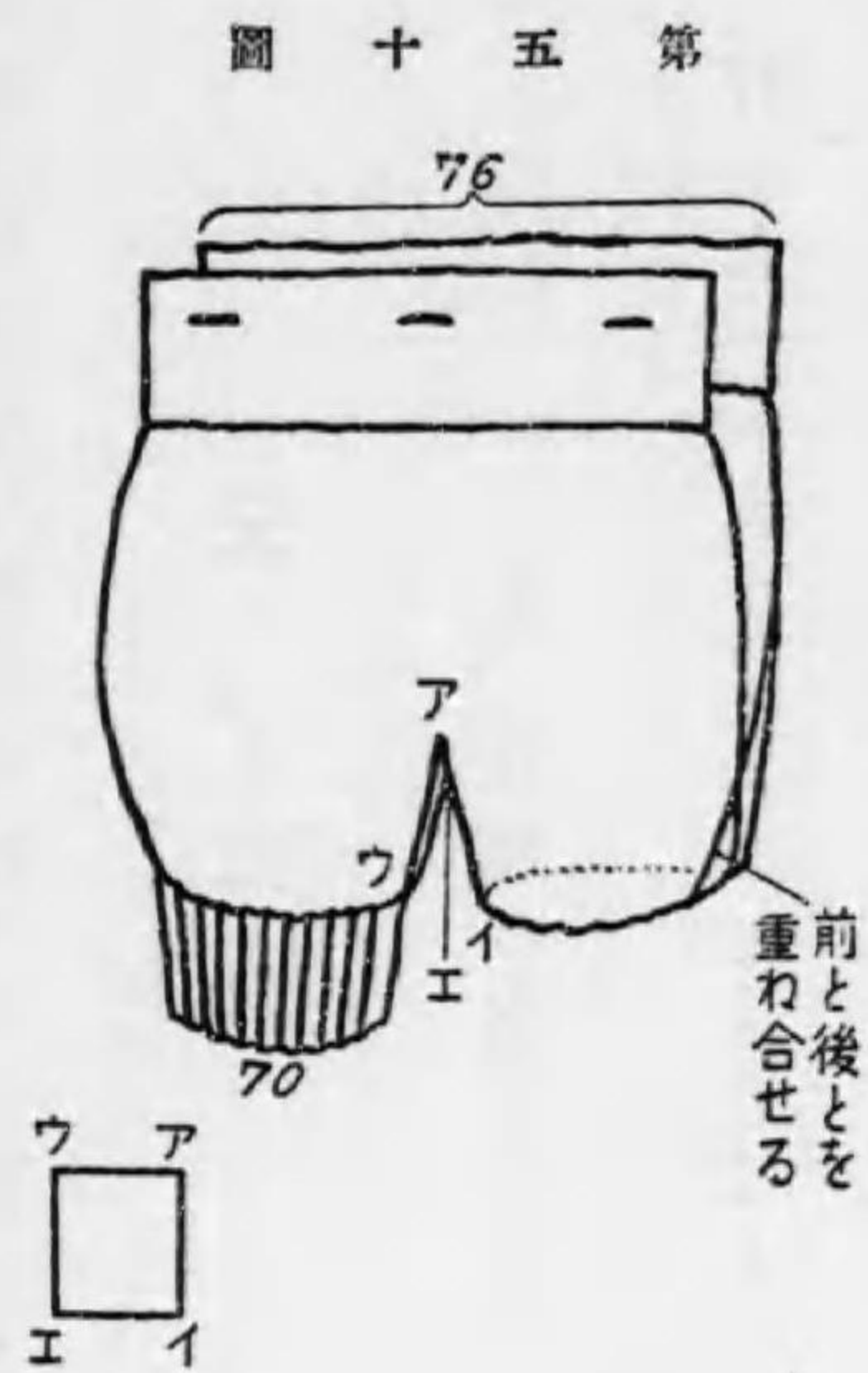
第四十九圖

第二編 三、下ばき

編にして細くします。第四十九圖参照。

2、女兒下ばき(六、七歳)

針に七十六の目をかけ、表編二つ、裏編二つ、互ひ違ひのゴム編を五分編む。真中と両端とにボタン穴をあけ、更に二寸ゴム編にする。平編を三寸編む。全體を二つに分け、三十八づゝにして、片方二寸づゝ平編にする。是れと同じ物を二枚編む。此二枚を合はせて輪にする。其時第五十圖の様に前と後とを外側で目數六つを重ねて、表編一つ、裏編一つのゴム編を三寸五分編んでかぶせ止をする。もう片足も同じに編む。長いのがよければ下の方を細くつめて、好みの長さ迄編む。別に平編で二寸四角のものを編む。これを股の所へ第五十圖のAとA、IとI



第五十圖

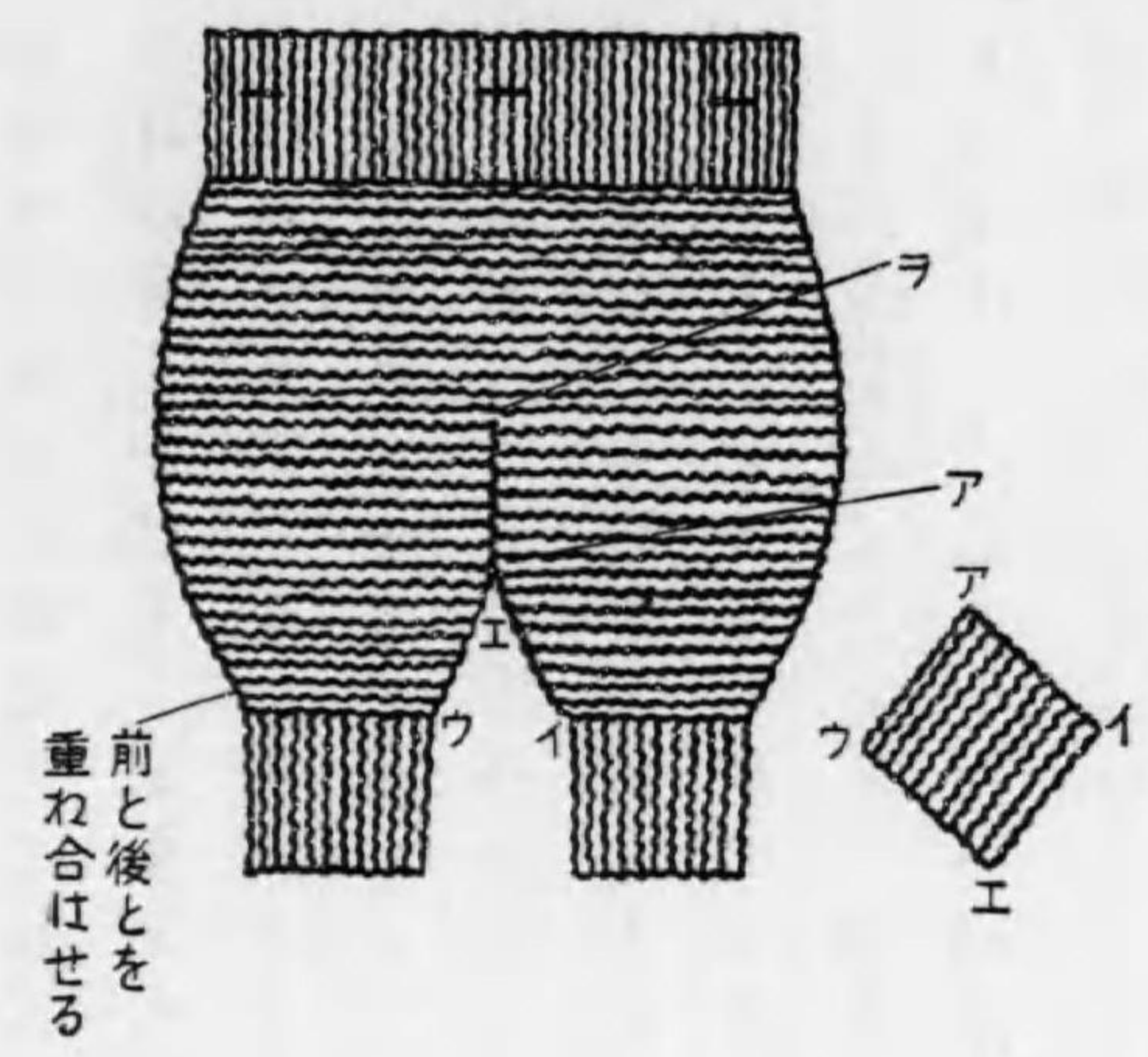
とI、ウとウ、エとエを合はせて縫ひ付ける。両側の前と後とに押ホックを付けて開かないやうにすると猶ほ暖かです。外側の重ね合はせは後が上になります。

3、男兒下ばき(十一、二歳)

スコッチ一本を三番の針で編みました。

針に百の目をかける。表編二つ、裏編二つ、互ひ違ひのゴム編を五分編み、真中と両端とにボタン穴を開け、更らに二寸編む。それから平編にして五寸編む。全體を二つに分けて、五十づゝにして二寸づゝ平編をする。是れは後です。前は百の目をかけ、表編二つ、裏編二つのゴム編を五分編む。真中と両端にボタン穴を開け、更に二寸編む。それから平編を編み二分して四寸づゝ平編をする。それから前を下に、後を上にし、外側の所で目數五つを重ねて輪にし、表編一つ、裏編一つのゴム編を三寸五分編んで止める。別に平編で二寸四角のものを編み、これを前項の様に股下につける。第五十一圖参照。男兒用は前のAとIとの間が開いて居りま

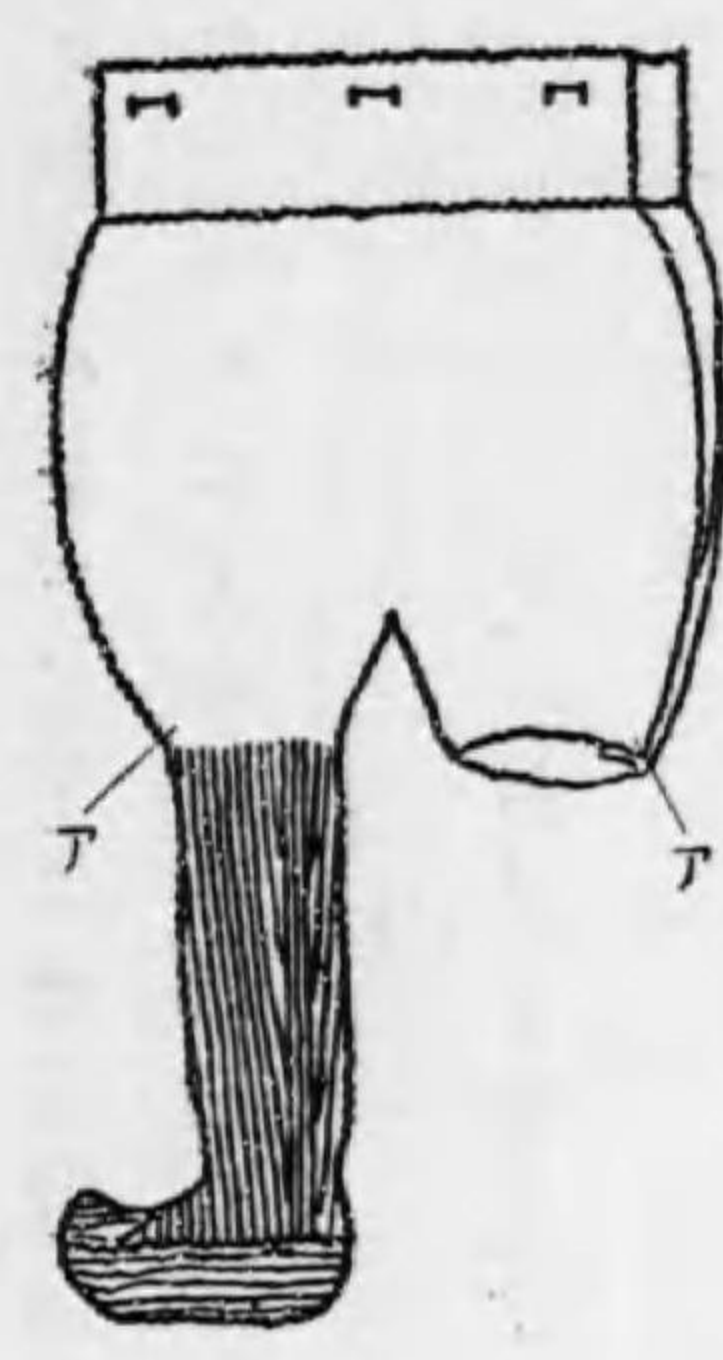
圖一十五第



4、赤ん坊下ばき (寫真44)

目数は實際これを用ひる子供の大きさにより、又まだ襠襟のとれない子供と、とれた子供とでも大變違ひますが、大體から申しますと、襠襟のある子供のは腰部の割合に足の方を短かくし、襠襟のない子供のは腰部を短かく、足の方を長めに作ります。襠襟をかけてる子供物としますと針に六十の目をかけ、表編二つ、裏編二つづゝ互ひ違ひのゴム編を五分編み、真中と兩端とに一つづゝボタン穴をあけ、更らに一寸五分編む。平編を二寸五分編み、これを二つに分けて、別々に一寸五分づゝ平編に編む。これと同じものをもう一枚編む。

圖二十五第



む。此の二枚を第五十二圖のアの處で後を上にし、脇で四つだけの目数を重ね合はせて輪にし、表編一つ、裏編一つのゴム編にする。是れから先きは靴下を編み續けるのです。表編一つ、裏編一つのゴム編を一寸編む。後の中央の表編を定め、其の兩側でゴム編の減し方で四つ減らす(ゴム編の減し方参照)。一寸毎に四つづゝへらすのを四度繰り返へす(都合十六の目が減る)。更らにゴム編を五分編む。此の中央の目を後の真中にして、前と後とに分ける。これから先きは足首です。前の真中目數十六だけをゴム編一寸五分編む。その兩側から目をひろひ、後の分も合せ、全體を平編にして一寸二分編んで止める。縦に二つに折つて縫ひ合はせる。これが底です。猶ほ片方も是れと同じ様に作る(靴下の方の詳しい事は赤ん坊靴下参照)。

5、婦人下ばき (大人用)

針に百八十の目をかけ、輪にして表編二つ、裏編二つのゴム編を四寸編む。それから半分より十六多い目數即ち百六の目數を平編にし、六寸編む(残りの七十四は

圖三十五第



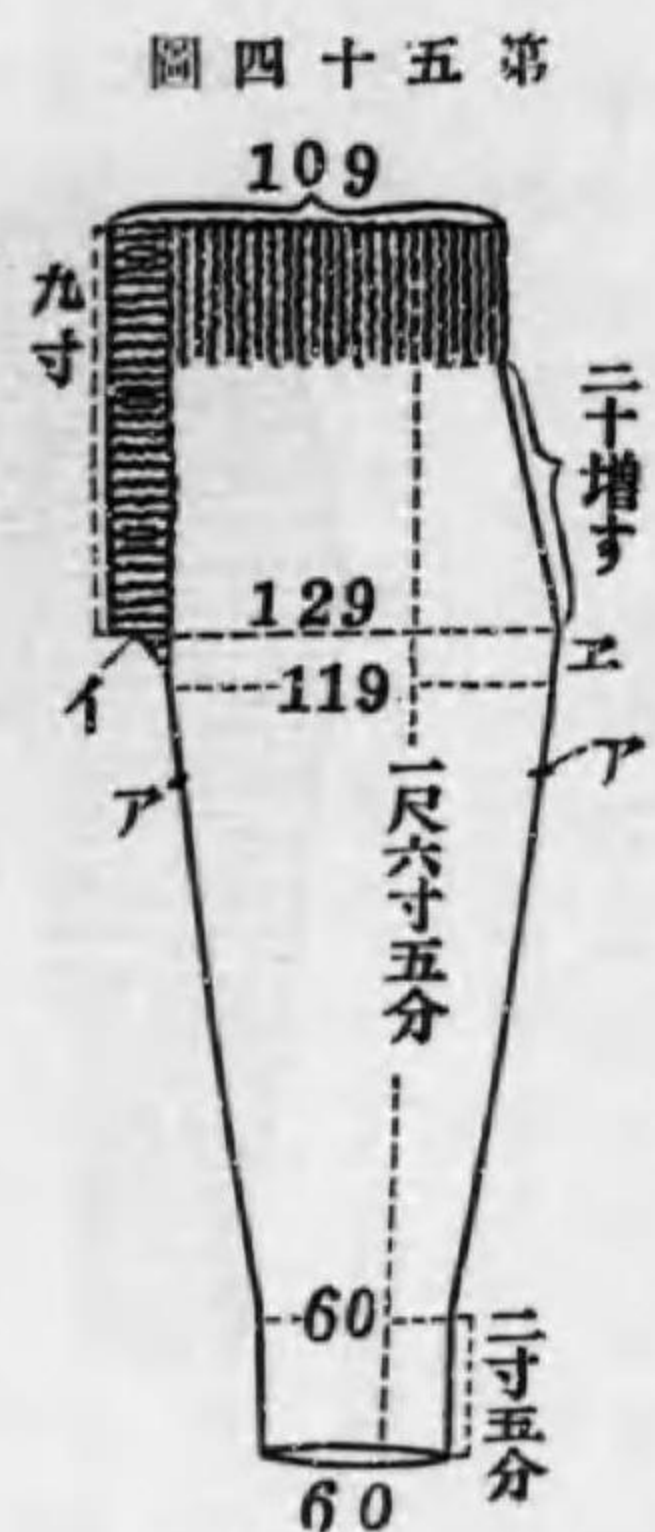
其儘にし置く。兩側で一段に一つづゝの詰め方で入つづゝ減らし、更に四寸編んで止める。次に前に残しておいた七十四の目と前後の上前の裏側から十六づゝ目を拾ひ、合はせて上前と同じ百六にする。是れを平編にして五寸八分編む。一段に一つづゝの減らし方で八つづゝ減らし、猶ほ四寸編んで止める。一つづゝへらした股下を片方づゝ縫ひ合はせる。上の方を七分位内へ折込み、ゴムテップを腹廻りに足りるだけの輪にしたものを入れて、まつり付ける。上の方を紐にするのなら、編み初めから五分位の所で糸を手前にして、二つ一緒に表編一つをくり返へして一段編み、二段目からは初めと同じゴム編を續ける。此小さい穴に紐を通うす。第五十三圖参照。

四 大人ズボン下

1. 長ズボン下

スコッチ一本にして零番の竹針を用ひました。

針に百九の目をかける。其の内十だけはボタン臺として平編にし、残りの九十は表編三つ、裏編三つのゴム編にして三寸編む。ボタン臺の方は其の儘真直ぐに平編を續ける。こゝから表編一つ裏編一つのゴム編にし、後の方では二段毎に一つづゝ目を殖やし、上から計つて九寸の所まで編む。この間に二十位目数をふ



やす。後は其儘編み續け、前のボタン臺の方は五つかぶせ止めをしてから、一段に一つづゝの詰め方で四回詰める。百十九の目になる。それから八分毎に、兩側で一つづゝ一束詰めをする。これを繰り返へし、六十の目数

になるまでへらす。背のひくい人ならばつめる間を近くする。此所から輪にして表編三つ、裏編三つのゴム編を二寸五分編んで止める。これで下前が出来ました。上前もこれと同じに編む。たゞ上前には上から五分編んだ所にボインタ穴をあけ、それから一寸五分毎に一つづゝボタン穴をあける。

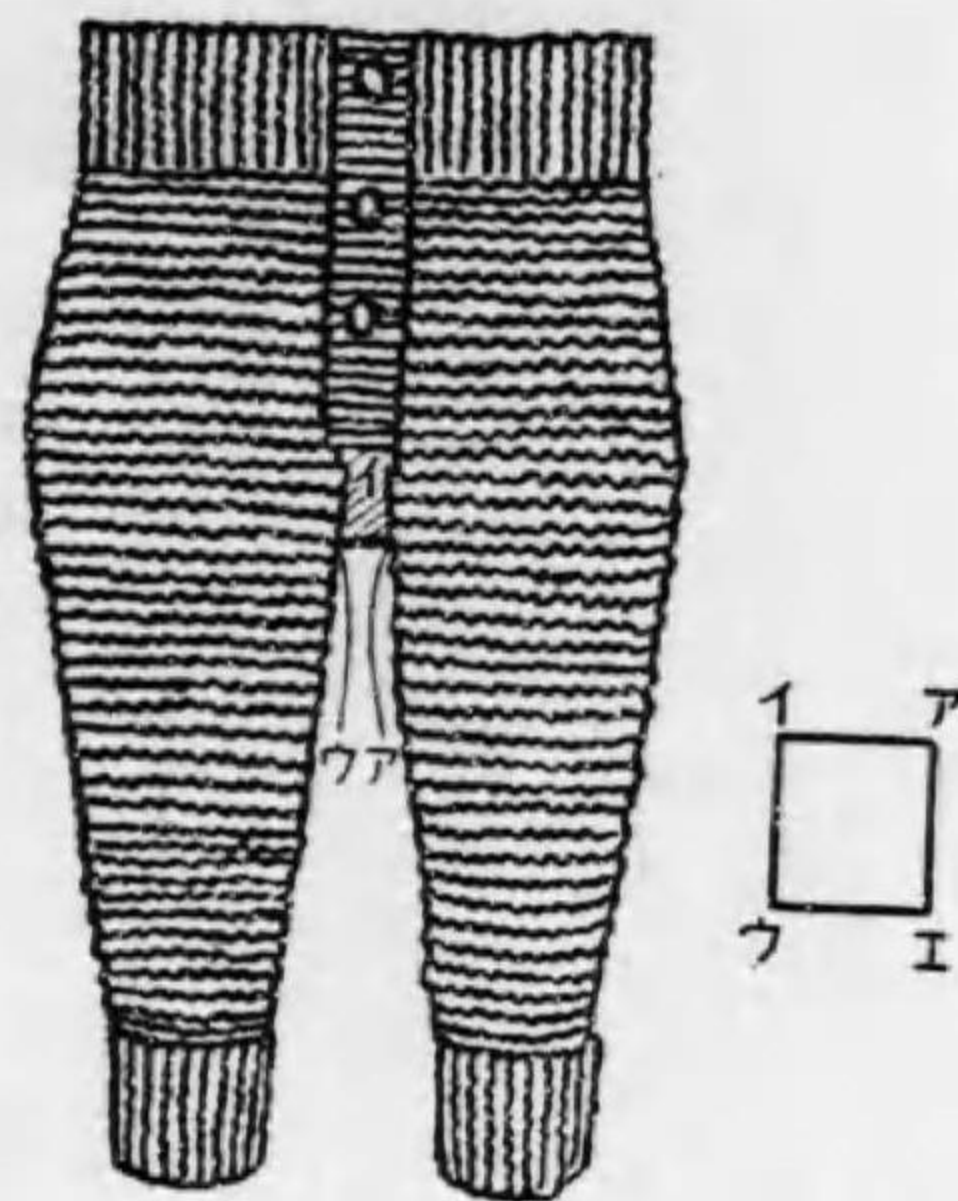
上前も下前も出来たら、上から九寸の所まで上前と下前との後を縫ひ合はせる。

それから二寸下つた所、第五十四圖の「ア」と「ア」を合はせ、輪にして縫ひ合はせる。

もう片方も此通りにする。

別に表編一つ、裏編一つ互ひ違ひのゴム編で二寸四角のものを編み、第五十五圖の「ア」と「ア」と「イ」と「ウ」とを縫ひ合はせ、「エ」を後の角に縫ひ付ける。

第五十五圖



2、半ズボン下

半ズボン下の編方は長ズボンと同様です。たゞ長さを好みの長さにするだけの違ひがあります。

五 手袋

1、子供指なし手袋

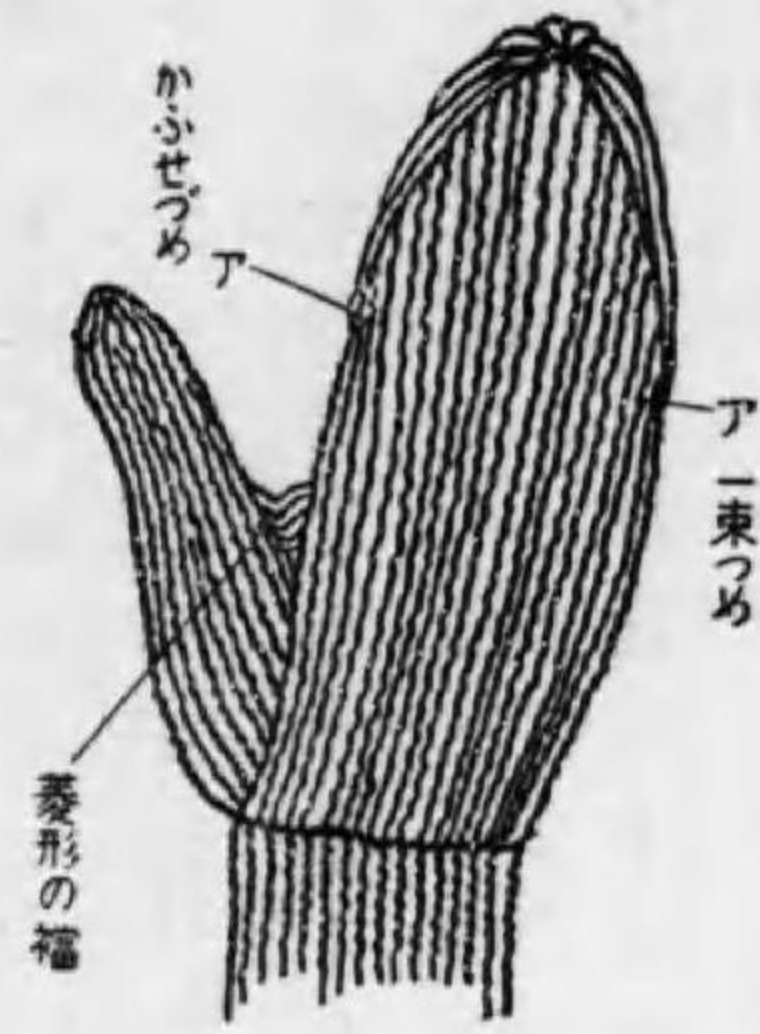
普通の毛糸で編みました。手袋などの様な直接外氣にふれるものは少し固めに編みます。初めの方だけ飾糸を用ひました。

針に四十の目をかけ輪にして表編一つ、裏編一つのゴム編を一寸編む。糸を取り代へて猶ほゴム編を一寸編む。ゴム編の減らし方で四つ減らす。猶ほ一寸編む、又四つ減らす。目數三十二になる。更にゴム編を五分編む。此所から中央の一本通つた表編を中心にして手の平の分目數十(約三分の一)だけ表編にして、一つ目を殖やし、次の目一つを表編して又目を一つ殖やす。手の甲の方はゴム編を續け表編のところは表編にして、二段繰り返へす。三段目には前に殖やした目の兩端で一つづゝ殖やす。又二段編んでから前に殖やした目の兩端で殖やす。今度は前と同じ様にして一段おきに二つづゝ殖やし、十五になるまで目を殖やす。此十五を輪にする時、針に四つの目をかけて、殖やしてから輪にする。一段目は殖やした目共全部表編をする。二段目には今殖やした四つの目の手前の目を編まずに取り、次に四つ殖やした初の目を編んで前の取つた目をぶせる。次に二つ表編して其次で一束詰めする。三段目も二段目と同じ所で、同じ様にかぶせ詰めと二束詰めとをする。殖やした四つの目はなくなり、三角の襠が入る。

指は其儘五段編み、三角の襜の上で一回一束詰めをする。又五段編み、前と同じ所で一束詰めをする。更に二分編んでから一束詰めをして表編二つを繰り返へし、一と廻はり編む。次の段は其儘表編する。それから一束詰めをして次に表編一つを繰り返へし、一段編み、目に木綿糸を通うして裏返へしをして、くゝり止めをする。これで親指が出来上りました。

手の平の方を輪にする時、指を編む時に殖やした四つの目を拾ひ、一段だけ其儘に編み、親指の時と同様にして其拾つた四つの目を減らす。親指と手の平との間に菱形の襜が入る。其先きは今迄の様に手の甲の方はゴム編、手の平の方は表編して一寸編む。手の平の表編の所の両端(第五十六圖のA)で一束詰めとかぶせ詰めをして、二段編む。是れを二回繰り返へし、今度は一段おきに両側で一つづゝ減らし、手の平の表編がなくなつたら、目を木綿糸に通うし、裏返へし、くゝり止めをして表に返す。是れにて出来上る。もう片方も編み方は同じですが、親指をつけます時、左と右とを間違へない様に注意する事が肝

圖六十五第



腎です。

2、防寒スキー手袋 (寫真45)

防寒の爲め、又丈夫にする爲め、毛糸二本で編みました。目が荒いと風が通りますから、糸の割合に細い一番の針を用ひる方がよろし。針に六十四の目をかけ、表編一つ、裏編一つのゴム編を二寸編む。ゴム編の詰め方にして四つ減らす。又一寸編み、同じ所で同じへらし方をする。これを繰り返へし、一寸毎に四つづゝ六回へらして四十の目にし、更らに五分編む。此所から鎧編にする。ゴム編で減らし、た時第五十七圖のAの様に、真中に表編が一本通うてゐる所から數へ、向つて左九つ目の所まで編んだら、輪にせず引つ繰り返へし、戻つて編む。斯うして二十段

圖七十五第



鎧編する。第五十七圖のEからウまで開く。それから輪にして二十四段編む。分け目のウの目より二つ外側の目を界にして手の平の分二十と手の甲の分二十とに分ける。ゴム編の時

に真中に通うた表編は手の平の中央になる。一段目には甲と平とに分けた兩横の目は真直ぐに編み、其後と前とで一束詰めをする。目が四つ減る。二段目にも同じ所で同じ様にして四つ減らす。三段目と四段目とは其儘編む。これを繰り返へす。目数八つになつたら裏に返へして一束止めをする。

指を付けるのは第五十七圖エのところ目一つ拾ひ、甲の方の縁のオて又目を一つ拾ふ。引つかへし、初めに拾つた目を表編にして、平の方の縁の方で一つ目を拾ひ、又引つかへし、鉋編にして甲の方の縁のキで目を拾ふ。兩側で一つづゝ拾ひながら、鉋編を續ける。終りのウの所まで編むと目数は二十になる、目を拾ふ時、第五十八圖に示す様に拾ひながら編んだ指も甲と平との縞に合はせて編む。

第五十八圖



それから拾つた二十の目を輪にして一寸二分編む。それから裏編と表編とを一束詰めして次の目二つを其まゝ編む。これを繰り返へして一段編む。二段目には表編が二つ列んでをる目を一束詰めする。三段目は其儘編み、四段目には一つおきに一束詰めをする。五段目には目に木綿糸を通うし、裏返へして一束止めをして、表に返へ

す。此の手袋は上着の袖口の上にはめるのです。

3. 指付き手袋

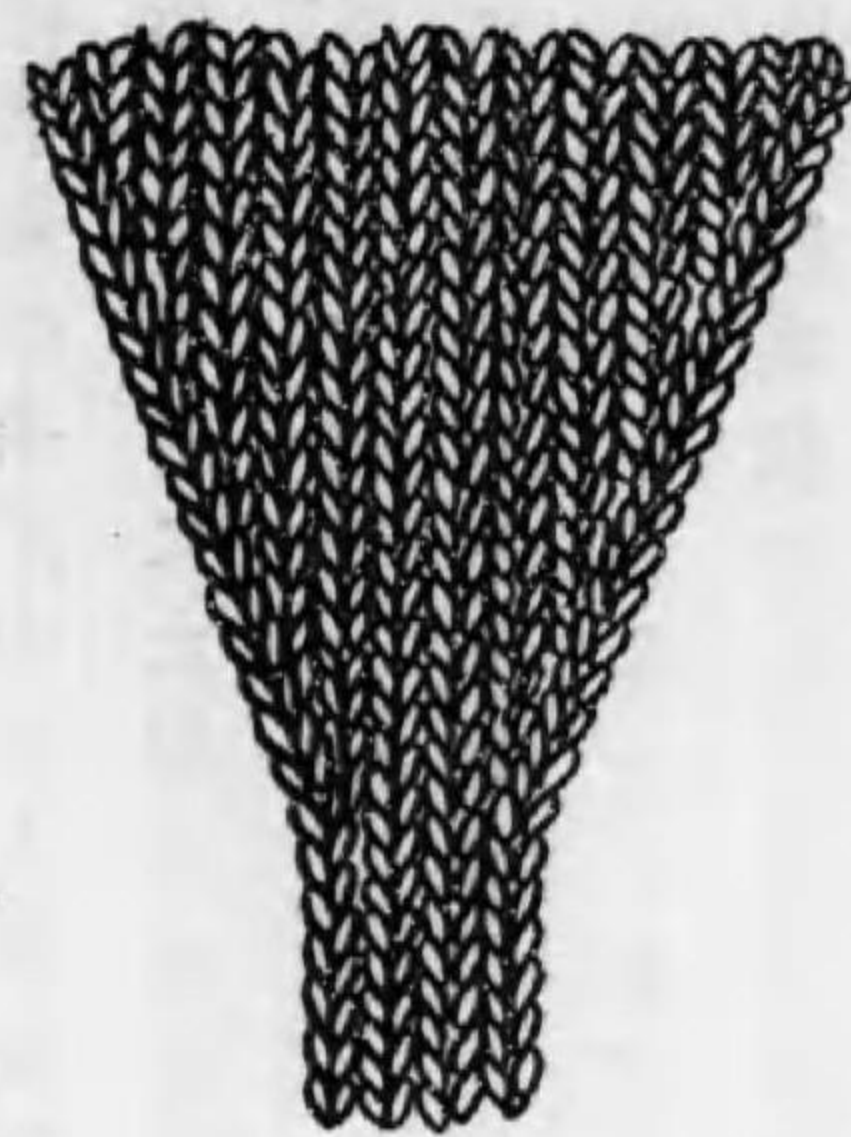
中細毛糸を用ひ零番の針を使ひました。

指付手袋は糸が太いと目数を少くしなければなりません、さうすると一本一本の指を作るのに大變やり難くもあり、見にくくもなりますから、細目の糸を用ひた方がいゝでせう。

針に五十の目をかけ、表編一つ、裏編一つのゴム編を二寸五分編む。次に表編ばかりを二段編み、目を一つ殖やし、次に表編を二つ編んで又目を一つ殖やす。次の二段は其儘表編をして三段目には前に殖やした目の兩外側で一つづゝ殖やす。これを三回繰り返へす。第五十九圖の様、に末廣に殖える。今度は一段おきに前に殖やした目の兩外側で一つづゝ殖やす。これを五回繰り返へす。目数二十になる。これを輪にして親指にする時、目を四つかけて殖やす。一段目には其儘表編する。二段目には前に殖やした四つの目の手前の目を取り、次に殖やした目の

初めの目を編み前に取つた目をかぶせる。次の目二つ表編をして其次に一束詰めをする。三段目にも前と同じ様にかぶせ詰めと一束詰めとを同じ所です。殖やした四つの目がなくなり、三角の襜が入る。其儘表編三分編み、三角の上部で一束詰めを一度する。又三分編んで一束詰めして更らに三分編む。それから一

第五十九圖



束詰めと表編二つとを繰り返へし一段編む。二段目には其儘表編をし、三段目は一つおきに一束詰めを繰り返へす。四段目は其儘編み、目に木綿糸を通うし、裏にかへし一束止めをする。これで親指が出来上りました。

今度は手の平の方を編む。親指を輪にする時、殖した四つの目と其両側から一つ宛とを拾ひ、其儘一段だけ表編をする。二段目には親指の時と同じ様に拾つた六つの目を外側から一束詰めと被せ詰めとをして、殖した六つの目をなくす。菱形の襜が入る。それから一寸は其儘表編する。今度は四本の指に分ける。その分け方は、前に襜を減らし終つた目より手の甲の方へ三つ寄つた目を界にして、前と後とに折る。四十八の目数を四等分して一

本の指に十二づゝとする(即ち平の方六つと甲の方六つ)。先づ人さし指から編む。平の方六つと甲の方六つとを輪にする時、中指の側で甲と平との間に目を三つ殖やし、十五の目にして指の長さより三分手前まで表編をする。一束詰めをして次の表編を四つ編む。これを繰り返へし一段編む。次の段は其儘編み、其次の段には一束詰めをして表編二つを繰り返へす。次の段は其儘編み、其次の段は一束詰めをして表編一つを繰り返へし、其次は其儘編み、目に木綿糸を通うして一束止めをする。人さし指が出来ました。

今度は中指です。人さし指を編む時、甲と平との間に殖やした三つの目を拾ひ、更らに薬指の方で、甲と平との間に二つ目を殖やし、十七の目を輪にして編む。指先きの減らし方は人さし指と同様です。

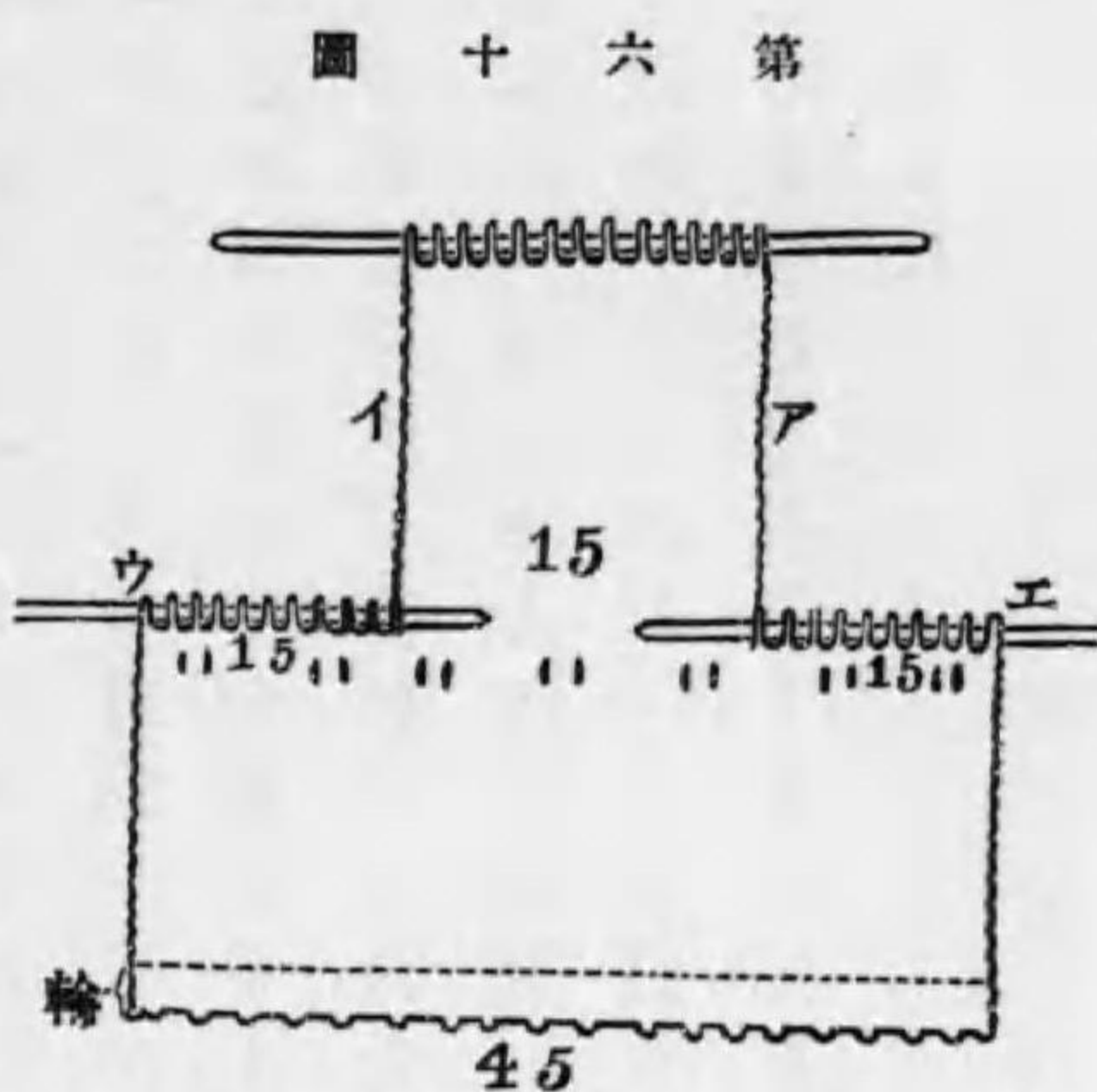
薬指も中指と同様に、甲の方六つと平の方六つと、中指で殖やした二つの目を拾ひ、小指の方で二つ殖やして都合十六の目にして編む。指先きの減らし方は中指と同様です。

小指は薬指で殖やした二つの目を拾ひ、十四の目を輪にして編む。指先の作り方は中指と同様です。

六 靴下

1、赤ん坊靴下

毛糸一本で編みました。



針に四十五の目をかける。表編一つと裏編一つのゴム編を五分編む。糸を手前にして二つ一緒に表編をする。これを繰り返へし更に五分編む。初に針にかけた四十五の目を拾ひ、二枚重ねてゴム編をする。小さい輪になり、上がギザ／＼の飾りになる。表編三つと裏編三つの市松を二寸編む。糸を手前にして二つ一緒に表編を繰り返へし、歸へりは全部裏編をする。あと二段は表編をする。真中の目数十五だけを市松にして一寸五分編む。両側

の目第六十圖アとイを拾ひ、ウからイ、アを通してエまでを平編にして、一寸三分編んで止める。此所が底になる。此底を真中から縦二つに折つて縫ひ合はせ後も編合はせる。穴にはリボンを通うし前で結ぶ。

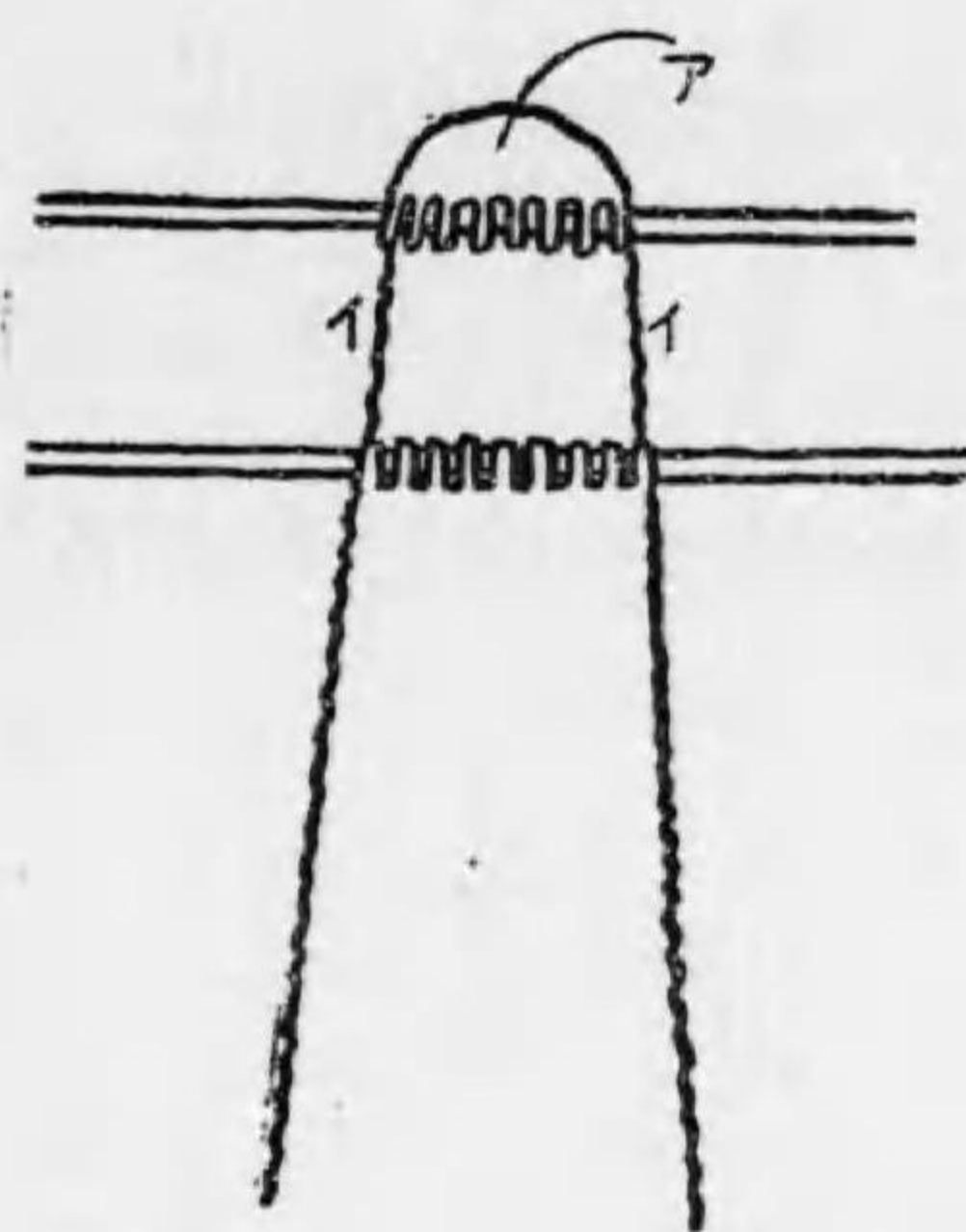
2、子供長靴下(七、八歳)

普通の毛糸を用ひ、零番の針を使ひました。

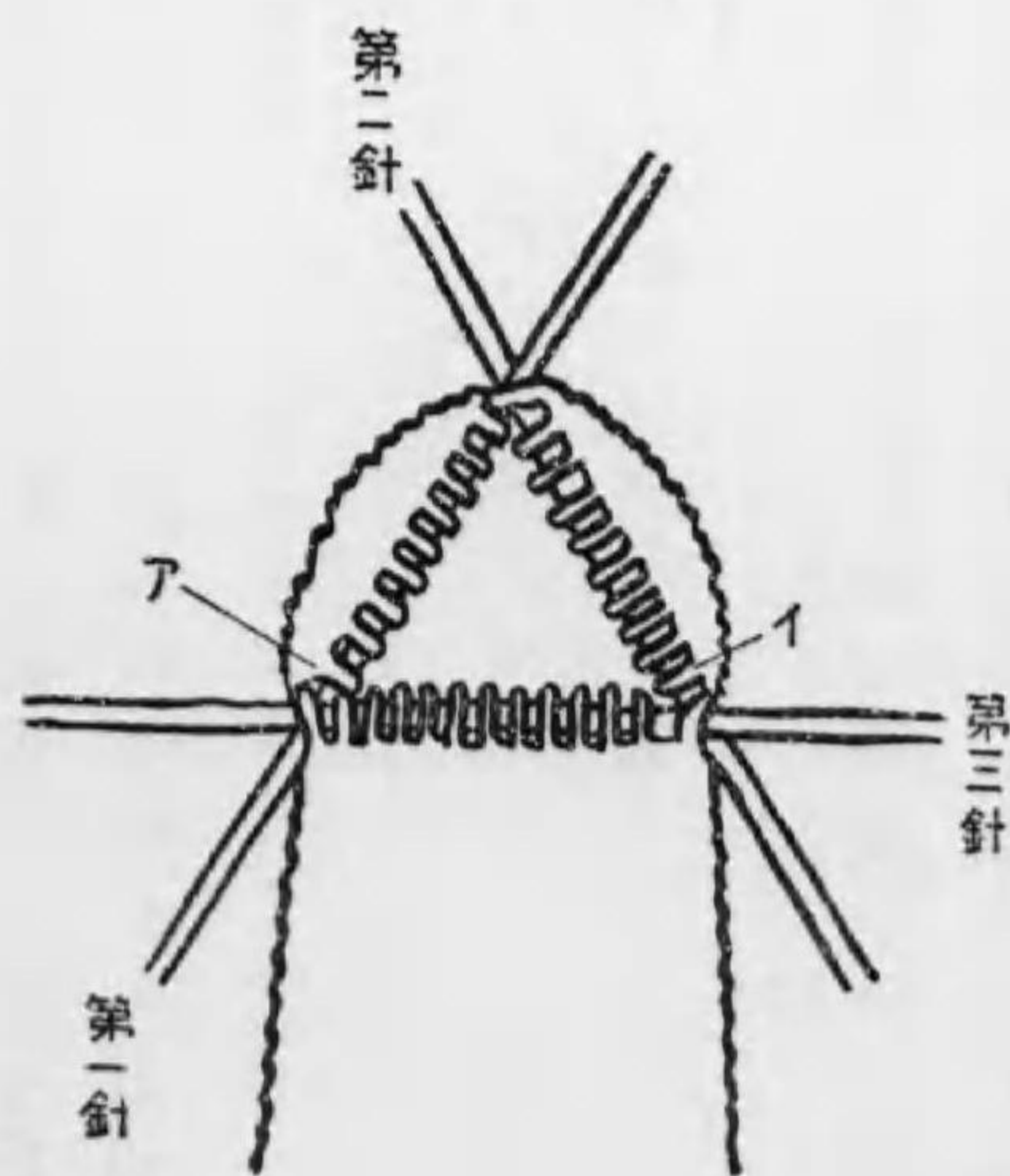
針に六十の目をかけ、輪にして表編を五寸編む一束詰めをして表編を三つ編み、かぶせ詰めをする。表編を一寸編み、同じ場所で一束詰めをして表編を三つ編んでから、かぶせ詰めをする。又一寸編んで同じ場所で一束詰めとかぶせ詰めをする。真中の三つの表編は終りまで其儘真直に編み、いつも其兩隣りて詰める(詳しくは大人靴下参照)。更に三寸其儘編み、同じ様にして二つ詰め、一寸編んで又詰め、今度は八分編んで七分、六分、五分、四分といふ様にして、順々に間を近くして、目数四十になるまで詰める。更らに三分表編をする。真直ぐに編んだ三つの表編を後の中央にして、前と後と二十づゝに分ける。前は其儘にして後だけ一寸二分編む

(表を見て表編みにし、引つくり返へし裏を見て裏編にす)。それから二十の目を始め八つ中四つ、終り八つに分ける。表を見て始めの八つと中の四つとを表編をして、次の目一つを編まずに取り、次を編んでかぶせ詰めをする。引つくり返へし、一つ編まずに取り、次から裏編を四つ編んで次の目二つを一緒に一束詰めする。引つくり返へし、一つ取つて表編を五つ、次を取つてかぶせ詰めをする。これを繰り返して、中の目は一つづゝ殖え、兩方の目がなくなるまで減らす。第六十一圖アの

圖一十六第



圖二十六第



様に丸い踵が出来る。一寸二分編んだ兩側のイの所から目を拾ひ、第六十二圖の様に三本の針に通うし、一段は全部表編をする。二段目には第一針の編み初めのアの所で一回一束詰めをしてから表編を續け、第二針の編み終りのイの所でかぶせ詰めをして第三針を其儘表編をする。次の段は其儘表編をし、其の次の段には又同じ所で減らすといふ風にして一段おきに一束詰めと、かぶせ詰めをして、全體で目が四十になるまで詰める。すると第六十三圖のアの様な三角が出来る。四

圖三十六第



十の目を其儘小指の所まで編む。第六十三圖のイの目即ち第六十二圖の第一針の始めの目と第二針の終りの目とは其儘真直ぐに通うし、其手前の足の甲の方でかぶせ詰めをして、次の第六十三圖のイの目を編み、其次で一束詰めをする。それから底の方を編み、反対側のイの目の手前でかぶせ詰めをして、イを編み甲の方で一束詰めをする。これで四つ目が減る。次の段には減らさず一と廻はり編む。これを繰り返して、一段おきに四つづゝ減らし、針に十四の目が残るまで編む。甲と底との二つに分け、七つづゝを目立たぬ様

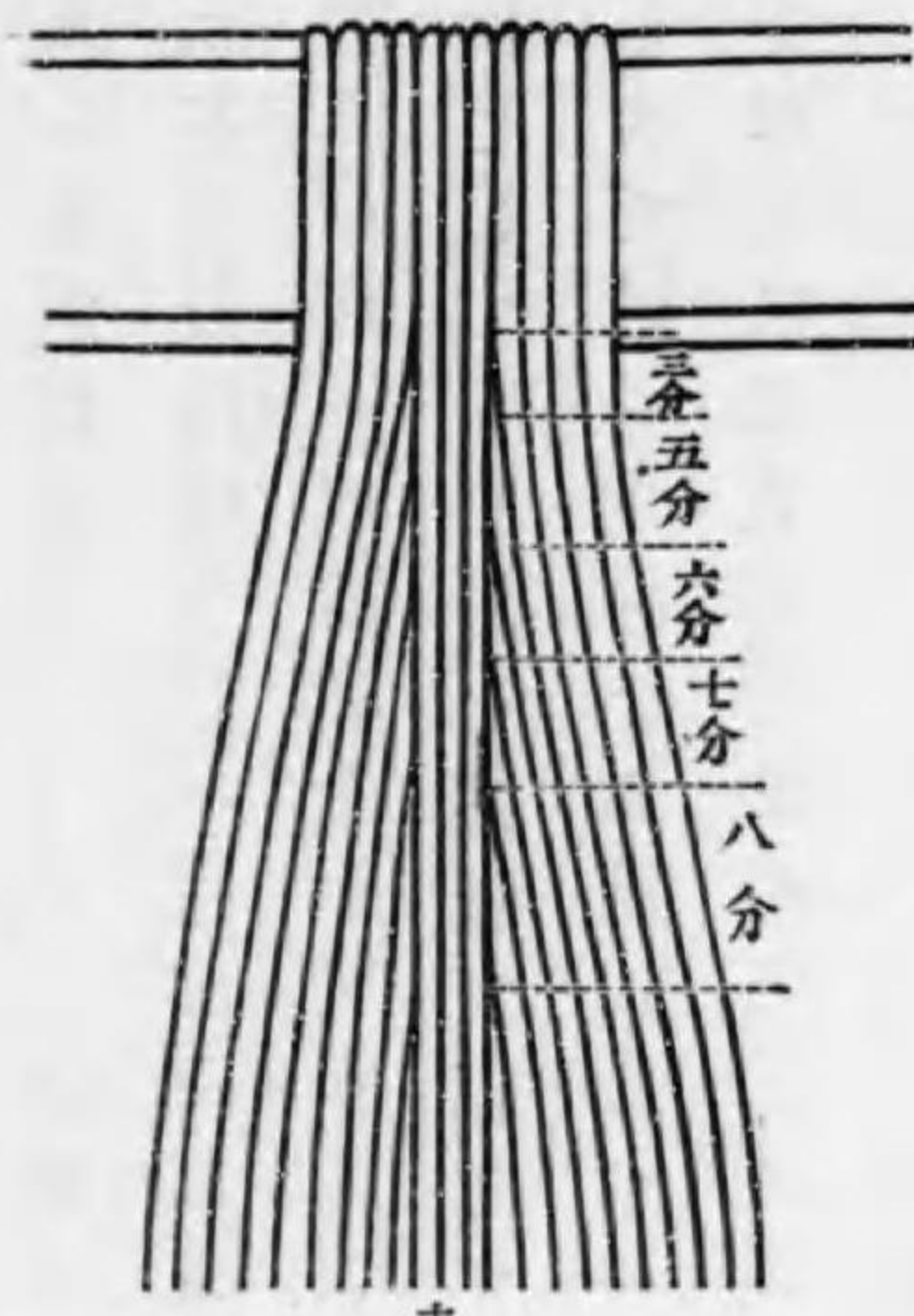
に縫ひ合はせる(縫ひ合はせ方参照)。

3. 大人靴下

毛絲一本を用ひ、零番の針を使つて編みました。靴下は餘り針の太くない方が綺麗でもあり、暖かでもあります。

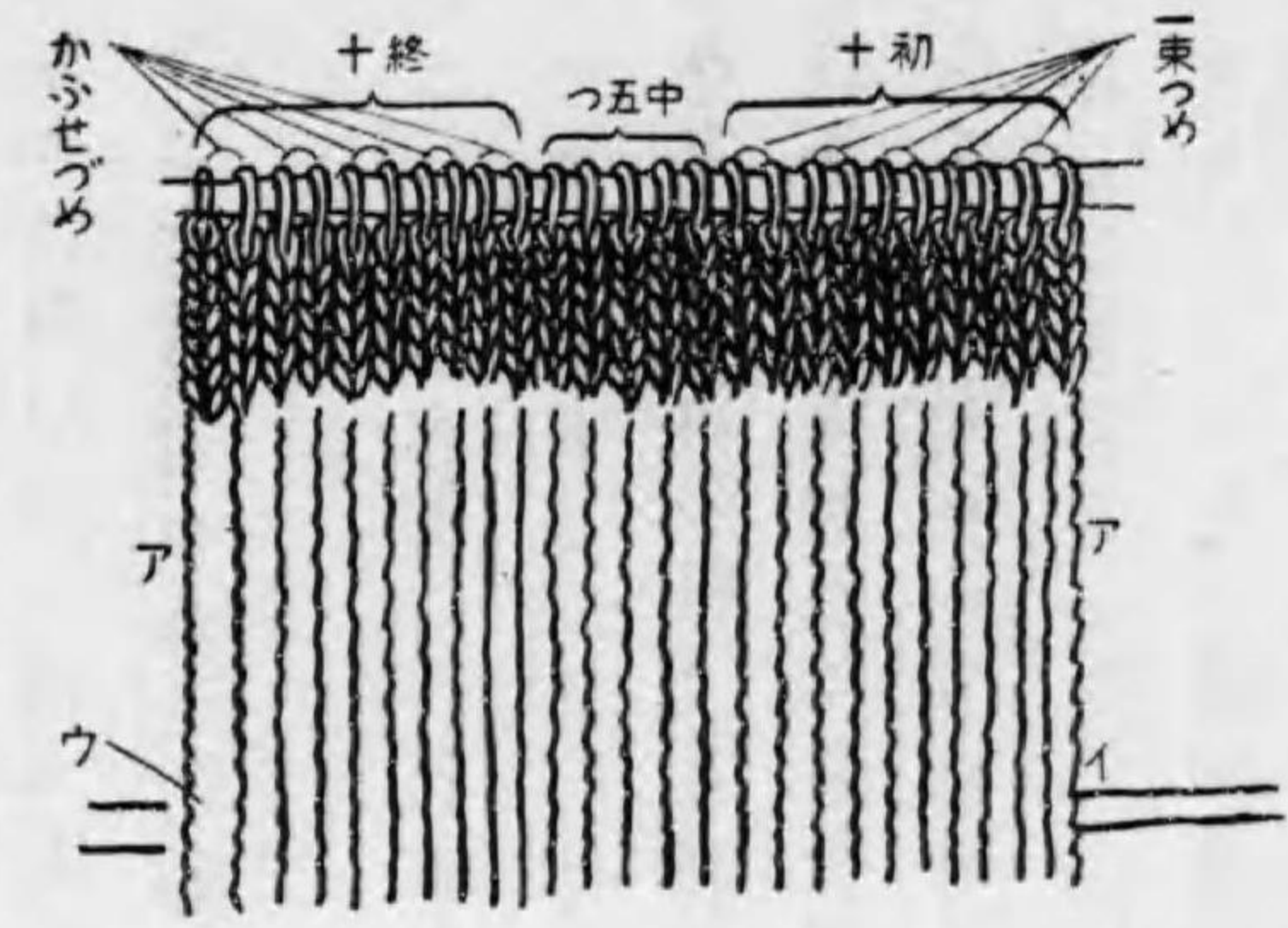
針に六十の目をかけ、輪にして表編二つ、裏編二つのゴム編を二寸五分編む。表編を一寸五分編み、一束詰めをして表編を三つ編んで、次にかぶせ詰めをする。更らに八分編み、同じ處で同じやうに一束詰めとかぶせ詰めとする。第六十四圖の様に表編三つは下まで編み通す。又七分編んでから兩方で二つ減らし、六分編んで又二つ減らし、五分編んで減らす。目数が十減つて五十になる。更らに三分編む。表編三つ通うした所

圖四十六第



表編三

圖五十六第



を後の真中にして第六十四圖の様に五十の目を前と後と二十五づゝに分ける。前は其儘にしておき、後の方の二十五を一寸五分表編する。今度は第六十五圖の様に始め十、中五つ、終り十に分ける。表を手前にして始めの十と真中の五つとを表編して次の十の内一つは編まずに取り、次の目を表編して前の目をかぶせる。裏返へして目を一つ編まずに取り、次の目五つを裏編する。次に始めの十の目の内二つの目を一緒に一束詰めをして引つ繰り返へして一つ取り、次から六つ表編して、次をかぶせ詰めをする。これを繰り返へし、真中は一つづゝ、殖え、兩端に目がなくなるまで減らす。一寸五分編んだ兩側のアから左右に同じ數だけの目を拾ふ。後と兩横と前との目を輪にして表編を一段編む。二段目には目を拾つた兩端のイとウとで一束詰めとかぶせ詰めとをして一つづゝ目を減らす。三段目は減らさずに表編をする。これを繰り返へし、一段おきに兩側で一つづゝ詰めて、全部で元の五十の目になつ

第二編 六、靴下

たら、其儘二寸五分編む(足の大小により多少の差があります)。子供靴下で圖解した様に底の兩脇の目を一つだけへらさずに通うして、其の前でかぶせ詰め、後で一束詰めをする。一段で四つ減らし、次の段は其儘表編をする。これを繰り返へし、一段おきに四つづゝ減らし、全體が二十の目になつたら甲と底とを目立たぬ様に縫ひ合はせる。(縫ひ合せ方参照)

4、スポーツ靴下 (寫真45)

編み方は普通の靴下と少しも變りませんが、これには上の方に飾りを入れます。此の飾り編みの所だけは外部に折り返へしますから輪にして編み、飾りを入れます時には内側が表になる様に編む。防寒兼用ののは毛糸二本で編むと暖かです。

5、實用靴下

此靴下は普通の靴下とは踵の所までは變りがありませんから、踵までは普通に

編みます。それから先きを説明しませう。

針に六十の目をかけ、踵の所まで普通の靴下と同じに編み目を十減らし五十の目にする。此五十の目を後と前と二十五づゝに分け、前の甲になる方だけ三寸五分表編して、其儘にしておく。後の方は普通の靴下の時と同じ様に一寸五分編む。表から見て表編を十五編み、次をかぶせ詰めする。裏返へして一つ取り、裏編五つ編んで次を裏編の一束詰めをして表に向け、一つ取り表編を六つ編んで、次をかぶせ詰めをする。これを繰り返へし、兩端は目がなくなるまで減らす。一寸五分編んで兩側で目を拾ふ。此所までは普通の靴下と同じ。此所から輪にせず底だけ平に編む。裏編みの時は増減なしに編み、表編みの時は兩側で一つづゝ一束詰めをする。之をくりかへし一段おきに二つづゝへ



第六十六圖

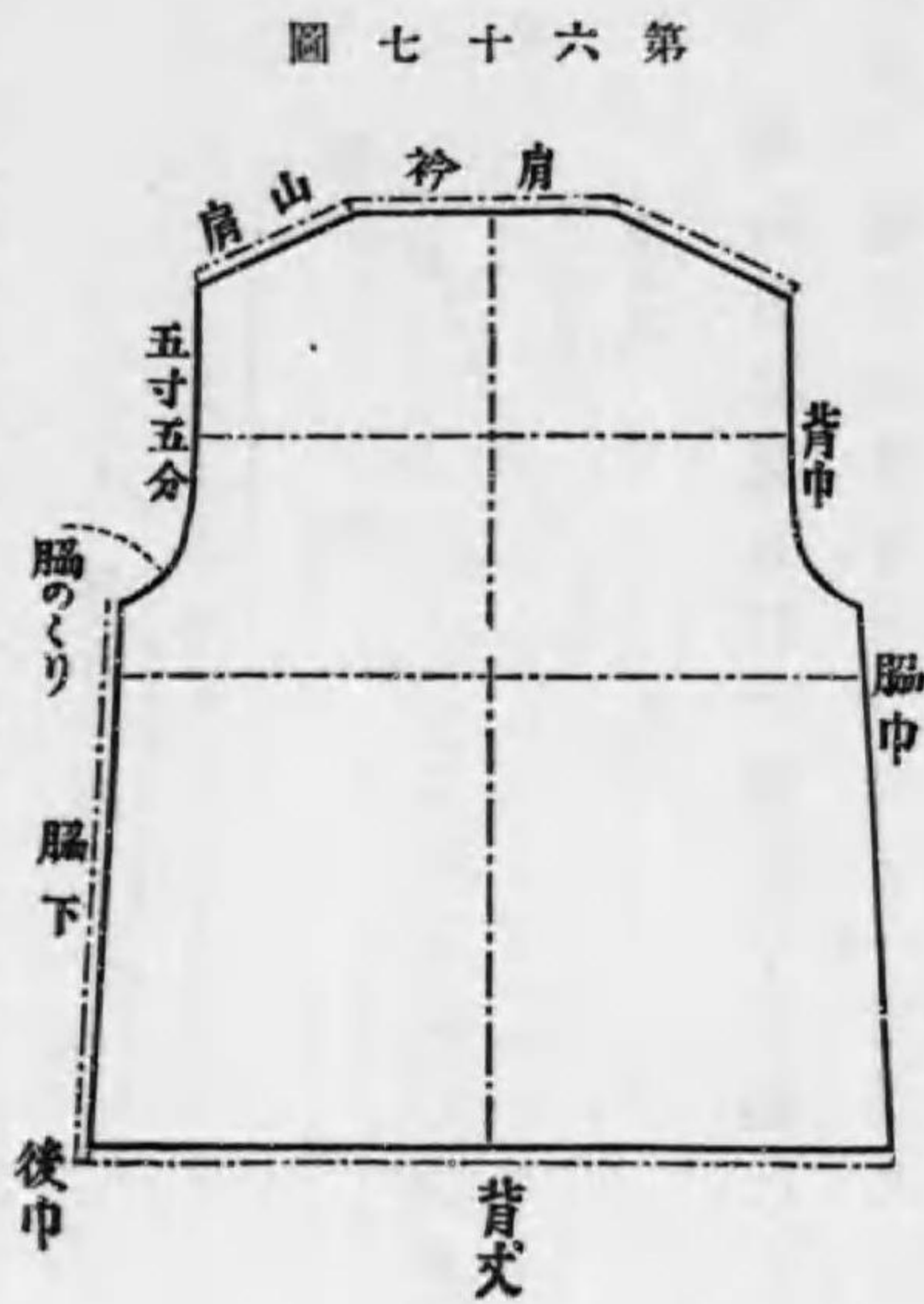
らし、目數二十五になるまで編む。それから増減なしに、甲と底とに分けた所から計つて三寸六分編む。前編んでおいた甲の方とを合はせて輪にする。足先きは普通の靴下と同じに、一段おきに四つづゝ詰め、二十になつたら手際能く縫ひ合はせる。甲と底

とが別々に開いて居るから、第六十六圖のアの所も裏返へして、體裁能く兩側を縫ひ分はせ表に返へす。これは破れて修繕するのにはアの縫ひ合せ目を解き、足先きから解いて、甲は其儘にし、底だけ編み直ほして又甲と底とを縫ひ合はせる。甲の方は減多に破れる様な事はなく、多くは底だけ痛みますから、底だけ編み直ほす様にしておけば、糸も經濟的であり、又時間も大變はぶけます。毎日用ひるのは此の方がよいと思ひます。

七 チヨツキの型の取り方及目の割り出し方

チヨツキの型を取るのには、一番初めに、着る人の背幅を計ります。假りに背幅が八寸あるとすると、其の八寸は幾つの目にしたらよいかを考へます。編む人によつて多少の差はありますが、八寸ならば普通八十位の目數でせう。背幅がきまつたら、此の目數に袖のくりの分を片側に十づゝ加へます。さうすると百の目になります。これが脇幅です。男物は此脇幅と下の後幅とは同じでよいでせう。

それですから、後幅の目を百にして針に目を作り、脇下を袖のくりまで真直に編み脇のくりの處を左右とも一段に二つづゝ一束づめをして、片方に十づゝ目を減らします。さうすると自然に丸くくれます。これで脊中になりました。此の背幅



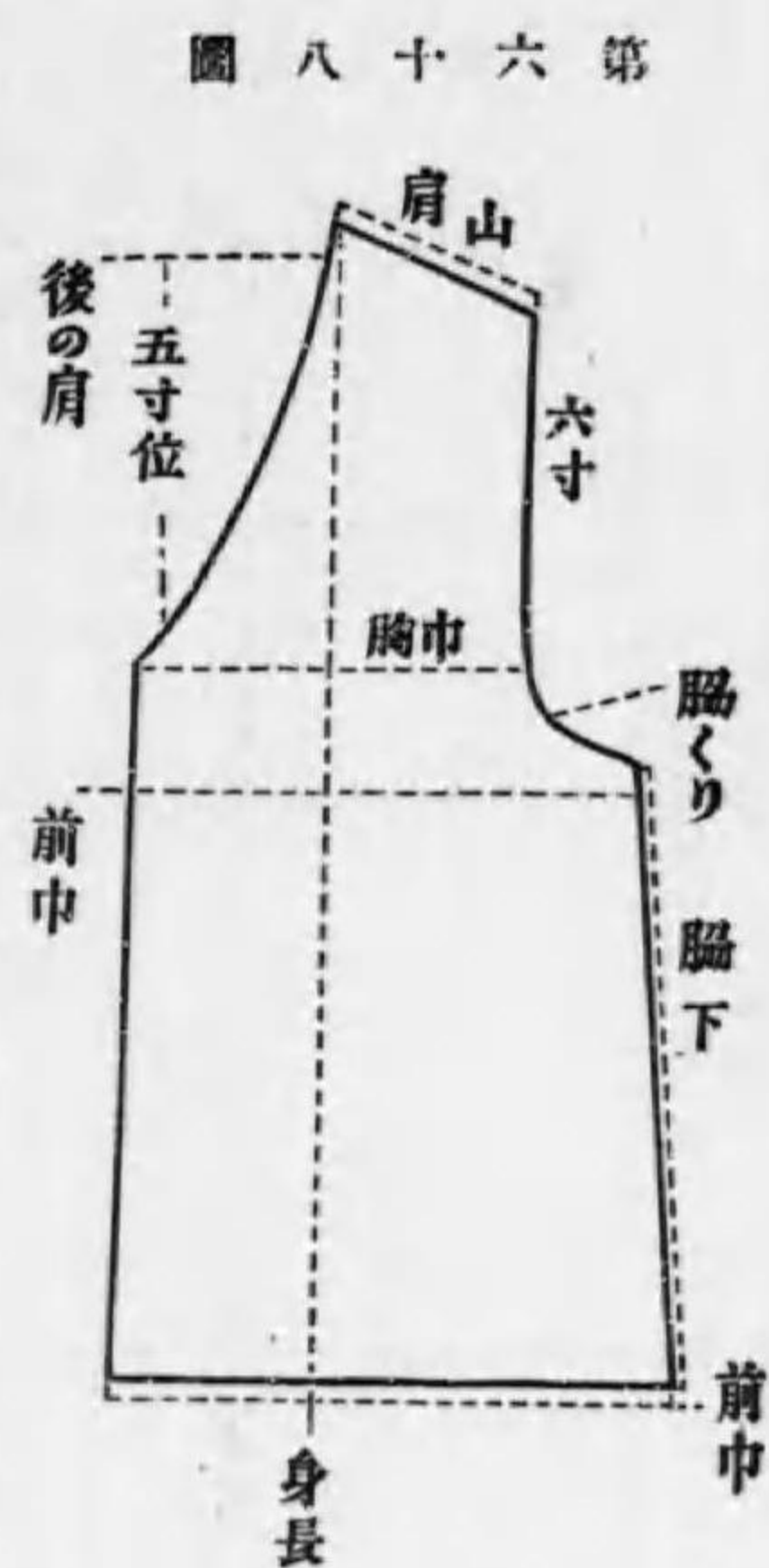
第七十六圖

を肩山まで五寸五分真直に編んで、肩の山形に減らす處へ來たら、針の編み終りで一束詰めをします。それから裏に返へして、編み初めに一束詰めをして、次の目を編んで前の目をかぶせます。これで三つ減りました。又編み終りで一束詰めをして、裏に返へして一束詰めをして、次を編んで、前のをかぶせます。この

通りに二段で三つの減らし方にして、兩方から減らして、真中に背幅八十の約三分の一、即ち二十六残るまでずんぐり減らします。そして真中が二十六になりまし
たなら、かぶせ止めをします。これで後身が出来ました。幅や身丈、脇下、袖付等は
着る人に合はせ、又好みや流行もありますから、各自見當をつける方がよろしいと

思ひます。編んだものは延びますから小さめに編む様にする事が必要です。

前型を取りますのには、後の目数を標準にして、前の目数を割り出します。格別に肥つた人でない以上次の標準でよろしいと思ひます。後幅の目数は百ですから、前はその半分の五十と、脇下のまがり五つと加へ五十五にします。これが前身



頃の前幅です。若し脇で曲げない方がよい様なら、まがりの五つを増さなければよいのです。それで初めに此の五、五の目を針にかけて、二寸位編み、それから袖のくりの處までの間に同じ間隔をおき、五個所で一つづゝ一束詰めをしま

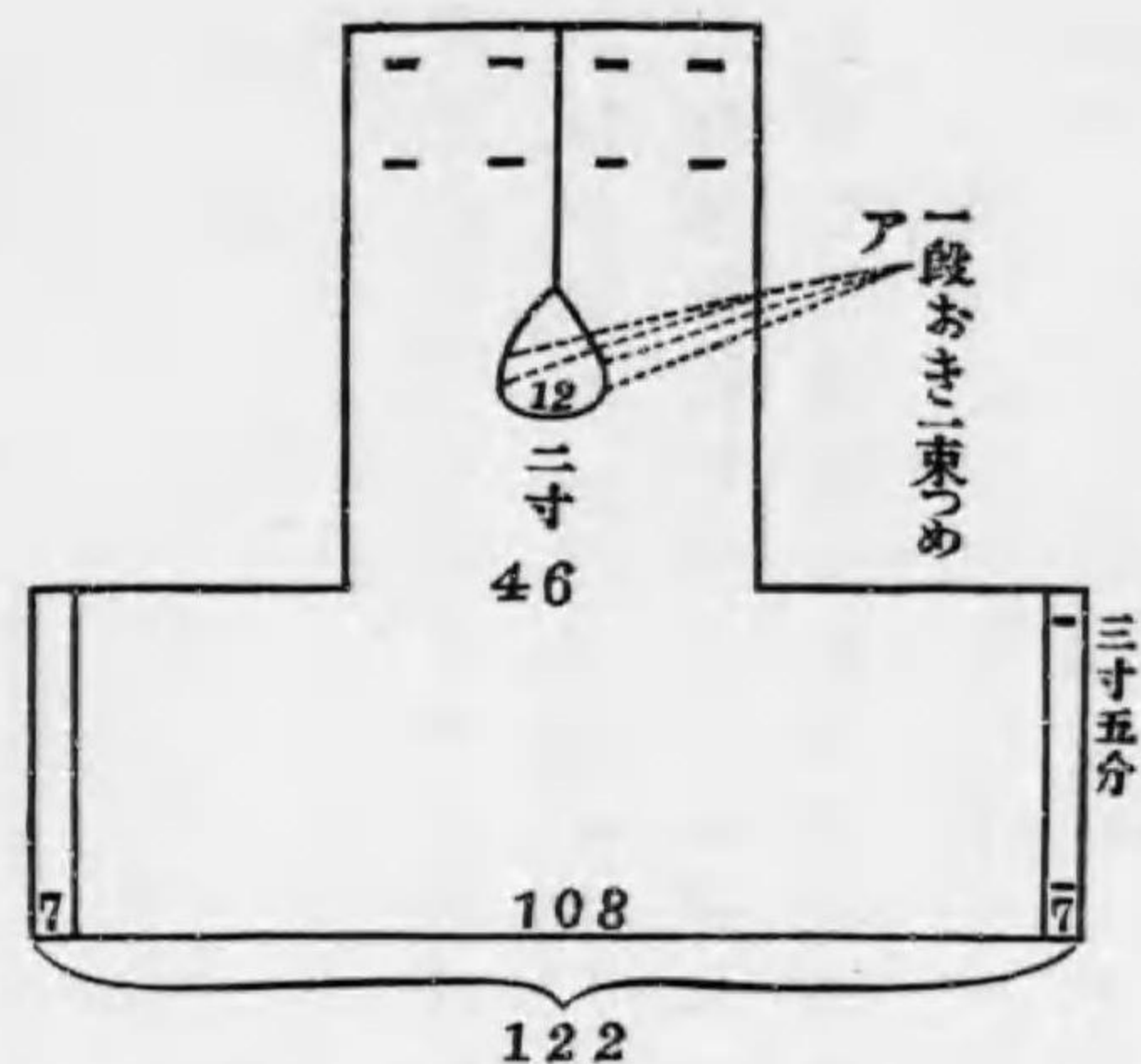
す。衿の方は減らさず真直ぐに編む。脇下の終りで五十の目になつたら、後と同じ様に脇で一段に一つづゝ一束詰めをして、十だけ袖のくりを減します。脇の方は此の儘真直ぐに編み續けますが、衿開きの方は後身の上のせて見て、肩から大抵五寸位下つた處から三段おきに一つづゝ減らし、針に三十残つたら、其儘真直ぐに編みます。そして袖のくり初めから計つて六寸(後より五分長い)になつたら、肩

の脇の方だけで二段に三つの減らし方でずんゝ減らし、目が一つになるまで編み、一つになつたら止めます。これで前が出来ました。衿は別に十の目数で平編を兩前に足りるだけの長さに編みます。上前には大抵五つ位のボタン穴を開けます。穴の開け方は(ボタン穴のつけ方)で詳しく話しましたから此處では略します。共衿でしたら、ボタン臺の分十を前の目を割り出す時に足して衿も一緒に編みます。

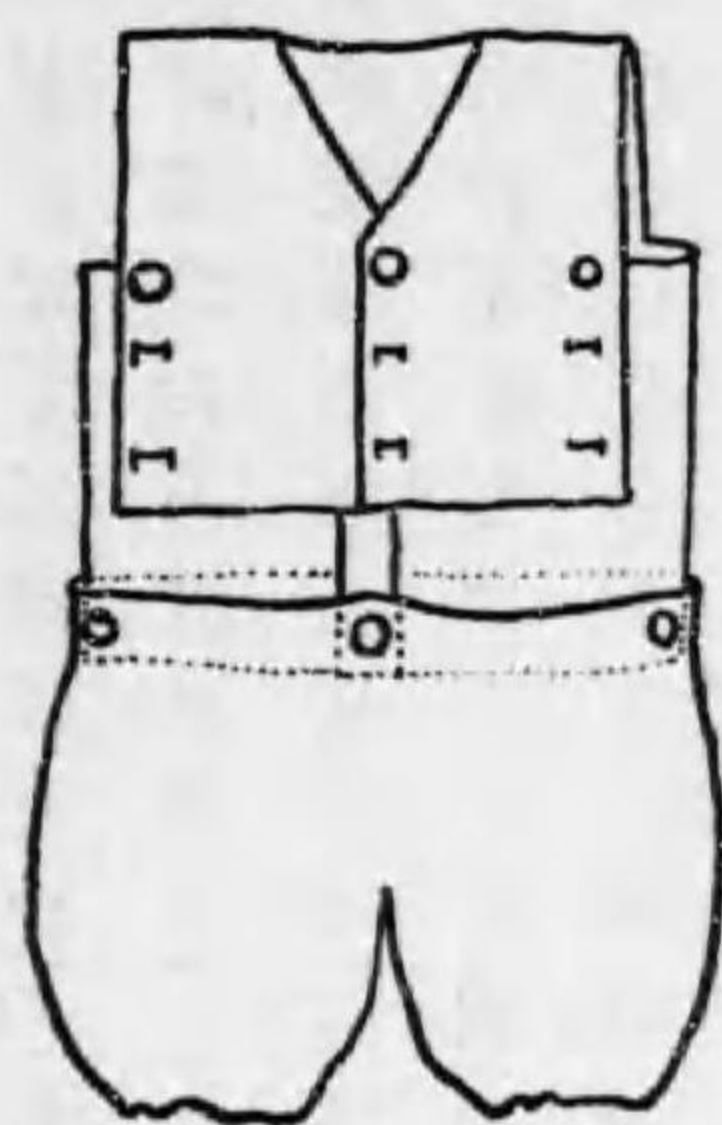
1. 赤ん坊チョッキ (寫眞44)

針に百二十二の目をかけ、兩側のボタン臺の目数七つだけは平編にして、真中の百八つは表編み二つ、裏編二つのゴム編にして五分編み、上前にボタン穴をあけ、更らに二寸編み續け、又上前だけにボタン穴をあけ、五分編み續ける。全體の真中四十六を残して、兩側をかぶせ止めする。此の残つた四十六の目を表編二つ、裏編二つのゴム編を二段編み、三段目には前に表編であつた所を裏編にし、裏編であつた所を表編にして二段編む。これを繰り返へし小さい市松を二寸編む。襟肩の分

圖九十六第



圖十七第



真中で目数十二をかぶせ止めをして、上前と下前とに分ける(第六十九圖参照)。先づ下前より編む。針に残つてゐる下前の十七の目を其儘一段編み、其次に内側で一段おきに一つづゝ一束詰めを二回して、更らに其儘五分編み、續け、今度は二段おきに一つづゝふやし、目数二十三になつてから三分編み、兩側に列べて二つボタン穴を開け、又一寸編んでからボタン穴を開け、又一寸編んでボタン穴を開け、更らに五分編んでかぶせ止めをする。上前も下前と同じに編む。編み上つたら、ボタンをボタン臺に二つと、兩横に一つづゝと、後に一つ、都合五つ付ける。ズボンつりの代用にしても便利です。第七十圖の様に着ます。

これの特長は、赤ん坊には着物を着せにくい

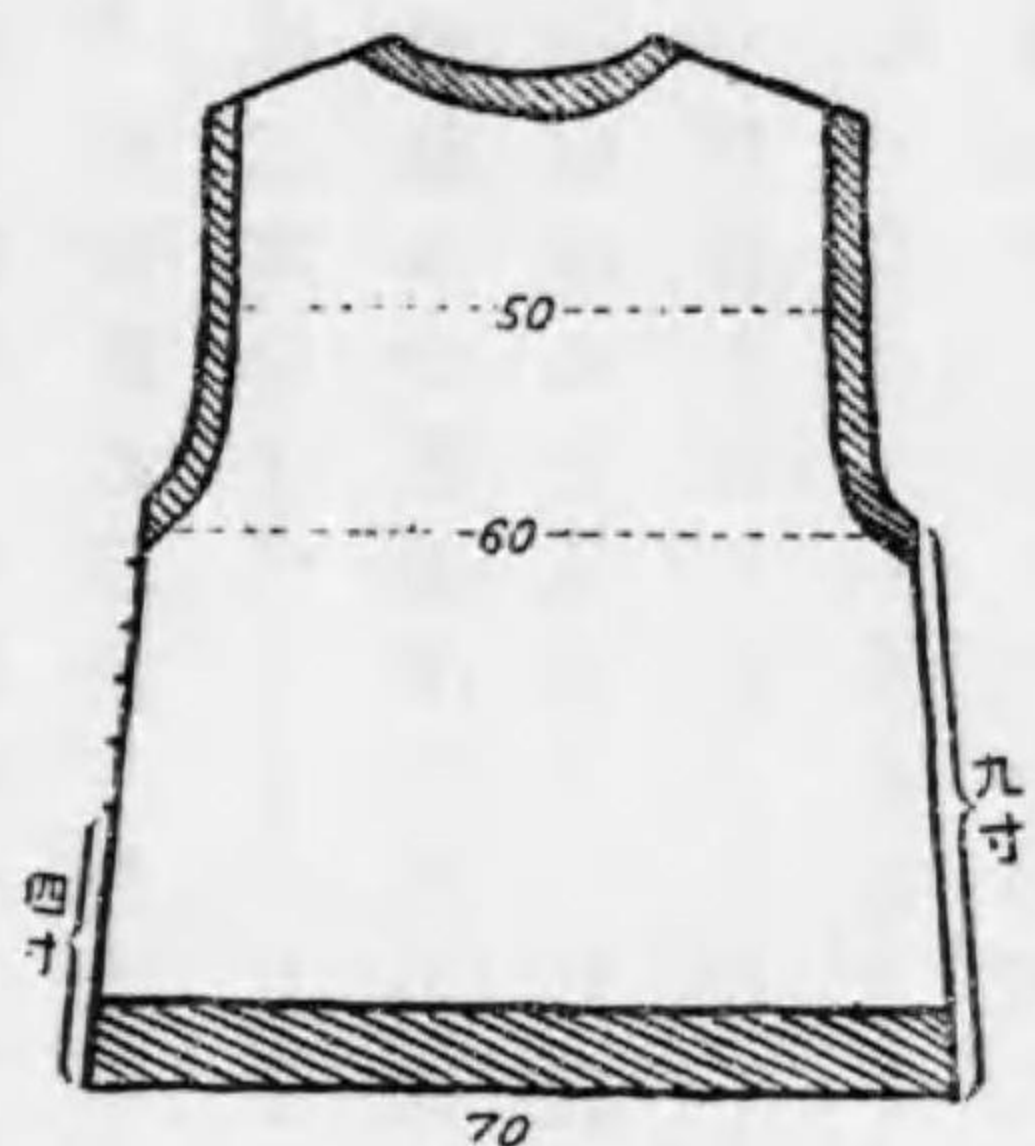
ものですが、全部開きますから着せよいのと、ボタン穴が幾つも開いてをりますから子供がずんぐり大きくなつても、横はゴム編ですから十分延びますし、縦は段々下のボタン穴を用ひますから、編み直しませんでも大分長く着られます。そしてこれに下げきも釣る事が出来ます。

2、防寒チョッキ (寫真46)

これは暖かくて、風の入らない様にと思ひまして、二本糸にしてかぶる様にしました。その爲め目数も普通のより少いのです。

針に二本の糸で七十の目をかけ、平編にして二寸編む。糸の色を替へ一段表論次は表編五つ、裏編五つの市松編にして、下から計り四寸編み、兩端で一吋毎に一つづゝ一束詰めを五回して、目数を五つづゝ減らし、更らに一吋編む。兩端の目数五つづゝを裾と同じ色糸に替へる。此の色糸の所だけ平編にし、其次の目を兩側で一段に一つづゝ一束詰めをして五つづゝ減らし、色糸に替へた所から計つて八寸編み、兩側で二段に三つの減らし方で減し、目数三十になつたら、裾と同じ色糸に取

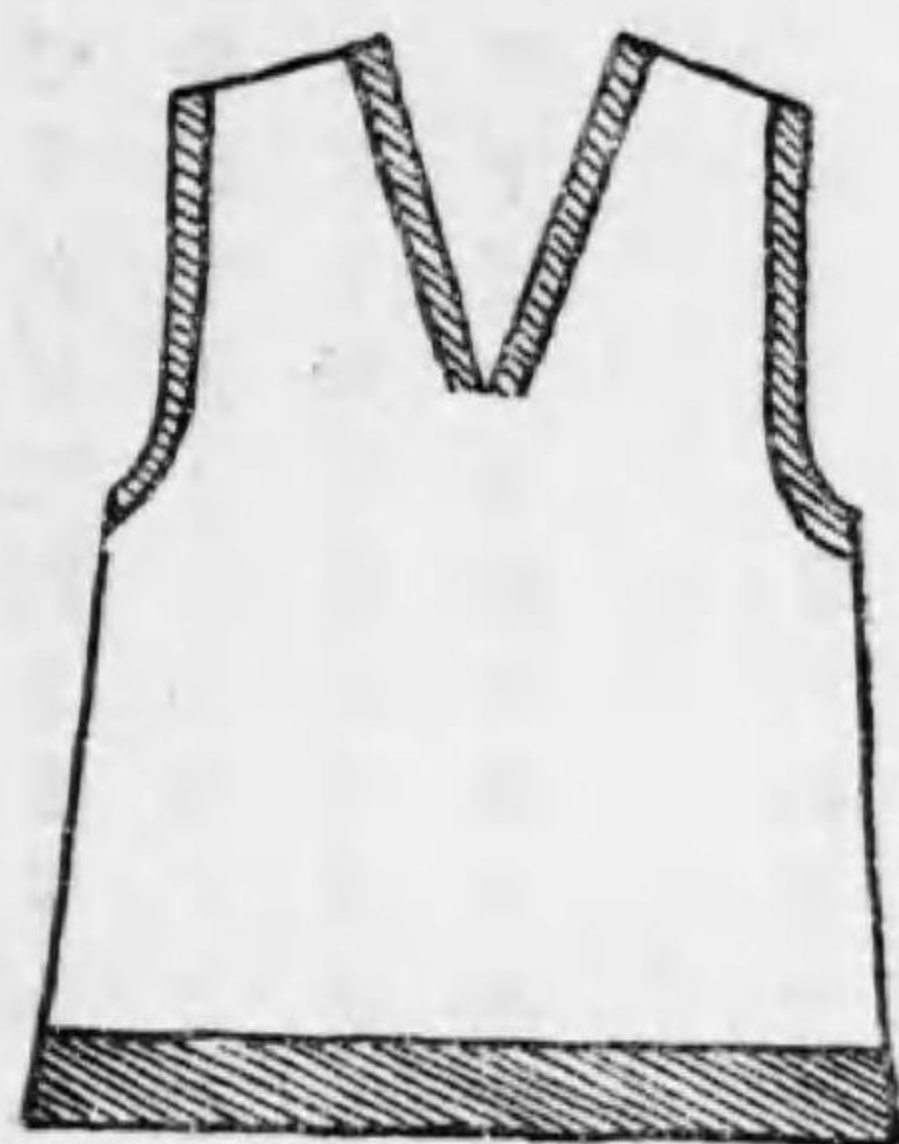
圖一十七第



り替へ、更らに二段に三つの減らし方で減らし続け、目数が二十になつたらかぶせ止めをする。第七十一圖参照。

前は後の裾と同じ色の糸で針に七十五の目をかけ、二寸平編をして、身頃と同じ色のに取り替へる。裏編五つ、表編五つの市松にして二寸編み、後と同じ様に両側で一吋毎に一つづゝ五回減らし、更らに一吋編み、後と同じ様にして、両側の目五つづゝを裾と同じ色糸に替へ、糸を替へた處だけは平編にして、其次の目を両側で一段に一つづゝの減らし方で五つづゝ減らし、猶ほ二寸市松に編み続ける。全體の目数の五十五の内、真中で一つだけ一束詰めをし、残りを二つに分け二十七づゝにする。第七十二圖の様に内側五つづゝを裾と同じ色糸に替へる。脇の方は真直ぐに編み、衿の方

圖二十七第



は衿幅の五つだけを平編にして、其次の目を二段おきに一つづゝ詰めて目數十減らす。其儘編み続け、袖のくりの處から計つて、八寸五分になるまで編み、肩の外側の方から二段に三つの減らし方で、終りまで減らしして止める。

もう片方もこれと同じに編み、後と前との両脇と肩とを縫ひ合はせる。あとから止針に裾と同じ色の糸を通して、真中に好みの模様を縫つてもよろしい。

3、別襟チョッキ (寫真47)

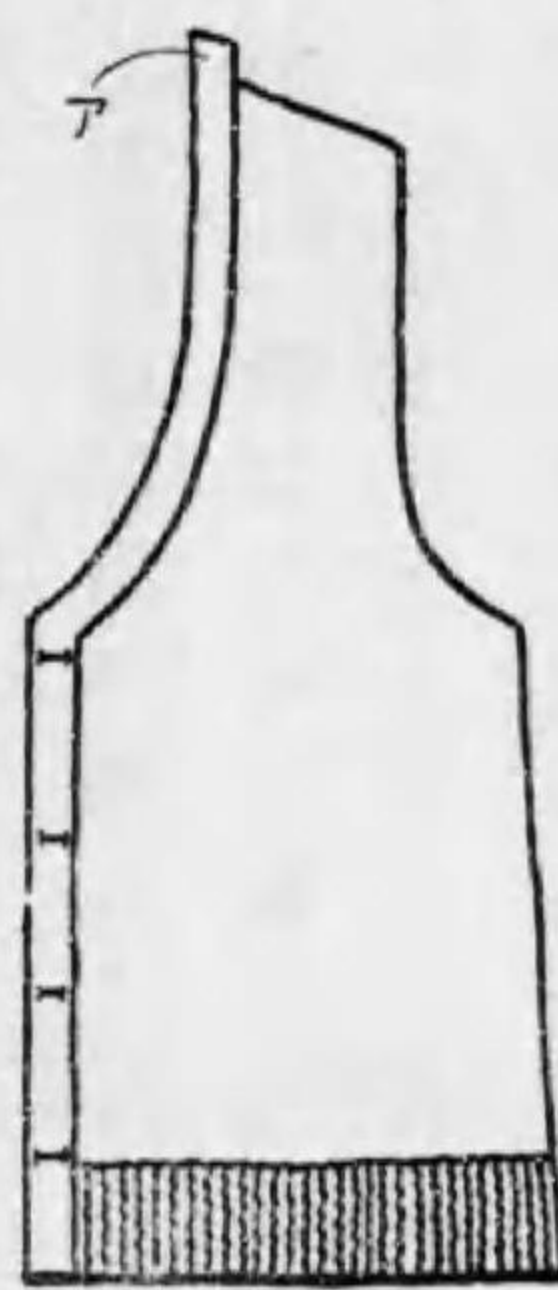
スコッチ一本にして、零番の針を用ひました。和服兼用ですから、前を少し澤山開けました。

針に百八つの目をかけ、表編と裏編と三つ互ひ違ひのゴム編を二寸編む。糸の色を替へて、一段だけ表編をし、最後だけ一束詰めをして目を一つ減らす(これは編を作る都合による)。一段目は表編五つ、裏編一つを繰り返へして、二段目は表編だけて戻る。これを繰り返へし、二寸編み、兩端で一吋毎に一つづゝ一束詰めをして五回減らす。袖のくりを兩側で二段に三つづゝの詰め方にして九つ減らし、それ

から一段おきに目一つづゝの減らし方で四つ減らす。減らし初めから計つて六寸五分の處まで真直ぐに編む。肩は両側から二段に三つの減らし方をして、真中が二十一になつたら、かぶせ止めをする。これで後身が出来ました。

前は、後の下と同じ糸で、針に六十三の目をかけ、十だけボタン臺にして平編にし、あとは表編三つ裏編三つのゴム編を二寸編む。そこから衿だけは共糸で平編にし、身の方は後身と同じ糸に替へ、後身と同じ縞編にして衿と一緒に編み續ける(糸の取り替へ方参照)。下から四寸の處まで編む。脇の方で一吋毎に一つづゝ一束詰めをして五つ目を減らし、下から九寸になるまで編む。袖のくりの處で二段で三つづゝの詰め方を三回して、一段おきに一つづゝの詰め方を四回して十三減らし、衿の方は衿幅の十だけは其儘に編み、衿の次の身の處で、二段おきに一つづゝ一

第七十三圖



束詰をして、八つ減らす。袖ぐりの減らし初めの處から計つて七寸になつたら、脇の方から二段に三つの減らし方で減らし、衿幅の十の目数になつたら第七十三圖のAの様に衿の分だけ三其儘一寸五分平編をし、其まゝにして置く。

上前の方も下前と同じ編み方にして、ボタン穴を下から三寸の處に一つ開け、それから二寸おきに一つづゝ四つ開けて編む。後前の脇と肩とを縫ひ合はせ、衿の山をわからぬ様に縫ひ合せて衿肩に縫ひ付ける。ボタン穴は共糸の絹糸であらうく穴かゞりする。下前にボタンをつける。

4、共襟チヨツキ (寫眞48)

中細の糸二本にして編みました。

針に六十九の目をかけ、シャツ編みを六寸編み、両側で糸を手前にし目を五つ一緒に編み、次の二段は減らさずに編み、其次で又糸を手前にし五つ一緒に編む。これで袖のくりが両側で十二減る。それから減らし初めた處から計つて四寸五分編み、兩端で二段に三つの減らし方で減らし、其中に二十三残つたら、かぶせ止めをする。これが後です。

前身は針に五十の目をかけ、縞市松にし六寸編む。脇の方で二段に三つの減らし方を二回して、次には一段に一つづゝの減らし方を四回して、目數十を減らし、此

の儘一寸編み、今度脇の方は其儘真直に編み続け、前の衿の方で二段に三つの減らし方を三回して、一段に一つづゝの減らし方を四回して、一段おきに一つの減らし方を三回して、針に二十五の目が残つたとき、袖のくり初から計つて、五寸三分になるまで真直に編む。脇の方から二段に三つづゝの詰め方で終りまで詰める。上前もこれと同じ編み方ですが、ボタン穴を下から三寸編んだ處へ一つあけ、それから二寸毎に一つづゝ開ける。後と前の兩脇と肩とを縫ひ合はせる。共糸で衿の廻りと袖のくりとを帽子編をする。廢物を利用して古糸二本で編みました。

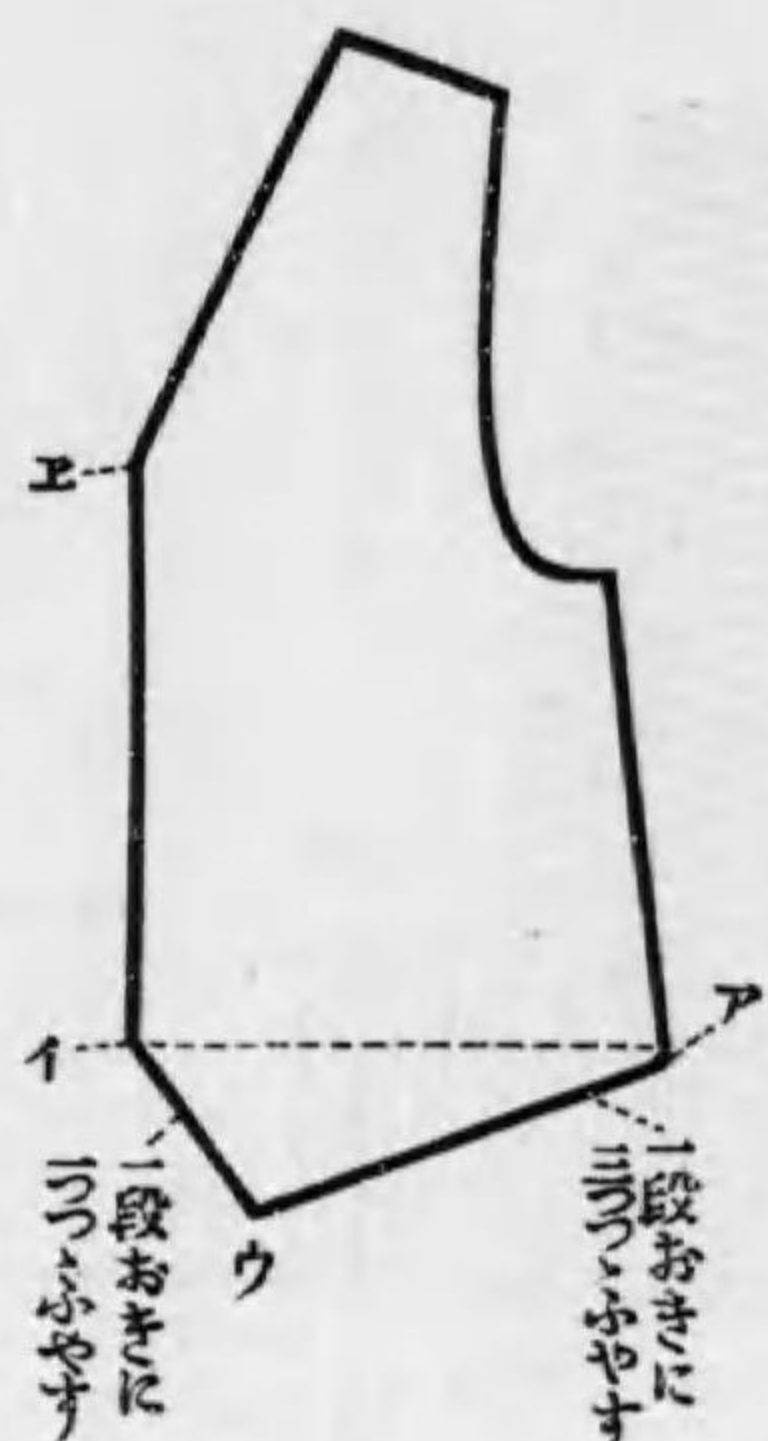
5、劔型チョッキ (寫真49)

米國製の太い糸を用ひましたので、普通よりも大きい人が用ひるのですが、目数はズット少いのです。

針に六十二の目をかけ、表編二つ、裏編二つの小さい市松を七寸編み、袖のくりを一段毎に兩側で一つづゝ七回減らし、其儘六寸編み、肩を兩側から二段に三つの減らし方で減じ、真中十六になつたらかぶせ止めをする。

前身は針に二つの目をかけ、表編をして終りに一つ目を殖やし、引つ繰り返へし一つとり、次を二つ裏編し、次に三つ目を殖やし、又引つ繰り返へし一つ取り、次に表編二つ、裏編二つ、表編一つをして一つ殖やすといふ様にし、市松を編み続けながら、前の方では一段おきに一つづゝ、脇の方では三つづゝ殖やして、四十の目にする。

第七十四圖



第七十四圖のアの處から計つて六寸になるまで其儘編む。(これはアより下につく

衿幅だけを後の脇の下から引いた寸法で

す。今衿幅を一寸としましたが、若し衿幅

を五分にしやうと思ふ様でしたら、後の脇

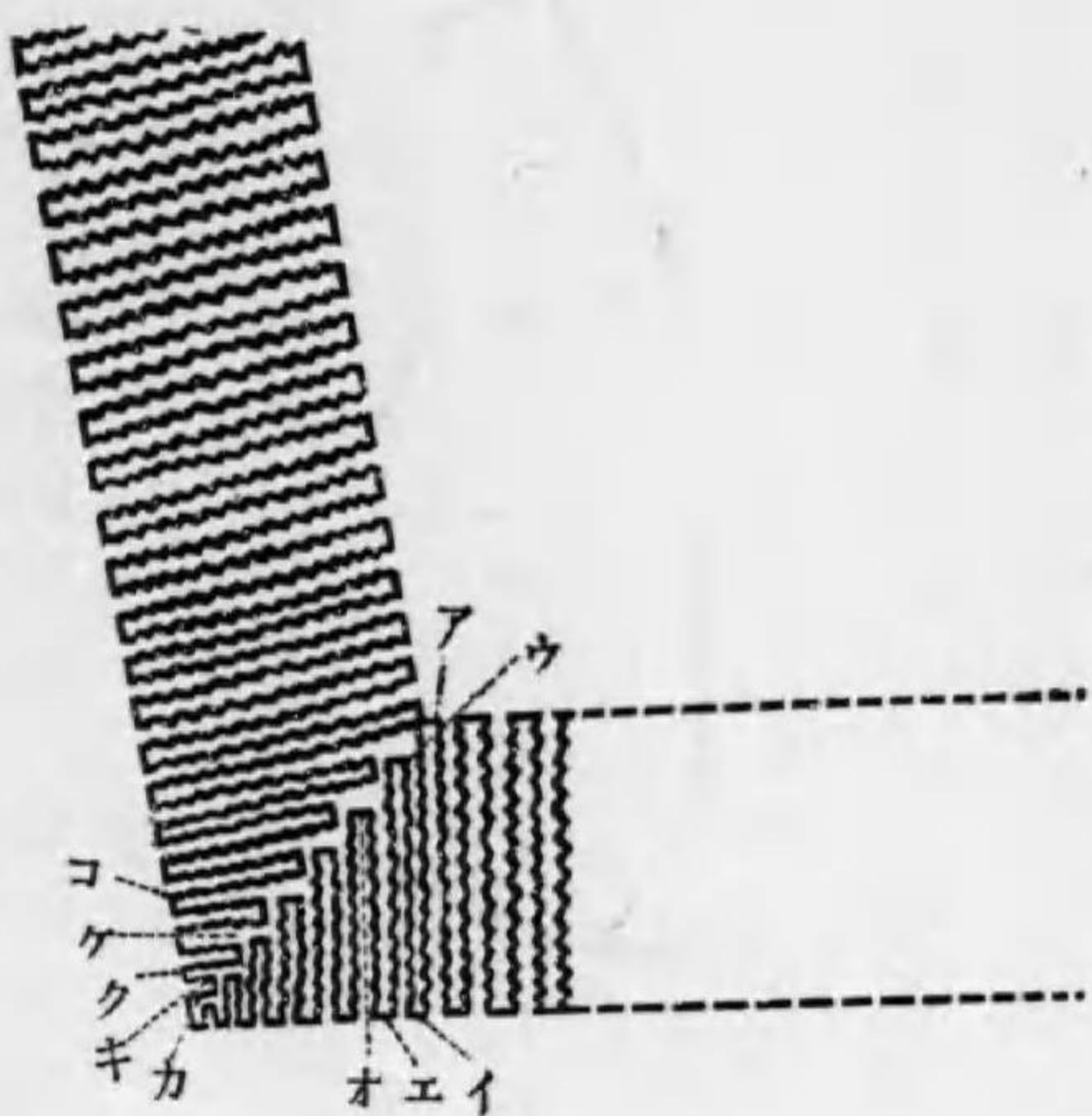
下の寸法七寸から衿幅の五分を引いた残

りの六寸五分を編めばよいのです。袖のくりで一段に一つづゝ十一減らし、其儘編み続け、前は第七十四圖のイから計つて九寸のエの處になつたら、二段おき分になつたに一つづゝ減らし、十七の目數にして其儘編む。袖のくり初めから計つて六寸五ら、肩を後と同じに二段に三つづゝ減らし、終りを止める。これと同じものをもう一枚編み、後と前とを肩で縫ひ合はせる。

第二編 七、チョッキの型の取り方及目の割り出し方

衿は針に八つの目をかけ、平編を第七十四圖のアからウまでに足りるだけの長さ
に編む。アの處まで編んで來たら、第七十五圖の様にイまで平編で引返へし、今
度はウの處まで目數七つ編み、エの處に戻り、目數六つ編んで、オから又戻る。かう

圖五十七第

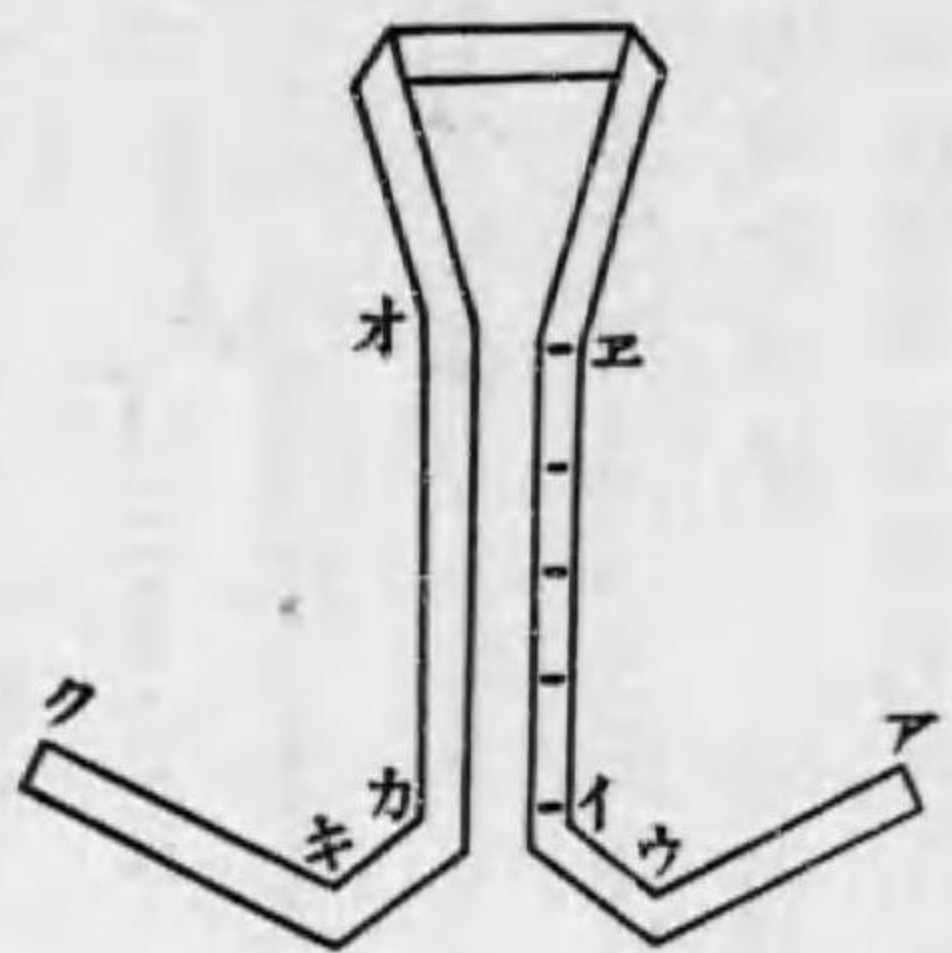


云ふ様に編む。目を一つづゝ減らしなが、
一つになるまで編み續ける。それから今
度はそれと反對に、二つ編んだキからクに
戻り、今度は三つ編んでケからコに戻り、次
は三つ編んで戻る、といふ風に一つづゝ殖
やして、アまで編んだら其儘第七十四圖の
イに足りるまで平編に編む。第七十四圖
のイの角は六つ編んで戻り、今度は四つ編
んで戻り、又二つ編んで戻り、残つた二つを
編んで戻り、四つ編んでは戻り、六つ編んでは戻り、八つになつたらボタン穴を開け、
エの處のボタン穴までの間を等分して、ボタン穴を開けながら編み續け、第七十六
圖のエからオ、オからカに足りるまで編み、カの處でイと同じ曲げ方で曲げ、キの處

ではウと同じに曲げ、脇のクに足りるまで編んで止
める。衿を縫ひ付け、後身と後身の脇を縫ひ合はせ
る。

6、婦人チョツキ

圖六十七第



婦人用も男子用も編方に變つた事はない。婦人用
は男子用に比べて、衿肩を少し大きく開ける事と、普通前を後より五分長くするの
を一寸長くして後へ少し餘計くり越す事だけで、あとは同じに編むのです。

ハ シヤツ

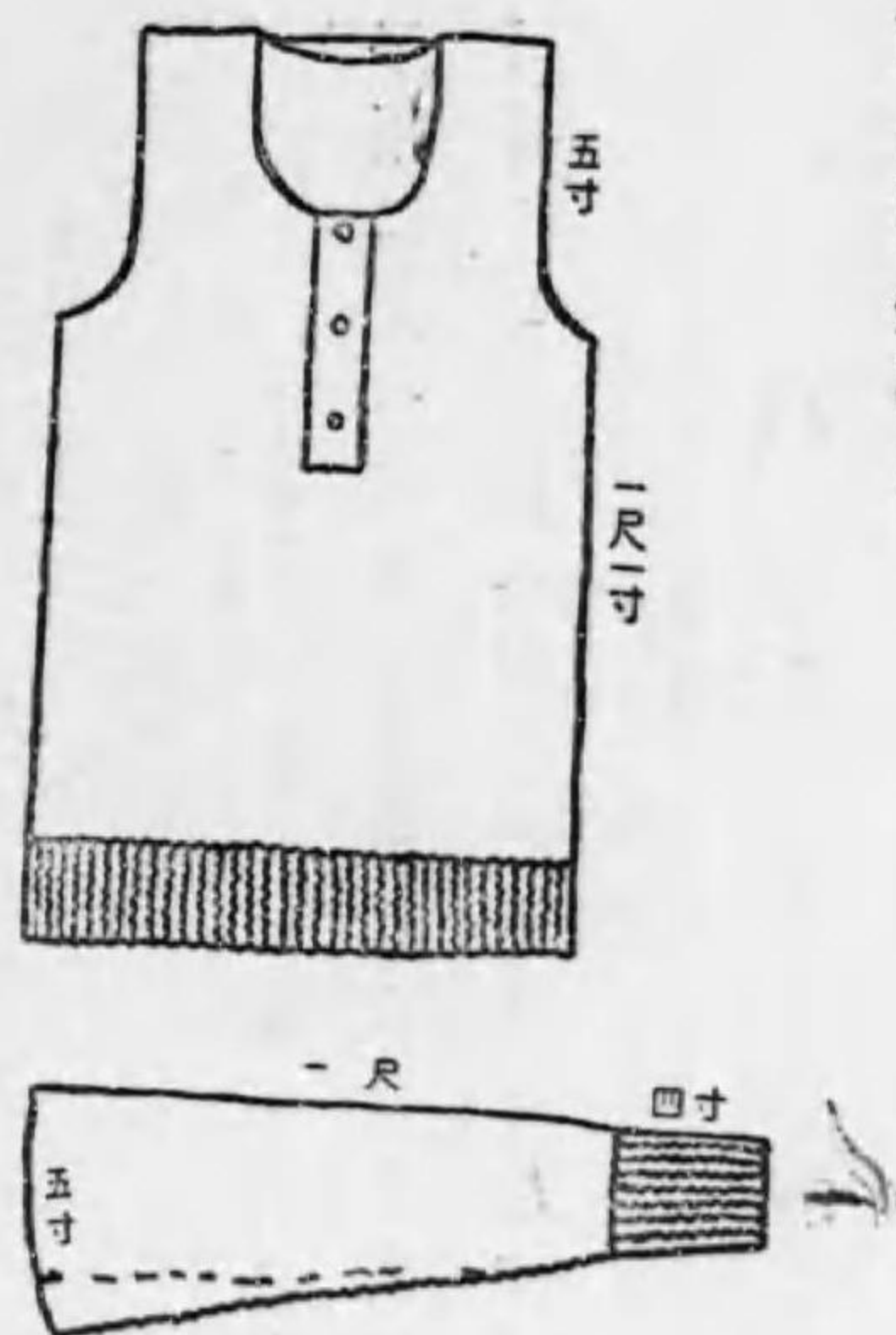
1、普通シヤツ

普通の毛糸を用ひました。

第二編 八、シヤツ

針に百の目をかけ、表編一つ裏編一つのゴム編を三寸編む。それから表編ばかりにして八寸編み、両側の袖のくりで一段に一つづゝ五回一束詰めをし、更に五寸編む。針にある九十の目数の真中二十六だけをかぶせ止めをする。此處で上前と下前とに分ける。

第七十七圖



袖のくつた處から計つて一尺五分の處まで編み、脇で一段に一つづゝ五つ目を殖やす。其儘猶ほ二寸編み續ける。これで目数は都合五十五になる。此儘にしておき上前を編む。

上前の編み方は下前と同じにして、ボタン穴を開けながら下前と同じ長さに編

先づ下前を二段だけ其儘編み、其次は内側で一段おきに一束詰めを二度して其儘五分だけ編み、内側の方で又一段おきに一つづゝ五回ふやし、其次には一段に一つづゝ五つ殖やし、今度は一度に十殖やす。最後の十の目数は平編にして、あとは前の通り表編をする。脇は後の

む。ボタン穴は、ボタン臺の平編にした處から二分下つた處で一つ開け、又一寸五分下つた處で一つ、又一寸五分下つた處で一つ開ける。上前と下前とが同じ寸法の長さに出來たら、ボタン臺の十だけを重ね合はせて一緒に表編をして、後と重ねて見て、後のゴム編の處までは表編を編み續け、ゴム編の處からは前の方も後と同じゴム編を三寸編み、かぶせ止めをする。後と前の脇を縫ひ合はせる。袖は針に五十の目をかけ、表編をして、終りに二つ目をかけて殖やし、引つくり返へし裏編をして、又終りに二つ目を殖やす。これを繰り返へし、袖を少し引つ張つて袖付けあきの大きさに合ふ様になるまで殖やし、合ふ様になつたら、輪にして五分編む。袖を輪にした時の目数を數へて置き、袖口の目数五十(大小は隨意です)を引き、残りを袖付から袖口までの間の袖下で平均に減らす。カフスは表編一つ、裏編一つのゴム編を四寸編んで止める。袖を身へ縫ひ付ける。

2、子供シャツ

子供のも大人のも編み方には少しも變りはありません。子供物は體に合はせ

て編めばよいのです。が大略の目数を表にして書きます。これは普通毛糸を標準にしました。

後目数寸法		前巾目数寸法		袖目数寸法	
一、二才	目数 六〇前後 身丈 七寸位	目数 三五前後 後 同様	袖口目数 三〇前後 袖付寸法 二寸五分位	一、二才	目数 六〇前後 身丈 七寸位
五、六才	目数 七〇前後 身丈 一尺位	目数 四〇前後 後 同様	袖口目数 三四前後 袖付寸法 三寸位	十才前後	目数 八〇前後 身丈 一尺二寸位
十才前後	目数 九〇前後 身丈 一尺四寸位	目数 四五前後 後 同様	袖口目数 四〇前後 袖付寸法 三寸五分付	十五、六才	目数 九〇前後 身丈 一尺四寸位

3、ワイシャツ (寫真50)

針に百六の目をかけ、表編一つ裏編一つのゴム編で一尺一寸編み、袖のくりを兩側で一段に一つづゝ五回減らし、其儘猶ほ五寸編み續ける。肩を兩側で二段に三つづゝ詰めて、真中に三十二残つたら、かぶせ止めをする。

下前は、針に六十五の目をかけ、片方はボタン臺の十の目数だけ平編にして、あと

は後身と同じゴム編をして一尺一寸編む。袖のくりで一段に一つづゝ七回減らし、其儘真直に編み、前の方は下から計り一尺二寸の處でボタン臺の十の目をかぶせ止めをして、それから一段に一つづゝ減らして針に三十四残るまで減らし、袖のくり初めた處から計つて、五寸五分の處まで編んだら、肩を脇の方から二段に三つづゝ詰め、終りに一つ残るまで減らして止める。

上前も下前と同じですが、ボタン穴を開ける時、上から計つて一寸五分おきに付く様に見計つて、下から編みながら開けて行く。

第七十八圖



後と兩前とが出来たら、肩と兩脇とを縫ひ合はせる。衿廻りは一本針で帽子編を二段編み、兩前と後にカラボタン穴を開け、更に二段編んで止める。ワイシャツはカラの大きさにより衿をくする時、多少手加減して一應カラの大きさに合はせる必要がありません。第七十八圖参照。

袖は針に五十の目をかけ、兩側で一段に一つづゝふやし、其幅が少し引つ張つて袖付けのあきの大きさに合ふ様になるまで殖やし、

其儘五分編む。袖の目数を數へ置き、袖口の目數五十を引き、其残りの目數を袖口までの袖行の間に等分して、兩側で一つづゝ一束詰めをする。袖口の目數五十だけを四寸平編にして止め、袖下を縫ひ合はせて、身へ縫ひ付ける。カフスは折り返へす。

九 スエーター及上着類の型の取り方と

目の割出し方

着てゐる物がその人の體に合はないで、大きかつたり、小さかつたりしますのは、誠に見悪いものです。それでは何歳の人は幾つの目にしたらよいかといふますと、それは同じ年の人でも大きい人と、小さい人とでしたら大さが大變違ひます。子供は大人よりも大小の差が多い様に思ひます。それですから何歳なら幾つの目にしたらよいかといつても、決して其人の體にしつくり合ふものではありません。それではどうしたらよいかといふと、其着る人の體の寸法を計り、其寸法通りに編む事が必要です。それではどうしたら寸法通りに編む事が出来るかといふと、編

む人の手加減を知る事が必要になります。例へば一尺のものを編むのには幾つの目にしたらよいかといふ事を、各自常に注意しておかなくてはなりません。ですから此處には手加減の事は各自の御經驗に任せる事にして、寸法の取り方と其割出し方とを申しませう。

後型の取り方

先づ第七十九圖の様に、着る人の背幅を計ります。假りに背幅が九寸あるとしたら、其九寸は自分の手では幾つの目にしたらよいかを考へます。九寸でしたら普通一本糸で九十位の目でよいと思ひます。其背幅九十に袖付のくりが、片方に十づゝとして、二十を加へます。これが脇幅になります。詰り百十です。そして下の方を広くしないのでしたら、此の百十が後幅の目數になります。もし下の廣いのがよい様でしたら、廣くし度いだけ五つでも十でも脇幅に加へればよろしいのです。それから下の方に持出しの様に、出た處があります。これは五つ位づゝ後幅より殖やします。詰り後幅が百十でしたら、百二十にして一寸程編み、兩側で五つづゝ止めて、百十にして編みます。此の持出しはスエーターを毎日着たり脱いだりしますから、後身と前身とを只だ糸で縫ひ付けただけでは弱いのです。

それ故此持出しを前身の裏にまつりつけておきますと大變丈夫です。

それで一番始めの編み出す目數(百二十)がきまりました。それで幅の方は解つたのですが、今度は身丈の割出しです。先づ衿首から好みの背丈を計ります。假りに一尺七寸の長さにし度いと思つたなら、第一に其の一尺七寸から、衿から肩までの山の高さ第七十九圖のアの處を一寸引きます(此の山の一寸は背幅を兩肩で二段に三つの減らし方をすると、八分から一寸位になるのです)。それから袖付あきの五寸をも引くと、一尺二寸になります。この一尺二寸が脇下の寸法です。

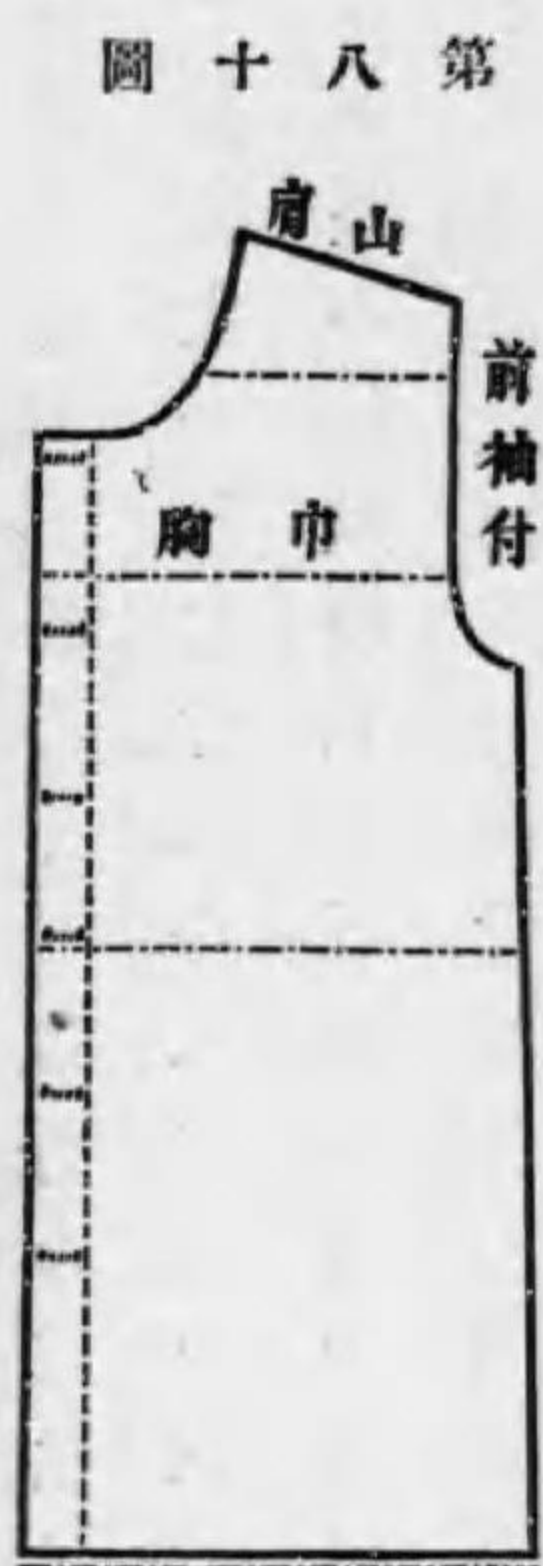


編方は針に百二十の目をかけ、一寸編んでから、片方五つづゝ止めて百十にし、下から袖のくりまで計つて、一尺二寸真直ぐに編み、此處で一段に一つづゝ一束詰めをして、片方十づゝ目を減らします。それから其儘五寸編み、肩を兩側から二段に三つづゝ減らして行きます。(二段に三つのへらし方は編み始めて、一束詰めをす。

それから次の目を編んで、前に一束詰めをした目をかぶせ、其儘編み續けて終りに一束詰めをして裏へ返へし、編み始めに一束詰めをして次の目を編んで、前に一束詰めした目をかぶせ、其儘編み續け、編み終りに一束詰めをします。斯うして兩側で二段に三つづゝずんぐゝ減らしますと、第七十九圖の肩山の通りに山形になります。そして真中が背幅九十の三分の一の三十になつたら、かぶせ止めをします。これで後が出来ました。衿肩の大きさは背巾の三分の一でよろしいのです。

前型の取り方

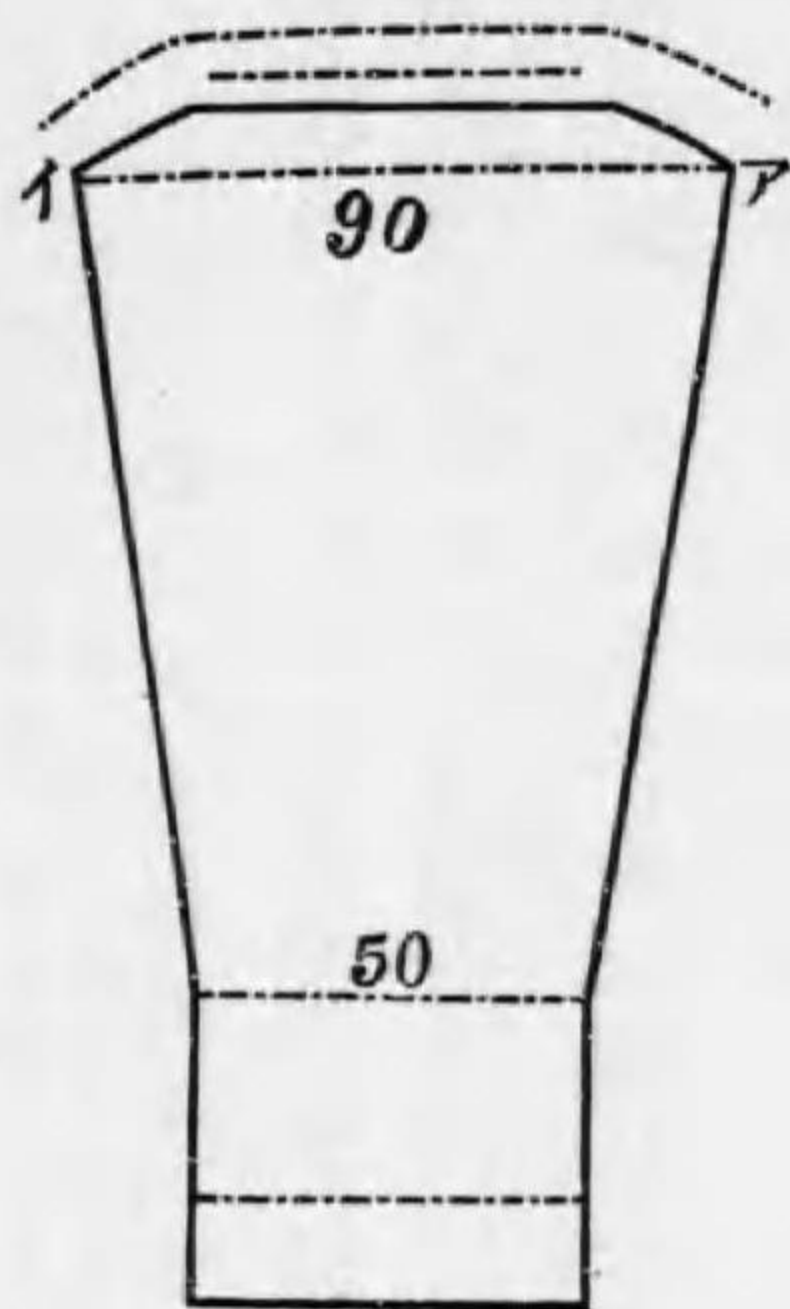
前型の割り出しは、大體後幅の半分の目にボタン臺の分十位多くすればよいのです。別衿の時はボタン臺の十は多くする必要ありません。それで後幅が百十でしたから、前幅は其の半分の五十五とボタン臺になる十を加へて六十五にします。先づ初めに其六十五の目を針にかけ、ボタン臺はいつも必ず平編(真直ぐに



袖のくりまで一尺二寸編み、袖で後と同じ様にして目數十くりますと、五十五の目になり、脇の方は後の袖付あき五寸に五分加へた五寸五分の所まで真直ぐに編

み續けます。前のくりは好みにより一定しません。が、假りに五寸下げるとしますと、後身丈一尺七寸から五寸引いた一尺二寸編んでから減し初めます。くる目数は胸幅の目数の五十五から、後の肩山の三十の目より二つ多い卅二の目を引いた廿三の目数だけを四寸五分の間に等分に減らしながら編み續けます。そして袖付の方が五寸五分になりましたら、肩を脇の方から二段に三つの減らし方で終りまで減らします。上前も下前も編方は同様ですが、上前にはボタン穴を開けます。

圖一十八第



袖は針に六十の目をかけて一段編み、終りに二つ目をかけて殖やし、引つくり返へして二段目を編み、又終りに二つ目をかけて殖やします。これを繰り返へし、兩側で一段おきに二つづゝ殖やし、第八十一圖のAからイまでの幅(さし渡でない)が、身頃の袖付けの廻りに足りる(假りに九十)まで殖やして、其儘五分編みます。袖口の目数をきめます。假りに袖口目数が五十としますと、袖幅の九十から五十を引いた四十を兩側で二つづゝ減らす事になります。そして減らす時には袖行の間で等分に減らします。

假りに袖行一尺とすれば、五分おきに兩側で一つづゝ減らす事になります。かうして兩側でへらし、袖行だけになりましたら、カフスの分を編みます。袖の編み初めの目は、袖口と同じかそれより少し多い位でよいのです。衿は形により一定しませんから實物に當つて申します。

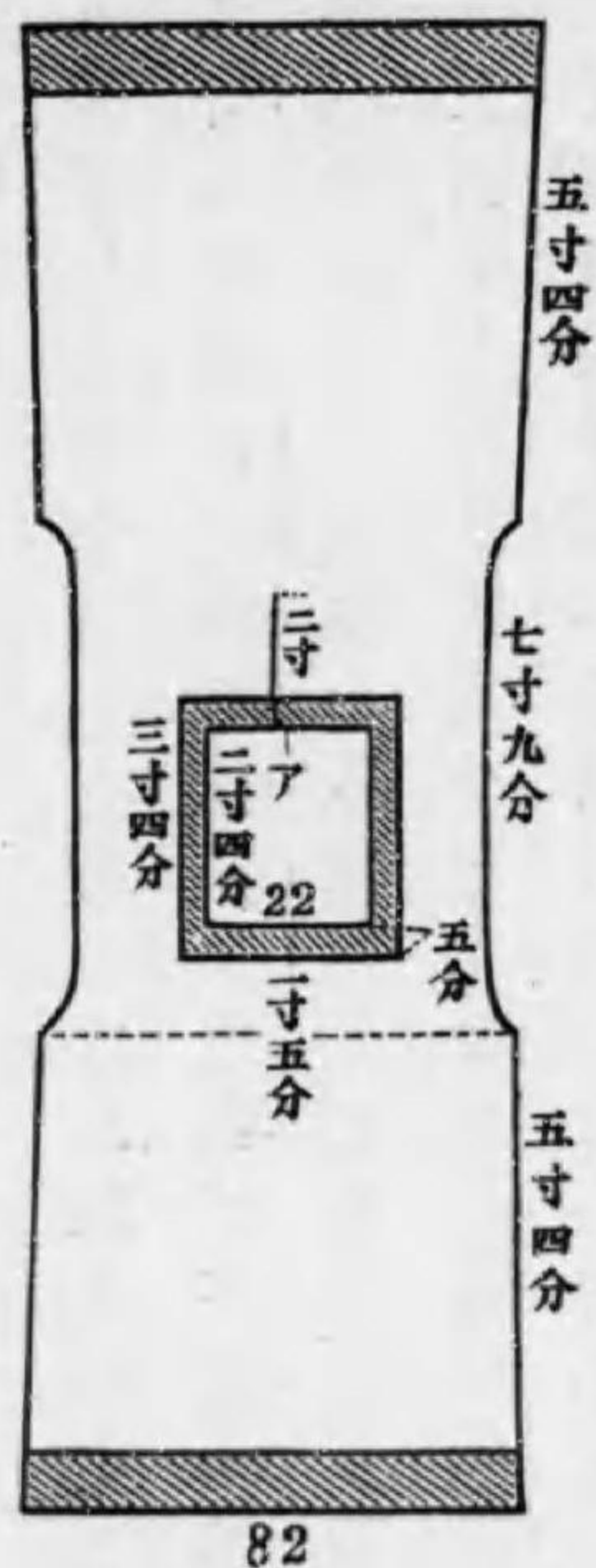
1. 袖なし上着 (寫真51)

針に八十の目かけ、平編を一寸編む。色糸に取り替へてから、表編二つ、裏編二つの小さい市松を一寸二分編み、今度は表編一つ、裏編六つの縞編を一寸編む。此の小さい市松と縞編とを繰り返へして、下から五寸四分編む。兩側で一段に一つづゝの減らし方で十一づゝ目を減

らす。

減らし初めた處から計つて一寸五分の處まで編み、真中の目数三十二だけ色糸に替へる。替へた糸の處だけを平編にして五分

圖二十八第



第二編 九、スエーター及上着類の型の取り方と目の割出し方

編み、真中の目数二十二だけをかぶせ止めする。右と左と別々に編む。内側の方目数五つだけは色糸にして、身の方は地色の糸にし、縞も前と同じにして、下から計つて九寸八分編んでから、内側を色糸で目数十四殖やして五分編み、全部地色系に取り替へ、更らに二寸編み其儘にして置き、もう片方もこれと同じに編み、前に残した方と上前を上を目数六つを重ねて一緒に編み続け、両側で一段に一つづゝ十一殖やして五寸四分編み、色糸に替へて一寸平編して止める。両脇を縫ひ合はせる。アの處に押ホックを付ける。脇の模様が前と後と合ふ様に注意して編む。

2. 赤ん坊スエーター (寫真52)

針に五十六の目をかけ、平編を一寸二分編む。一段目裏編六つ、表編四つを繰り返へし、二段目には全部表編で戻る。此れを繰り返へし、下から計つて真直ぐに四寸編み、此所から袖をも一緒に編む。袖は一段毎に両側で五つづゝ五回目を殖やし、目数二十五殖えるまで前と同じ縞を作りながら編む。目を殖やし初めた處から計つて、二寸七分の處まで其儘編み続ける。真中の目を十二だけかぶせ止め

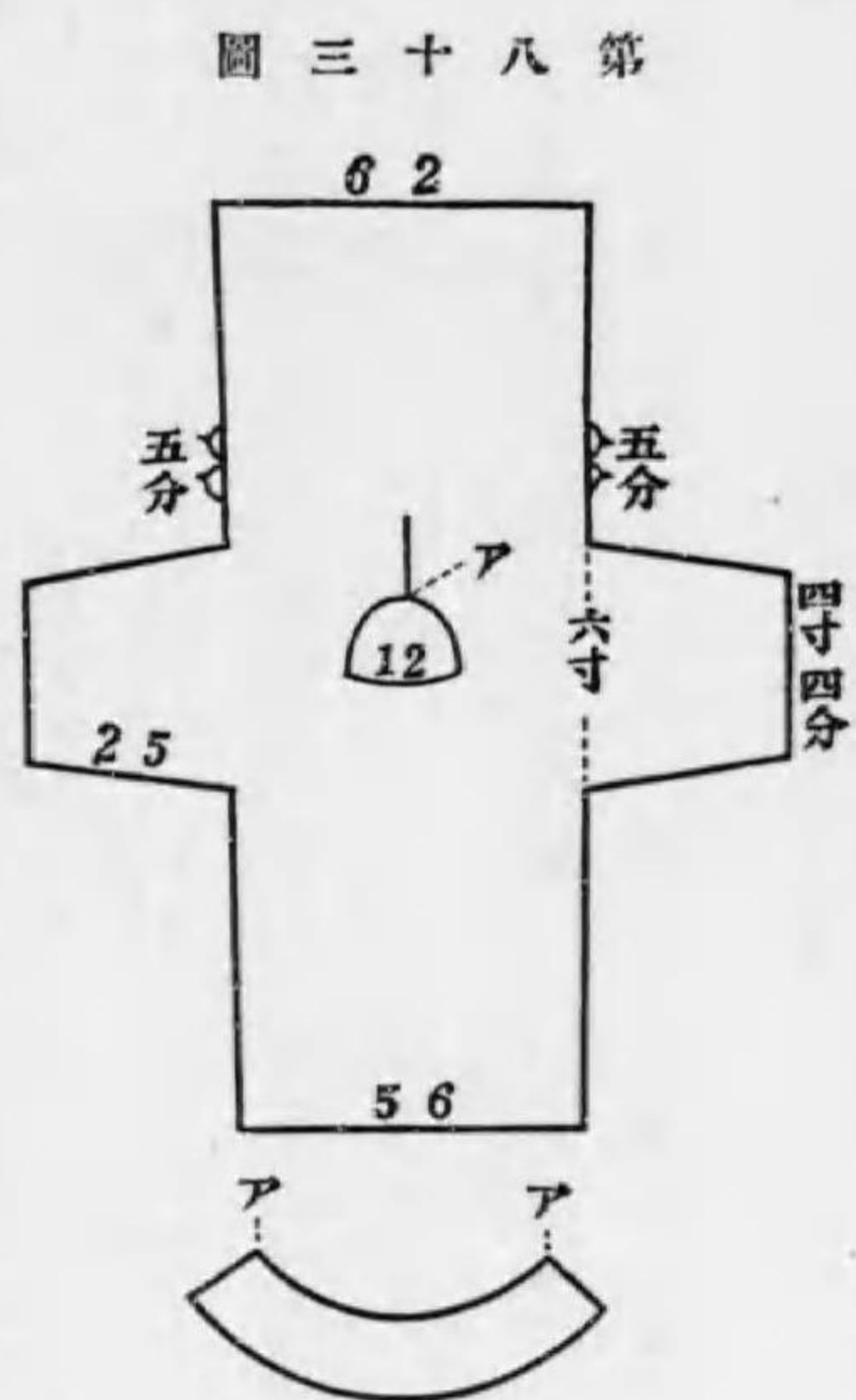
をする。こゝから半身づゝ編む。袖口の方は其儘編みつづける。首廻は、かぶせ止めをした處から一段おいて一度だけ一束詰めをして、其儘三分編み、今度は二段あきの一つづゝ八回、目を殖やして、更に其儘編み続ける。袖の方は、袖口が四寸四分になつたら、一段に五つづゝかぶせ止めをして、袖の二十五だけ減らし、第八十三

圖のアの處から計つて、前あき一寸の處まで編む。

もう片前も是れと同じに編み、真中で二つの目だけ重ね合はせ一緒に五分編んだら、両側で一つづゝ殖やし、又五分編んで殖し、両側六十四になるまで殖やす。そして袖付けから計つて三寸になつた

ら、平編一寸二分編んで止める。両脇も袖下も縫ひ合はせる。

カラーは針に五十の目をかけ、平編を五分編み、一段に一つづゝ所々で目を殖やし、二寸五分になつたら、ゆるくかぶせ止めをする。カラーの編み初めの方の真中と、身の方の背の真中とを合はせ、カラーの端と前身の端のアとを合はせて縫ひ付



圖三十八第

ける。

カフスは針に三十四の目をかけ、表編一つ、裏編一つのゴム編にして三寸編んだら止める。これを袖口に縫ひ付ける。これで出来上りました。

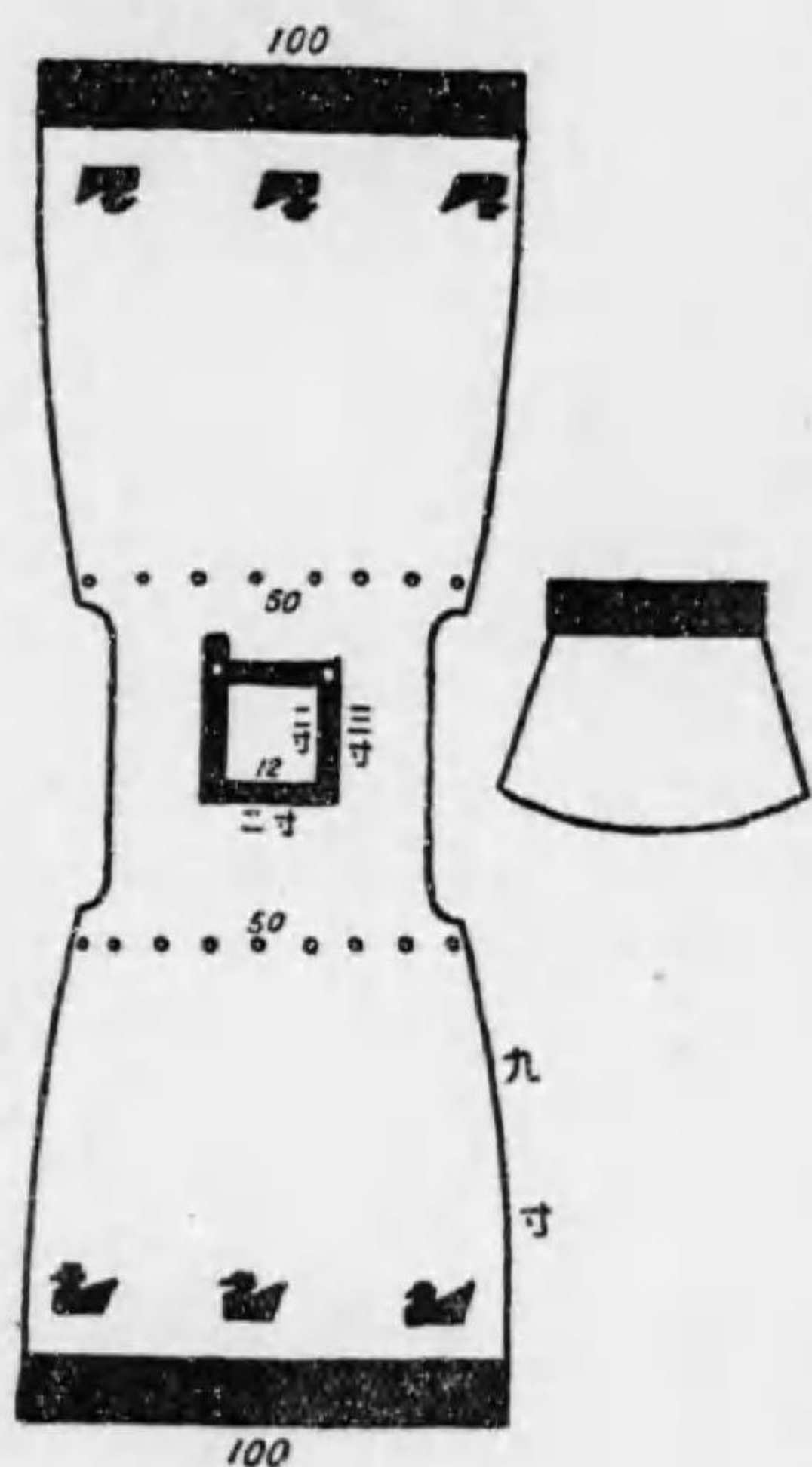
3、子供上着 (寫真53)

後は、針に百の目をかけ、平編を一寸五分編み、糸を取り替へて、平編を八分編む。目數十六編んで、裾と同じ色の糸で「あひる」の模様を入れ初める(模様の入れ方は第四十圖参照)。模様と模様との間、目數二十三編んで又模様を入れ、又二十三編んで模様を入れて残り編む。模様が出来たら、其儘下から計つて、九寸の處まで平編をする。次には一束詰めをくりかへし、全體の目數を五十にする。次の段には全部表編で戻る。次の段では、糸を手前にして一束詰めを繰り返へし、小さな紐通しの穴を作り、次の段では全部表編で戻る。更らに平編を一寸編み、一段に一つづゝ五回して、兩側五つづゝ減らし、其儘平編を二寸編み續ける。そして次の段で、初め九つ編んでから、裾と同じ色の糸に取り替へて目數二十二編み、地色の糸をつない

で九つ編む。これをくりかへして六段編む。真中を目數十二だけかぶせ止めをして、右と左とを別々に編む。

下前は、飾糸の方五つと地色系の方九つとを平編にして三寸五分編む。上前も

第 八 十 四 圖



て下前と上前とを五つ重ね合はせ平編二段をする。兩側で一段に一つづゝ五回殖やす。糸を手前にして二つ一緒に編む。これをくりかへし、次の段には表編をして戻り、其の次には表編を一つ編んで、目をひろつて一つ殖やす。これを繰り返へして倍の目數にする。平編を五寸七分編み「あひる」を頭の方から編む。模様が

第二編 九、スエーター及上着類の型の取り方と目の割出し方

出来たら、八分編み、飾糸に取り替へて一寸五分編んで止める。兩脇を縫ひ合はせる。

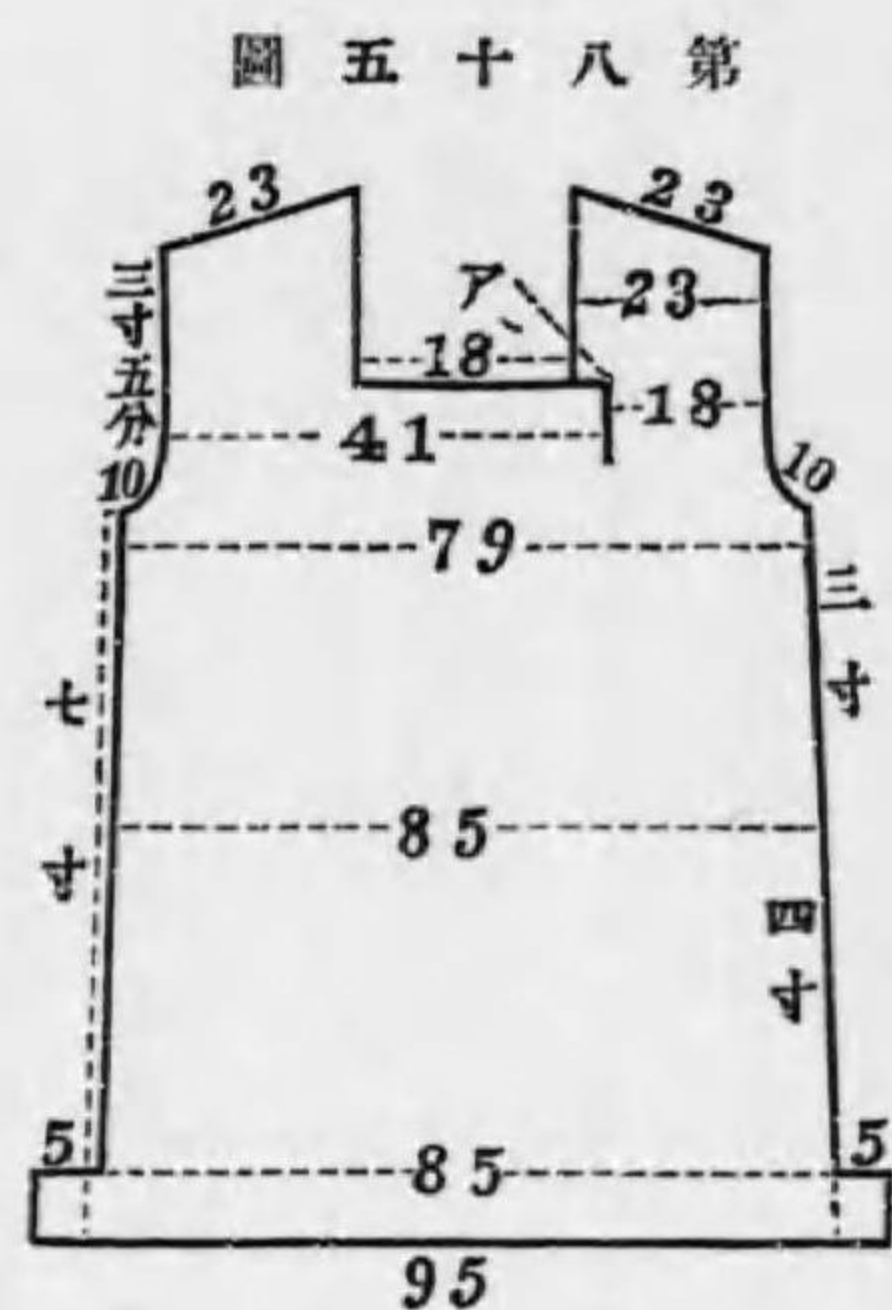
袖は、針に三十五の目をかけ、平編にして兩側で一段に一つづゝ殖やし、全體が四十九になつたら、其儘五分編み、兩方で一つづゝ一束詰めをする。五分おきに兩側で一つづゝ減らして三十九になつたら、飾糸に取り替へてカフスを一寸編んで止め、袖下を縫ひ合はせて身頃に縫ひ付ける。

別に飾糸三本で鎖編の紐を四尺編み、胴の穴に通し、兩端に房を付け、後に結んで下げる。

4、角衿上着 (寫真54)

後は、針に七十七の目をかけ、一段目には表編五つ、裏編四つを繰り返へし、二段目には表編ばかりで戻る。これをくりかへし八段編み、九段目に表編のところを捻る。この繩編を七寸編み、兩側で一段に一つづゝ九回減らし、更らに三寸編み、肩を兩側で二段に三つづゝの減らし方で、真中が十九になるまで減らし、かぶせ止めをする。(繩編は見本説明参照)

前は、針に九十五の目をかけ、後と同じに繩編を一寸編み、兩方で五つづゝかぶせ止めをして、其儘下から計り四寸の處まで編み、兩側一寸毎に一つづゝ三回減らし、下から計り七寸になるまで編み、袖のくりの處で、一段に一つづゝの減らし方で兩側十づゝ減らす。目數十八は下前として、其儘におき、残りの四十一だけを五分繩



編にしてから、分けた目から數へて目數二十二だけ平編にし、あとは繩編にして五分編む。平編の處目數十八をかぶせ止めをして、残りは繩編を續け、袖付けのくり始めから計つて三寸五分になつたら、肩を外脇の方から二段に三つづゝ減らし、一つになつたら止める。下前は上前の裏から五つ目を拾ひ、二十三の目にして繩編を編み、袖付けのくりの處から計つて三寸五分になつたら、脇の方から二段に三つの減らし方で一つになるまで減らして止める。後と前の肩と兩脇を縫ひ合はせる。第八十五圖のアの處に押ホックを付ける。

袖は、針に四十の目をかけ、兩側で一段おきに二つづゝ目を殖やしながら繩編を

して、目数六十六になつたら、其儘五分編む。五分毎に両側で一束詰めをして、目数四十になつたら、更らに五分編み、輪にして表編一つ、裏編一つのゴム編を三寸五分編んで止め、袖下を縫ひ合はせる。袖下の縫目と脇の縫目とを合はせ、袖を縫ひ付ける。

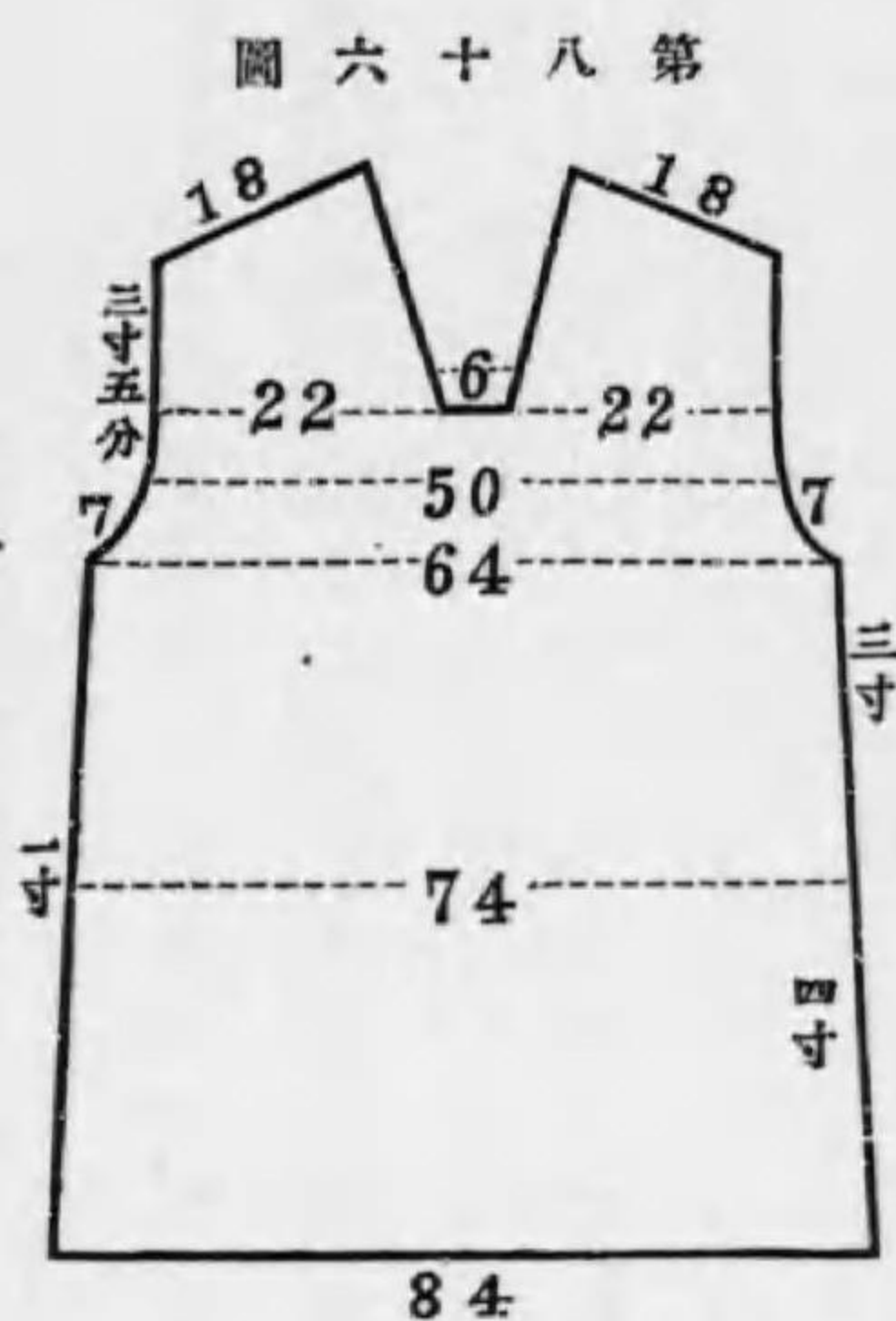
5、水兵型上着(男女児用) (一、寫真55)

和製スコッチ二本で編みました。

針に八十の目をかけ、一寸三分平編をして、両側で五つづゝかぶせ止めをし、一段目には表編七つ、裏編二つをくり返へし、二段目には表編ばかりで戻る。以上をくり返へして、下から計り四寸の處にまで編み、両側で一寸毎に一つづゝ一束詰めをして、目数六十四になつたら、更らに一寸編む。袖のくりて両側一段に一つづゝの減らし方で七回づゝ減らし、其儘三寸編み、肩は両側から二段で三つの減らし方にして、真中が十六になるまで減してかぶせ止めをする。

前は、針に七十四の目をかけ、平編を一寸三分編む。一段目は裏編二つ、表編七つ

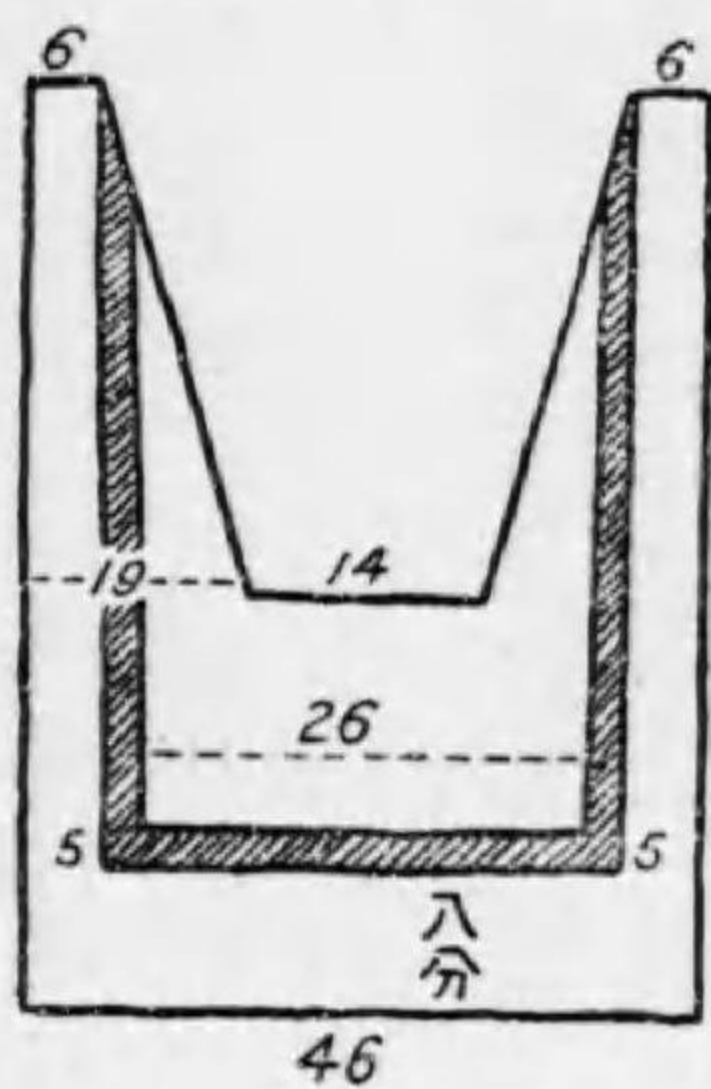
をくり返へし、其の次の段には表編で戻る。これをくり返へし、下から計つて四寸のところまで編んだら、両側で六分毎に一束詰めをして、五つづゝ目を減らし、更らに六分編み、袖のくりで両側一段に一つづゝ七回減らし、其のまゝ五分編む。真中の目数六つをかぶせ止めをして右と左とを別々に編む。衿付けになる方は五分



毎に一つづゝ四回一束詰めをする。袖付けの方は袖のくりの減らし始めから計つて、三寸五分になつたら、外側から二段に三つづゝ減らし、残り一つになつたら止める。もう片方も此と同じに編む。後身と前身の両肩と両脇を縫ひ合はせる。

袖は、針に三十六の目をかけ、身と同じ編を編みながら、両側で一段に一つづゝふやし、六十の目になつたら五分編み、両側で五分毎に一つづゝ詰めて、三十六の目になつたら飾り糸に替へ、輪にして表編一つ、裏編一つのゴム編を三寸五分編んで止め、袖下を縫ひ合はせ袖をつける。衿はカフスと同じ糸で、針に四十六の目をかけ、平編を八分して、両側で五つづゝを共糸にし、中

第 七 十 八 圖



の目数三十六は身頃と同じ糸に替へ、五分編んでから、第八十七圖の様に、中の目数二十六だけ地色糸にし、下から計つて三寸五分編む。真中十四だけかぶせ止めをして、右と左とを別々に編む。外側は真直に編み、内側で二段おきに一束詰めをくり返へし、針に目数六つ残つたら止める。もう片方もこれと同じに編む。衿の中央と身の衿の中央とを合はせ、衿を縫ひ付ける。

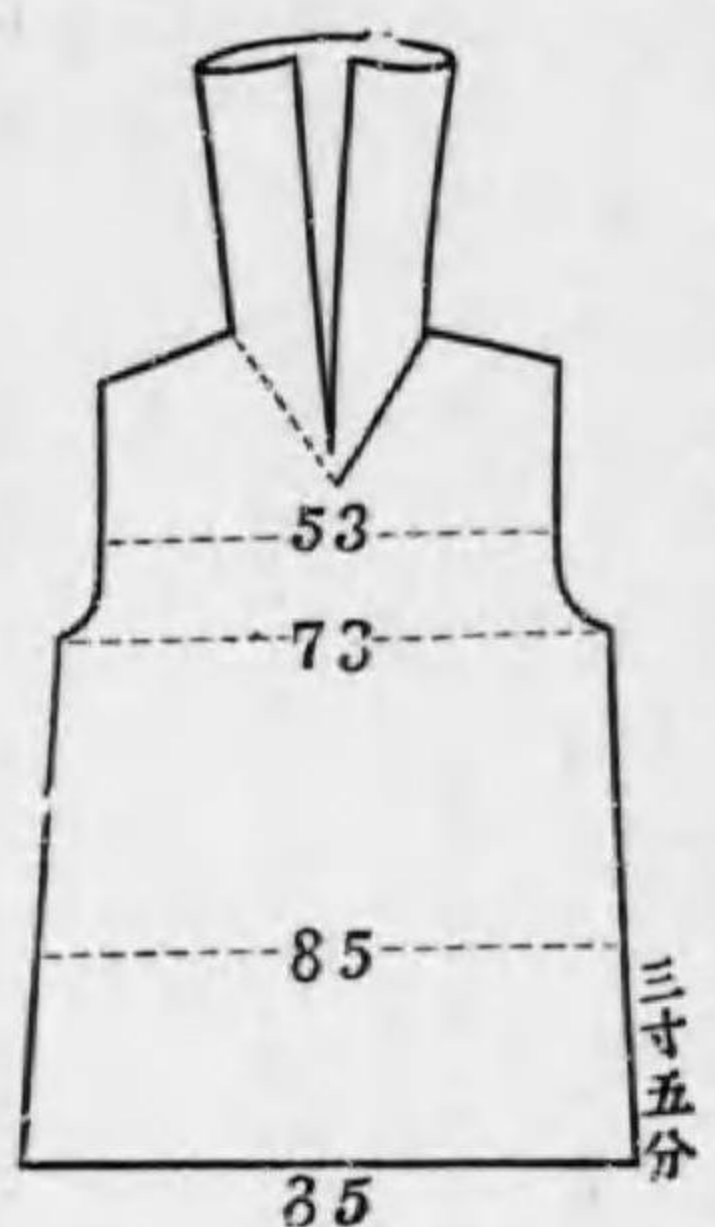
6. 水兵型上着(男女兒用) (二、寫眞56)

米國製スコッチで編みました。

後は、針に八十五の目をかけ、平編を一寸五分編み、兩側で五つづゝかぶせ止めをする。次は一段目表編六つ、裏編五つ、表編十一、裏編五つ、表編十一といふ風に、裏編五つと表編十一とだけを繰り返へす。二段目は全部表編で戻り、三段目は裏編五つ、表編十一をくり返へし、四段目は全部表編で戻る。以上を繰り返へし、下から計

つて三寸五分の處まで編み、兩側で八分毎に一つづゝ一束詰めをして五回減らし、更らに一寸編む。袖のくりを一段に一つづゝの減らし方で、兩側六つづゝ減らし、猶ほ其儘二寸五分編む。肩は兩側で二段に三つづゝの減らし方で十九になるまで減らし、止めずに其儘にしておく。

第 八 十 八 圖



前は、針に八十五の目をかけ、一寸五分平編をして、一段目は表編十一、裏編五つをくりかへし、二段目は表編で戻り、三段目は表編五つ、裏編五つ、表編十一をして、あとは裏編五つ、表編十一だけをくり返へし、四段目は全部表編で戻る。此

をくり返へし、下から計り三寸五分の處まで編み、兩側で七分毎に一つづゝ一束詰めをして六つづゝ減らし、更らに五分編む。袖のくりを兩側で一段に一つづゝ五回減らし、更ら一寸編んで二つに分け、右の二十六は其儘にしておき、左の二十七は其儘三段編み、分け目の方を目数十一は平編にし、縞編は二段おきに一目づゝ平編に直す。二段おきに場所を替へて、中途で一つづゝ六つ殖す。肩は、袖付の方が脇のくりから計つて三寸五分になつたら、脇の方から二段三つづゝの減らし方で

十八だけ減らし、其儘にしておく。今度は残しておいた二十六と、左の前の分け目の裏から一つ拾つて、左と同じ二十七にして左前と同じに編む。

両前が出来たら、後身と前身との肩と脇とを縫ひ合はせる。後身の衿肩の目と、両前の衿の目とを合はせ、三寸平編をして止める。(これが後に折り返へる)

×袖は、針に三十二の目をかけ、身と同じ縞を編みながら、両側で一段に一つづゝ、殖やし、六十の目になつたら、五分毎に両側で一つづゝ減らし、目数四十にする。輪にして表編一つ、裏編一つのゴム編にして三寸五分編んで止める。袖下を縫ひ合はせ、身片につける。

ポケットは、針に十六の目をかけ、縞を合はせて二寸五分編んで止め、身頃と縞を合はせてまつりつける。

バンドは、針に十五の目をかけ、一尺三寸平編をして止め、後より前に廻はし、両脇の縫ひ目の處へ、幅二分、長さ二寸のバンド止めをつけ、バンドを此バンド止めの内へ通し、前のポケットの上で飾りボタンにて止める。

7. 水兵型上着(男女兒用) (三、寫真57)

針に七十六の目をかけ、平編を一寸五分編み、両側で五つづゝかぶせ止めをして更らに五分編み、かすり編にして七寸編む。袖のくりを両側で一段に一つづゝ一束詰めをして七つづゝ減らし、更らに袖のくり始めから計つて三寸五分になるまで編み、肩は両側から二段に三つづゝの減し方で、減らして、真中が二十になつたらかぶせ止めをする。



下前は、針に四十五の目をかけ、一寸五分平編をし、前の方をボタン臺として目数九つだけは平編にし、残り三十二の目をかすり編にし、下から計つて八寸五分になつたら、袖のくり七つを一段に一つづゝ減らし、更に一寸編

む。脇の方は其儘真直ぐに編み續け前は二段おきに一つづゝ一束詰めをして、目数二十になるまで減らし、袖のくりから計つて、四寸になつたら肩を脇の方から二段で三つの減らし方で減らし、終り一つになつたら止める。上前は下から一寸五分編んだ處にボタン穴を開け、それから上二寸毎にボタン穴を開けながら下前と同じ様に編む。

袖は、針に四十の目をかけ、緋編にしながら、両側で一段毎に一つづゝ目を殖やし、七十五の目数になつたら、其儘五分編み、両側で五分毎に一つづゝ減らし、四十の目数になつたら、輪にして表編一つ、裏編一つのゴム編を四寸編む。袖下を縫ひ合はせて身に袖をつける。

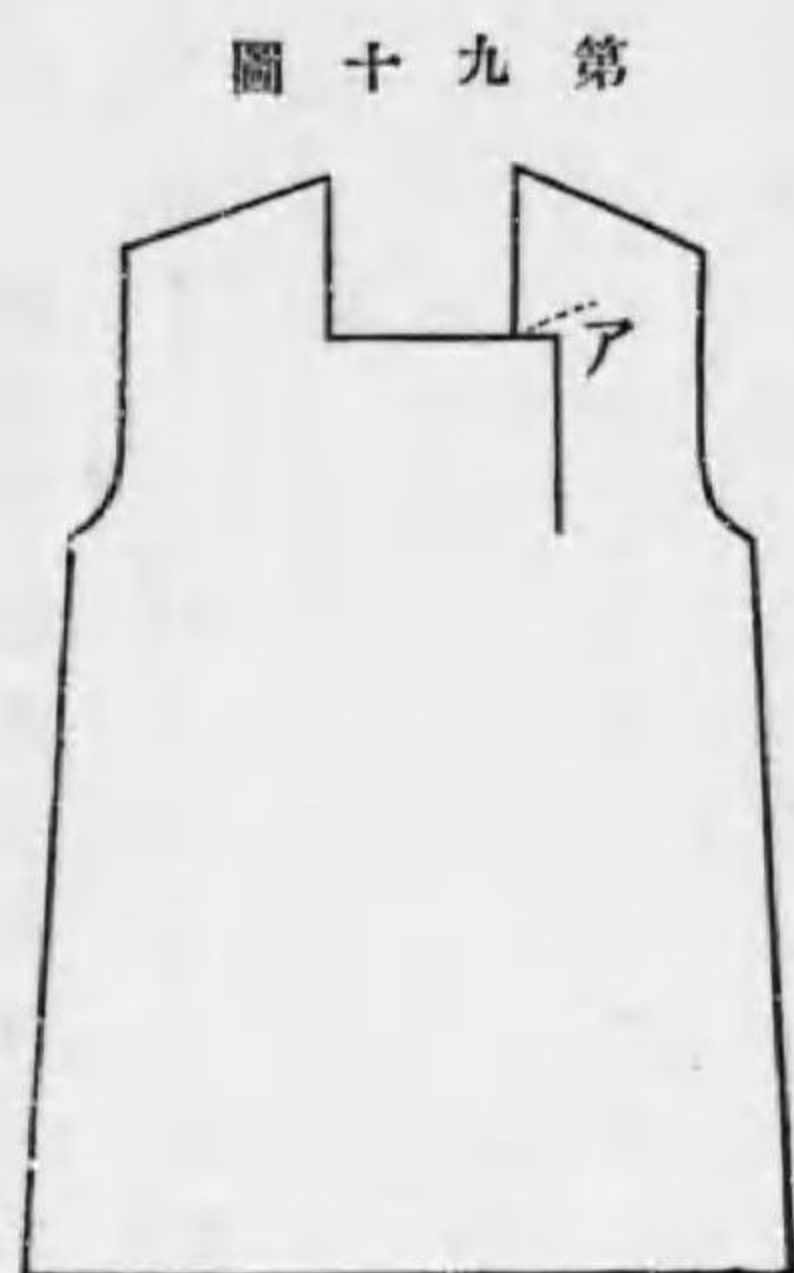
カラーは、針に五十の目をかけ、其儘三寸編み、真中十六の目をかぶせ止めして、片方づゝ編む。外側は真直ぐに編み続け、内側は二段あきに一つづゝ減らして終りまで編んで止め、もう片方も同じに編む。衿の真中と身頃の衿肩の真中とを合せて縫ひ付ける。

8、水兵型上着(男女兒用) (四、寫真58)

後は、針に九十三の目をかけ、一段目は表編九つ、裏編一つ、表編一つ、裏編一つをくり返へし、二段目は全部表編で戻り、これを繰り返して一寸編み、両側で六つづゝかぶせ止めをし、下から計つて九寸の處まで編み、袖のくりを両側で一段に一つづゝのへらし方で七回づゝ減らし、更らに三寸編み、肩を二段で三つづゝ減らし、真中

に二十一になつたらかぶせ止めをする。

前は、針に九十三の目をかけ、一段目には表編六つ編む。其次からは裏編一つ、表編一つ、裏編一つ、表編六つを繰り返へし、二段目には全部表編で戻り。これをくり返へし、下から計つて、四寸の處を、端から目数九つ編んでから、ポ

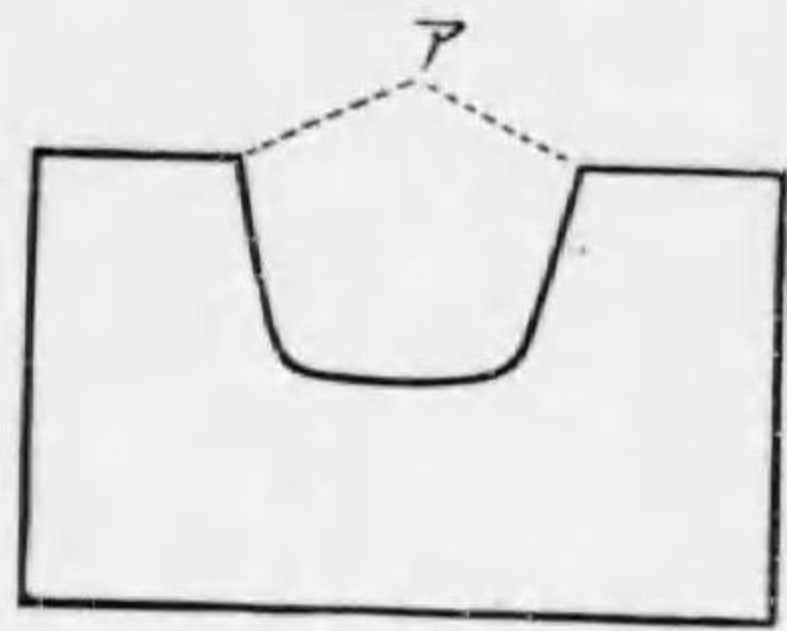


ケットの分二十五をかぶせ止めをする。又次の目二十五編んでからポケットの分目数二十五をかぶせ止めをして終りまで編みつゝける。次の段で、止めたポケット穴の處へ二十五の目をかけ、前と同じに縞を合せて編み続け、下から六寸の處まで編み、一寸毎に一つづゝ、両側で三つづゝ詰め、

更らに一寸編む。上前(女兒のは右が上前)と下前に分け、上前の四十二を、前は其儘真直に編み続け、袖の方はくりを一段に一つづゝ十減らし、下から計つて一尺五分の處まで來たら、前の方から目数十九だけかぶせ止めをして、其儘二寸編み、肩脇の方から二段に三つづゝ減らして終りを止める。下前の方は、二十三の目と、上着の内側から五つの目を拾ひ二十八にして其まゝに編みつゝけ、袖のくりは一段に一

つづきの減し方で十へらし、更に編み続ける。上前第九十圖のアの處まで來たら、拾つた五つの目だけかぶせ止めをして其まゝ二寸編み、肩は二段に三つづきの減らし方で肩脇の方から減らし、目がなくなつたら止める。肩と脇を縫ひ合はせる、袖は針に三十三の目をかけ、一段目は裏編一つ、表編一つ、裏編一つ、表編一つ、裏編一つ、表編九つをくりかへし、兩側で一段に一つづきふやし、目數七十(袖付の廻りに足りるだけ)になつたら、其儘五分編み、兩側で五分毎に一つづき一束詰めをして、四十の目になつたら、其儘五分編んで輪にする。表編一つ、裏編一つのゴム編を三寸五分編んで止め、袖下を縫ひ合はせ、身頃に縫ひ付ける。

第九十圖



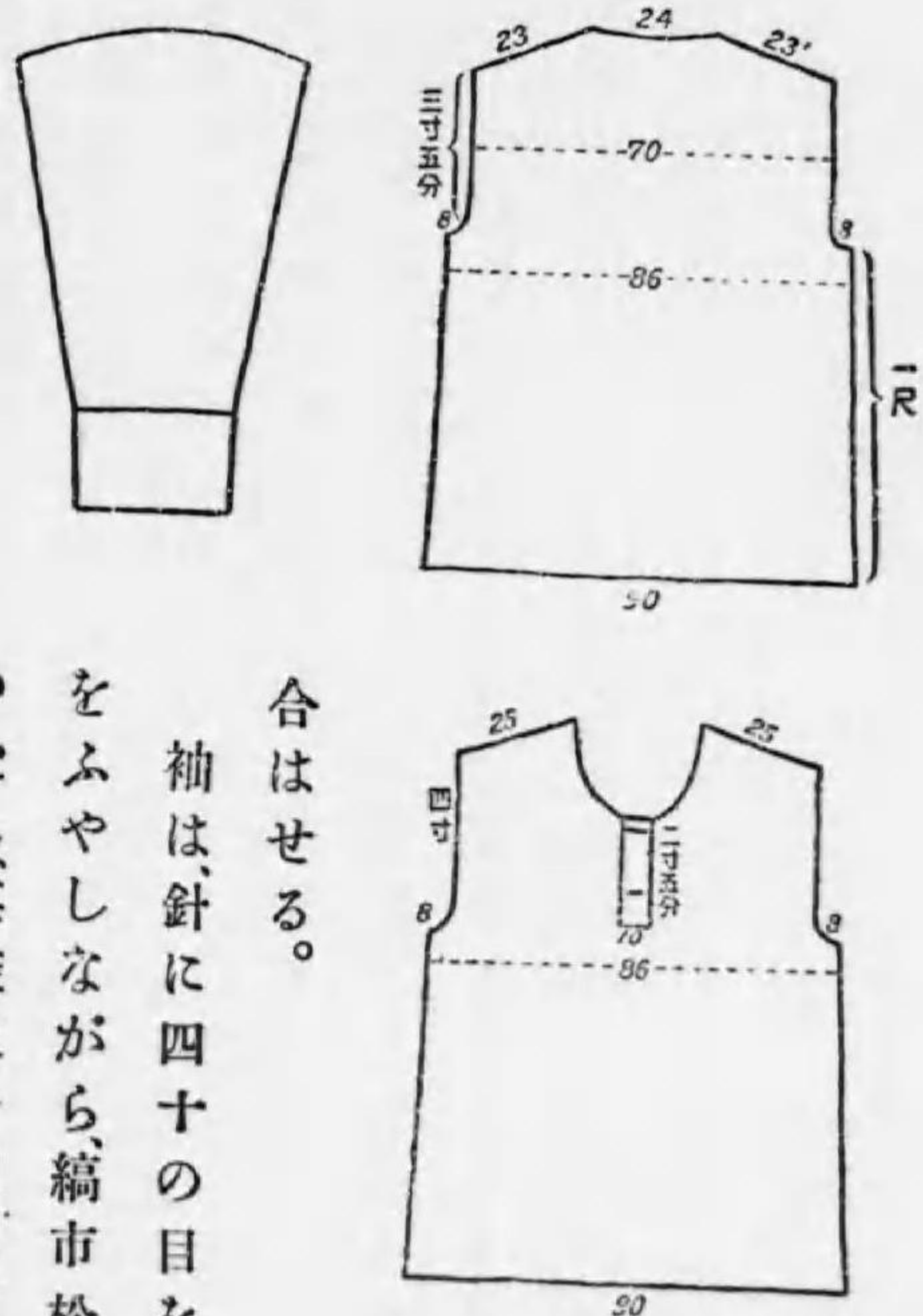
カラーは針に六十の目をかけ、其儘三寸の處まで編んだら、真中二十だけかぶせ止めをし片方づゝ編む。脇は其儘編み、内側は一段おきに一つづき詰め、二寸五分編んでかぶせ止めする。もう片方も同じに編み、衿肩を合はせて縫ひ付ける。衿の角のアの處へ玉をつける。玉は帽子編で小さい袋を作り、中に少し綿を入れ、終りを鎖編にしてカラーの兩方のアの處に一つづき下げる。

9、丸衿上着(男女兒用) (一、寫真59)

後は、針に九十の目をかけ、一寸五分平編をしてから縞市松にする。下から計つて一尺編む。袖のくりを兩側で一段に一つづきのへらし方で十づゝ減らす。袖のくりの減らし始めから計つて三寸五分まで編み、肩を兩側から二段に三つづき減らし、真中二十四になつたらかぶせ止めをする。

前は、針に九十の目をかけ、一寸五分平編してから縞市松に編み、下から計つて一尺の處まで真直ぐに編み、袖のくりを兩側で一段に一つづきのへらし方で十づゝ減らす。此所から上前と下前とに分けて編む。下前の分三十は其儘針に残し、上前の分四十だけを編む。初めのボタン臺目數十だけは平編にして、残り三十は前と同じ縞市松で編み続ける。二つに分けてから五分編み、平編にした處にボタン穴を開け、一寸八分編んでから、又一つボタン穴を開けて、更らに二分編み、脇は其儘真直ぐに編み続け、前は二段に三つづきの減らし方を二回と、一段に一つづきの減らし方を五回、一段おきに一つづきの減らし方を四回すると、目數は二十五になる。袖のくり始めから四寸の處まで編んだら、肩を二段に三つの減らし方で、脇の方か

圖二十九第



合はせる。

ら減らして、目が一つになつたら止める。下前は上前の裏側から十の目を拾つて、上前と同じく四十の目にし、ボタン穴だけ開けずに上前と同じに編む。両前が出来たら脇と肩を縫ひ

袖は、針に四十の目をかけ、両側で一段に一つづゝ目をふやしながらか、縞市松を編み続け、目数が七十六になつたら、其儘五分編み、両側で一つづゝ一束詰めする。

両側で五分毎に一つづゝ詰め、目数四十になつたら輪にして、表編一つ、裏編一つのゴム編を四寸編んで止める。袖下を縫ひ合はせ袖をつける。

カラーは、首廻はりに足りるだけの目数を針にかけ、平編を五分編み、一段に一つづゝ處々で殖やしながらか二寸五分編んで止める。衿の真中と編初めとを身の方の衿付に合はせて縫ひ付ける。

10、丸衿上着(男女兒用) (二、寫真60)

後は、針に九十の目をかけ、平編を一寸して、両側で五つづゝかぶせ止めをし、更に一寸編む。一段目は裏編五つ、表編十五をくり返へし、二段目は全部表編で戻る。三段目は表編十五、裏編五つをくり返へす。四段目は全部表編で戻る。以上をくり返へし、下から計つて七寸の處まで編み、両側で一寸毎に一つづゝ三回減らし、更に一寸編む。袖のくりで、両側一段に一つづゝ八回減らし、残りの六十の目を袖の減らし初めから計つて四寸の處まで編む。肩を両側から二段に三つづゝ減らし、真中二十になつたらかぶせ止めをする。

前は、針に五十三の目をかけ、平編を二寸編み、表編十五、裏編五つをくり返し、終り八つはボタン臺としていつも平編する。二段目は全部表編にて戻り、三段目は裏編五つ、表編十五をくり返へして、四段目は全部表編で戻る。以上を繰り返へし、下から計つて五寸の處まで編み、脇の方で一寸毎に一段に一つづゝ五回減らし、更に一寸編む。袖のくりを一段に一つづゝ十減らし、其儘編み続け、前の方は下から計つて一尺二寸の處まで編んだら、一段おきに一つづゝ目数二十二になるまでへ

らし、袖のくり始めから計つて四寸五分編み、肩で脇の方から二段で三つづゝ終りまで減らす。上前もこれと同じ編み方にして下から三寸の處にボタン穴を開け、それから上は二寸二分毎にボタン穴を開けながら編む。

袖は、針に五十の目をかけ、縞を作りながら両側で一段に一つづゝ殖やし、七十になつたら、其儘五分編む。両側で八分毎に一つづゝ詰め、四十の目になつたら平編を四寸編んで止め、袖下を縫ひ合はせ、袖をつける。カフスは折りかへす。

衿は、二十五の目をかけ、平編を首廻はりの長さに足りるだけ編む。外側になる方だけは始めの目を毎段取らずに普通に編む。内側の方を衿に付ける。

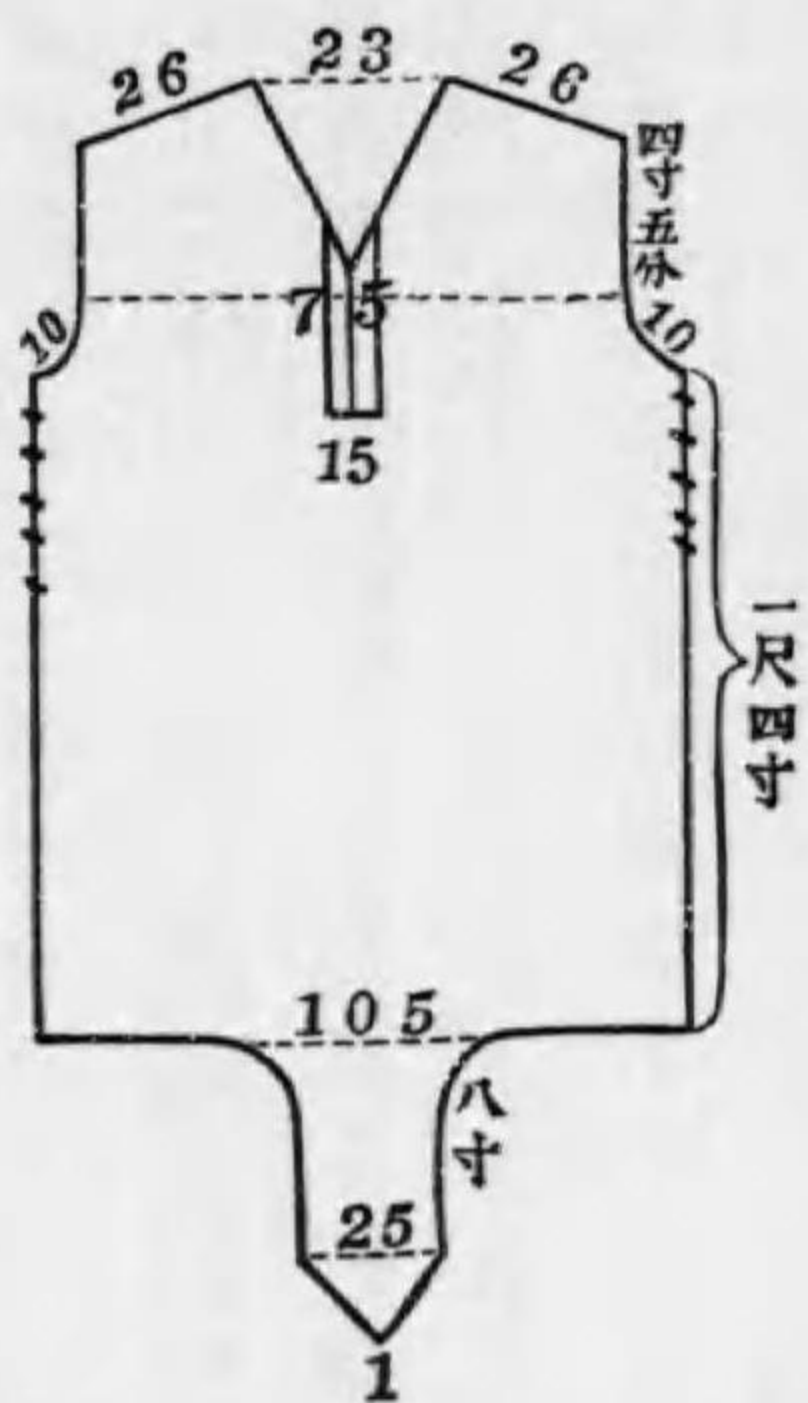
11. 女子上着 (一、寫真61)

後は、針に八十七の目をかけ、平編を四寸編んで、表編三つ、裏編九つを繰り返へして一段編む、三段目は表編で戻る。此のかすり編を五寸編んで、両側で一吋毎に一つづゝ五回減らし、下から計り一尺四寸の處まで編む。袖のくりを両側で一段に一つづゝ七回減らし、更らに四寸編む。肩を両側から二段に三つづゝ減らして、真

中二十一残つたらかぶせ止めをする。

前は、針に一つ目をかけ、両側で一段に一つづゝ目を殖やし、二十五の目数になつたら、更らに八寸編む。片側で三十二殖やし、表編で戻り、終りに又三十四殖やす。此處から平編四寸編む。裏編九つ、表編三つを繰り返へして一段編み、二段目は表

第九十三圖



編で戻る。これを繰り返へし五寸編む。両側で一吋毎に一つづゝ五回減らし、全體の目数を半分にして右と左とを別々に編む。内側で目数五つだけを平編にして五分毎に小さいボタン穴を開け、あとは緋編を續け一寸編み、前は其まゝに編み、外側

は袖のくりを一段に一つづゝ十へらして編み續け、二寸の處で前を二段おきの一つづゝ詰め、二十六になつたら、袖のくり初めから計つて四寸五分まで編み、肩を脇の方から二段に三つづゝ減らし、終りを止める。もう片方も是れと同じに編む。後と前の肩と脇とを縫ひ合はせる。

バンドは、針に二十五の目をかけ、平編を胸廻はりに足りるだけの長さに編んで

輪にする。此のバンドを輪にした儘、スエーターの裾から六寸の處に止め、裾を全體二寸五分折り上げて止める。前身の細長い所はバンドの下から通うしてバンドの上に折り曲げ飾りボタンで止める。

袖は、針に六十の目をかけ、兩側で一段に一つづゝ殖やし、八十の目数になつたら五分毎に兩側で一つづゝ減らし、五十になつたら平編四寸編んでかぶせ止めをする。袖下を縫ひ、身頃に縫ひ付ける。

衿は、針に六十の目をかけ、平編を四寸編み、真中で二十の目をかぶせ止めをして、右と左とを別々に編む。外側はその儘に編み、内側は一段おきに一つづゝ詰め、一つになつたら止める。もう片方も同じに編んで、身の衿廻はりに縫ひ付ける。毛糸二本で鎖編の紐を編み前のボタン穴に通うして房をつけと結ぶ。

12、女子上着 (二、寫真62)

後は、針に百の目をかけ、平編を三寸編み、兩側で五つづゝかぶせ止めをする。矢羽根編して八寸編み、袖のくりを兩側で一段に一つづゝ十回減らし、更らに四寸編み、肩を兩側で二段に三つづゝ減らし、目数二十四になつたら、其儘にして置く。

前は、針に五十六の目をかけ、平編を三寸編み、前の方目数十はボタン臺として平編をし、残り四十六は矢羽根編にして、下から計り一尺一寸編む。脇の方は袖のくりを一段に一つづゝ十回減らし、前は二段おきに一つづゝ三つ殖やしてから第九十四圖の點線の處の矢羽根編を一段に一つづゝ目数十一だけをボタン臺と同じ平編にする。(第九十四圖の點線の右は平編です。脇は袖の減らし初めから計つて、四寸五分になつたら、肩の方から二段に三つづゝ二十五だけ減らす。もう片方もこれと同じに編む。

第九十四圖



衿を折り、此處の兩前へ一つづゝボタンをつける。横後へも一つづゝボタンを付ける。

バンドは、針に二つ目をかけ、兩側で一段に一つづゝ殖やしながら平編にし、目数二十になつたらボタン穴を開け、七寸編んでボタン穴を開け、三寸編んで又穴を開

け、七寸編んで又ボタン穴を開け、兩側で一段に一つづゝ減らし、目數二つになつたら止める。これを前のボタンと横後のボタンとに止める。

袖は、針に五十の目をかけ、平編を四寸編んでから矢羽根編にし、八分毎に兩側で一つづゝ殖やし、八十の目になつたら其儘五分編み、兩側で一段に一つづゝ減らし、目數五十になつたら止め、袖下を縫ひ合はせ身頃につける。

13、女兒上着 (寫真64)

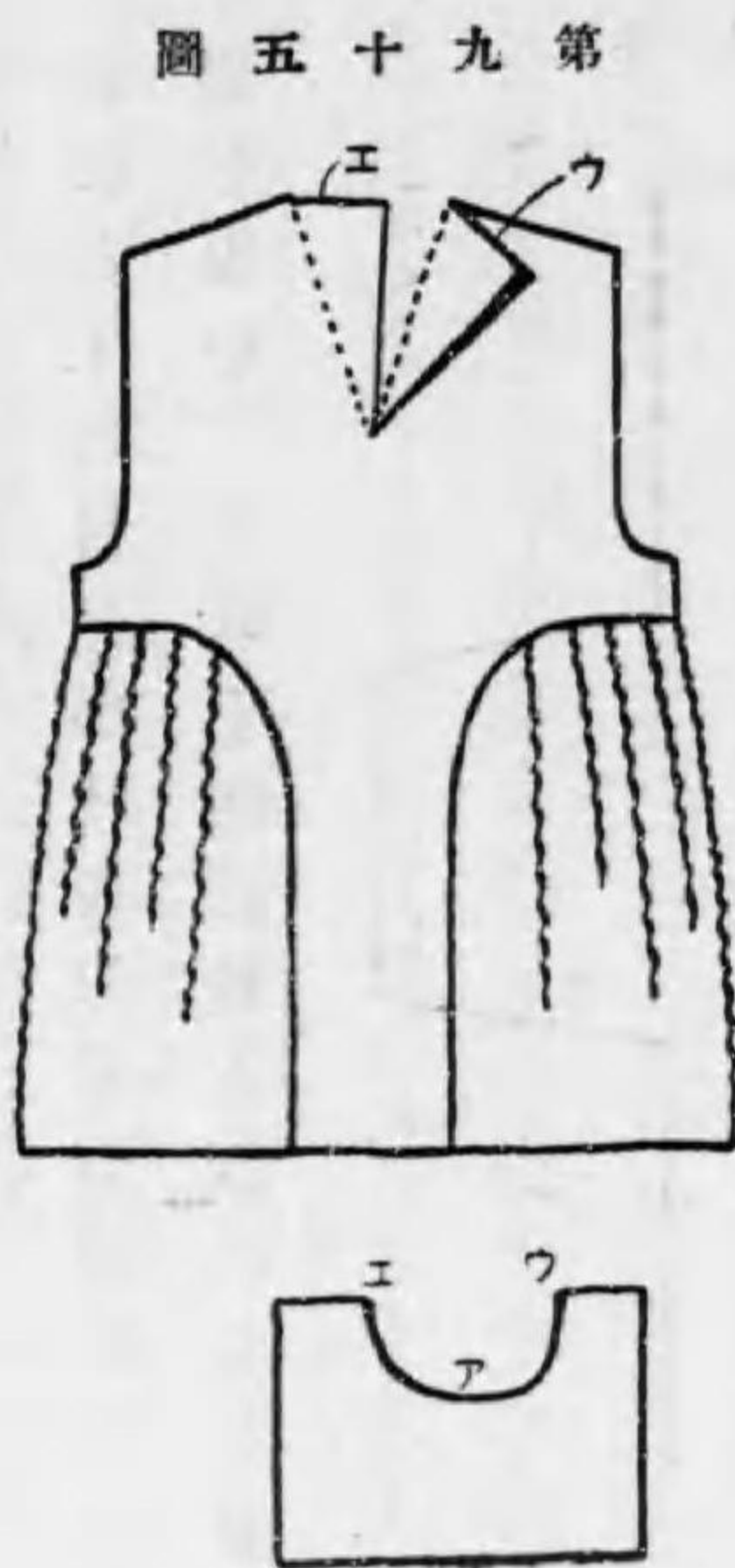
針に百二十六の目をかけ、平編を一寸編んで、真中三十の目だけ平編を三段編み左を長平編で終りまで編み、平編で戻り、真中の三十を編んで左へ長平編で終りまで編み、平編で戻り、又真中の三十の目を三段平編をして、兩側で長平編をする。これをくり返へし、下から計つて八寸編み、兩方の長平編の處を全部一束詰めして、目數半分の二十四づゝとし、真中の三十と合はせて七十八にする。更らに一寸編む。袖のくりを一段に一つづゝ目數八つづゝ減らし、更らに三寸編み、肩から二段に三つづゝ減らし、目數二十残つたらかぶせ止めをする。

前も後と同じ様にして袖のくりまでを編む。くりも後と同じに入つづゝ減ら

し、真中から二つに分け、別々に編む。脇は其儘に編み續け、前は點線の處で一段おきに一つづゝ十一殖やし、袖のくりから計つて三寸五分編んだら肩を二段に三つづゝ減らし、残り二十になつたらかぶせ止めをする。もう片方も同じに編む。前と後との肩と脇を縫ひ合はせる。(薄いものゝ縫合せ方参照)

のウと同じ様に合はせて縫ひ付ける。

袖は、針に四十の目をかけ、兩側で一段に一つづゝ殖やしながら平編をする。目數七十になつたら其儘五分編み、兩側で五分毎に一つづゝ四十になるまで減らし、更らに三寸編む。糸を手前にして二つ一緒に表編する。之を繰返へし、次の段か



衿は、針に六十の目をかけ、平編を三寸編み、真中二十をかぶせ止めをして半分づゝ編む。外側は真直ぐに編み、内側は一段に一つづゝ十減らして止める。もう片方も同じに編む。衿の真中アと衿の真中とを合はせ、衿のウと前身のウとを合はせ、衿のエと前身

ら平編を三分編んで止める。袖下を縫ひ合はせ身頃につけカフスを折りかへす。

14、女子上着 (三寫真64)

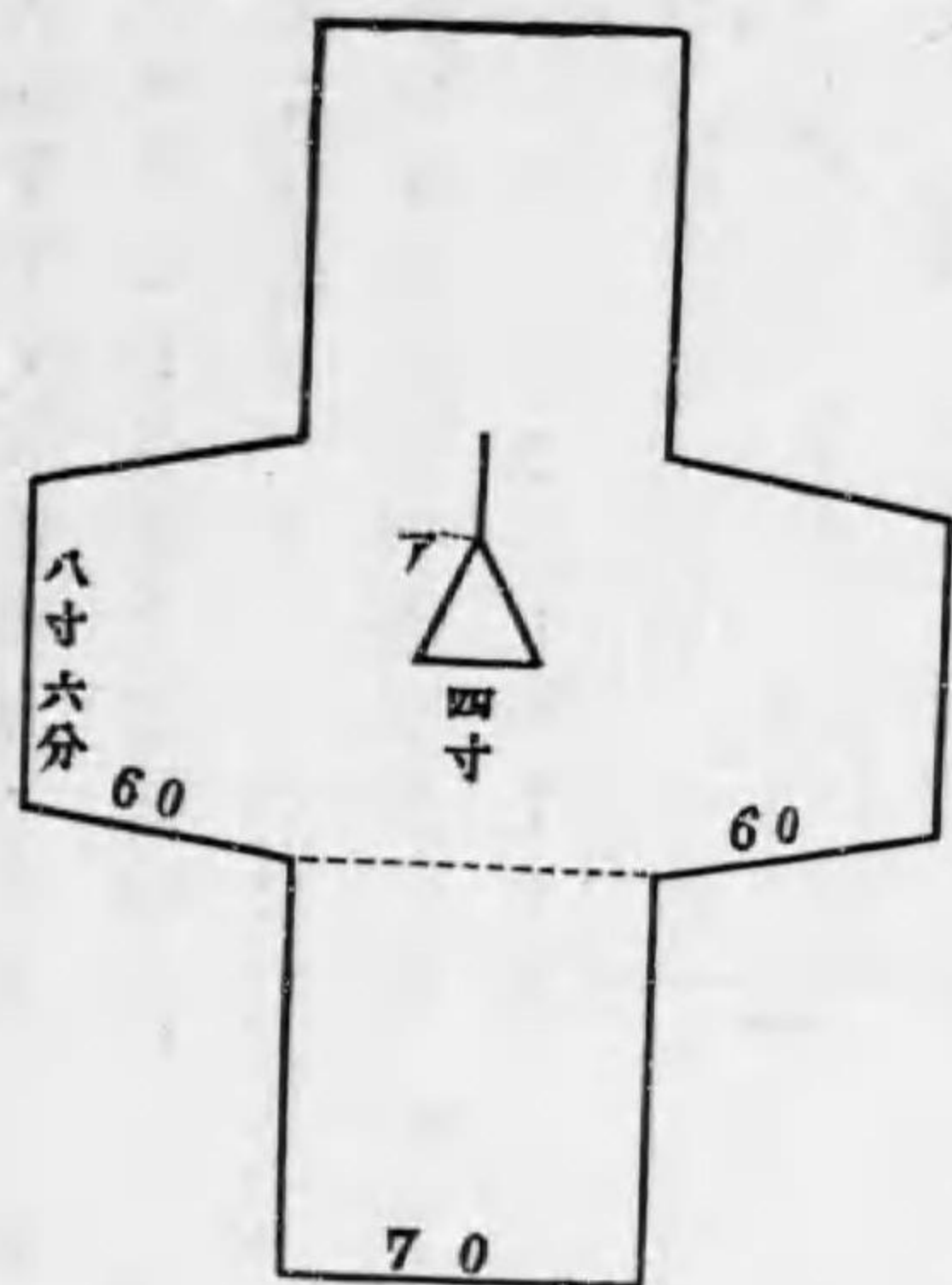
米國製毛糸二本で編みました。

針に七十の目をかけ、表編五つ、裏編五つのゴム編を二寸編み、色糸を替へて五分平編を編む。これを四回繰り返へして表編一つ、裏編一つのゴム編を三寸編む。

此のところから袖を殖やす。兩側で一段毎に十づゝ目を殖やし、六十づゝ殖えたら、其の儘四寸編む。真中目數二十をかぶせ止めをして、右と左とを別々に編む。

袖口は真直ぐに編み続け、衿の方では一段おいて、一束詰めをして其儘三分編む。二段おきに一つづゝ十四殖やして

圖六十九第



其儘編み、袖口の方は始めから計つて八寸二分になつたら、一段に十づゝかぶせ止めをして六十減らし、衿のアから計つて二寸編んだら其儘にしておく。もう片方もこれと同じに編む。上前を上にし、兩前の前の方目數六つを重ねてゴム編みを一寸編み続ける。色糸に替へて平編を五分編み、地色系に替へて裏編五つ、表編五つのゴム編をする。これを四度繰り返へし、かぶせ止めをする。袖下兩脇を縫ひ合はせる。

衿は、針に二十の目をかけ、平編を二寸編み、糸を替へて五分平編を編む。これを七回繰り返へし、地色系に替へて二寸編んで止める。此の衿を編む時は、片側だけ、始めの目を取らずに編み、反対側は始めの目を取つて編む。此の取つて編んだ方を内側にして衿廻はりに縫ひ付ける。

カフスは、針に色糸で五十の目をかけ、平編を五分編み、地色系に替へて表編五つ、裏編五つのゴム編を一寸編み、色糸に替へて五分編んで止める。これを袖口に縫ひ付ける。

15、男子上着 (寫真65)

第二編 九、スエーター及上着類の型の取り方と目の割出し方

毛糸四本で編みましたから大變目が少いのです。

後は針に六十二の目をかけ、平編を二寸編む。表編三つ、裏編三つの市松にして、下から計つて九寸編み、兩側で一吋毎に一つづゝ三回減らし、更らに一吋編む。袖付けのくりで兩側で一段に一つづゝ九回減らし、更らに五寸編み、肩は兩側から二段に一つづゝ減らし、目數十三になつたらかぶせ止めをする。

前は針に三十九の目をかけ、平編を二寸編み、表編三つ、裏編三つの市松を九寸編み、前は其儘編み續け、脇では一寸毎に一つづゝ三回減らし、更らに一吋編み、袖付けのくりを一段に一つづゝ九回減らして其まゝ真直に編み。こゝから前の方は二段おきに一つづゝ十二減らしながら編み、目數十五になつたら、袖のくり始めから計つて五寸五分のところ、肩の方から二段で一つづゝ終りまで減らして止める。もう片方もこれと同じに編む。後と前との肩と脇を縫ひ合はせる。

衿は針に八つの目をかけ、兩前身と衿肩とに足りるだけに編む。上前はボタン穴を適當に開ける。これを兩前身から衿肩に縫ひつける。

袖は針に四十の目をかけ、兩側で一段に一つづゝ目を殖やしながらか表編三つ、裏編三つの市松にして編み、六十になつたら其儘五分編む。兩側で一吋毎に一つづ

ゝ減らし、四十の目になつたら、其儘五分編み、平編にして五寸編む。袖下を縫ひ合はせて身頃につける。カフスは折り返へす。

バンドは針に二つの目をかけ、平編にして兩側で一段に一つづゝ殖やし、目數十五になつたら、ボタン穴をあけ、五寸編んで又穴をあけ、更らに二尺編んで止める。下前と下前のバンドとにボタンをつける。

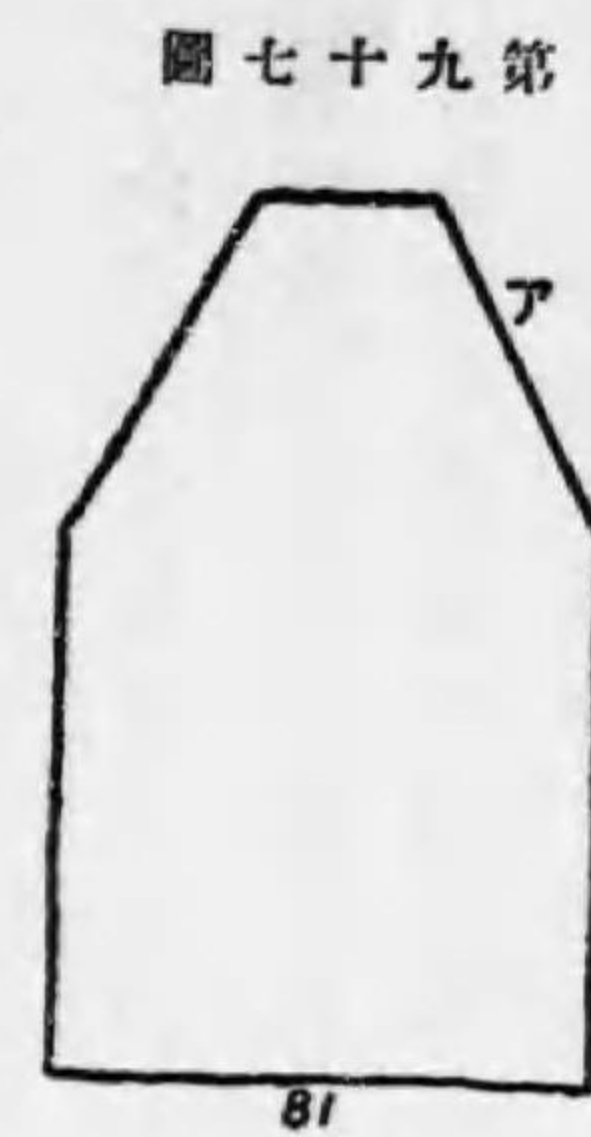
16、男子上着 (寫眞66)

毛糸二本で編みました。

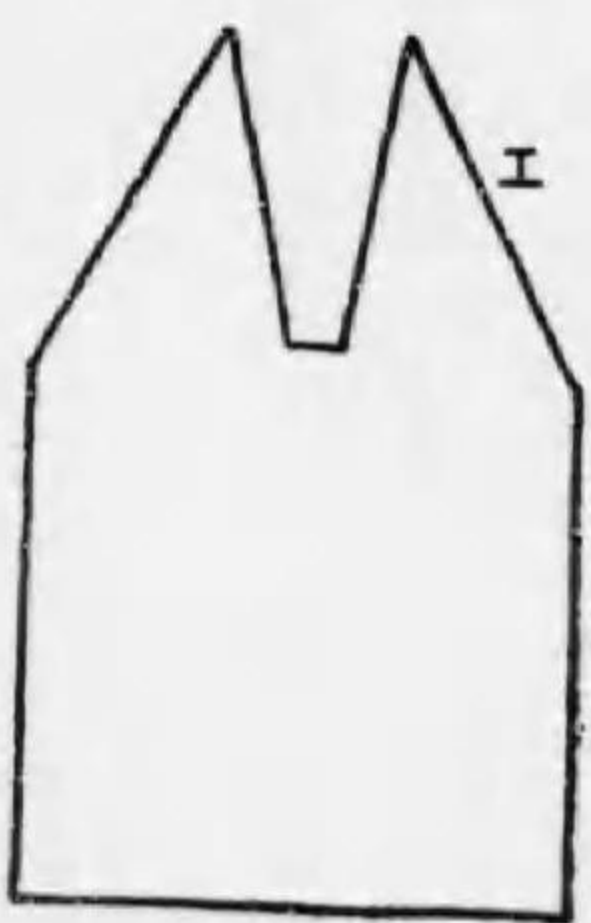
後は針に八十一の目をかけ、表編一つ、裏編一つのゴム編を一尺編む。裏から見、て裏編一つ、表編一つ、裏編一つ、表編一つ編み、次の裏編と表編とを一緒に裏編みして、次の裏編を裏編んでからゴム編を續ける。終りから七つ手前の裏編と次の表編とを一緒に裏編みして、次の裏編を編み、終りまでゴム編をする。表へ返へしゴム編をし、前の段で減らした處に、表編二つ列んでゐるのを右側では一束詰めをして、左側ではかぶせ止めをする。二段おきにこれをくり返へし真中二十五になつ

たらかぶせ止めをする。第九十七圖の様な形になる。

前身は、後と同じ八十一の目をかけ、表編一つ、裏編一つのゴム編を九寸編み、真中の目を九つかぶせ止めをして半分づゝ編む。右側を其儘一寸編み、表から見て脇



圖七十九第



圖九十九第

の方から五つ目の裏編と、次の表編とを一緒に裏編をし、次の裏編を裏編みして、ゴム編を續け、終りから七つ手前の裏編と次の表編とを一緒に



圖八十九第

に裏編みして、次の裏編を裏編みして終りまでゴム編をする。次の段では表編の二つ列んでゐる處を二つ一緒に表編みし、あとはゴム編をする。

両側で此の減らし方を二段おきに、前では五回脇では十三回減らしして止める。もう片前も同様に編む第九十九圖の様な形になる。

袖は、針に五十の目をかけ、輪にして表編一つ、裏編一つのゴム編を二寸五分編み、輪をやめ開いて平らにし、一つ殖やし、両側で八分毎に一つづゝ目を殖やしなから

ゴム編を編み續け、目數七十一になつたら其儘五分編む。両側で端から五つ目の所を二段おきにゴム編の減らし方をして、五つになつたら更らに七分編んで止める。第九十八圖の様な形になる。後身と前身との間に袖をはさみ、第九十七圖の「ア」と第九十八圖の「イ」とと第九十九圖の「エ」とを縫ひ合はせ、袖下と脇を縫ひ合はせる。両方同じにして縫ひ付ける。

衿は、針に二十五の目をかけ、其儘一寸編み、真中の目は真直ぐに編み、其兩隣りて二段おきに一つづゝ殖やし、六十一になつたら其儘一尺四寸編み、真中の表編の兩隣で、二段おきに一つづゝ一束詰めをして、目數二十五になつたら更らに一寸編んで止める。衿の上前の下から計つて、二寸五分の所と、四寸の所とに鎖編のボタンかけを付ける。下前の下から二寸五分の處と四寸の處とにボタンをつける。兩前を下の方だけ重ね合はせ、衿廻はりに縫ひ付ける。重ね合はせた處を止針で固く止める。

十 子供マント (寫眞67)

針に百九十二の目をかけ、一段目は表編を編む。二段目は糸を手前にして二つ一緒に一束詰めをする。これを繰り返へし、三段目は表編で戻る。四段目は初め七つをボタン臺として平編にし、次の目から矢羽根編をする。下から計つて三寸編み、上前になる方にボタン穴をあけ、前と同じ様に編み続け、二寸五分毎にボタン穴を開けて編み続ける。下から計つて一尺四寸になつたら、表編を二つ編み、次の目をかぶせ詰めをする。これを繰り返へし、次の段は表編で戻る。糸を手前にして二つ一緒に一束詰めをする。さうすると穴が並んで出来る。これを繰り返へして一段編む。それから平編を三寸五分編んで止める。裾と衿とはレース編をして縫ひ付ける。別に二本糸で鎖編を二尺五寸編んで紐を作り、これを首廻りの穴に通うして両端に房をつける。裾の穴へも同じ紐を通うし、寒い時にはくる様にするゝと温かです。

十一 洗濯法

毛糸製のものゝ洗濯は餘程上手にしませんと、延びちぢみもしなくなり、形はく

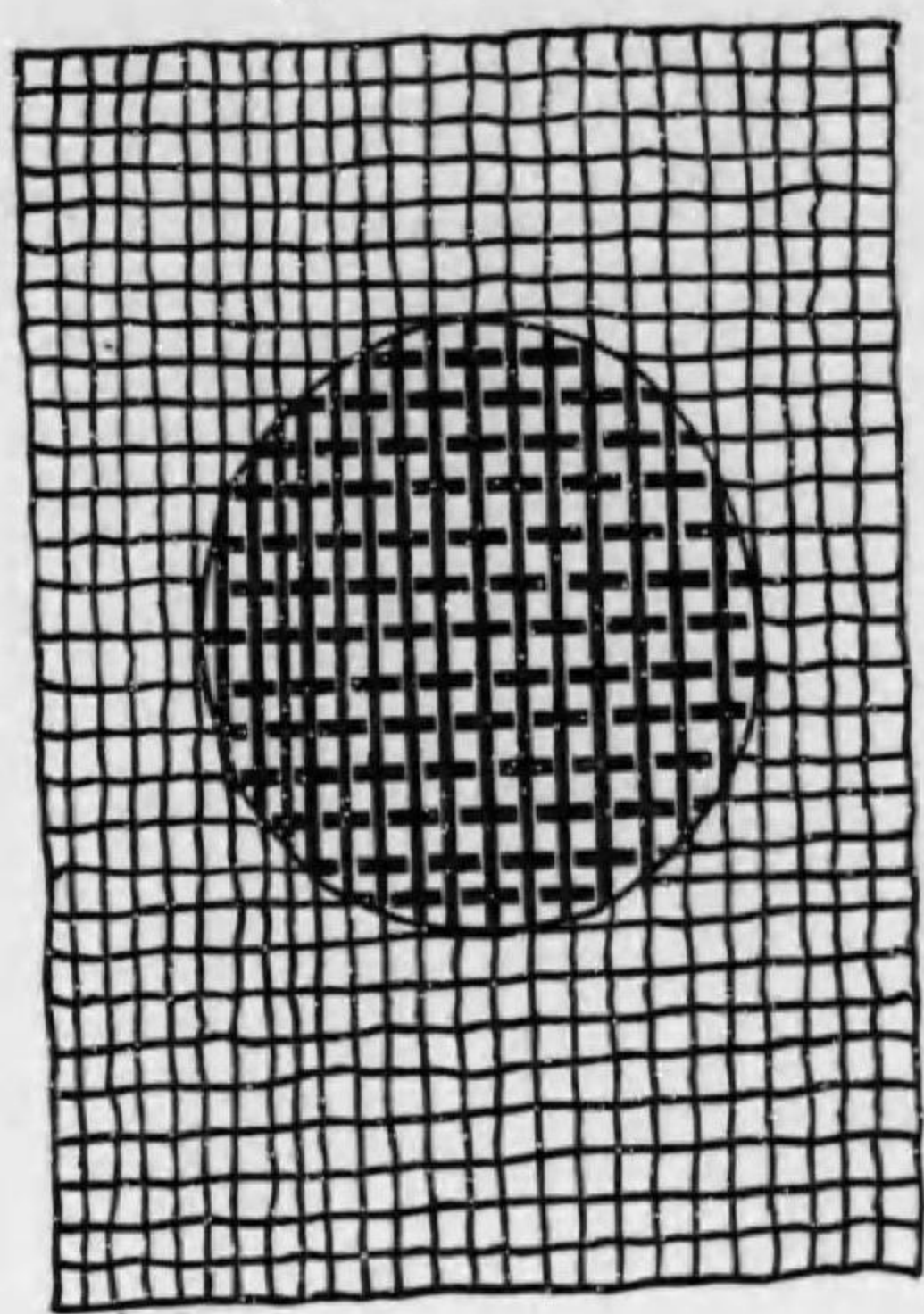
づれて見る蔭もなくなります。それかと云つて、ほどいて編みなほさうと思つてもほどく事さへ出来なくなる事があります。又干し方が悪かつた爲めに、二度と着る事が出来ない様な形になる事も少くはありません。又それと反對に十分注意をして洗濯いたしますと、其ために光澤が出て、糸も軟かくなりますし、又形を直ほしたり、みぢかくなつて着られなくなつたものや、幅がせまくて用ひられなくなつたもの等をのばして、再び役に立てる事が出来ます。それ故其洗濯に付いての注意をお話し致します。一番初めにアルカリ性の少ない石鹼(マルセル石鹼様のもの)をお湯にとかして石鹼水を作ります。そして其石鹼水は丁度手を入れて温い位で、大して熱いとも冷たいとも感じない位の温度に致します。人はだの温かさや云ふのでせう。その中に編んだ物を入れてよくひたし、水をふくませ、満遍なく軽く手でにぎつてははなし、にぎつてははなしと、よごれが皆出まして、水がきたなくなりませう。さうしましたら、かるくにぎつて水を切り、又前と同じ位の温度のお湯を作つて、洗ひ上げたものを入れ、軽くにぎつてははなし、よごれが皆出まして、よごれが皆出まして、もうお湯によごれが出なくなつたら、最後のゆすぎ湯に酢を少したらし、ゆすぎ出します。それから軽くにぎつて水を切ります。干

しますのには平らな處にタオルの様な水をよく吸ひます布を敷いて、其上に平らに置き、陰干に致します。この干します時に、延ばしてしまひますと、延び切りになりますから、干します時に形を直ほします。竿の様なものに掛けますと下にばかりのびまして、再び用ひられない様な形になりますから、干します時十分氣をつけなければなりません。

十二 修繕法

修繕に付いて一番大切の事は餘りひどく損じないうちに繕ふ事、編む時に容易く修繕出来る様に編む事、修繕する時のために共糸をとつておく事等が必要で、す。それでまだ穴が開かないで薄くなつたばかりの時でしたら共糸を二つに割り、止針に通し、其薄くなつて居る處を目立たぬ様に縦横にさします。それから、もう小さい穴になつて居りました時には、其損じて居ります穴より少し手前から、編目に従つて穴の大きさよりも少し長く縦にさします。そして穴の處へ來ましたら、穴に糸を渡し、其上下をやはりさし穴の處が終つても、後もう少しさします。か

第百圖



うして縦がさせましたら、今度は穴より少し上を穴の大きさより少し幅廣く横にさします。そして穴の處へ來ましたら、第百圖の様に縦に渡つて居ります糸を疊目の様に縫つて其前後をもさし、穴の處が終つても、下を少しさしておきます。この外もつと大きな穴になつたり、又何度も修繕して、其邊一體の糸が弱つて居ります時には、其弱つて居る部分を切り取り、切つた處の目を拾ひ、同じ編なり模様なりにして、切り取つただけより少し大きく編むで止め、編目を合はせて共糸を通した止針で三方を目立たぬ様に縫ひ付けます。

新しい編物集 (終り)

大正十二年八月二十五日印刷
大正十二年八月二十八日發行

著 作
登 錄

發行所

東京市日本橋區通三丁目
丸善株式會社
東京市神田區表神保町
丸善株式會社
東京市芝罘區丸九ビル一階北通
丸善株式會社
東京市芝罘區三田二丁目
丸善株式會社
東京市芝罘區三田一丁目
丸善株式會社
東京市芝罘區博勞町四丁目
丸善株式會社
東京市芝罘區三條通通屋町西入
丸善株式會社

橫濱市辨天通二丁目
丸善株式會社
名古屋市中區榮町六丁目
丸善株式會社
福岡市博多上四町
丸善株式會社
仙臺市國分町
丸善株式會社
札幌市北八條西四丁目
丸善株式會社

著 者

成 田 み ゆ き

發 行 者

東京市日本橋區通三丁目十四、十五番地
丸 善 株 式 會 社

取 締 役

右 代 表 者
山 崎 信 興

印 刷 者

東京市神田區美土代町二丁目一番地
島 連 太 郎

印 刷 所

東京市神田區美土代町二丁目一番地
三 秀 舍

新しい編物集

定価 金 貳 圓 七 拾 錢
郵 税 附 金 十 八 錢
寄 附 金 四 拾 五 錢

107
142

終

